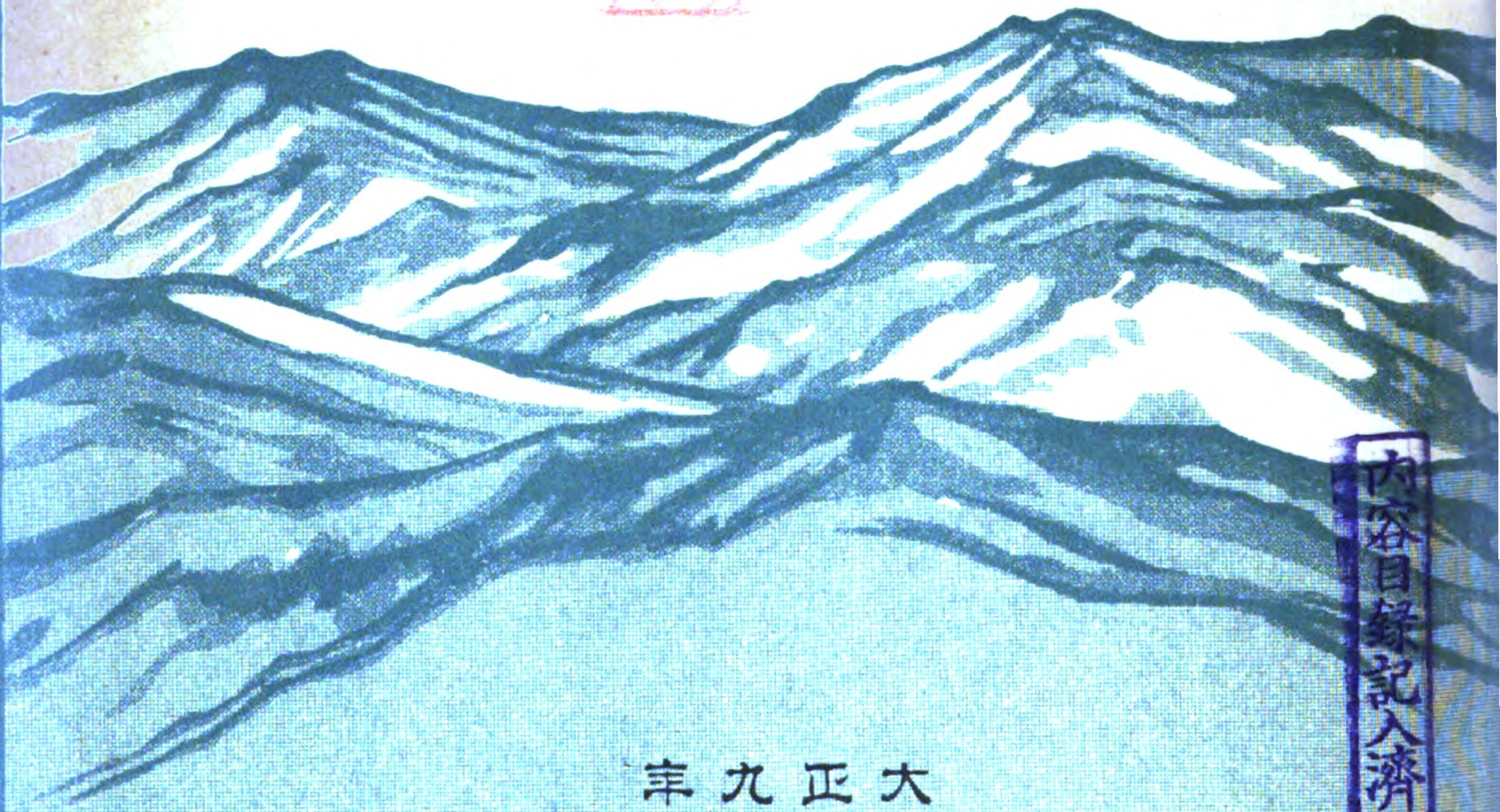
臺灣時報

SOUTH MANCHURIA RAILWAY CO. LIMITED.
內容目錄記入濟



大正九年

六月號

要目

打狗港方塊防波堤
太平洋の均勢
臺灣酒造工業の將來
戰時中の緬甸貿易
日米戰爭の否認
マラリヤの根治策
支那及南方片信
臺灣商況
本島各廳の狀況
古代民族の靈長觀念
臺灣教育短信
金融及產業統計
漢文及法令
總目次
法令總目次

臺灣總督府內　臺灣時報發行所

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

◎臺灣時報發行の趣旨

政事、時事、農事、工事、商事、學術技藝、統計等の報道評論特に臺灣に於ける統治狀態及び諸般の情況竝に南支南洋に關する事項を周知せしむる爲め臺灣時報を發行す（發行規定第一條）

◎臺灣時報發行所役員（イロハ順）

評議員長　法學博士　下村宏

△評議員

醫學博士　稻垣長次郎　大竹勝一郎
池田常吉　小畑駒三
石坂莊作　岡田重久
市來半次郎　渡邊英太郎
服部仁藏　渡邊啓太
羽鳥精一　賀來佐賀太郎
原鶴次郎　川崎卓吉
新元鹿之助　片山秀太郎
西川利藤太　簡阿牛
醫學博士　堀內次雄　顏雲年
高島元治　加福豐次
富地近思　菅野善三郎
陳鴻鳴　川中子安治郎
陳中和　數田輝太郎
李景盛　吉川卯三郎
林熊徵　醫學博士　高木友枝
林獻堂　工學博士　高橋辰次郎
林烈堂　田村武七
林鶴壽　田村藤四郎
農學博士　大島金太郎　高田元治郎
大越大藏　谷野格
高山仰　法學博士　赤石定藏
曾田孝一郎　赤司初太郎
津田毅一　後宮信太郎
永田綱明　相賀照鄉
永田隼之助　麻生誠之
中村啓次郎　荒卷鐵之助
中島榮吉　櫻井鐵太郎
長尾景德　坂本素魯哉
內藤正太郎　佐々木紀綱
武藤針五郎　齋藤愛二
宇野英種　柵瀨軍之佐
梅谷光貞　佐田武彥
草鹿砥祐吉　蔡蓮舫
楠正秋　木村匡
工學博士　山形要助　木村久太郎
山移定政　許廷光
松岡富雄　北村吉之助
增田高賴　御厨規三
丸田治太郎　三村三平
牧山清砂　三好德三郎
松江春次　南新吾
小松吉久　庄田藤治
吳昌才　平山寅次郎
辜顯榮　平高寅太郎
古賀三千人　末松偕一郎
枝德二　角源泉
鄭拱辰　鈴木重臣
相川茂鄉

△編纂委員

石井光次郎　瀧原三郎
池田幸甚　田坂千助
服部武彥　角田廣次
豐田勝藏　長島八郎
農學博士　東鄉實　長尾景德
鎌田正威　草野義一
黑田周一　阿部嘉七
前田稔靖　安西千賀夫
福與平三郎　菊池武芳
古山榮三郎　水越幸一
藤井恭敬　農學博士　鈴木眞吉
小西恭介

△常務員

編輯係　窪取田一郎　同　蜂谷彬
同　拓大雄　同　小野眞盛
同　中野順三郎　同　藤代三九三
同　小森德治　同　杉山秀
同　秋澤次郎　庶務及會計係　伊藤憐之助
囑託　池田壯太郎

大正九年五月二十九日印刷
大正九年六月一日發行（毎月一回一日發行）
（定價一冊郵稅共金三十錢）
（廣告料一頁金二十圓）

發行所　臺灣總督府內　臺灣時報發行所
振替貯金口座臺灣第二〇七〇番
電話總督府內第八九番

編輯兼發行人　臺北大加蚋堡龍匣口庄百四十番戶　中野順三郎

印刷人　臺北撫臺街二丁目百四十六番戶　遠藤祐太

印刷所　臺北撫臺街二丁目百四十六番戶　臺北印刷株式會社

營業科目

電氣事業投資
電氣工事請負
電氣機械、器具製造販賣
日本電話工業株式會社製品一手取扱

本社 東京市京橋區新肴町
工場 大阪府東成郡鯰江町今神

K.D.K

臺北府前街三丁目五番戶

株式會社 川北電氣企業社臺灣支店

電話 長一五四五番 一九〇五番

出張所 廈門鼓浪嶼 川北電氣公司

代理店 打狗山一商行

臺灣時報

大正九年　六月號目次

口繪寫眞　◉臺灣總督府警察飛行班(下)と其飛行(上)◉臺灣總督府專賣局の新竹廳下、大湖庄に於ける樟樹造林(九年生)◉同上樟樹造林(十五年生)

■論　說■

打狗港ケイソン、ブロック防波堤に就て……臺灣總督府技師 工學博士　山形要助……一

太平洋の均勢……海軍中佐 男爵　井上清純……一二

臺灣に於ける酒造工業の將來……臺灣總督府事務官　前田稔靖……一九

◉明治三十九年の臺灣文武官……二三

■調査報告■

戰時中の緬甸貿易……(商工課調査)……二六

日米戰爭の否認……(外調週報)……二九

マラリヤの根治策……(外調週報)……四三

支那及南方片信……(外調週報)……四四

臺灣商況……(商工課調)……四九

◉琅璠(二)……五四

■地方事情■

本島各廳の狀況……(各廳報告)……五六

●海南漫評……八八

■研究資料■

古代民族に見らるゝ靈長觀念の顯はれ……蕉鹿夢……八九

●榕蔭閑話……九二

■記錄■

……湖山生……九三

教育短信……九六

●領臺二十五年誌……九八

■統計■……一一六

◉臺北手形交換所手形交換月表(九年四月)◉臺南手形交換所手形交換月表(九年四月)◉各銀行放資額(九年三月)◉預金貸出金殘高及金銀在高表(九年三月)◉臺北物價指數別表(九年四月末)◉臺北物價五箇年對照表(九年四月末)◉各銀行內外爲替取組高表(九年二月中)◉臺灣貿易表(九年四月)(以上財務局調)◉米穀檢查成績(九年四月)◉檢查米產地及仕向地表(九年四月)◉米價(九年四月)◉移出米再檢查旬報表(九年四月)◉移出米種別及期別表(九年四月)◉臺灣帽子檢查成績表(九年四月)◉臺灣帽子檢查(林投帽)產地別表(九年四月)◉臺灣帽子檢查(大甲帽)產地別表(九年四月)◉臺灣帽子檢查(紙帽)產地別表(九年四月)◉臺灣帽子檢查(林投帽)仕向地別表(九年四月)◉臺灣帽子檢查(大甲帽)仕向地別表(九年四月)◉臺灣帽子檢查(紙帽)仕向地別表(九年四月)

■雜報■……一二一

臺灣警察飛行班の大飛行◉臺灣日誌◉人事消息◉任命◉寄贈書目

■漢文時報■

◉就臺灣樟腦專賣而言◉就都市計劃而言

■法令■……九一

◉臺灣遊興稅規則外五十七件(附錄)

◉臺灣時報總目次自一號至六號 ◉臺灣時報總目次自七號至十二號 ◉法令總目次臺灣時報自一號至十二號法令欄所揭

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

大阪市高麗橋

株式會社 三十四銀行

資本金 貳千五百萬圓

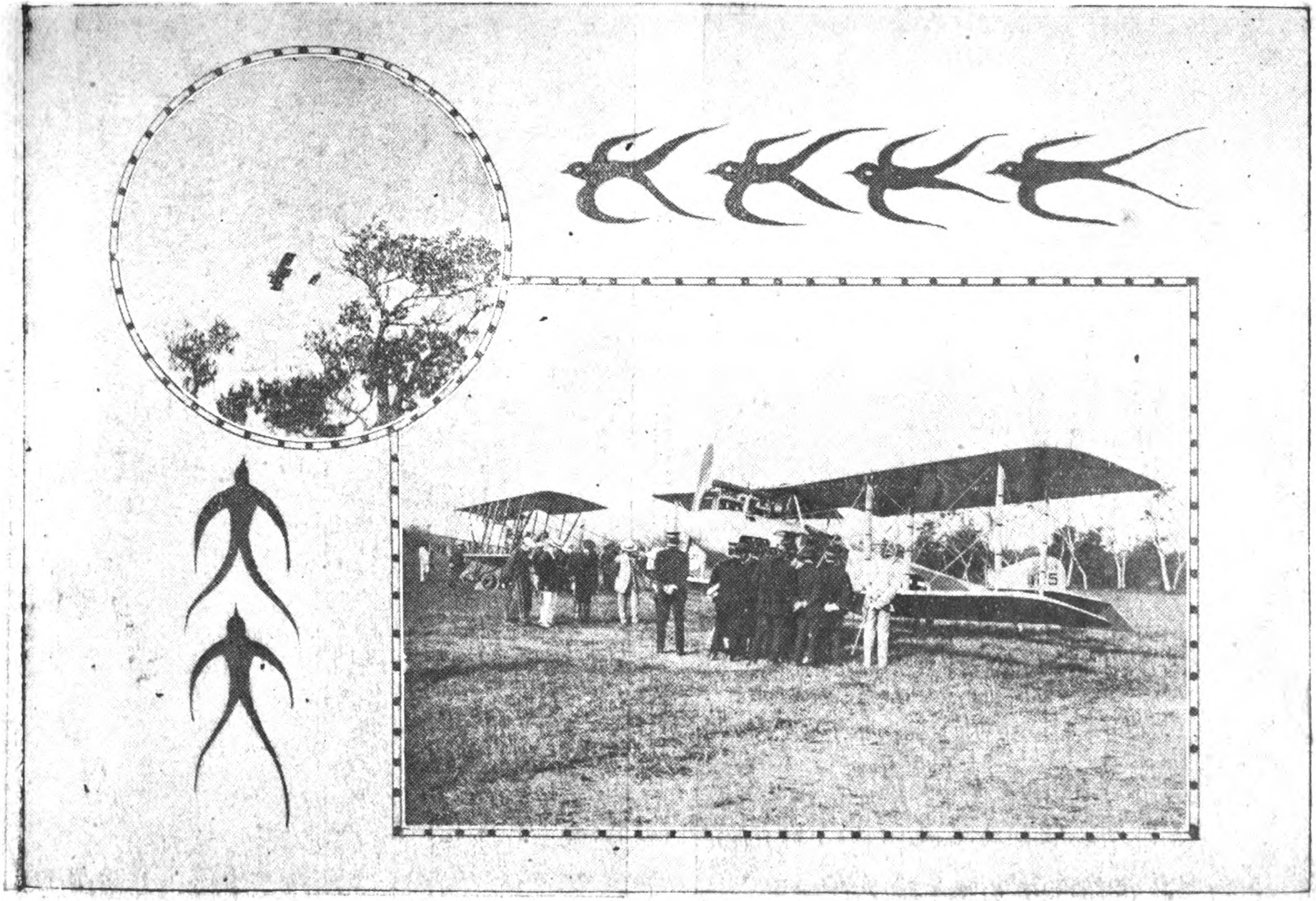
各地支店 東京、京都、神戸、兵庫、尼崎、姫路、廣島、徳島、奈良、伊丹、傳法
臺南、（大阪市内）南、天滿、雜喉場、堀江、日本橋、九條、朝日橋

本行之特色 銀行一般の業務の外擔保附社債信託法に依り信託事業を兼營す
事業資金部を置き工業資金の供給を爲す
外國爲替は香港上海銀行の代理店として最も便宜に取扱を爲す

臺北支店 臺北城内府前街二丁目

（電話三四、五六、九六〇）

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN



臺灣總督府警察飛行班（下）と其の飛行（上）

臺灣總督府專賣局の新竹廳下大湖庄に於ける樟樹造林（九年生）

同　上（十五年生）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

臺灣時報

大正九年六月號

論説

打狗港ケイソン、ブロック防波堤に就て

臺灣總督府技師 工學博士 山形要助

防波堤構造の理論

防波堤の構造及形體は世界各港に於て、各々其地勢・波力土質・工事用材料其他の狀態に因り、或は築造當時に於ける科學又は經驗程度により、或は工費の多寡により、或は當局技術者各個人の見識に因りて幾多の種類あり。其結果に於ても或は成功せるあり、或は破壞せるあり、或は補强改造せるあり、或は維持費に巨額を要するあり、或は單位長に對する工費非常に高價なるあり、或は施工に困難なるものある等千差萬別なり。而して何れも皆特殊の事情により特殊の結果に達せしものなり。従て甲所に於て成功せしものを直ちに採て乙所に施行するとも必ずしも成功するものに非す。又模倣の不可能なる場合多し。又防波堤を設計するには海波に關する理論に根據を求むることを當然とすること論を俟たす。何となれは海波によりて破壞せし防波堤は事後に於て其破壞原因を深く探究すれば、海波の理論上當然破壞すべき原因ありて破壞したるものなることに歸納し得べきを以てなり。然れども此波の理論の範圍・種類及變化等は極めて廣汎複雜にして、其現象外觀の如きは幻惑的性質を有するが故に、事前に於て如何なる波が襲來すべきか、又何れの理論に立脚すべきかを

限定することは極めて困難なり。

海波に關する研究

今防波堤に關連する波を其原因によりて區別すれば、直接其海面に當る風によりて起るもの、遠隔地に於ける暴風によりて起りたる波の波及し來りたるもの、地震の如き急劇なる衝擊によりて起りたるもの、潮汐及潮流によりて起りたるもの、或は以上各種原因の二種以上のものが結合倶發したるもの等種々あるへし。此等各種の波は或は其原因の强弱緩急により、或は進行する海底の狀態により、若くは附近水陸交界線の形勢によりて波高・波長・波速・波力等一定せず、又各々其性質を異にす。試に直接海面に當る風によりて起る波に就て考ふるに、暴風の際外洋航海中の船窓より展望すれば、海面恰も沸騰せるもの丶如く寄せ來り寄せ去る波は、其形狀大小千種萬態、長きあり短きあり、高きあり低きあり、波頂圓滑整正なるあり、歪形なるあり、碎けて飛沫となるあり、速きあり遲きあり、其進行の方向も亦區々たり。誰か云ふ深海に起る波はサイクロイダル(又はトロコイダル)の形にして、波の各分子は半徑の長さ波高に等しき圓周の軌道を廻る所の規則正しきヲッシュレーション、ウエーブなりと、此理論は深海に於て單一なる動機によりて起り、而して他に何等之れを攪亂すべき障害なき場合の理想的波の研究に過ぎず。從て暴風時の如く長時間に亘り風力或は强く或は弱く、所謂間歇的に吹き荒み、波を縱橫無盡に起伏出沒せしむる場合に適用すべきものにあらず。尤も暴風吹き止み幾多の時間を經過せる後は、彼の適者生存の天則により薄弱にして破壞し易き歪形の波は或は消滅し或は他に併合せられ、遂に稍々トロコイダルに類する波形を有するもの丶み存するに至ることもあるへしと雖も、歪形の波の有する破壞的エネルギーは必すしもトロコイダル形の波の破壞力より小なりと云ふこと能はず。更に此等の波力遠く波及して陸岸に近つき遠淺の海底に及ひたる場合には、其波と水深との關係により漸次ヲッシュレーションの狀態よりトランスレーションに變化することによりて其破壞力を異にするに至る。勿論理論上特定の波に對し其變化の狀態及其破壞力の程度を計算表示することを得べきも、其の寄せ來る波の波形・波高・波長・波速は一定せす。特に其海岸に直接暴風の吹き荒む場合の如き益々混亂の狀態となり、到底其破壞力を算定すること能はさるへし。

以上縷述する所により、防波堤を設計するに當り其位置に襲來する總ての波を檢査研究し、而して一々波の理論に其根據を求め、永久に安全なるべき防波堤の構造を定むることは實に企及し得さる困難あることを見るへし。

防波堤の破壞又は移動

從來各所に於て築造せられたる防波堤は、當局者が最善の智能を盡して設計したるものなるべきも、往々不測の波力によりて破壞せられたるものあるは、蓋し未た調査研究の及ばざりし波の襲來したるに外ならざるべし。左に揭くる實例は普通の波力計算法によりて算出し能はざるものなり。

一　英國ウヰック港の防波堤は全部破壞せり。其際一千三百

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

五十噸の混凝土方塊移動轉覆したり。

二、和蘭國ワイムイデン港に於て波高僅かに十尺の波により三百噸の方塊移動したり。

三、英國ピーターヘッド港防波堤の前面に於て水深十七尺乃至三十七尺の所にありたる四十一噸以上の方塊移動せり。

四、同上ピーターヘッド防波堤は四十噸の方塊を規則正しく水平積となし、其目筋は駄柄にて接合したるものなるが、其一部堤頂より干潮面以下約十一尺の深さまて一團塊となりて二吋動きたり。此總重量實に三千三百噸なり。

五、印度コロンボの西南防波堤は六十噸の方塊を以て傾斜疊式に積みたるものなるが、幅二十八尺、高二十二尺、長百五十尺の部分が一團塊として十五吋動きたり。

以上は波力によりて大重量の方塊を動かしたる實例なり。

次に掲くるものは波が其衝突する防波堤の形狀の變化により其破壊力に著しき相異を生したる實例なり。

六、英國プリマウス港ポルトランド港及ホーリーヘッド港及アルデニー港、佛國シャーバーグ港等の諸港の防波堤は其當時の學説即ち如何なる大波も水深十五尺の所に於ては重量一噸以上の石塊を動かす力無しとの學説に基き、亂積式砕石堤を築造し、爾來多年の間安全に保持せられたり。然るに此中アルデニー港に於ては此捨石堤上(堤頂は干潮面にありて干滿の差十七尺)に更に波除の爲めに直立壁を築きたりしが、其結果恐るへき損害を受けたり。即ち直立壁築造以前に寸も動かさりし所の水深干潮下十五尺の所にありし砕石は皆移動し、全堤遂に慘憺たる崩壊の不幸を來せり。

七、英國タインマウス北防波堤に於ては陸岸に近き部分の捨石堤の頂を干潮面下二尺に置き、其上に直立壁を築きしが、漸次深海部に向て工事を進むるに從ひ、直立壁の基礎を深くするの必要を認め、其終點に於ては捨石堤の頂を干潮面以下二十七尺とし、尚其上に築きたる直立壁の根固めの爲め、四十一噸のコンクリート方塊を以て捨石堤の表面を被覆せり。此の如き堅固なる構造なるにも拘らず、年々冬期に此根固を流失せられ、損害程度益々増大し、遂に此千五百尺の長堤を改築するの止むを得ざるに至れり。

防波堤築造の困難

以上記述するが如く、波は其種類多く且つ變化の狀態千差萬別にして、到底淺薄なる人智を以て之を知悉し得ること能はざるものありて、數々意外不測の大威力を發現す、此威力に對抗して永久に破壊或は顛覆せられざる防波堤を築造せんとすることは蓋し至難の業なるへし。

故に余は思考するに

一、防波堤を以て永久に破壊又は轉覆せさるものと想定し、此想定を信頼し之れを基礎として港灣の各種設備及配置を爲すことは危險なり。

二、防波堤の結構は其一局部が破壊又は顛覆することにより、續て全部の陷落崩壊流失となり、全然防波の效を失する

が如き構造と爲すことは危險なり。

右第一の例は防波堤の背面を荷役岸壁に利用する場合、又は此防波堤によりて內港水面に全く波の浸入せざることを條件として內港各般の施設を行ひたる場合にして、第二の例は防波堤全體としては勿論波力に抗し得へきも、之れを構成する各個の材料單獨にては到底波力に抵抗し能はさる程度のものを組み合せて築造したる場合にして、彼碎石又は小形方塊にて築造したるもの是なり。此の如きは若し不幸にして其一部破壞せば。遂に全部の土崩瓦壞を來し、甚たしきは全部流失消散して其痕跡だも止めさるに至ることあり。

防波堤構造の最上策

以上は勿論港灣の位置地勢其他によりて全く止むを得さるに屬するものあるへしと雖、若し能ふへくんば內港其他荷役設備機關の位置を巧に選定し、防波堤の背面に多少の波が浸入するも差したる支障を生せさるべき計畫配置を爲し、而して防波堤の構造は之れを構成する單位材料を充分に大ならしめ、顚覆することある場合をも豫期し、假令顚覆することあるとも各單位材料は其位置に止まりて流失消散することなく、大體に於て防波の目的を達し得べき構造となすを最上策と信す。今日まで技術者が最も苦心研究したるものは或限度の工費を以て方塊碎石其他の材料を如何なる方式により結合構成し、又如何なる形狀に築造すれば波に對する抵抗力を增大し得べきやの問題に歸するものゝ如し。從て其既に築造せられたる方式又は形狀、其種類甚た多しと雖も之れを大別すれば。

一、碎石又は方塊（一個重量百噸を超ゆるもの少し）の亂積即ち捨石防波堤と稱するものにして、其橫斷面を定むる爲めに幾多の研究並に爭議あり。

二、碎石又は方塊（一個の重量百噸を超ゆるもの少し）を規律正しく疊積し、其の法面は垂直又は稍々垂直に近きもの即ち所謂直立壁防波堤にして、其積み方及ひ各方塊の接續組み合等に幾多の研究あり（尙ほ波力の影響微弱と爲るへき水深を想定し此水深の所まで捨石堤と爲し其上に直立壁を築造したるものも此內に含む）

防波堤の目的

以上二型の利害に就ては屢々世界の學者によりて研究論議せられ、各一利一害ありて容易に其優劣を判し難し。即ち前者は防波堤に突激し來る波力を消盡せしむるを目的とし、後者は波を反射し去らしむるを目的とす。即何れも主として防波堤によりて防護せらるゝ海面に絕對に波の浸入せさらんことを期する爲め、防波堤は決して破壞顚覆することを許さゝるを根本要義となす。從て其利害論は前段所述の如き防波堤の破壞顚覆を豫期し、多少の波が防護區域に浸入するを厭はざるものに對しては一部の參考資料となるに過ぎざるを以て玆に之を批判せさるへし。

凡そ波の種類形狀は實に千種萬態なりと雖も、波を形成せる水分子は如何なる歪形波に於ても或る軌道に沿ひ（假令不規則とは雖とも）廻轉することは明なる事實なるが故に、此波が突然或る障害物に衝突し、其軌道の形を急變せしめたる

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

場合には其波は破壞し、其有する潜勢力の一部は混亂せる動勢力となりて相殺し去るものなることは、彼の渺たる暗礁上を波の通過する場合に於ても、波は白沫となりて碎くることは吾人の數々目擊する所なり。防波堤は以上の原則に基き波の有する勢力を減殺するものにして、其目的によりて必すしも波の有する勢力の全部を喪失せしめ、又は反射し去らしむることは絶體的必要條件にあらす。

打狗港防波堤の目的

打狗港の防波堤の目的は其背面を荷役埠頭として使用せんとするものにあらず、又之れによりて內港水面の平穩を保障せんとするものにもあらす。唯港口外附近の海面は風波常に荒く(勿論平穩なる日あるも)特に暴風の際は波高二十尺に近き大波が港口外を横ぎりて、進行するを以て船舶が港口を出入するに當り危險なるのみならず、數々航行不可能なることあるを以て防波堤を築き以て、此港口外の航路を防護せんとするなり。故に此航路內に一旦防波堤によりて破碎せられたる後の小波又は皺堤が浸入するも毫も船舶の航行に支障を來すことなし。換言すれは打狗の防波堤は其位置附近に暗礁的の岩塊を散點竝列するとも充分に其目的を達し得へきを疑はす。要は只此人工的暗礁が消磨流失し、若しくは破壞或は移動せさらんことを期するにあり。

打狗港防波堤の構造

今打狗に築造したる防波堤の構造及施工法を略記すれは。

(一)打狗防波堤は其延長二千二百八十尺にして大形ケイソンブロックを駢列沈設するものなり(目下施工中なり)此ケイソンブロックは幅五十尺、長八十尺乃至二百尺、高は海底より滿潮面以上十二尺に達するものにして(最大四十六尺)一個の重量六千三百噸乃至二萬七千噸を算し、打狗に襲來すへく豫想したる最大の波によりても浮動又は推移せらるゝことなきを期す。其施工法は先つ敍上の寸法の鐵筋コンクリート、ケイソンを打狗港內に特に設備せる乾船渠內に於て造り、天候清穩なる日を選みて之れを浮揚し、曳船によりて防波堤築造位置に運び來り、適當に其位置を定め終れば直ちに水をケイソン內に注入して海底に沈著せしめ、而して後徐々にケイソン內に注入したる水を排出して普通コンクリートを充塡し、以て一個の密質なる大方塊となす。

(二)防波堤を築造すべき位置の海底には何等の基礎工事又は地均工事をも施行せす、此海底の地質は砂なるが故に大波の際は防波堤に激突する波によりて海底洗掘せられ、爲めにケイソン、ブロックは或る程度まで傾斜し、又は遂に顚覆するものもあるべしと雖も、ブロック自身破壞し又は他に遠く移動し去ることなきを期す。

ケイソン、ブロックの强弱

次きに此ケイソン、ブロックの强弱及安全の程度に就きて考ふるに、鐵筋コンクリートの海水に對する耐久力に關しては、今日まで學者の硏究したる程度に於ては未だ其安全を保證するの域に達せず。現に英國サヽンプトン港に於て埠頭建

設に使用せし鐵筋コンクリート柱は龜裂して用を爲さゞるに至り、又基隆港防波堤の鐵筋コンクリート波除堤及埠頭岸壁のスラブ等何れも龜裂したり。其他類例乏しからず。其原因と認めらるゝ主要なるものは(一)電氣作用により鐵筋を腐蝕膨脹せしむること(二)混凝土混合方粗雜にして其質緻密ならざる爲め多數の間隙若しくは小孔を通じて海水が内部に浸入し、直接鐵筋と接觸して腐蝕膨脹せしむること(三)セメント中に多量の苦土を含有する爲め海水により化學的作用を起し、コンクリートの實質を害し海水を深く内部に浸透する無數の小孔を生ずるに至り、惹て鐵筋を腐蝕膨脹せしむること(四)混凝土内の遊離石灰と化合強密ならざる亞爾加里性成分とは海水中の硫酸苦土及鹽酸苦土中の酸類と化學的作用によりて交代し、混凝土を變質分解せしむる爲海水は内部に浸入し、鐵筋を腐蝕膨脹せしむること等主たる原因なるが如し。以上諸原因の内電氣作用に起因するものを除くの外は混凝土の材料を精選し、又その混合に注意して其實質を緻密ならしむることによりて大に其被害程度を減少し得へしと雖も、未た永久の安全を保證すること難かるへし。鐵筋を入れざる普通混凝土に於ても、彼の電氣作用を除くの外は殆んと前同樣の化學的作用を受けて海水は漸次其内部に浸入すへしと雖も、鐵筋コンクリートの場合の如く其内部に鏽化作用を受けて膨脹し、終に混凝土を龜裂せしめ益々海水の内部浸入を誘致すべき鐵筋なきが故に海水は左程深く浸入すること能はず。而して長年月の後は其表面に海藻具類又は垢泥等附著被覆し、海水の自由に浸入し又浸出するを防止するに至るものゝ如し。

以上記述する所により、海中に使用する材料としては鐵筋コンクリートは不安全なるも、普通コンクリートは安全なりと云ふことを得へし。打狗防波堤に於ては鐵筋コンクリート、ケイソンを使用すと雖も、之れを防波堤の位置に沈設せしめたる後は直ちに内部に普通のコンクリートを塡充して一個の大方塊を結成せしむるものにして、卽ち此鐵筋コンクリート、ケイソンは此大方塊を造るが爲に要する一時的外枠足場たるに過ぎず。故に内部に普通コンクリートを塡充し終りたる後は鐵筋コンクリート、ケイソンには何等期待する所あるにあらず。異日海水の作用を受けて腐蝕瓦壞し去るとも敢て大方塊破壞の原因となることなし。換言すれは打狗の防波提は海水により消磨滅失することなかるべし。

大方塊の移動

次に此大方塊の移動に就て考ふるに、打狗に於ける波力は多年廣井式波力計により測定の結果を參酌し、一平方尺に付二・四噸を最大のものと想定することは至當なるもの、如し。此波力は波高二十五尺、波長百五十尺の波が進行波の狀態となりしときの波力に相當す。此波力を目標として防波堤の横斷面を計算するに、水深三十尺の所に築造する場合には其防波堤の幅を五十尺(コロンボの防波堤よりも十尺多し)其高を四十五尺と爲せば顚覆に對しても滑動に對しても共に安全なり。打狗の防波堤は全く何等の基礎工事又は地均工事を施すことなくして、前記のケイソン、ブロックを直に海底砂上に沈設するものなるが故に、大なる波浪が之れに直角に激突し

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

又は之れに沿うて進行する際には、防波堤の前面の砂は洗掘せられ、爲めにケイソン、ブロックは或は傾斜し或は顚覆することもあるべし。勿論其傾斜を爲す毎にケイソン、ブロックの下部は漸次深く砂中に沒するが故に波に對する抵抗力を益し、遂に或る程度の傾斜に止まるべきも、若し傾斜其度を過ぎ遂に顚覆するとも此方塊は高二十四尺乃至四十五尺幅五十尺のものなるが故、顚覆の後は高五十尺幅二十四尺乃至四十五尺となりて毫も防波の效力を失することなし、又海底の洗掘甚だしき場合にはケイソン、ブロックは漸次砂中に埋沒し、其頂部が水面下に沒することもあるべし。此場合に於ても或る程度までは暗礁狀態にて防波の效力を有つべく、更に深く海底砂中に埋沒し去りたるときは之れを基礎として新たにケイソン、ブロックを沈設せば一層安全なる防波堤を得べし。然れども是れ實に吾人の想像し得べき最も不幸不利益なる場合にして、恐くは事實として現はるゝことなきものと確信す。現に打狗に於て築造を了せし部分を調査するに、沈設後一二年間は傾斜又は沈降等の移動ありしも、其後は數々暴風に遭へども、殆ど移動の跡を認めず。前述の如くケイソン、ブロック沈設の後一二年間は多少移動することを免れず。此期間中或る場合には海底土砂洗掘の狀態によりケイソン、ブロックはビーム又はカンチレバー、ビームとして應力を受け、之が爲めに龜裂又は挫折等の損害を生ずることあり。打狗に於て其實例あり。此中最も大なる應力を受くる場合はケイソン、ブロック先端の海底土砂洗掘せられてカンチレバー、ビームとなりたる場合なるべし。故に鐵筋コンクリート、ケイソンは此應力に抵抗するを目標として設計するを要す。尤も沈設後一二年を經過したる後はケイソン、ブロックは可なり深く砂中に埋沒すべきを以て、此の如き應力を受くることなかるべし。

防波堤の工費

以上記述する所に依りてケイソン、ブロックを以て築造する防波堤は比較的安全なる工法たることを知る。更に進んで防波堤毎一尺當工費を檢するに、歐洲大戰爭以前のセメント及鐵の單價によれば(セメント一樽四圓鐵棒一噸百二十圓)一切の設備費竝に雜器具費を加算し平均一尺に付一千百十六圓餘となる。此工費は此の如き外海防波堤に對して餘り高價のものにあらさるべし。而して之れを他の方式の構造を有する防波堤の場合に比すれば大に低廉なりと信ず。余は此斷定を下すに當り世界の諸港の既設防波堤の一尺當單價と比較することを爲さゞるべし。何んとなれは是等の既設防波堤は皆其施工の時と所を異にし、設計者を異にし、構造と材料を異にし、使用せる機械又は勞働者の種類能率を異にし、又其單價を異にし、施工の順序速度施工中の事故災變の有無施工期限の長短を異にする等の爲、決して相互間に正當なる比較を爲すこと能はさるを以てなり。余が打狗の如き海の水深十五尺乃至三十尺の程度の所に於てケイソン、ブロック式防波堤を築造することが、他の方式の防波堤を築造することよりも低廉なりと斷定するは、左の理由により(一)ケイソンブロック防波堤は卽ち一種の直立壁コンクリート防波堤なり。其幅及高さは波力を標準として之に抵抗し得べく算定す。卽ち所要の

コンクリートの分量は普通の直立壁コンクリート防波堤と全く同一なり。只其異なる所は從來普通の直立壁防波堤は重量十噸乃至六七十噸のコンクリート、ブロックを起重機によりて操縱し、潜水夫又は潜水函等を利用して海中に於て之れを組合せ或は築き立つるものにして、常に天候風波の危險を冒して作業するを要すれども、ケイソン、ブロック防波堤にては適宜なる乾船渠又はスリップウエーに於て適當の大さの鐵筋コンクリート、ケイソンを作り、其製作を了したる後、天氣靜穩なる日を撰びて之れを防波堤を築造すへき海面に浮揚せる儘に曳き運び、豫定の位置に假りに沈設す（ケイソン內に水を注入して）此後はケイソン內に注入したる水を排除してコンクリートを塡充する作業をなすのみなり。即ち從來の直立壁防波堤は水中に於て巧妙緻密なる作業を爲すことを要するも、ケイソン、ブロック式防波堤は全く水中作業を要することなく、只陸上に於て單純なるコンクリート練込作業を爲せば可なり（二）從來の直立壁防波堤は十噸乃至五六十噸のブロックを高く積み重ね組み合するものなるが故に、海底に完全にして堅固なる基礎工事を施すことを對絕に必要とす。ケイソン、ブロック防波堤に於ては全く海底基礎工事を施工する必要なし（三）從來の直立壁防波堤築造には起重機潜水設備其他幾多高價なる機械竝に設備を要するも、ケイソン、ブロック防波堤は唯乾船渠若くはスリップの設備を要する外は別に特種の機械竝に設備を要せす。以上によりてケイソン、ブロック防波堤は從來の直立壁防波堤より工費に於て低廉なるべきこと明白なり。更らに之れを捨石式防波堤の工費と比較するに（四）一般に捨石式防波堤は直立壁防波堤に比して多量の材料を要す。試に十噸乃至二十噸のコンクリート、ブロックを以て捨石式防堤波を築くときは、其法面を一割乃至二割とせざるべからず。從て多量のコンクリートを要すべく、若し岩石を以て捨石堤を築く場合には、其法面を三割乃至七八割とするを普通とするが故に非常に多量の材料を要すべし。故に若し附近に適當なる採石場あり特に廉價に石材を採取し得る場合の外一般に其工費は直立壁防波堤より高價なり。

大方塊の移動狀態

次きに既設ケイソン、ブロックの沈下移動の狀態を表示したる一覽表及び寫眞を添付す。

防波堤築造工事ケーソン異動高低一覽表

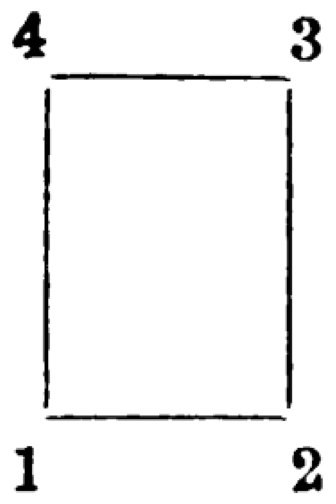
（＋）は前回に比し高起したるを意味す
（－）は前回に比し低下したるを意味す

ケーソン番號／測點／測量年月日	第一號ケーソン（點）	第一號ケーソン（點）	第一號ケーソン（點）	第一號ケーソン（點）
測點	一	二	三	四
大正五年四月二十日（成功）	—	—	—	—
干潮面上高	一二・〇〇〇	一二・〇〇〇	一二・〇〇〇	一二・〇〇〇
五月十五日	九・八二三	一一・三六三	一三・一二三	一一・三一三
前回に比し異動高	－二・一七七	－〇・六三七	＋一・一二三	－〇・六八七
六月二十八日	六・六四八	一〇・五五八	一三・七〇八	九・一八八
同　斷	－三・一七五	－〇・八〇五	＋〇・五八五	－二・一二五
八月二十四日	五・七〇八	一〇・六八八	一一・七五八	六・六一八
同　斷	－〇・九四〇	＋〇・一三〇	－一・九五〇	－二・五七〇

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

九月十一日	同断	大正六年五月十一日	同断	大正七年四月十六日	同断	八月十二日	同断	十一月二十九日	同断
四・〇二一	−一・六九七	四・七二八	−	四・七〇八	−〇・〇二〇	四・七〇八	±〇	四・七〇八	±〇
一一・七六一	+一・〇七三	一一・六八八	−〇・〇七三	一一・六七八	−〇・〇一〇	一一・六七八	±〇	一一・七〇三	+〇・〇二五
九・〇八一	−二・六七	九・〇五八	−〇・〇二三	九・〇一八	−〇・〇四〇	十八・九八八	−〇・〇三〇	九・〇一八	+〇・〇三〇
一・九三二	−四・六八七	一・九〇八	−〇・〇二三	一・九〇八	±〇	一・八九八	−〇・〇一〇	一・八九八	±〇

備考 點1は東南隅 2は東北隅 3は西北隅 4は西南隅各點共干潮面上12に成功ス



防波堤築造工事ケーソン異動高低一覽表

(十)は前回に比し高起したるを意味す
(一)は前回に比し低下したるを意味す

點1は其位置を變更せるを以て前回との差を揭げず

ケーソン番號／測點		測量年月日 大正六年三月二十九日(成功)
第二號ケーソン	(點) 一	—
	(點) 二	—
	(點) 三	—
	(點) 四	—

干潮面上高	五月十一日	前回に比し異動高	七月二日	同断	七月十七日	同断	八月十日	同断	大正七年一月廿三日	同断	四月十六日	同断	八月十二日	同断	十一月二十九日	同断
一二・〇〇〇	一二・〇九八	+〇・〇九八	一一・九六三	−〇・一三五	八・七八三	−三・一八〇	五・九六八	−二・八一五	五・九七三	+〇・〇〇五	五・九九八	+〇・〇二五	六・二八八	+〇・二九〇	六・二九八	+〇・〇一〇
一二・〇〇〇	一二・二五八	+〇・二五八	一二・三九三	+〇・一三五	一一・九五八	−〇・四三五	一二・一八八	+〇・二三〇	一二・一八三	−〇・〇〇五	一二・一三八	−〇・〇四五	一二・六四八	+〇・五一〇	一二・六六八	+〇・〇二〇
一二・〇〇〇	一一・二七八	−〇・七二三	一一・〇三八	−〇・二四〇	一一・六二八	+〇・五九〇	一〇・五一八	−一・一一〇	一〇・五二八	+〇・〇一〇	一〇・四八八	−〇・〇四〇	九・一九八	−一・二九〇	九・二〇八	−〇・〇一〇
一二・〇〇〇	一一・一一八	−〇・八八二	一〇・六一八	−〇・五〇〇	八・四四八	−二・一七〇	四・三三八	−四・一一〇	四・三三八	±〇	四・三一三	−〇・〇一五	三・二〇八	−一・一〇五	三・二〇八	±〇

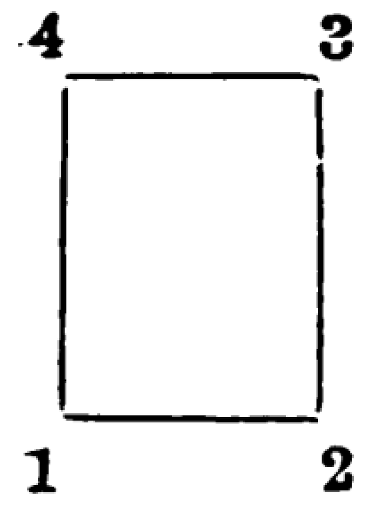
備考 點1は東南隅 2は東北隅 3は西北隅 4は西南隅各點共干潮面上12尺に成功ス

防波堤築造工事ケーソン異動高低一覽表

（＋）は前回に比し高起したるを意味す
（－）は前回に比し低下したるを意味す

測量年月日＼ケーソン番號・測點	第三號ケーソン 一（點）	二（點）	三（點）	四（點）
大正七年一月二十三日（成功）	—	—	—	—
干潮面上高	一四·〇〇〇	一四·〇〇〇	一四·〇〇〇	一四·〇〇〇
六月十六日	一一·二〇八	一二·三二八	一三·五六八	一二·四三八
前回に比し異動高	－二·七九二	－一·六七二	－〇·四三二	－一·五六二
七月四日	破損	＋三·八九八	六·二二八	六·七五八
同　断	—	－八·四三〇	－七·三四〇	－五·六八〇
八月十二日	四·七二八	四·二四八	五·三二八	五·八八八
同　断	－六·四八〇	＋〇·三五〇	－〇·九〇〇	－〇·八七〇
八月二十一日	四·八二八	—	—	五·六九八
同　断	＋〇·一〇〇	—	—	－〇·一九〇
八月二十九日	四·八一八	四·三七八	五·一二八	五·六六八
同　断	－〇·〇一〇	＋〇·一三〇	－〇·二〇〇	－〇·〇三〇
九月二十六日	四·八一三	四·三六八	五·一二三	五·六七三
同　断	－〇·〇〇五	－〇·〇一〇	－〇·〇〇五	＋〇·〇〇五
十一月二十九日	四·九七八	四·四八八	四·九四八	五·四八八
同　断	＋〇·一六五	＋〇·一二〇	－〇·一七五	－〇·一八五

備考　點1は東南隅　2は東北隅　3は西北隅　4は南西隅各點共干潮面上14尺に成功す

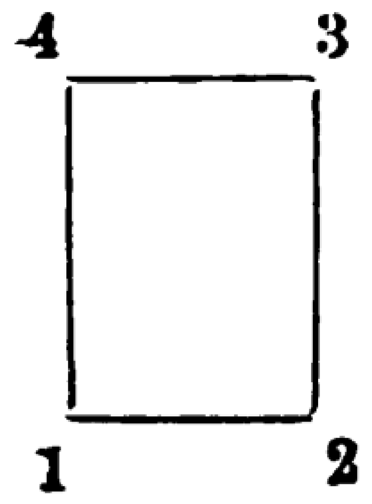


防波堤築造工事ケーソン異動高低一覽表

（＋）は前回に比し高起したるを意味す
（－）は前回に比し低下したるを意味す

測量年月日＼ケーソン番號・測點	第四號ケーソン 一（點）	二（點）	三（點）	四（點）
大正七年三月十九日（成功）	—	—	—	—
干潮面上高	一四·〇〇〇	一四·〇〇〇	一四·〇〇〇	一四·〇〇〇
六月十六日	一一·五三八	一二·九七八	一四·一五八	一二·七一八
前回に比し異動高	－二·四六二	－一·〇二二	＋〇·一五八	－一·二八二
七月四日	五·四〇八	四·四八八	四·九五八	五·九五八
同　断	－六·一三〇	－八·四九〇	－九·二〇〇	－六·七六〇
八月十二日	四·七七八	四·二五八	四·四〇八	四·九六八
同　断	－〇·六三〇	－〇·二三〇	－〇·五五〇	－〇·九九〇
七月二十一日	三·八二八	—	—	三·五九八
同　断	－〇·九五〇	—	—	－一·三七〇
八月二十九日	三·八〇八	四·三六八	四·一一八	三·五七八
同　断	－〇·〇二〇	＋〇·一一〇	－〇·二九〇	－〇·〇二〇
九月二十六日	三·七九八	四·三五八	四·一一八	三·五七八
同　断	－〇·〇一〇	－〇·〇一〇	±〇	±〇
十一月二十九日	三·三六八	四·〇一三	四·二八八	三·五五八
同　断	－〇·四三〇	－〇·三四五	＋〇·一七〇	－〇·〇二〇

備考　點1は東南隅　2は東北隅　3は西北隅　4は西南隅各點共干潮面上14尺に成功す



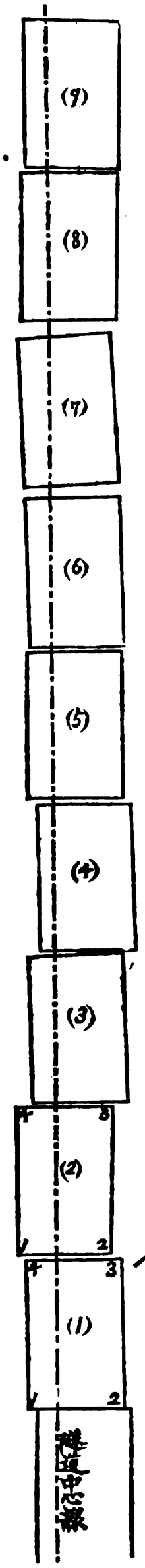
Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

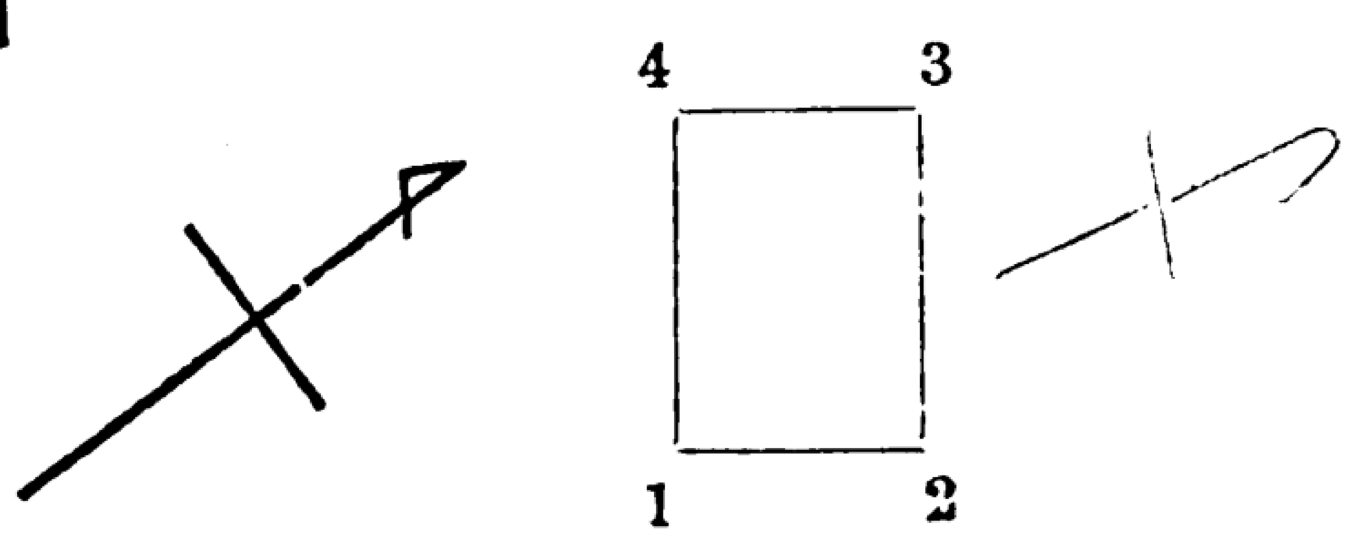
防波堤築造工事ケーソン異動高低一覽表

（+）は前回に比し高起したるを意味す
（−）は前回に比し低下したるを意味す

測點＼ケーソン番號	第五號ケーソン（點）一	（點）二	（點）三	（點）四
測量年月日	一	二	三	四
大正七年五月十五日（成功）	—	—	—	—
干潮面上高	一四・〇〇〇	一四・〇〇〇	一四・〇〇〇	一四・〇〇〇
六月十六日	一二・二二八	一三・五七八	一三・五二八	一二・一八八
前回に比し異動高	−一・七七二	−〇・四二二	−〇・四七二	−一・八一二
七月四日	五・三九八	六・四五八	—	—
同断	−五・八三〇	−七・一二〇	—	—
八月十二日	三・五四八	五・八五八	—	—
同断	−一・八五〇	−〇・六〇〇	—	—
八月二十一日	二・二六八	五・七三八	一・三二八	−一・九〇二
同断	−一・二八〇	−〇・一二〇	−一二・二〇〇	−一三・〇九〇
八月二十九日	二・二八八	五・七四八	一・二五八	−二・〇四二
同断	+〇・〇二〇	+〇・〇一〇	−〇・〇七〇	−〇・一四〇
九月二十六日	二・二六八	五・七三八	一・二六八	−二・一二二
同断	−〇・〇二〇	−〇・〇一〇	+〇・〇一〇	−〇・〇八〇
十一月二十九日	二・三二八	五・八七八	一・〇五三	−二・二四八
同断	+〇・〇六〇	+〇・一四〇	−〇・二一五	−〇・一二六

備考　點1は東南隅2は東北隅3は西北隅4は西南隅各點共干潮面上14尺に成功す





防波堤ケーソン平面圖

（6號7號8號9號ケーソンは未だ移動せず）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

太平洋の均勢

海軍中佐　男爵　井上清純

太平洋上の均勢は今や世界平和の關鍵となつた。之が均勢を得て居れば何も問題は起らないが、非常に變動しつゝあるに依つて玆に問題が起るのである。太平洋と申すと東は南亞米利加に限られ、西は亞細亞大陸・濠洲及其の中間に横たはれる諸島によりて境せらるゝ世界第一の太洋であつて、其の東岸は灣入極めて少く、其の上に島嶼も極めて少なく、一二の火山島があるのみである。然るに西方亞細亞側を見るに、太洋より分岐せる數多の緣海があつて、其の主なるものは「ベーリング」海・オコック海・日本海・支那海・爪哇海・バンダ海・セレベス海・スール海・アラフラ海等の澤山な地中海が控へて居るのである。

太平洋と日本の地位

太平洋は世界の大洋中、其面積の最も大なると共に其の深さも亦た各大洋に冠絕して居つて、臺灣の東の方の海などは其の深い所になると新高山の高さよりも深いのである。先年私も測量を致しましたが、錘線三千尋卽ち一萬八千呎を出して尙ほ海底に屆かない所が何箇所もあつた。此の如く深さに於ても太平洋は世界無類な海であるが、其の偉大なる太平洋の玄關口に控へて居るのが我大日本帝國である。其の地位は歐洲大陸に對する英國の立場と能く似て居るのであつて、而かも弓狀形になつて南北に長く張つて居る所の地勢は、遠く英國の及ばない所である。又た寒帶・温帶・熱帶を一つの國に抱擁して居る所は餘りないのであるが、夫れが人文の開國に向つて最も必要なので、西比利亞の樣な如何に廣大な土地でも、緯度に變化の無くて唯ゝ東西に擴がつて計り居る樣な所では本當の文明は成立たないのである。彼の英國が歐洲大陸に對する占位は北海の方面が開き過ぎて居る爲に、今度の戰に於ても獨逸を箝制するに都合が惡かつたので、英國の艦隊は止むを得ず蘇格蘭土の北部オークネー島に集つて獨逸の艦隊を牽制して居つた。併し其所はウキルヘルムやキール軍港からの距離の關係上、戰機を失ふことが多く、英・獨二大海軍力が思ふ存分の戰が出來なかつたのは、畢竟英國の地勢が斯の如きもので、其根據地が敵の根據地と離れ過ぎて居たと云ふことが確に其の一因をなして居る。それに比して日本を觀ると、宗谷海峽から對馬海峽・臺灣海峽と、實に亞細亞の死命を制すると謂ふか、總ての門戶を日本に默つて通ることは出來ない。殊に將來に於ける臺灣海峽の位置と云ふものは非常に重大なるものになりつゝあるのである。

英國海軍協會の宣言

然らば英國は何う云ふ工合に其の天與の地勢を利用して歐

洲列國を鉗制し、世界を統制して行きつゝあるかが當面の問題であらうと考へる。無論英國の立國主義は海國で、即ち輿論の木鐸を執つて居る所の海軍協會と云ふものは官民から成り立つて居る有力なる會であるが、其の宣言書の終りに斯う云ふことがある。「祖國の榮光を墜さず、外侮を受けず、以て我が國家を泰山の安きに置かんとするには、擧國一致して海軍を擁護し、海權を基礎とする政策を執らざるべからず、之れ萬古不易の國是なり」と云ふて居る。此の趣意の下に有ゆる國民が活動し、商工業に事從するものも或は政治界に沒頭して居る人でも、總て此の主義の下に一團となつて居る。そうして何う云ふことが現はれて來るかと云ふと、戰に臨んで猝かに海上權を取ると云ふことは出來ない。必ずや平時に於て恒久不斷、適當の準備を要するので、其の爲に英國は有ゆる手段を設けて海上權の把持に努めて居る。今回の戰亂に於て英國の海軍力が如何に現はれたかと云ふと、是は獨逸の人に聞くのが一番能く解ります。

獨逸戰敗の眞原因

獨逸の人は今度の敗衂の原因を以て、海陸軍が弱かつたとも、國の組織が惡かつたとも、そんなことは一つも云はない。只だ封鎖と聯合國の宣言とに歸して居る。此點に於ては獨人は全然一致して一人も異存を唱へるものはない。他の國では種々原因を竝べ擧げて居るが、獨逸人自身は戰敗を此の二つの原因に歸して居る。之れが本當であれば、五年間を通じて獨逸に最大の苦痛を與へたものはフォッシュ將軍にあらず、聯合側幾百萬の貔貅と無盡藏の觀ありし兵器軍需品にも非ず、實に封鎖に依つて無聲無言の間に日夜を通じて間斷なく壓迫し來る飢餓將軍であつたのである。此の大なる實驗より日本の人が明確なる教訓を得なかつたならば、將來に於て發展は出來ないと云ふ結論になりはしないかと考へられる。實際に於て獨逸人は飢餓將軍が一番自分達を苦しめたと云ふことを自白して居る。恐らく夫れには苦しんだのであらう。夫れであるから華々しい、ベルダンの勇戰を初め、ソンム、イプレス、アミアン、ランスト、一時一局部の戰鬪には、幾十萬の精銳花と散り、煙と飛び失せたる壯烈は千古の美談として殘り、恐く獨逸魂の聲價を語らないものは無いのであらうが、結局大戰に最後の斷案を下したものは英國海軍の驚くべき威力であつて、大陸を風靡したる奈翁の一度跌きて起つ能はざりし舊歷史を再演したに過ぎないのである、吾人は常に歷史の教訓に鑑みて將來を戒めなければならぬが、此の點に付ては獨逸皇帝は頗る先見の明があつた、が如何せん國の自然の狀勢が惡い爲に思ふ通りに其の理想が實現せられないで仕舞つた。獨逸皇帝としては實に遺憾限りないことゝ思はれる。

沈默艦隊の潛勢力

而かも英國海軍が實際の海戰に從事した主なるものは、五年間僅かに南米コロネル沖の海戰……この海戰で英國の東洋艦隊は全敗したのであるが、それからフォークランドの海戰……こゝで獨逸東洋艦隊は滅亡したのである。此の南米沖の

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

二海戰と北海ヂユツトランド沖の海戰があつたのみで、其の他は偵察戰か又は警備掩護の小競合に過ぎない。此の沈々默々たるグランド、フリートは兵艦五百隻、全體で三千隻に近い艦隊であるが、其の大艦隊は只だ沈默裡にスカパ灣附近に蟄伏して待機の姿勢に居つたのである、夫れで其の當時英國の海軍は何を仕て居ると言つて、往々大戰に對する英國の努力の足らざるを非難し、其の狡猾を云爲したものがあつたが、英國人自體は海軍の努力に信賴して曾て不平の聲を揚げるものが無かつた是れ畢竟其の沈默艦隊の無限の潛勢力を有つて居る、と云ふことを能く知つて居つたからでありませう。實に此の沈々默々たる一大怪物が能く獨逸を屈伏せしめたのであると云ふことが出來る。

憔悴せる獨國民

ルーデンドルフの自白する所に依れば、一九一七年にはルーマニヤによりて獨逸、澳太利、土耳古は辛ふじて其の頭首を水面上に擡ぐることが出來た。若しもルーマニヤが無ければ獨逸側は水中に沒して國を擧げて溺死したと云ふことを謂つて居る。然し事實は一九一七年でなく既に一九一四年即ち大正四年四月末には食料及諸原料の大缺乏を來した、と云ふことが今日に至つて分つた。即ち開戰後一年にして獨逸側は一切の原料が盡きたのである。そこで戰後直ちに入獨した人の話を綜合すると思ひ半ばに過ぎるので、老幼を問はず身體が非常に衰へて形容甚だ憔悴して居つた。それでも休戰になつてから一箇月經つた後で幾分恢復したであらうが、封鎖中の悲慘なることは想像に餘りあるのである。

或る人が獨逸人を傭ひ入れた所が、足腰が能く立たないものも有つた。又た戰時中子供等に營養分を與へようとして自分は全く營養不良に陷つた者もあつた。そこで夫れ等の人に色々營養物を與へたと云ふ話が澤山ある。昔の蔚山の籠城も斯くやと思ひ遣られる。斯う云ふ樣な國難に未だ曾て遭遇せぬ日本人は一面天祐に謝すると共に深く自警の念を起さなければならぬこと、思ふ。今日は大いに獨逸の苦戰を語ると同時に眞面目に返らなければならぬ。

悲痛なるエベルトの演說

大正七年十二月、最も惡戰健鬪致した獨逸の近衞聯隊は、步武整齊高く國歌を唱へつ、堂々と伯林に入城したのである。「エベルト」は之をブランデン、ブルヒ」の關門に迎へて最も悲痛の演說を致して居ります。彼は曰く「噫、故國に還れるもの、數は斯く迄少かりしが。强敵も卿等を征するに由なかりき。只だ惜らくは日毎に增す敵の兵力物資の爲め徒らに勇士を屠るの運命を座視するに忍びず、戰を中止するの外なきに至れり。我等の子女、田園、工場は卿等の爲に敵火より免る、ことを得たり。卿等の如く大をなし、且つ犧牲に甘せるものこれあらず」と。假りに獨逸が休戰を請はずして戰場に死守したなら、尙ほ幾月間、百戰百勝したでありませう。併しながら國內の老幼は飢餓の爲めに續々死沒して一空に歸するの形勢動かす可からざる以上、勝敗は時の問題にて最後の運命知るべきのみ。そこで獨逸は早く媾和を成立して國力の回復を計らうと

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

骨を折つたのであるが、四圍の狀勢之を許さぬ許りでなく、捷ち誇つたる自國の軍勢を猝かに引き揚げることも困難なる所からして、終に終末のどん底に迄落ち込んで仕舞つた。或は獨人の耐忍力は英人に及ばないと思ふ人があらうが、事實五箇年の籠城の困苦缺乏に堪へ忍んだ努力は容易ならぬものがあつた。紙を著し藁を嚙みつゝ、默々の裡に步一步獨逸を威壓する海の力に對して最後迄奮鬪努力を續けたのである。それで最後の媾和條件の理非は勿論、峻嚴苛酷果して履行せらるべきや否やの如きも全然問題とする遑なき程切迫して居つたと云ふ事實は苦戰の狀を物語つて居るのである。恰度柔道で首を締められた樣なもので、先づ其手を緩めて貰はんでは口もきけないと云ふ羽目になつたので、いやでも降參と云はなければならぬ。若し日本が地を換へて斯の如く一國を擧げて焦熱地獄に陷つたなら如何にするかと考へることは、軈て獨逸魂と太和魂との優劣比較になるが、日本人であるならば楠公が湊川に於ける如く斯くなれば最後、國民は一人殘らず君の馬前に悉く枕を並べて戰死したでありませう。獨逸の武力の背後に我建國の大精神の如き理想の無かつたことは最後の崩壞を招致した眞個の因由で、一國々民の思想の根底に正義の觀念を缺いたなら、如何なる兵備も如何なる學問も如何なる統制も、その力を發揮することが出來ないと云ふことになりませう。

又或る人は「マルヌ」の敗戰を獨逸千秋の恨事となし、當時若し二箇軍團を東プロシヤに廻して侵入露軍に向はしめなかつたら、巴里は獨軍の侵入に任せて佛國の全潰となり、さうなると當時未だ兵備の整はなかつた伊太利は當然獨逸の翼下に入り、西班牙や葡萄牙や巴爾幹諸國は無論一と溜りもなく皆な獨逸のものとなり、獨軍豫定の作戰計畫を完全に遂行し、聯合軍の大敗を以て戰局を收めたであらうと申すものもあるが、なる程歐洲大陸を擧げて一時は獨人の手に委ねる悲運に際會したかも知れぬが然し日本東に動かず、英國海軍西に儼存して海上を制する以上、結局獨逸の敗亡は歸結の問題であつて、靜かに天意人心の歸趣を察し歷史の敎訓を鑑みれば何としても之れ以上の結論は得ないのであります。

英國の海上權維持

人を殺すこと幾百萬、財を費すこと幾千億、世界を擧げて獨逸を敵視する樣になつた其の裏面に、何等かの偉大なる精神的動機がなくして、勝敗は單に大本營に展開せられたる作戰地圖上の一進一退に依つて決せらるゝと見るが如きは、餘りに淺薄の譏を免れないのでありませう。一方英人は歐洲大陸に於て獨逸と生死存亡の戰に火花を散らしつゝある際に、世界の各方面に手を伸ばして有ゆる獨逸の殖民地を押收し、更に平生好き獲物として著眼したる方面を他の遮る能はざる間に悉く手中に之を收めた、卽ち獨領東部及南西亞弗利加の如きは全く英國の物となり了り、カメルンス及トーゴランドの如きも佛軍と共同して之を徇へ、南洋諸島に於ける獨逸の諸殖民地も日本と協力して悉く之を占領し、埃及より土耳古皇帝の主權を排して之を保護國とし、又メソポタミヤに向つて兵を用ゐ、幾多の挫折ありしも一九一八年十一月に至りて此

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

の石油の礦地は其の有に歸して仕舞つた。英國はエリザベス女皇時代に海上帝國の基礎を定め、哥倫時代に其の基礎を一層築き上げ、奈翁戰爭時代に世界的帝國の基礎を定めたのであるが、今回の大戰爭は實に英國をして世界的大帝國たる目標に到達せしめたのである。是れ彼等の好運によるのであらうか、彼等の遠謀深慮によるのであらうか、將た彼等の努力によるのであらうか、實に彼等の遠謀深慮により恒久的努力を以て海上權を終始失墜せざりし善果に外ならない。

海上權維持の要項

然らば海上權とは何ういふものか、軍艦や艦隊の如き武力のみを指すのではないが、試みに此を擧げて見れば、先づ第一に海軍力である。即ち艦隊が整備しなければならぬ。第二は根據地力と申しますが、軍港要港或は基隆の樣な所も一の根據地で、糧食軍需品の補給所が必要である。第三には海上運輸力で、是は主に商船である。第四には通信力で、水底電信や無線電信等が完備しなければならぬ。即ち艦隊ばかりでなく其背後に活動する運輸力等を指揮統一する通信力が揃はなければなりませぬ。

話は横路に入りますが、米國船舶局には今回航洋定期船として世界未曾有の巨船を造る計畫がある。即ち長さが一千呎、幅百〇二呎、吃水三十五呎、總噸數五萬五千噸、速力三十節、船客は一等一千名、二等八百名、三等一千二百名、乘組船員一千名で、斯ふ云ふ船を建造し樣としつゝある。それが戰時に於ては輸送機關となり、商業破壞船に轉用される。米國より三千浬を離れた歐洲の戰場に送つた無限の軍需品と二百萬人の軍隊とは、偉大なる英國海上輸送力に負ふ所が多いので、米國は深く之に省みる所があつたからである。

優勢なる英の海軍

次に英獨海軍の對比であるが、戰術が兵力の缺を補ひ得るの限度を四十％と想定すれば、苟も物質力に於て四割以上の相違があつたなら、名射擊も名運動も到底艦隊の戰捷を齎すに由なきことは明白である。獨逸の艦隊は英軍に對比して如何なる程度にあつたか、英國は元來世界の第二位・第三位の海軍力を合併した丈けの武力を保持する方針を採つて居つたが、獨逸が非常の勢で海軍を擴張し、動もすれば英國の壘を摩せんとするので、迚も以上の標準を以て甘んずることが出來なくなり、已むなく第二位の海軍力に對する四割優勢を標準として、獨逸海軍計畫の完成する一九二〇年迄に、第一戰列部隊の戰艦三十三隻、巡洋戰艦十六隻を基幹とする艦隊の建造を期したが、開戰と同時にその工程を速め、一九一七年には全部完成し、彼のヂヤットランド海戰に於ては英艦隊は獨艦隊に對して八割の優勢を以て對戰することになつた。そこで獨逸艦隊はどうしても退却戰より出來なかつたので、非常に巧妙なる戰術を應用して旨い工合に導いたが、遂に攻戰の態度に出る能はず、幕煙即ち重油を燃やして煙の幕を海上に立て、此の幕裡に隱れて僅に虎口を脫してウヰルヘルム軍港に還ることが出來たのである。

此の戰はどちらが捷つたかと申すと、實際の損害は英國の

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

方が多かつたが、再び北海に獨逸の隻影を絶つたことから見たならば、此の一戰にて英國は全く北海を制したといふことが出來る。爾來獨逸は「バーデン」「マッケンゼン」の二艦を新造せるのみであるに英國は「ローヤルソベレイン」級の五隻、「レナウン」級の三隻、「グローリアス」級の三隻、計十隻の弩級艦を新造せる上に、米國より「ニューヨーク」級の五隻の大戰艦の増援を得て、彼我の勢力二十二割以上の相違を來し、獨逸艦隊は最早や出戰の勇なく、士氣全く沮喪して過激思想は斯う云ふ所から胚胎して來たのである。

海上資本主義の發現

現在の英國の艦隊の勢力はどうかと申すと、第一戰列部隊戰艦三十三隻、巡洋戰艦十六隻、第二戰列部隊戰艦三十三隻、巡洋戰艦十六隻を基幹とせる艦隊であつて、之を以て世界を統制しようとして居るのである。而して米國海軍の勢力は如何といふに、米國は一九二一年迄に戰艦二十七隻、巡洋艦六隻を基幹とする海軍力を有する次第にて、英國に對し未だ五割の劣勢を見るべく、米國海軍の政策としては世界第二位の海軍が大戰に於て充分の用をしなかつたに鑑み、世界最强の海軍力を有するか若くは其の最高のものと同等でなければならぬとの論據により、再び擴張して戰艦三十六隻を造り、世界第一位に達せんと努力して居る。弩級建造の資力と設備とに於て見れば英國を第一とし、米國之に次ぐの實情にて、絶對巨艦主義の國防を天下に强ゆることになれば、海上に資本主義を見はし來るものと解釋することが出來る。何ういふ譯かと言ふと、英國最新巡洋戰艦「フード」は排水量四萬一千噸、速力三十一節であるが、兵裝費を除き船價五千二十五萬圓に上つて居る。之に對し初代「ドレッドノート」は一千八百萬圓である。夫れ故戰艦一隻を建造するにも容易ならぬ問題で、そこに海上資本主義が見はれるのである。目下建造中の米國戰艦「レキシントン」の船價六千四百萬圓、之を三十三隻も造るといふことは餘程有力の國でなければ出來ないので、今後我が國は之に對立して大變困難な立場にならうと思ふ。

歐洲大戰の結果として特に眼前に現はれ來れる現象は海上勢力の根本的變動である。その變化の直接影響は太平洋上の均勢に一大動搖を來して居ることであつて、戰局收まるも米國は其の厖大なる艦隊を縮小しやうとはしない、益々精鋭なる艦隊組織の必要を主張して居る。英國は曩に多數の舊式戰艦を拂ひ下げ、初代「ドレッドノート」迄も賣下げて仕舞つたが、益々新鋭の艦隊の保持に努めて居る、斯くて世界の海洋が「アングロサクソン」民族の支配下に歸するとすれば海上の自由なるものは將來益々影薄くならんとするの虞がある。

英米の大太平洋艦隊

英國の對獨全勝は歐洲近海に餘力を生ぜしめ、今や新鋭なる支那・濠洲艦隊を再建し、南阿・印度・加奈陀・新西蘭をして優勢なる獨立艦隊を建設せしめ、有事の日、此等の勢力を打つて一丸となし、以て一令下直ちに協同動作を採るべき大太平洋艦隊を編制しやうと計畫を進めて居る。實に恐るべき壓倒的洪水の如き大勢力が、數年の中に押し寄せて來るを豫想

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

しないわけには行かぬ。

又米國は其の精鋭なる六部隊即ち百七十餘隻より成る大艦隊を太西洋から太平洋方面に轉錨して、最近パナマ眞珠灣・ガム島・キャビテ並に太平洋沿岸の諸設備を施し、戰艦三十六隻、巡洋艦十二隻、大小快速巡洋艦四十八隻、驅逐艦百隻並に同數の潛水艦を二箇月給養し得る軍需品を太平洋海岸に準備した。將來に於ては二箇月でなく、米國の大艦隊が眞に海洋の浮城として活現し來るの日が近く到來しませう。從來波靜かであつた太平洋は何故に斯く騷がしくなつたか、「將來太平洋の制海權を握るものは以て世界を制す」とは夙に識者の間に唱導せられた所である。各國の燒點が太平洋上に落ちて來たのは亦た自然の勢と云ふのでありませう。

太平洋と吾人の海國主義

然るに支那の混沌たる現狀、大露國の戰時狀態を脫しない有樣、或は印度內地の不穩の情況等、是れ中歐以東に於ける爆發藥の埋伏を示すもので若し世界的戰亂が再び起るとしたならば、必ず太平洋を中心とするものならざる可からずと云ふことになる。吾々日本人は建國の理想に依りて一意平和を念とし、太平洋をして其の名の如く平和の海たらしめんとするには、どうしても其の勢力の變動せざるやうに均勢を維持することに努めなければならぬ。之を狂瀾怒濤に化せしめたならば第一の被害者は帝國でありませう。吾々は此の太平洋に波を揚げぬと云ふ一大精進を要するのである。英國では近頃「ナバリズム」といふ言葉が出來ました。是は海國主義と譯しますが、即ち海國と稱し得らる地理的關係を有つ國が海洋を以て其の活動舞臺の中心とし、何事の野心を藏することなく、極めて平和的狀態の下に飽迄國利民福を求めんとするの謂であるさうです。其の主義は英國海軍を建設した一つの基になつて居る。吾人の所謂海國主義に於ては眼界も思想も一層遠大に置くことを要するので、目前觀に捉はれ若くは國內の瑣事に齷齪するが如きは全然排斥する所である。總てが高遠なる理想に基いて凡百のことが海洋を活動舞臺の中心として企畫され、又實行されなければならぬ。日本は三百年前一度此主義に目醒め曾て八幡船にその名を留めしも、鎖國惰眠に慣れて大正の聖代にも尙未だ復活しないのである。惟ふに我が政治上、軍事上、經濟上、社會上、思想上に於ける凡ゆる事が此の主義に據らぬ限りは、如何に精進努力しても根底ある國家の興隆を來すことは六ケ敷からうと考へられる。個人の向上は其の個性を意識し啓發することに依つて其の一步を起すと同樣、國家の向上個性を意識することに依つて其の端緒を開くものでありませう。帝國の如き海島國にありては政府及國民の總てが其の地理的關係に基く百般の利害得失を充分意識することが喫緊事でなければならぬ。此の主義は我が建國の當初から帝國の國是であつて、神武天皇の東幸の御事蹟によりても瞭な事である。實に海洋そのものが世界列國を繫いで居るが如く、相互の利益を尊重しつゝ進み行く正義公道の極致として海國主義を保持し、擧國一致速かに實力建設の一途に向つて驀進したならば、永久に太平洋は我等及我等の子孫の樂しき平和の池水として祖國の榮光を豎さす。國家

をして泰山の安きに置くことが出來るでありませう。（終）

臺灣に於ける酒造工業の將來

臺灣總督府事務官　前田稔靖

一

大正三年度に於て僅かに百六十餘萬圓なりしもの、大正九年度に於て一躍三百餘萬圓の巨額に達し、地租に次て臺灣租税收入中の優位を占むるものは卽ち酒税收入である、從て這は反面に於てその課税客體たる臺灣に於ける酒造工業の長足なる、進展を物語るものでなくてはならない、玆に酒と謂ふは臺灣酒造税規則に依れは醸造酒、蒸餾酒及再製酒の分類に從ふ所のものである、税法に依て麥酒を除外せるはその不課税なるの外別に何等の理由はない、而して醸造酒とは醸造の儘何等の加工を施さすして直に飲用に供する酒類にして例之(イ)穀物を原料とするものに清酒、麥酒、及紹興酒(ロ)果實を原料とするものに葡萄酒、林檎酒、蜜柑酒及杏酒(ハ)乳類を原料とするものにケフイヤ、クミースマツム等がある、又蒸餾酒とは醸造せしものを更に蒸餾して飲用に供する酒類の謂にして例之(イ)穀物を原料とせるものにウヰスキー、ウォツカ、焼酎、泡盛、高粱酒、米酒、糯米酒(ロ)果實を原料とせるものにブランデー、コイニャック(ハ)球根を原料とせるものに蕃諸酒(ニ)糖蜜を原料とせるものに糖蜜酒、ラム等がある、更に再製酒とは蒸餾酒に更に麴類及穀類或は砂糖類を加へ再醱酵を誘起せしめたるものにして、その種類に至りては味淋、白酒、保命酒の如き内地人の嗜好に適せるもの、紅酒藥酒の如き本島人向のもの及シャンパンの如き西洋人の嗜好に投應するもの等多岐に亙りて製出せられて居る、而して以上の内臺灣に於て最も多量に生産せられ從て最も廣く飲用せらるゝものは酒精は別として、米酒を第一とし、糖蜜酒、紅酒及清酒の順序と見て大過はない。

二

酒は他の食物と同じく人體に必要缺く可らざるものなりやの問に對しては遽に之を肯定すること不可能である、否寧ろ否定すべきが至當であらう、乍併之を適度に用ゆる時は一種の興奮劑となりて、血行を熾んにし、快感を誘起し、食慾を増進する等必ずしも健康上有害なるものではない、渠の禁酒主義者の喧傳あるにも拘らず、又這次の歐洲戰亂に際して露國を首め。北米合衆國の各洲に於て禁酒政策實行せられ、而も其の目的を達成すること克はさりし點より見るも、人類より酒を奪ふことの奈何に難事であるかゞ分る、臺灣に於ける

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

過去數年間の統計も酒類製造場數及製造高の激增を示せるは、全く島內住民の富の增進、人口の增加竝に嗜好の變移等に基因するものと見なければならない、試に本年三月末日に於ける酒類製造場數を擧ぐれば二百十八箇所を算し、その一箇年全製造見込高は釀造酒一萬五千餘石、蒸餾酒二十三萬五千餘石、再製酒九萬三千餘石を合せて總計三十四萬三千餘石の巨量である、以上の內酒精七萬七千餘石は或は內地に移出せられ又は海外に輸出せられで島內に止まるものは僅少なるも、之を除ける他の酒類に至りては、海外輸出として漏るゝ少量の外、殆んど島內に於て消費せらるゝものと見て差問ない、尙此外島內消費に供せらるゝ外國よりの輸入酒類竝に內地よりの移入酒類は可なり巨額である。

▲輸移入酒類數量價額表

（イ）外國より輸入酒類

		大正八年	同　九年三月迄
葡萄酒（各種）	數量	三、二八八（利）	一、六五五（利）
	價額	五、三三五（圓）	一、八〇八（圓）
シャンパン	數量	—	—
	價額	—	—
ウキスキー	數量	二、五〇九（利）	一、八七五（利）
	價額	一一、一八九（圓）	七、九一八（圓）
ブランデー	數量	一一、三〇九（利）	二、五〇〇（利）
	價額	六三、二七二（圓）	一五、一〇三（圓）
其他の酒	數量	四、〇二五（利）	八三（利）
	價額	三、四六四（圓）	一二〇（圓）
計	數量	—	—
	價額	八三、二六〇（圓）	二四、九四九（圓）

（ロ）內地より移入酒類

			大正八年	同　九年三月迄
清酒（罎詰）		數量	二三七、三六三（打）	一九、四一九（打）
		價額	二、〇八三、六八二（圓）	二二八、七三六（圓）
同（樽入）		數量	七、五八三（石）	八〇一（石）
		價額	一、〇二九、四一二（圓）	一五四、五一五（圓）
麥酒		數量	三二六、三三三（打）	一〇三、二五〇（打）
		價額	一、三八〇、七一三（圓）	五五六、三五八（圓）
葡萄酒		數量	一五、二九九（打）	三、八六六（打）
		價額	一七四、三八八（圓）	四五、四六八（圓）
其他の洋酒		數量	—	—
		價額	二九四、一〇一（圓）	四四、三四二（圓）
其他の酒	味淋	數量	四、五一四（打）	—
		價額	三九、二七九（圓）	三、八三七（圓）
	支那酒	數量	—	—
		價額	九八、六八八（圓）	三二、〇五八（圓）
	其他の酒	數量	—	—
		價格	一七、四三二（圓）	四、二二九（圓）
計		數量	—	—
		價額	五、一一七、六九五（圓）	一、〇六九、五四三（圓）

卽ち右表に據るが如く島內消費にして、島內生產額の外更に五百萬圓餘の供給を內地及海外に仰けるの狀態にして、今後その消費量は縱令增大することあるも決して減少する傾向はない。

三

酒造工業の立場より見る時はその生產費竝に收益の關係は

最も重要なる問題である、而して這は又酒の種類に依り地方に依り多少の差異を存することは勿論である、乍併今最近酒造年度に於ける各廳平均數により清酒一石當の收支を見るに、原料費二十二圓八十三錢、製造及事務費十三圓八十三錢一厘、雜費三圓三十五錢七厘、酒稅其他の負擔六圓三十二錢二厘支出計四十六圓三十四錢の生產費を要し、之を清酒及粕の販賣收入五十四圓三十錢三厘より控除すれば殘額七圓九十六錢三厘は企業者の確實なる純益である、又米酒百箇當の收益を見るに、原料費百三圓五十五錢、製造及事務費二十四圓八十八錢五厘、雜費五圓八十一錢一厘、酒稅其他二十七圓九十六錢三厘支出計百六十二圓二十錢九厘の生產費にして、之を販賣收入百七十五圓五十九錢四厘より控除すれば十三圓三十八錢五厘の純益である、此の方法によりて計算する時は紅酒は一石に就き十四圓八十八錢四厘の利益、糖蜜は百箇當十八圓三十九錢三厘、酒精は百箇當十七圓六十八錢四厘の利益を擧ぐる勘定である、是等は主として課稅の立場及材料による計算なるが故に實際に於ける製造業者の利潤は更に大なるものあるに相違ない、是等の利益は素より島內に於ける原料費及勞賃の低廉てふ特殊の事情と、一般物價の昂騰に伴ふ酒類價格の騰貴に基因するものであるが他面臺灣の酒稅々率が內地に比し極めて低きことを忘れてはならない、卽ち之により克く內地製品と角逐することを得、併せて島內の需要に應ずることが出來る、尤も內地と臺灣とは自ら事情異なり、住民の嗜好に投ずる酒類を異にし、從て臺灣に於ては內地移入品として清酒及麥酒を除く外其他の酒類に至りては殆んど今日の技術上完全なる生產能力はない、又清酒及麥酒（未だ生產なし）に於ても內地製品に比し品質風味等に於て、果して優位なるを得るかは太だ疑問なるが故に、島內に於ける內地製品との競爭は今日の處其の餘地極めて少なきものと見るが至當である、之れ則ち他面臺灣酒造工業がその獨立を保持し得る特殊の事情にある、而して島內製造酒類が內地に比し現行租稅上如何なる特惠待遇に浴しつゝありやは次表に示す所により暸かである。

內地現行率		臺灣現行率	差額
釀造酒二十三度以下（一石）	二三・〇〇円	六・〇〇円	一七・〇〇円
蒸餾酒三十度以下（同）	二三・〇〇	七・五〇	一五・五〇
同　三十五度以下（同）	二九・〇〇	一〇・五〇	一八・五〇
同　四十度以下（同）	三五・〇〇	一二・五〇	二二・五〇
同　四十五度以下（同）	四一・〇〇	一三・五〇	二七・五〇

加之內地の改正稅率にして實現せらるゝ曉に於ては、縱令臺灣に於て稅率の改正あるものと想像するもその間の開きは一層擴大せらるゝ結果となるのである。

四

臺灣に於ける酒造工業が生產費に於て將又租稅負擔に於て特殊の利益を有し、漸次發達を遂げつゝあることは前叙の如くである、乍併之れ只島內消費用として稍見るべき成績を示したるに止まるが故に、將來に於ける發展を庶幾せんと欲せば更に內地竝に海外に販路を擴張するの計劃を等閑にしては

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

ならない、而して島内の自給自足上より謂ふも、年々五百萬圓以上の供給を内地より仰げる以上、決して完全せりと謂ふことは出來ない、此等輸入品の大宗たる、淸酒及麥酒の如きは當然島内の自給に竢つべき性質のものである、殊に麥酒に對しては課徵無きが故に、若し臺灣に於て製造するに至らば、内地製品に比し、少くとも麥酒稅金及運賃諸掛の利益を有し、百三十萬圓を超ゆる移入を防遏することは實に易々たることである、今日の制度の下に於ては、内地酒造稅法の改正せられざる限り、臺灣酒造稅規則の改正によるか、又は出港稅等の新稅を設くるに非ざれば、島内製產の酒類を内地に向ひて移出することは不可能である、從て此の制限の撤撥なきに於ては臺灣の酒類は絕對に内地の顧客を吸收することは出來ない、之れ臺灣の酒造工業に對する一大障害たると同時に、此の如きは之が保護助長を徹底せしむる所爲でもない、此等に關しては早晩何等かの解決あらんも乍併内地移出の途開くるに際しては、恰も内地品が臺灣に於て競爭難を感ずると同じく、臺灣製品は少くとも運賃諸掛に於てハンデイキャップを有するが故に、果して豫期せる成果を收め得るや否や頗る疑問である、殊にその品質に於て未た充分なる自信なき今日に於ては太べ不安の念に打たれる、次に海外輸出に關しては内地移出の如き不便はなきも實際上此の方面に於けるものは皆無と謂ひ得べき程度に貧弱である、只支那香港英領海峽殖民地及英領ボルネオ等に淸酒、竝に麥酒の再輸出及支那、關東州に向ひ糖蜜酒の少量を輸出するに過ぎない、吾人の見る所に於ては寧ろ發展の機會は此の方面に索むべきではあるまいか、卽ち前揭せる臺灣特殊の事情を利器として、此等の小地域に止まらず、廣く南支南洋の方面に顧客を索め、その販路の擴張、商權の確立を期すべきである、例之麥酒の釀造は内地と相提携して此方面に販路を拓くを至當とすべく、糖蜜酒、紅酒、米酒等は啻に島内住民の慾望を充足するのみならず廣く對岸の人民に及ぼすの方法を講することが緊要である、既に原料勞賃の低廉は本島に於ける經濟上有利なる武略である以上之に優秀なる技術を加ふると共に、他面需用地に於ける各種の嗜好習慣等を研究するに於ては、その販路の擴張は必ずしも難事たらざるのみならず、之に依り本島酒造工業の前途は愈々光明を認むるに至るであらう。（完）

◉和蘭瓜哇間大飛行

（新嘉坡フリー、プレツスー三月十八日）

和蘭政府の提供せる懸賞飛行に參加するバッカー及バルコール兩大尉はピサ及羅馬を經由せずプレスト、マルセイユ、ネープル經由飛行の筈にてバスラよりサイプラスンに直行するを以て挨及を通過せず主として海岸に沿ひ印度洋を廷回すべし、使用機はロルスロイス發動機を有するヴイッカー水上飛行機にして飛行日數三十日行程を二十六に分ち一飛行區間の距離は四百哩なりと。

明治三十九年の臺灣文武官

總督	佐久間左馬太
民政長官	後藤新平
秘書官	大津麟平
同	齋藤參吉
秘書課屬	南政吉
同	川中子安治郎
同	高島虎雄
同	和泉初次郎
文書課長心得	齋藤愛二
屬	舘與吉
同	關善之助
參事官	持地六三郎
同	楠正秋
翻譯官	鉅鹿赫太郎
同	有泉朝次郎
屬	瀨能莊一
警察本署長	大島久滿次
屬	山口德治
警務課長	北原種忠
警視	中山佐之助
屬	柏蕃彌
保安課長	圖師庄一郎
警部	岡野才太郎
蕃務課長	賀來倉太
技手	財津久平
衛生課長	高木友枝
技師	岡田義行
防疫事務官	魚返煥乎
警察第二管區屬	渡邊順親
外事課翻譯官	三好重彥
屬	森永信光
地方課屬	大橋毅
同	山田壽藏
同	重藤幹一
同	大橋重衛
同	長谷部一郎
法務課長	手島兵次郎
屬	志豆機源太郎
同	鹽田爲次郎
學務課屬	宮本一學
同	松山捨吉
圖書編修官	小川尙義
財務局長	中村是公
主計課長	峽謙齊
屬	神谷由道
同	岩瀨金二郎
同	樨場徹
同	宮崎克己
同	阿部滂
同	石原研吉
税務課事務官	高山仰
同	朝倉菊三郎
税務官	高橋龍之助
屬	縫田榮太郎
同	島岩太郎
同	西岡健之
同	澁谷辰四郎
同	相良三熊
同	古本廣允
同	佐藤得太郎
同	本山理太郎
技手	小澤寬治
會計課屬	芳賀近太郎
同	藤代三九三
税務官	久芳直介
通信局長	鹿子木小五郎
庶務課長	賀來佐賀太郎
屬	齋藤剛
同	石井慶松
通信書記	錦織光彥
郵務課長	伊藤金彌
通信書記	川本醇藏
電務課長	山本三次郎
通信書記	樋口憲
同	岩切勇吉
海事課海事官	三村三平
同	堀內廣助
同	千葉萬壽
同	小關世男雄
屬	保木利吉
同	菊竹博愛
臺北測候所長	近藤久次郎
殖產局長	祝辰巳
農商課長	竹島慶四郎
事務官	古橋直
同	横山壯次郎
同	川上瀧彌
同	藤江勝太郎
同	西壯太郎
屬	川田武彥
林務課技師	田代安定
鑛務課長	福留喜之助
權度課長	山田申吾
農事試驗場長	藤根吉春
分課未定技師	市島直治
土木局長心得	長尾半平
土木課長	高橋辰次郎
技師	濱野彌四郎
同	德見常雄
同	清水一德
同	大越大藏
同	野村一郎
營繕課長	田島穩造
枝師	小野木孝治
同	福島克已
同	近藤十郎
同	野呂寧
分課未定技師	谷田文衛
陸軍參謀長少將	中屋則哲
參謀 步少佐	佐治喜一
同 步大尉	吉弘庚
副官 步少佐	河本爲次郎
同 步大尉	賀來富三
同 步大尉	染河孝助
同 步大尉	田中三郎
陸軍經理部長	後藤尙古
部員	市川豐太
同	荒井藤之助
同	青地留三郎
同	岩崎正憲
同	片山宗十郎
同	伊藤積治郎
同	清水要藏
同	山岸重太郎
同	山根仲藏
同	水野龜吉
同	豐田節太郎
同	酒井捨五郎
同	星野武雄
同	高橋守
同	若林留吉
同	横山金作
同	岩淵橋雄
同	宮田龜吉
同	久保田梅吉
技師	福田東吾
陸軍々醫部長	市川廣助

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

部員	堺龍
同	立花綱祥
陸軍獸醫部長事務取扱	森成
部員	佐野信三郎
陸軍法官部長	島田喜十郎
部員	岩越謹一
同	回坂春平
海軍參謀長	宮地貞辰
覆審法院長	鈴木宗言
判官部長	安井勝次
判官	木付篤
同	矢野猪之八
同	高田富藏
同	藤井乾助
同	土屋達太郎
通譯	谷信敬
書記	伊藤正介
同	荒谷喜代治
檢察官長	尾立維孝
檢察官	西内金吾
通譯	施錫文
臺北地方法院長	寺島小五郎
判官	原誠一
同	安田勝次郎
同	白倉吉朗
同	小野隆太郎
同	大内信
同	長尾景德
書記	田中勝三郎
同	渡邊初二
同	角田泰策
同	樋本正脩
同	水谷利章
同	皆川政次
同	渡邊竹次郎
同	花園世師
同	宮坂榮之助
通譯	川合眞永
同	安藤元節
基隆登記所書記	本村庸彦
新竹出張所判官	望月恒造
書記	高橋西藏
苗栗登記所書記	西川熊治
同	牟田新太郎
宜蘭出張所判官	川上和一
書記	帷子力
同	柳内惣吉
臺中出張所判官	渡邊啓太
同	久保惟修
書記	大友傳三郎
同	中山信輝
通譯	横田次郎
同	林覺太
臺北地方法院檢察官長	松井四郎
檢察官	小野得一郎
書記	宮本彌久次
同	安部清
通譯	今田祝藏
同	西川義治
新竹出張所書記	庄野橋太郎
同	本田正己
臺中出張所檢察官	津田毅一
臺南地方法院長	櫻庭棠陰
判官	早川彌三郎
同	柳原右助
同	松岡十次郎
書記	久保村三郎
同	大山俊彦
同	羽中田一太郎
同	新田繁永
同	關口條三郎
同	鳥居勝治
同	井口嘉七郎
同	佐藤房太郎
同	松岡角治
通譯	榊原源太郎
同	澤谷仙太郎
同	趙鐵麒
東港登記所書記	岸隆巖
嘉義出張所判官	村上武八郎
同	原玄朴
書記	本多鍵吉
同	猪狩三四郎
同	林茂實
臺南地方法院檢察官長	朽木義春
檢察官	松井榮堯
同	中條庸
書記	青柳俊夫
嘉義出張所檢察官	豐田俊助
書記	尾崎繁男
鐵道部技師長	長谷川謹介
總務課長	秋山清
事務官	原吉太郎
運輸課長心得	村上彰一
技師	小池愼藏
工務課長	新元鹿之助
事務官	服部仁藏
技師	張令紀
同	笠野英三
技手	小野千城
汽車課技師	古田五郎
同	音羽守
倉庫課長	赤松壽春
事務官	大瀧岩次郎
打狗出張所長	渡部英太郎
事務官	渡邊薫
技師	中根鈾七
同	津田素彦
彰化出張所長心得	萱野忠五郎
三叉河出張所長	稻恒兵太郎
技師	朝倉政次郎
分課未定技師	阿部惠三郎
專賣局長	宮尾舜治
庶務課長	野村楢次
經理課	野村得司
書記	服部武重
製造課長	鈴木卷定
技師	今福結藏
腦務課長	佐藤法潤
技師	小川眞一
鹽務課長事務取扱	佐藤謙太郎
書記	荒木繁太郎
煙草課長	高雄晋
檢定課技師	早川政太郎
技手	惠澤貞次郎
臺南出張所長	平野師應
神戶支局長	增澤有
臺南支局長	竹内龜七
打狗支局分課未定技師	水科七三郎
書記	片山秀太郎
臨時基隆築港局庶務課長	今井周三郎
工務課技師	川上浩二郎
同	山形要助
同	十川嘉太郎
同	田崎二三次
臨時糖務局糖務課長	小花和太郎
臺南支局長	淺田知定
技師	相馬半治
同	東條秀介
淡水稅關長	岩政憲三
監視部長	山口利文
監視	龍岡資二
監吏	寺師直熊
同	松下正一
檢查課長	三井榮次郎
鑑定官補	吉田實一
經理課屬	濱田耕吉
同	時枝俊四郎
基隆稅關支署長	竹内壽衛馬
舊港稅關支署監視	五代陶四郎
安平稅關監視部長	布施謙太郎
監視	平野九一
檢查課屬	坂本憲章
鑑定官補	角儀太郎
同	田中萬二
經理課屬	岡本槌之助
同	瀧澤金太郎

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

同	本橋巳太郎
同	南鄕彌吉
打狗稅關支署長	島田重敏
屬	本庄市太郎
同	長谷川宜
北門嶼稅關監視署長	大友鳥治
東城稅關監視署長	法元中二
國語學校長	田中敬一
教授	石田新太郎
同	鈴江團吉
同	中村忠誠
同	永澤定一
同	渡部春藏
同	志保田鉎吉
同	黃葉秋造
同	竹內左馬次郎
同	小野敏夫
同	和田彰
同	森本修
助教授	高橋二三四
同	內村藤太郎
同	鈴木金次郎
第一附屬學校教諭	岡本要八郎
臺北醫院長	長野純藏
醫長	川添正道
同	岸一太
同	大鳥次郎
同	川合百太郎
同	臼杵才化
同	三宅良一
醫員	高田千賀太
藥局長	勝山虎三郎
書記	酒井愛次郎
新竹醫院長事務取扱	蒲池佐惣太
書記	中村豐一
基隆醫院長事務取扱	築山揆一
臺中醫院長事務取扱	富士田豁平
醫員	安田秀正
臺南醫院長	松尾知明
醫員	山田義雄
同	松尾峯太郎
同	中川幸庵
嘉義醫院長事務取扱	加藤信平
鳳山醫院長事務取扱	高柳元六郎
宜蘭醫院長事務取扱	鵜飼碧汀
臺東醫院長事務取扱	芳澤鷹之助
澎湖醫院長事務取扱	澤田總五郎
醫學校助教授	今裕
同	吉田坦藏
臺北郵便電信局長	曾禰吉彌
郵便課通信書記	大島熊吉
電信課長	小野塚斧太郎
通信書記	分島薰
同	久連松喜太郎
建築課通信技手	杉山鈺太郎
同	萱島茂樹
庶務課通信書記	岡垣重藏
同	荒井信太郎
臺南郵便電信局長	速水經憲
建築課長	小寺鉎次郎
基隆郵便電信局長	早瀨巳熊
臺中郵便電信局長	萩原寛太郎
郵便課通信書記	岩崎房吉
澎湖郵便電信局長	向井田善五郎
苗栗郵便電信局長	鈴木重嶽
淡水郵便電信局長	鈴木金之介
三等郵便電信局長	脇田榮三郎
同	細谷松吉
同	小檜山鎌吉
同	赤尾三郎
同	森友太郎
警察官及司獄官練習所教官	森孝三
舍監	澤井瀨平
海港檢疫所長	山田寅之助
海港檢疫醫官	羽鳥重郎
臺北監獄長	小松吉久
第一課長	本田理三郎
監使	東豐吉
宜蘭支監長	若林隆之助
臺中監獄長	武川銓之助
第三課長	福田臺記
臺南監獄長	高屋常三郎
第三課長	片山勘太郎
嘉義支監長	岡彌三郎
臨時臺灣舊慣調查會第一部長	岡松參太郎
委員	石井爲吉
同	眇田熊右衞門
第二部委員	愛久澤直哉
官幣大社臺灣神社宮司	山口透
臺北廳長	佐藤友熊
總務課長	木村松之助
屬	野口有國
警務課長	大山綱岳
稅務課屬	松尾甚一
臺北第二尋常高等小學校長	山科宣次
滬尾常尋高等小學校長	上條邦太郎
枋橋公學校長	高橋喜能
基隆廳長	橫澤次郎
基隆租稅檢查所長	竹內壽衞馬
基隆公學校長	本田茂吉
宜蘭廳長	中田直溫
深坑廳長	丹野英清
景尾支廳長	山之內小藤次
桃園廳長	竹內卷太郎
稅務課屬	松元德次郎
新竹廳長	里見義正
苗栗廳長	家永泰吉郎
總務課屬	志和屋良白
警務課長	市來半次郎
稅務課長	白石喜代治
大湖支廳長	宇野英稱
臺中廳長	岡本武輝
彰化廳長	加藤尚志
總務課屬	宇都宗一
同	黑田清政
稅務課長	金子恒彌
屬	平井繁一
員林支廳長	隈元多市郎
南投廳長	小柳重道
稅務課長	廣瀨千代吉
斗六廳長	荒賀直順
總務課屬	磯貝武平
嘉義廳長	岡田信興
稅務課屬	鎌田貞司
新港公學校	橋本勝伸
鹽水港廳長	村上先
臺南廳長	山形脩人
總務課屬	青木惠範
同	森直吉
臺南第一公學校長	江口保
臺南第二公學校長	坂根十二郎
蕃薯寮廳長	石橋亭
鳳山廳長	橫山虎次
總務課屬	上田榮助
同	坂元軍二
醫務課長	荒卷鐵之助
稅務課屬	河合千代喜
技手	山川學而
阿緱廳長	佐々木基
總務課長	武藤針五郎
東港支廳長	金子惠教
恒春廳長	柳本通義
總務課屬	增田多助
蚊蟀支廳長	松村儀十郎
臺東廳長	森尾茂助
總務課屬	宮本信義
警部	近藤滿夫
稅務課長	江崎龍雄
澎湖廳長	脇本彬
基隆要塞司令部司令官 少將	原義成
參謀 工少佐	森田德太郎
副官 砲大尉	北幡榮
部員 工少佐	岩田一櫻
同 砲大尉	岸彌七
同 砲大尉	須藤定一
澎湖島要塞司令部司令官 少將	多田保房
參謀 步大尉	村手彥增
副官 砲大尉	秋田四郎
部員 工少佐	鈴木文一郎
同 砲小佐	矢村伊太郎
同 砲大尉	武安宿典
臺灣守備混成第一旅團長 小將	須永武義
參謀 步少佐	加藤豐三郎
副官 步大尉	石關春
同 步中尉	入江修藏
臺灣守備混成第二旅團長 少將	佐治爲善
參謀 步少佐	高木鍊吉
副官 步大尉	小松榮
同 步中尉	石橋富雄
臺北衞戍病院長 二等軍醫	大橋豐吉郎
臺南衞戍病院長 二等軍醫	都築宗正
臺北衞戍監獄長	成相武治

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

調査報告

戰時中の緬甸貿易

（商工課調査）

第一　緒言

一九一八年の緬甸海外貿易總額は一七五、一〇四、〇〇〇米弗にして前年に比し二二、四七〇、〇〇〇弗、一九一四年に比すれば四一、六一六、〇〇〇弗の減退に當れり。一九一四年より一九一八年迄の海外貿易額左の如し　（單位千米弗）

		一九一四年	一九一五年	一九一六年	一九一七年	一九一八年
外國	輸出	七七、五六五	五二、七六三	四九、五一九	六三、三八九	六七、二二三
	輸入	五一、九一四	三四、二一八	三四、九二九	三八、四六七	三一、九五七
	小計	一二九、四七九	八六、九八一	八四、四四八	一〇一、八五六	九九、一八〇
印度	輸出	五六、七三〇	六五、〇八四	六二、八三一	六四、四〇八	四四、七〇四
	輸入	三〇、五一一	二四、四八九	二七、三二六	三一、三一〇	三一、二二〇
	小計	八七、二四一	八九、五七三	九〇、一五七	九五、七一八	七五、九二四
總計		二一六、七二〇	一七六、五五四	一七四、六〇五	一九七、五七四	一七五、一〇四

以上の統計に示すが如く戰時に入りてより戰前の貿易狀態に回復するの機を得ざりしが、戰時四箇年間は貿易額略同額にして大差なく、只一九一七年に於て輸出入共少しく增大せるは諸種の原因にて米價の昂騰せしによれり。諸種の原因とは即ち（一）小麥騰貴の爲め印度よりの需要ありしと（二）カルカッタ市場より錫蘭島へ向け米の輸送なかりしため同島より注文入込めると（三）新嘉坡及蘭領東印度よりの需要あり（西貢の輸出制限は之が一原因たり）（四）英本國よりの需要あり之に應せん爲め船腹を仕向けられたること（五）投機作用を煽りたること等に因由す。亦一九一七年の輸入額の多かりしは比較的高價なる綿布の輸入ありしと一般物價の騰貴せるが爲なり。

第二　物價

最近五箇年間の物價比較は輸出に於ては平均指數に於て却つて下落を示せり。蓋し船腹不足にて積出困難なりしを以て米價の下降せるが爲なり。同國輸出品統計に對する米穀の如何に多大なる割合を占むるかは同期間中全輸出額の五二・五%乃至六二%に達し、且次表に示す指數表中の主要輸出品總

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

計の八五％を占むるを以て之を知るを得べし。米を除く爾余の輸出品價格は開戰以來年々漸騰の傾向を示せり。又輸入品の騰貴は頗る顯著なり。一九一四年を一〇〇としたる代表的輸出入品の物價指數の消長左の如し。

▲輸出

種目	一九一四年	一九一五年	一九一六年	一九一七年	一九一八年
米	一〇〇	九七・〇	九四・七	一〇三・三	九一・九
米糠	一〇〇	九六・九	九八・五	八〇・五	七九・七
パラフィン	一〇〇	一〇〇・九	一〇〇・一	一〇一・七	一〇二・〇
蠟燭	一〇〇	一〇〇・〇	九九・八	一〇〇・三	九九・八
チーク材	一〇〇	一二五・四	一二五・四	一二六・五	一四一・八
鉛（塊）	一〇〇	一〇四・八	一一五・六	一二八・九	一三九・六
皮（生）	一〇〇	七九・一	八一・〇	一二九・七	一四八・五
棉花（原料）	一〇〇	九一・五	一一四・五	九四・九	八三・七
護謨（同）	一〇〇	一〇五・二	一〇四・四	一〇九・四	九九・〇
平均指數	一〇〇	九八・一	九七・六	一〇六・五	九六・六

▲輸入

種目	一九一四年	一九一五年	一九一六年	一九一七年	一九一八年
綿布（生地物）	一〇〇	一〇一・三	九六・三	一三一・四	一五四・四
同（晒物）	一〇〇	九八・八	八七・九	一二四・八	一五九・五
同（色物）	一〇〇	九八・二	一〇〇・五	一三一・一	一五七・六
綿絲（撚絲織絲）	一〇〇	一〇三・六	一〇四・七	一四九・〇	一八〇・一
絹布	一〇〇	九四・七	九八・二	一一〇・六	一三〇・三
毛織物	一〇〇	一〇八・九	一二〇・七	一八七・四	二六八・八
鐵及鋼	一〇〇	一〇三・〇	一三一・〇	一九一・八	二五四・八
精製糖	一〇〇	一二五・〇	一七二・一	一七八・六	一七五・三
石鹼	一〇〇	九八・一	一〇二・九	一二一・五	一五三・〇
鹽	一〇〇	一〇〇・一	二〇五・三	二五六・八	三〇〇・三
鹽乾魚	一〇〇	九八・九	九九・八	一〇三・四	九九・六
平均指數	一〇〇	九九・九	一〇九・七	一四六・二	一六七・〇

備考　平均指數は以上諸品の輸出數量に本づき算定したるものあり。

第三　輸出入港別消長

次表は緬甸海外貿易の各港別割合を示したるものなり。

港名	一九一四年 外國	一九一四年 印度	一九一四年 計	一九一八年 外國	一九一八年 印度	一九一八年 計
ラングーン	八二・七二%	八三・四一%	八三・〇〇%	八六・八二%	九〇・三五%	八八・三四%
バッセイン	七・六七	一・九〇	五・三六	六・五八	〇・三七	三・九一
ムールメーン	六・〇〇	五・六一	五・八四	二・三〇	三・三七	二・七六
アクヤブ	二・三八	九・〇〇	五・〇三	〇・三一	五・九〇	二・七一
其他（五港）	一・二三	〇・〇八	〇・七七	三・九九	〇・〇一	二・二八
計	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00

（備考）其他五港はタボイ（Javog）メルグイ（Mergui）ヴイクトリアポイント（Victoria Point）キャウクピウ（Kyaukpyn）サンドウエー（Sandoway）なり。

各港の貿易取扱勢力消長は、蘭貢及テネッセリム沿岸各港の增進せしに反し、アラカン區其他各港は何れも減退せり。タボイ港の輸出品の主なるものはウルフラム・錫・護謨等にしてメルグイ・ビクトリヤポイント兩港よりは護謨、ムールメーンよりは米・チークを輸出し雜貨を輸出するものとす。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

第四　輸出

A 主要輸出品價額　左表は主要輸出品の最近五年間の輸出額を表示せるものにして印度への輸出も含む。（單位千米弗）

品目	一九一四年	一九一五年	一九一六年	一九一七年	一九一八年
米及籾	八三、七二七	七〇、二九三	六三、九七二	七三、九三二	六〇、一〇九
石油	一七、六二九	一八、五三二	一八、六〇三	二〇、八四四	一九、九七八
チーク及其他木材	七、二二四	七、一三三	六、三九四	七、二八四	六、〇四一
豆類	一、一三六	一、八〇七	二、一四八	四、一五八	五、二九六
ウルフラム	八八三	八九六	一、七二五	三、三三五	三、五一五
鉛（塊）	×二八五	×五五九	一、三七六	二、一八四	二、五一〇
棉花	二、〇二二	一、五八二	一、〇二〇	一、七二二	二、二四七
生皮	二、七八一	一、八九六	二、一二二	二、二三九	一、九七二
銀	一六〇	一八	—	一五一	一、六一九
護謨	五三七	六五四	九九六	一、四二五	一、三九二
煙草	八〇二	五六二	六一八	五三三	六八六
カッチ	四五五	五四〇	九九三	五七八	四三四
樹脂	一二三	二八	九七	二九一	三八九
翡翠	一三〇	二六七	一七七	三六七	三八九
錫	一八六	一二六	一三三	一八四	三三〇
果實其他の植物	一四七	一三八	一六二	八〇	二四〇
植物油	一六	一二	五七	三二	二三〇
香料（藥味）	二六	四六三	一四四	一四七	一一九
飼料、糠及麩	二、一一四	一、八四七	二、〇五八	一、二二二	一〇七
魚類及同製品	一〇一	一一三	九一	六四	八二
豌豆	一、二五七	八七	—	九六	五四
油糟	七〇四	八五九	七八八	五一九	三四
錫	×一五三	×一一	七	八五	三
其他	八、八〇七	五、九九三	四、四〇八	三、一六八	一、〇五一
再輸出	四、七五五	三、三七三	三、二六三	三、八七一	三、一〇〇
計	一三四、二九五	一一七、八四七	一一一、三五〇	一二七、七九八	一一一、九二七

（備考）×印は印度への輸出を含ます。

B 主要輸出品商況　（一）米　米の主要輸出品たるは既に述べたる所の如し。而して一九一四年に於て全輸出額の六二・五％を占めたりしも、一九一八年に於ては五三％に下降せり。之が輸出國別數量左の如し。（單位千英噸）

仕向地	一九一四年	一九一五年	一九一六年	一九一七年	一九一八年
（籾）					
外國	二〇	二	一五	二九	一五
印度	二七七	三一六	二七六	一五九	四四
小計	二九七	三二七	二九一	一八八	五九
（米）					
英吉利	一三九	一九八	二九〇	三一六	五〇八
和蘭	三二五	六四	五	三四	八
獨逸	二九八	一二三	—	—	—
墺地利	二〇九	九八	—	—	—
其他歐洲諸國	一一三	七五	一一三	五七	一三三
海峽殖民地	六八一	二三〇	一八三	二五三	二八九
錫蘭	四五	四九	七五	一九三	一七三
蘭領東印度	五一	九二	九七	一七〇	一二八
日本	一六〇	八	四	—	四三
其他の亞細亞諸國	六〇	三〇	一三	一九	五
濠洲	一二	二七	三五	一五	四八

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

埃及	五二	四二	三五	二	九四
其他亞弗利加諸國	四五	四七	二七	三六	二七
加奈太	八	五	三	—	—
北米合衆國	五	二八	四九	八一	五〇
南米	三二	一〇	一七	六	一
其他の英國殖民地	三	一	一	—	一
其他の諸國	—	—	—	四	九
印度	六一二	九〇六	九五六	八六九	五〇一
小計	二、四四七	二、〇二二	一、九〇一	二、〇五五	二、〇〇〇
總計	二、七四四	二、三四八	二、一九二	二、二四三	二、〇九九

籾の輸出の激減せるは船賃の暴騰に基因す。蓋し容積多きに拘はらず割合に安價なるがためなり。米の英本國への積出は漸增し、殊に一九一八年に於て多大なりしは戰時の必要に基き廻船充分なりしによれり。爾余の歐洲各國への輸出減退せるは獨・墺市場を失ひたると船腹の不足とによれり。印度への減退も亦船腹不足に基因し、之が積取のため印度國內の造船業の復活を促し、木造船建造の盛なりしは之がために外ならず。

輸出米の九割は實に蘭貢よりするものにして他の過半はバツセーンより、他はアクヤッブ港より輸出さる。米輸出港としての蘭貢の地位は頗る優勢にして西貢及盤谷兩港の輸出額よりも五割方多し。

(二)石油　米に亞て重要なる輸出品は石油なりエナンヤウン及其他イラワデイ、バレー中の諸鑛區より產出するものは鐵管又は汽船にて送られ、蘭貢附近のシリアムに於て精製さる。緬甸より產出さるゝ主なる鑛油は石油輕油(自動車用)・機械油・其他の鑛油・パラフインワックス及蠟燭等なりとす。過去五箇年間の此等の輸出數量左の如し。

(鑛油)(單位千ガロン)

	一九一四年	一九一五年	一九一六年	一九一七年	一九一八年
石油	一〇九、二八四	一〇七、二四一	一〇七、三三二	一一五、三六〇	一〇六、七三四
内印度	×一〇九、二八四	一〇七、二四一	一〇七、三三二	一一五、三六〇	一〇九、七三四
輕油(自動車用)	—	二五、九〇四	二九、三〇五	三一、三六〇	二四、一〇九
内印度	—	三、九一六	四、一一四	六、七三三	五、三六四
其他の鑛油	三〇、三六五	九、七五一	八、八六九	七、八三一	五、九五〇
内印度	七、九六三	五、一四九	五、九三八	七、八二二	五、八七三

(パラフイン及其生產物)(單位ハンドレッドゥエート)

	一九一四年	一九一五年	一九一六年	一九一七年	一九一八年
パラフイン	二九六、二五三	三六二、二一八	三五八、三七二	四五〇、二四七	四八六、二六二
内印度	一一、四八七	七、八三〇	一三、四二二	二〇、六二二	一七、九八〇
蠟燭	一二六、〇八四	一二六、〇四四	一〇一、七六四	一〇〇、六一〇	一一八、四三三
内印度	四二、五六七	四六、〇六〇	四六、八三二	四四、九五八	四一、五一六

備考　×印は外國行と印度行と區別計上せざるものなり。

緬甸の鑛油生產中石油最も多く國內の需要を充し爾余は輸出さるゝものにして大部分は印度市場に吸收さる。其他の鑛油の印度に向ふもの尠なからざるが自動車用輕油の大部分は英國に需要あり。パラフインワックスの販路は廣汎にして主なる仕向地は日本・英國・濠洲・埃及・南阿・米國等なり。又戰時中蠟燭の仕向地に大なる變化を來せり。即ち一九一四年に於

て約三五パーセントハ支那に向ひたりしも、一九一八年には九五パーセント以上は埃及に向け積出されたり。此間錫蘭は第二位を占む。

戰爭の終局に於て船腹及蓄藏タンクの不足、原油の供給難等の爲め緬甸鑛油の生產遲々として發展せざりしも、戰局終結の曉に於ては之が勃興を促がすこと必せり。

(三)チーク及其他の木材　チーク及其他の木材の緬甸より輸出せられたる數量左の如し。(單位容積噸)

		一九一四年	一九一五年	一九一六年	一九一七年	一九一八年
チーク	外國	四八,五二八	四三,三一八	三〇,六九五	二四,〇一八	一四,五五九
	印度	一一三,〇九一	九三,六七九	一〇五,二一二	一四五,五一八	一一四,八八五
計		一六一,六一九	一三六,九九七	一三五,九〇七	一六九,五三六	一二九,四四四
其他の木材	外國	一,五〇八	七九二	四八四	二七八	六七
	印度	四三,二二九	四〇,三一四	二七,一一八	一九,六三七	一一,六〇五
計		四四,七三七	四一,一〇六	二七,六〇二	一九,九一五	一一,六七二
合計		二〇六,三五二	一七八,〇六五	一六三,五〇九	一八九,四五一	一四一,一一六

チークは一九一七年を除くの外は輸出額年々減退せり。輸出チークの大部分は印度に向ふものなるが、印度に於ては家屋・鐵道・造船等に使用さる。而して上質のものは英國に送られ主に海軍にて造船用として用ひらるゝなり。一九一九年に於ては米國及南阿等よりも注文入込めり。之が輸出港は蘭貢及ムールメーンにして前者より八〇%、後者より二〇%を輸出す。

其他の木材中の主なるものは鐵刀木と稱せらるゝものにして砲車用として印度に向ふ。開戰以來運輸の不圓滑は蘭貢チーク材市場に影響すること頗る多く、ストックの同地に滯積するもの頗る多かりき。緬甸政廳年報によればチーク伐採の半ばをも輸出せざりしとのことなり。該年報の示すところによれば一九一三年より一九一七年迄のチーク伐採量左の如し。(單位容積噸)

一九一三年　二六〇・〇三六　一九一四年　三〇一・二八〇
一九一五年　二九九・二七五　一九一六年　三一九・二五七
一九一七年　三〇二・四〇〇

內八割は私人請負業者により、殘り二割は政廳直接に伐採せるものとす。同材は地方にも相應の需要あり。緬甸に於て使用さるゝ數量尠なからず。製材工場附近には常に十萬容積噸を貯藏し置くの要あり。

(四)鑛產物　戰時中緬甸輸出貿易に於て最も顯著なる發展を遂げたるは鑛產物なるべし。內輸出額の最も多かりしはウルフラム・鉛・銀・錫及翡翠ルビー等なり。

ウルフラム及錫はテナセリム沿岸と暹羅の山間又は南方シヤン、ステーツ西續き山脈より出づ。此等の鑛石は蘭貢・タボイ及メルグイ港より輸出さる。戰前ウルフラムは大部分獨逸に向ひたりしも現今は主として英國に輸出しつゝあり。錫鑛石は新嘉坡、印度及英國に仕向けらる。兩鑛石共數多の大小會社によりて採掘され、採掘法は原始的なり。緬甸より輸出さるゝ鉛及銀は北シヤンステーツなるボードキン鑛山より來るものにして、緬甸鑛山株式會社の稼行する所に係れり。原鑛は鑛山附近のナムツに於て精錬され鐵道により蘭貢に輸送さる。鉛は茶箱用として錫蘭及印度に需要多く、英國に積

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

出さるゝ額亦尠なからず。殊に一九一七年には浦鹽斯德に向け發送されたるもの頗る多かりき。銀は其大部分を印度に送り「留」鑄造用たりボードキン鑛山よりは又銀・鉛と共に亞鉛を產出す。只骸炭不足の爲めナムツに於て精錬するを得ざるなり。戰前船腹過剩にて運賃低廉なりし際は該鑛石は獨逸・白耳義及日本に向け輸送せられたりしも爾後久しく絕え、現在にてはカルカッタに精錬所の設置さるゝ迄野鑛の儘積み居れり。尙ボードキン鑛山は銅を埋藏すること豐富なるが如きも未だ企業さるゝに至らざるなり。

一九一四年以來五箇年間に是等鑛石の輸出せられたるもの左の如し。

	一九一四年	一九一五年	一九一六年	一九一七年	一九一八年
ウルフラム(全部支那へ)	一、八七九噸	一、九一六噸	二、六二九噸	四、五四二噸	四、七四四噸
錫	二三	二九	一〇六	二三九	四一六
(内印度へ)	一三	一四	一九	一五	一一六
鉛塊	三、四二二	六、四九九	一二、七四〇	一三、一六四	一六、三九[illegible]
(内印度へ)	不明	不明	一、八九四	二、八一三	五、八二四
亞鉛	七、六二七	四、八八七	一二〇	三、二三一	一六
(内印度へ)	不明	不明	三三	三三	一四
銀(全部支那へ)	不明	―	―	―	一、六五三、〇〇〇

備考　銀のみは單位オンスなり。

緬甸は翡翠及紅玉の大產地にして、前者はアルサム境界に近き上部緬甸の古鑛より產し支那人の稼行する所たり。其大部分は蘭貢を經て香港に輸送さる。殘りの小部分はバーモ又はラシオ(シャンステーツの北部)を經由して支那へ陸送さるるものなり。而して一九一四年以來緬甸より海送されたる翡翠は二、八六四噸、四、一九四噸、四、三八一噸、五、六二六噸三、七〇八噸(一九一八年)なり。

紅玉・靑玉等の寶石類はイラワディ河附近マンダレーより百五十哩許りのモゴックより產す。該鑛山より年々二十萬弗以上の產額を擧げつゝあり。該品は小包又は携帶するを以て貿易表に現はれざるも、實際の生產額は恐らく二十萬弗以上なるべし。

(五)**豆・棉・煙草・其他の農產物**　一九一四年以來の以上諸品の輸出數量次表の如し。

種目	單位	一九一四年	一九一五年	一九一六年	一九一七年	一九一八年
豆類	チハンドレッドウエート	七九六	一、三三四	一、三七三	一、六四二	一、七九九
(内印度へ)	同	三〇四	五三〇	五三九	二〇三	二五六
生綿	同	二四八	二三六	一四二	一四五	二〇九
(内印度へ)	同	七八	六八	三七	三四	七七
葉煙草	同	一三三	六一	八九	七〇	八五
(内印度へ)	同	一九	一七	八	四七	一五
葉卷煙草	千封度	八八八	九〇七	八四八	七〇二	八〇三
(内印度へ)	同	六七	七〇	六一	七五	一〇〇
紙卷煙草	同	一〇〇	四	三八	二	二三
煙草其他	同	一六	八八	三七	三四	三九
(内印度へ)	同	八	四六	三〇	三四	三六

備考　印度に輸送されたる紙卷煙草は煙草其他に合計せられたり。

以上の表中最も顯著なるは豆類の急激なる增產なり。這は戰爭によりて白豆の需要多かりしに由れり。豆類の仕向地は英國・日本・海峽殖民地及濠洲等なりとす。只緬甸豆は靑酸を

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

含むが爲め英國農務局にては之れが輸入を禁止し、爾後之が除去に就き緬甸當局者は非常の苦心を爲せり。

棉花は價格の下落、輸出制限、船腹不足等の原因にて戰時三箇年間は輸出減退を余儀なからしめられたれども一九一八年に至り漸く恢復し來れり。英國・印度及日本は之が主なる需要國なり。

葉煙草は新嘉坡及香港を經て支那人需要に應ずると、佛國政府用として同國に向ふものとあり。佛蘭西に向ふものは上質のものなり。緬甸の製造煙草は葉卷・紙卷・刻等あれど、前二者の原料は緬甸に産するに非ずして印度より輸入するものとす。緬甸葉卷煙草は圓柱狀を呈し包紙なく大にして、兩端は角狀に接斷したるものなり。緬甸人の手にて造られ、支那商人の手を經て新嘉坡・印度及英國に輸出さる。蘭貢に於ける紙卷煙草製造會社は地方の需要に應じ、其余剩を印度メソポタミヤ其他に輸出し、刻煙草は主として印度に向ふ。

(六)生皮　生皮は開戰當時は價格下落し、後に及び政府の制限の爲め輸出漸減せり。生皮輸出額中牛皮は其七八割を占め、戰前には伊太利・米國・加奈太・獨逸・英國等は之が主なる購買國たりしも一九一八年に及び大半は印度に向ふに至り、他は米國・伊太利・英國等に向へぬ。

水牛皮は曩に亞細亞土耳古に其大部分を輸出したりしも、一九一八年に於ては米國・印度・加奈太等へ小許の輸出あり。其大部分は英國に向け積出されぬ。

山羊・羊等の小皮は其の殆んど全部を印度に輸出するものなるが、一九一四年一二六、四一一弗の輸出額なりしもの一九一八年二一、八五五弗に激減せり。以上生皮の輸出狀況左表の如し。（單位ハンドレッドウエート一一二封度）

	一九一四年	一九一五年	一九一六年	一九一七年	一九一八年
水牛皮	四九、三〇七	三二、〇九四	二四、六八八	二〇、九八四	二七、〇三三
（内印度へ）	×	一、三一三	七、一四二	四、七八五	三、七七七
牛皮	八二、六五七	一〇〇、九五七	六八、二四九	八一、八九四	一六三、六〇九
（内印度へ）	×	六、八六六	八、三五三	一三、七四四	九九、六八八
其他の生皮	五、九五六	一六一	七九	二九	—
（内印度へ）	五、八六一	—	一	—	—
小皮	七、七七六	六、六七二	五、四七〇	五、五九六	一、八七三
（内印度へ）	六、七八一	六、一七三	五、三七七	五、五九六	一、八七三

備考　×印は其他の生皮中に包含す。

(七)護謨、カッチ及ラック　以上諸品の最近の輸出數量左の如し。

	一九一四年	一九一五年	一九一六年	一九一七年	一九一八年
護謨（全部外國向）	千封度 七六五	九八七	一、二八六	二、三〇一	二、六三四
カッチ	千ハンドレッドウエート 九七	八七	一七二	九一	六九
（内印度へ）	同 二四	二六	二六	三三	二六
ラック	同 一〇、五一二	三、八〇七	一九、四三九	二四、九九九	一七、七四二
（内印度へ）	同 六、四四四	二、九七一	一九、三四六	二四、九二九	一五、八三〇

護謨の大部分はメルグイ港より新嘉坡に、蘭貢より英國に向ふ。英本國及殖民地にのみ輸出を許可せられたるが特利の許可を以て米國に小許の輸出を見たり。緬甸の護謨生産は漸増の傾向を示しつゝあり。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

カッチは主として森林地帶のアカシア、カテキュ樹より得らるゝなるが其生産は年により頗る消長あり。一九一四年の之が仕向地の主なるものは英國・印度・佛蘭西・和蘭・獨逸等にて染料及單寧原料用に供せられたるが、開戰當時は價格頗る下落せるも一九一六年之が需要の旺盛なると共に價格數量共著るしく增大せり。爾後船賃の暴騰と輸出入制限の爲め市場沈滯し、一九一八年に及び英國・米國・日本及英領各地に輸出せられたり。カッチの名を以て販賣せらるゝもの多しと雖も蘭貢は眞カッチの一大輸出港たり。ラックの輸出も一九一四年以來激變したること以上の表に示せる如し。緬甸産のラックは主にステックラック(一名紫梗トモイフ)にして殆んど全部印度に向ふ。他はスイードラック(Seedlac)にして、北米合衆國に輸出せられたりしもの英米市場の本品過剩の爲め價格頗る下落し之が輸出著るしく減退せり。されど爾後之が市價恢復し來り、印度への取引頗る活況を呈せり。緬甸より供給するラックの原料の過半はシャンステーツ及支那より國境を越へて輸入さる。

(八)其他の輸出品　戰前落花生及油糟の緬甸より輸出さるゝもの尠なからざりき。前者は新嘉坡及香港に仕向けられ、後者は主として英本國に向ひたり。船賃の暴騰は遂に之等の輸出を中絕せしめたりしが、他面植物油殊に落花生油の輸出さるゝもの多く英國及新嘉坡に向ひ、棉實油は濠洲及英國に向ふに至りぬ。

戰時に入りてより船腹不足の爲め輸出減退せるは飼料・米糠・麩・藥味及魚類等なり。戰前には多量の糠(米)は英・獨其他へ向ひたりしも一九一八年に及び其大部分は新嘉坡に向ふに至りぬ。藥味は主に干蕃椒よりなり新嘉坡に向ひ、魚類生産品としては魚胃及鮫鰭等を擧ぐべく、之亦新嘉坡に輸出さる。

第五　輸入

A 主要輸入品價額　一九一四年以來の主なる輸入品價格左の如し。(單位千弗)

品目	一九一四年	一九一五年	一九一六年	一九一七年	一九一八年
綿布	一四,四七八	八,二二四	九,九一九	一四,〇七三	一三,五七四
黃麻及其製品	五,六五二	四,五八九	四,五六二	四,四二〇	四,一二三
鐵及鋼	四,七九五	四,五八九	四,五六二	四,四二〇	四,一二三
綿絲(撚絲及縫絲)	二,七二九	二,四八九	二,二六三	三,一四六	三,四九五
煙草	三,一三六	二,一七四	二,二一八	二,一一六	二,六八九
食料品	五,六六八	三,六八八	三,七三四	三,六八二	二,六〇七
砂糖	二,一八〇	一,六八七	二,四五三	一,四七九	二,〇九〇
石炭	六,三三九	二,〇五三	二,一四六	二,三八六	二,〇六〇
鐵器類	二,一七九	一,四六五	一,三三七	二,〇〇八	二,〇〇四
香料	二,三八九	二,二二一	二,二一八	二,二四五	一,九八三
植物油	一,〇一五	一,一四三	一,一〇七	一,四七九	一,三一七
絹物	二,九七三	一,二三七	一,七四四	一,四九六	一,三〇一
器械器具	一,六一八	一,四七三	一,二八三	一,三一九	一,一三七
魚類	一,七一四	一,三四八	一,三三〇	一,二七二	一,〇五六
小麥粉	一,二三〇	八七〇	九五四	八五四	一,〇一〇
綿製品	二,七〇七	一,三一八	一,二八四	一,七二六	九〇六
紙	五六三	六〇七	五七六	六五六	七二六
石鹸	五三六	五七七	六一五	六二八	八七三
燐寸	五一九	四八二	六九八	六四九	七三八

	一九一四年	一九一五年	一九一六年	一九一七年	一九一八年
酒類	一、八四〇	一、〇七〇	一、一四九	一、一一七	九五一
船舶及同部分品	四七一	五四五	三九四	二九五	七〇五
豆類	七一三	六一〇	六九二	七〇七	五九八
化學製品	三〇四	二一九	二九七	三六八	五二八
セメント	三〇五	二三九	二六五	四〇一	五〇六
鹽	四六五	四七二	一、〇八三	一、三七七	五〇一
組絲及婦人用品	七八〇	四八四	五〇一	九四八	四六六
果實	四四九	三七一	三五六	五三三	四一五
毛織物	一、九二〇	一、〇三一	三四五	五四七	三八八
衣服（メリヤスを除く）	七九三	三八〇	三四〇	四三七	三八三
礦油	三五〇	三九七	四一六	五二三	三七〇
網索類	三七〇	四二〇	四〇二	四二五	三六七
陶磁器	六四一	二五八	二四五	三七六	三四六
藥品	三五五	二六六	三二三	三五五	三五五
塗料	三四六	二六八	三三一	三九四	三三四
茶	三九七	三九六	三六〇	三九二	三二三
硝子	四五七	一七六	二一一	三五〇	二八一
革製品	三四五	二二八	二〇七	二八四	二五三
靴	六七〇	四九五	二七二	四二九	二四四
自動車及同部分品	三六六	二三三	三二〇	七一五	二四四
[illegible]・帶	二〇五	二〇二	二〇六	二三〇	二三〇
鐵道建設材料竝車輛	七四六	七一三	二八〇	四三二	六四
其他	一〇、七五一	八、八五八	八、一六五	三、二四七	七〇六三
計	八二、四二五	五九、七〇八	六二、二五五	六四、七七七	六三、一七七

B●●●●●●主要輸入品商況

（一）綿布●●　織維類は緬甸輸入の大宗にして他の追隨を許さず。內七割五分は實に綿製品なり。而かも綿製品の七割五分は反物類にして其割合は色付・更紗・染付は其五割三分を、晒物三割五分、生地物一割二分を占む。

綿布綿製品の緬甸に輸入さるゝ一割五分は撚絲縫絲なり。其大部分は一番手より二十番手の間の太番手にして主として印度より輸入す。細絲は英國及錫蘭より來るものなり。此等各種絲の約四割はバーモ經由にて陸上より雲南省に、亦一割は暹羅及保護領たるカチン、カレン及シャンステーツに再輸出さる。而して爾余のものは上部緬甸の家內工業に使用されつゝあり。一九一四年以來の輸入數量次の如し。（單位千封度）

仕出地	一九一四年	一九一五年	一九一六年	一九一七年	一九一八年
外國（直接）	二、九六〇	二、一六四	一、六六七	一、二〇七	五四一
同（印度經由）	七四三	六六六	六二七	六〇二	四二五
印度	一〇、〇六七	一一、〇五〇	一〇、五七九	一三、九一三	一一、二二九
計	一三、七七〇	一三、八八〇	一二、八七三	一五、六二二	一二、一九五

反物以外の綿製品の輸入數量左の如し。

	一九一四年	一九一五年	一九一六年	一九一七年	一九一八年
撚絲	千封度 二七四	一九六	二三八	二五四	二三三
ブランケット	千箇 五、一二三	二、五二六	一、二〇二	九六七	三八〇
手巾及肩掛	千ヤード 一、四七二	七三一	三三〇	三三六	六八
帆布	千ヤード 四〇	元	一〇五	一七三	一七二
レース絲	千封度 一四〇	七五	一二七	一四九	一六六
其他の綿製品	七〇五	四六二	四四五	五七九	一九九

以上諸品の輸入額次の如し。（單位千弗）

	一九一四年	一九一五年	一九一六年	一九一七年	一九一八年
撚絲	二六八	一九八	二三九	二五四	二六八

ブランケット	一,二六〇	五六八	二三四	三六四	一三一
靴下	七四二	三二七	五三三	七八	二四三
手巾及肩掛	一四五	四八	二六	二五	一三
帆布	九	八	三	四〇	六五
レース絲及網絲	一八	一〇	一七	四七	六一
其他の綿製品	二五五	一八九	一八三	二四八	一〇五

備考　靴下の數量は不明なり。

撚絲の大部分は之を英國に仰ぎ、戰時中と雖も尚且繼續して輸入されしも靴下・ブランケット・手巾及肩掛は戰前獨逸・墺地利其他より來りしもの戰時に入りてより之が輸入絶え、殆んど日本品獨占の姿なり。帆布及レース絲は主として英國より來るものなり。

(二)黃麻・絹物・毛織物及其他の纖維製品　黃麻製品は緬甸貿易の第二位を占む。全部麻囊にしてカルカッタより輸入するものなり。本品は米の產額と其消長を同ふし、從て年に依つて頗る變化あり。

絹及絹製品は以上示せる表より多額の輸入あり。蓋し生絲は緬甸國境貿易の大宗たればなり。普通の年に於ては絹物の海外及國境輸入貿易額は二百七十萬弗なれど一九一八年には二百萬弗に減退せり。絹物中絹織物最も多く大部分日本より、少許を暹羅に仰ぐ。生絲は其八九割の陸境支那より來るものなるは前述の如きも殘餘は支那及暹羅より海送さる。亦絹と綿絲及撚絲等混合の織物は英國より輸入するものとす。

戰時中毛織物の輸入は著るしく減退せり。一九一四年以來の毛織物の輸入數量次の如し。

	一九一四年	一九一五年	一九一六年	一九一七年	一九一八年
毛絲	千封度 七八	二六	二〇	二六	二
毛織物	千碼 二,九二二	一,五五〇	五三八	四六〇	三四三
絨氈及毛氈	千封度 七三六	五一八	一〇三	四七	三九
毛製靴下	千封度 一〇三	八九	二	四三	四二
同肩掛	千個 四五八	三七	六	三四	八
其他の毛織物	千封度 二九七	九五	一五七	一九九	七三

戰前毛絲は獨逸より輸入せしが現今北米合衆國及日本品之に代れり。毛織布は此の品種の輸入額の六割乃至七割五分を占むるものなるが英國は之が主要輸出國にして。其殘餘は戰前獨逸・和蘭・白耳義の順位を以て之を輸入したりしも現今日本の獨占に歸せり。絨氈及毛氈は英國及伊太利兩國之を分有す。毛織靴下は英國より、亦毛製肩掛は戰前獨・英・墺の三國より來りしも現今殆んど輸入杜絕の姿にあり。其他の毛織物は主に英國より輸入す。其他の纖維類としては帆布は英國より、大麻布は英國・新嘉坡及香港より輸入す。

一九一四年に於ては組絲及婦人服裝類は全部外國より來りしも一九一八年其四割を印度に仰げり。帽子・ボンネット類は英國・伊太利なりしも今や日本は伊太利に代れり。網索類は大部分印度より輸入し殘餘を香港に仰ぐ。

(三)鐵及鋼　本移入品には鐵製品・刄物・器械・器具・鐵道材料及船舶附屬品を含有し緬甸輸入貿易の重要品にして、平時に於て其額凡そ一千萬弗に達す。北米合衆國製品は頗る優勢なり。過去數年間の輸入量次表の如し。（單位英噸）

品名	一九一四年	一九一五年	一九一六年	一九一七年	一九一八年
銑鐵及鋼	二,〇〇八	一,五五一	二,〇四七	二,七二四	一,七八五
角鐵及彈機	二,三五五	一,四五七	一,三三三	七〇六	四五一
鋲及溝形鐵	一〇,四〇七	四,八七九	五,六九五	三,四七八	一,六一九
梁、柱、桁、橋梁鐵材	一,六九四	一,三二五	六九六	四七	三九
螺、釘、鋲、坐金等	五,一〇五	二,八五五	四,七〇四	四,三八〇	二,一四六
パイプ取付品(鍛鐵製)	二,三一三	一,七七六	八八八	九八九	三四〇
同(鋼鐵製)	一〇,一一四	一四,五三七	三,〇五一	一〇,〇六三	四,九一八
薄板原板(亞鉛引)	二〇,七一九	一三,一六五	六,五一六	二,二八八	二,一八一
同(葉鐵)	六,九七一	六,五九八	五,六二八	四,〇四一	四,四三三
同(其他)	三,九六四	二,九三三	二,九八四	一,九三〇	七三三
鑄鋼	一,二七五	一,〇六五	四六五	五八〇	一五三
其他ノ鐵及鋼	八,八八五	六,九七四	五,一三五	四,〇四三	二,五六一
計	七五,八二〇	五九,二一五	五八,一三三	三五,二六九	二,三四七

一九一四年英國は鐵及鋼の過半を、殘餘は白耳義・米國・獨逸・印度の順位を以て之を供給したりしが、一九一八年に及び北米合衆國は其四割五分を輸出し、英國三割五分に減じ、印度は殘二割を占むるに至れり。而して米國よりは主に薄板及厚板殊に葉鐵及亞鉛引多し。石油坑用として鐵管、パイプ及同取付品も尠なからず輸入あり。釘・線類亦需要あり。

(四)**鐵器類**　鐵器類の一九一四年以來の輸入額は次に掲ぐる所の如し。刄物及電鍍物の輸入も之を併記す。(單位千弗)

(直接外國より輸入)	一九一四年	一九一五年	一九一六年	一九一七年	一九一八年
農具	三七	九	三三	三〇	二三
其他ノ器具	二八三	二四〇	三九	一八二	一四〇
建築用鐵器	五九	三二	五〇	四九	四六
琺瑯鐵器	三五九	一〇〇	五七	三六	二九
其他ノ家具	二四二	一〇七	七二	五九	四二
金屬製ランプ	一五九	六八	三一	六五	一五
金庫及鐵製箱	六二	一八	五	六	六
其他ノ鐵器	五二七	四三五	三六九	七〇四	四七二
刄物	一六四	五四	三二	六九	八九
電鍍物	二三	二三	二七	一五	六
(印度より輸入)	一六二	九二	一一四	二四三	三五九
(外國輸入品印度經由)	二九三	三六四	四〇四	六四五	七五四

戰前より鐵器の大部分は米國に仰ぎ、琺瑯鐵器・刄物・ランプ・金庫は獨・墺・二國優勢にして他國品と競爭の姿なりしも一九一八年に及び鐵器の大部分は印度英國より來り、日本は琺瑯鐵器及刄物に、米國は金屬製ランプに主位を占め、器械器具等に對しては米國品は勁敵として出現するに至りぬ。

機械類の最近の輸入額次の如し。(單位千弗)

品名	一九一四年	一九一五年	一九一六年	一九一七年	一九一八年
ミシン機械及編物機械	三五六	二四八	二〇八	三四七	三〇四
汽鑵(鐵道用機關ヲ除ク)	二三四	一六五	一四五	一二七	一二
鑛山用機械	一六四	三〇五	四一九	二六〇	八九
ポイマイ	一三五	一三	一四三	二三	四三
電氣機械	七七	二三	五一	六八	六七
搗米及製粉機械	二三四	二九	一六	二六	二六
製材用機械	四二	六三	三五	二九	二
製油機械	一六八	二六	三三	三八	一三九

品					
タイプライター及同附屬品	一八	二四	二二	一六	二六
其他ノ機械	三二一	三七〇	二一五	三三八	三一八

一九一四年にありては輸入機械の六割五分は英國に、一割六分を獨逸に一割五分を米國に仰ぎたり。內精米機械・ミシン機械・汽鑵及製油機械類の八割は獨逸より、鑛山用諸機械の八割・タイプライター・小發動機及汽鑵の約六割は米國より、製材機械の約九割は米國商の手を經て英國より輸入せり。されど一九一八年には形勢一變し英國は以上諸機械輸入の三割八分を占むるに反し、米國は實に其五割五分に進展せり。蓋し鑛山用諸機械・タイプライター・機械製造用具の大部分・汽鑵及發動機の五割・電氣機械の五割・精米機の六割五分・油壓搾器の九割は米國より輸入するに至りしを以てなり。ミシン機械の三割は直接米國より輸入せり。

船舶附屬品及ランチ、ボート竝鐵道用諸機械及車輛等も本類に併記するを得べし。而して一般的には小蒸汽船の輸入は增加せり。緬甸に於ける國內河川運航の獨占者たるイラワヂイ運輸會社は英國より注文せる船體を蘭貢に於て組合せするものにして、モーターボート、ランチの米國よりの輸入は一九一四年の一萬弗より一九一八年には七萬弗を示すに至れり。

鐵道用諸機械竝車輛は主として汽鑵・炭水車及車輛なるが最近五年間の輸入額頗る減退を告げたり。

(五)食料品　一九一八年の貿易統計に依れば食料品中乳酪油の輸入額六四九、〇〇〇弗にして主として印度より、コンデンスドミルクは四三一、〇〇〇弗にして米英及濠洲より、牛酪は一六五、〇〇〇弗にして主として印度より、特許食料品は二〇、〇〇〇弗にして米英兩國より輸入さる。

砂糖は輸入食料品中多額を占むるものにして之が仕向地は新嘉坡及爪哇なり。菓子類は主に英國より來るものなるが一九一四年の一四〇、〇〇〇弗より一九一八年には僅かに二三、〇〇〇弗に激減せり。麥粉及茶は殆んど印度に仰ぎ、魚類及果實は新嘉坡より輸入す。植物油は主として落花生油・胡麻油なるが割烹用として印度より來るものなり。

鹽の輸入は國內製鹽業の發達するに連れ漸減しつゝあり。一九一八年の輸入鹽の四割は西班牙より、他は亞丁及英國より來れり。

(六)煙草、嗜好品及酒類　煙草は緬甸の重要輸出品にして亦主要輸入品の一たり。輸入煙草は主として葉煙草にして印度より來り紙卷煙草の原料たり。葉卷(土人用)も印度より。紙卷煙草は英國及印度より輸入す。平時にありては在緬甸歐米人用葉卷は馬尼剌より輸入するものなるが、同地の葉卷煙草の經營者は獨逸人なりしが爲め開戰當時本品の輸入激減せり。一九一四年以來の煙草輸入數量次の如し。(單位千封度)

品目	仕出地	一九一四年	一九一五年	一九一六年	一九一七年	一九一八年
葉煙草	外國	一	一九	—	—	—
同	印度	二六、六一九	一六、二八一	一七、四五〇	一六、二一〇	一七、七六〇
葉卷煙草	外國	三	二	二	六	一
同	印度	二八八	二四四	二四四	一九四	一二六
紙卷煙草	外國	六四二	四六七	六二二	六二七	九六三

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

同	印度	二〇九	四八五	三四四	三一六	二五七
其他ノ煙草	外國	四九	四九	四三	四三	四四
同	印度	三〇七	二〇〇	三八七	一八四	二四三

輸入嗜好品の主なるものは檳榔子にして土人咀嚼に使用するものなり。卽ち未熟なる青き實を二つ又は四つに割り貝灰を塗り。時に香料を入れ、キンマ（臺灣土名荖籐）の葉にて包み用ゆ。（南洋の土人は日常他人と對話し又尊敬すべき人の前に出つる時は之を咀み、又冠婚・葬祭は勿論、訪問の際主人は必ずこの實を客に饗應すること吾人が茶又は煙草を用ふるに等しとのことなり）本品はカルカッタより主に輸入され、其他印度各地・新嘉坡及彼南よりも入荷あり。藥味用たる干蕃椒・胡椒及白豆蔻等も印度より輸入す。

麥酒・黑麥酒は戰前英國より輸入したりしも現今英・日兩國より來り、ブランデーは主に佛蘭西よりす。葡萄酒は英佛兩國より輸入し數量價額共に半減せり。ウヰスキーも約四割を減（一九一四年—一八年間に）じ英國の獨占輸入品たり。

（七）石炭・セメント・燐寸・紙及石鹼　石炭及コークスの輸入は一九一四年より一九一八年間に數量に於て五割を減じ、セメントも三割を減じたりしも價額は却つて增加せり。本品は以前英國より入荷せしも一九一八年には二割は香港より輸入せり。燐寸は日本品最も優勢にて、一九一四年八割を占めたりしもの一九一八年には其九割五分に達せり。

紙及紙製品の輸入額も此期間增加せるが價格は戰前に數倍し、事實に於て紙不足に頗る困難せり。印刷紙は其主なるものにして數量に於て三割五分、包裝用紙其他は七割、板紙に於て戰前より八割を減退せり。而して戰前英國より來るもの多かりしが現今にては其六割を印度より輸入し、日本は其强敵として市場に現はれたり。書翰用紙及封筒は英國より輸入す。

石鹼類中洗濯石鹼は其大部分占め主として英國より積出さる。

（八）化學製品、藥品及染料　化學製品の一九一八年輸入されたる中硫黃は日本より、炭酸曹達及重炭酸曹達、酸類及アンモニアは英國より輸入せり。戰前硫酸は化學製品中の重要輸入品たりしが。戰時に入りてより輸入頗る困難なりしが爲め緬甸國內にて生產するに至れり。過去數年來輸入增進せるは炭酸曹達なりとす。

藥品類は主に英國より輸入され、殘餘を米國及日本に仰ぐ。塗料も英國より來る。戰前獨逸よりアニリン染料の輸入ありしも同國よりの輸入杜絕し、一九一八年四三、二八〇弗外國より輸入ありたり。

（九）其他の輸入品　陶磁器は一九一四年には其の大半は英國より、殘餘は日獨品競爭の姿なりしも、一九一八年には英國及日本之を折半するに至れり。

硝子製品　一九一八年には本品の主なるものは各種瓶・薄及厚板硝子・ランプ火屋・環飾及食卓用器具等なり。戰前板硝子は白耳義より、瓶類は英國より、其他は獨墺より來りしもの一九一八年には日本品は嶄然一頭地を拔くに至れり。

革及革製品は鞣及仕上大皮は印度より、同小皮は印度及英國より、革囊及トランクは以前英品なりしも現今日本より、馬

具は印度・英國より、其他は米・日・英・印の順序を以て輸入しつゝあり。

●靴は戰前殆んど全部英國より來りしもの一九一七—一八年に於ては英國より二割五分乃至三割五分を供給するに至れり。

●●調革は精米・製材・石油精製用として需要多し。主として英國よりの供給に依れり。

●●●自動車の輸入も年々增加の趨勢にあり。

（一九二〇年一月二十四日米國通商公報所載、關買駐在米國領事ローレンス、ピー、ブリッグス報告、商工課森生譯）

日米戰爭の否認

（外調週報）

米國に戰意ありや

米國人は日本との開戰を欲するや。若し欲するならば一日も早く開戰するを可なりとす。日本の人口は年々五十萬人の割合にて增加しつゝあり。又過去五十年間に於て日本の發展をして最も顯著ならしめたる物質力も亦漸次增加する有樣なり。若し此の發展にして吾人の障碍とならば、又は吾人にして此發展を阻止せんと欲するに於ては、即時行動を開始すべし。吾人は過般の歐洲大戰中に養成せる而して今猶ほ優力なる陸海軍を擁す。元來日本は島帝國なるを以て優秀なる海軍に依りて威嚇され易し。米國の海軍は日本に比して數等優力なるを以て、他國の干涉なきに於ては、日本の人口の膨脹及富力の增大に不安を抱ける或種米國人の絕叫する障碍を僅々六箇月以内に掃蕩し得べし。

黃色紙の煽動

米國人は戰はんと欲するや。勿論欲せざる可し。然るに米國人は數年來、過般の大戰に於て寛大にして誠意ある一邦國……米國と親交ありて、正義を尊ふ國民をば除外せんとする謬見及虛構の言論の宣傳を默許しつゝあるは奇怪と云ふべく若し米人の主戰論者・排日派・又は黃色紙等の黃禍に付き云々する言論中、半分にても事實ありとせば、全米國人は直ちに起ちて日本と決戰すべく、若し是等警告者の言にして何等論據なきものとせば、米國人は斷然沈默を守るべきに非ずや。而して直に吾人を脅威する所の黃禍とは所謂黃色人種より起るものに非ずして、黃色紙の誇張捏造し、以て低級なる民衆を煽動するより生ずるものなること瞭なり。知識ある米國人にして日本に赴かんか、日本人の欲する所決して日米戰爭に非ざることを直に發見するなる可し。

米に開戰の理由なし

蓋し日米間國交の險惡を齎すべき根本的爭點なく、却て移民問題の解決たるや決して困難ならず。又米國は日本の一大

市場なりと稱し居れり。故に若し日米間に當然戰爭の起るものとせば米國は勿論戰爭せざるべからず。日本は單に自己防御の爲めに戰爭するなるべし。恐らく日本は千九百四年の日露戰爭と同じく、極東の獨立的地位と正當なる利害關係とを危險ならしむる帝國主義的干涉と認むるものを阻止せん爲めに米國と戰爭するならん。然るに此戰爭は却て日本より生ずべき問題なり。日本は加州よりも狹隘なる土地に六千萬以上の人口を有し、其人口は年々六十萬人の增加を示し居れり。而して内半數は農民にして一家の平均所有面積は一エーカー三分の二なり。更に日本は現代の工業を構成する自然財源即ち石炭・鐵・及石油に乏しきを以て、適當なる供給國を見出し一方又た其增加人口を配付する出口を見出さゞるべからず。概言せば日本の問題は「金屬及移民」に盡せりと云ふべし。

支那は此兩問題に對し解決を與ふる唯一の國にして、其日支關係は日本の全外交政策と云ふべし。混沌たる國情を有する支那の正當にして秩序整然たる發展は支那の爲めのみならず米國品の購買力を增進する點に於て米國の利益なり。是れ目下米國が支那を一大市場となす所以なりとす。

民主的運動日本に起る

日本人は其の支那に於ける行動を正當にして武力的併合に非ざる「平和的侵入」に限らざるべからざる理由あり。目下日本には民主々義・自由主義の漸次旺盛ならんとする趨勢著しく、例へば普通選擧促進運動の結果として生じたる過般の議會解散の如き、又最近在京都の日本の一敎育家よりアウトルック社一幹部に宛てたる書信の如き好例なり。右敎育家曰く「古代藝術の淵叢たる京都も亦た社會運動及び政治運動によりて侵入せられたり。當地大學敎授連は普通選擧運動に熱狂參加し、旺んに民心を煽動しつゝあり。余は一般國民の覺醒を待ち、解放及一層の自由を得んとて努力する大勢あるを認む。之に對する軍閥連の反動は意外に强烈なるものなり。却て貴國上院に於ける平和條約の否決は我自由主義をして痛く失望せしめ、軍國主義者を狂喜せしめたり。貴國との國交は極めて銳敏にして險惡にすら傾きつゝあり。余は實に爲す所を知らざる有樣なり。當國の自由主義同志者と協同して行動せんとするものは、貴國上院側の反對及び貴國の國際聯盟不參加如何を問はず、吾國民全體の利益を擁護すべく、國際聯盟に參與せんとする米國の自由主義者は出來得る限り日本の自由主義者を援助せざるべからず」と。

米國の處置は公明正大なるべし

勿論其根本精神として日本に確信せしむ可きは、米國は日本に對して公明正大なる處置を與へんとするにありと云ふことにあり。目下日本人間には何等根據なくして米國民は日本に對し到底公正なることを得ざる偏見病患者なりと廣く信せられつゝあり。例へば山東問題に合衆國の容喙せるが如きは日本の自由主義竝に軍國主義者をして米國は不公正なる國なりと確信せしむるに至れり。ベルサイユ條約にて締結せる山東問題規定の道德上又は法律上公正なるやを茲に贅言せずして先づ左記の諸事實を考へ見んが。(一)支那に於て日本の奉

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

取せる地域に於ける日本の地位は、米國の參戰前既に他の聯合國と日本との協定に依りて決定せられたるものなり。日本は米國の意嚮を斟酌するを以て平和會議に於て再び右問題を提出せんことを承認せり。然るに米國は未だ山東問題に對する平和會議の決議すら認知せんとせず。(二)南支那の大部分は數年來佛國領土なりき。一九一六年白耳義に於て獨逸膺懲に從事せる間、佛國は巧みに支那天津港の中央に三三三エーカーの地域を悠々奪取せり。一八四一年以降香港は英領たり。日本の欲する靑島の反對側の威海衞は一八九八年以降英國の領有する所なり。

從來米國上院又は米國人間に於て、日本以外の他國が支那に於て領土を保有するに對して非難攻擊せるを聞かず。故に日本人は山東問題に對する米國内の非難は、米國は支那の盟友なりてふことを證明するに非ずして、單に米國は日本の敵なりとするは蓋し無理ならざることゝす。實に米國人の研究すべきものは此點なりとす。米國が國際道德上二重の立脚點を有すとせらるゝは、拙劣なる正義たると同時に拙劣なる政策なり。

米國の行動にして左記二箇に立脚する限り、ハースト及ホブソン輩の脅威するが如き戰爭の危險の絕體に之れなきことは一目瞭然たり。

第一、日本に於ける民主的運動の發達を絕えず促進すること。

第二、第一よりも重要なるものにして、世界の他の大國民に適用せんとすると同樣の道德的試驗及同樣の道德的主義のみをば日本の外交方針に適用すること。

日米に共通の利害あり

最後に重要なる問題を確實に實際に適用せん爲め吾人の記臆せざるべからざることは、今日米國の大工業の九分の一又は十分の一は絹工業にして、斯業に投資せらるゝ日本協同資本は二億弗に上り、數千の米國人男女小兒は直接間接生活のため斯業に從事しつゝあり。且若し日米戰爭勃發するに於ては、六箇月後に於て斯業は全然低止するに至るべし。更に極論せば吾人は排日的感情を滿足せしめんため、二億弗の資本及數千の米人の家庭を犧牲にせんとするものなりや。勿論吾人は世界大戰に於て爲したる如く、人道正義の爲ならんには假令營利事業を休止するとも躊躇するものに非ず。

されど一九一四年エドワード、グレー卿の提論せる主義に基き、吾人は樽俎の間に折衝し、日米間の誤解又は不和を相互に調停和解し得ざるときに於て、初めて物質人類の總てを犧牲として干戈に訴ふべきものとす。(アウトルツク三月十七日號)

(附錄)

加奈陀新聞紙の日本に關する論文

―地圖に依りて起る地理的觀念―

―ロビンソン氏の濠洲本位の新地圖―

加奈陀長老敎會外國傳道部祕書アームストロング氏は、最

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

近「日本に對し公平なれ」と謂ふ論文を發表して、朝鮮獨立運動事件以來、一般基督教徒は徒に日本を誤解し妄斷しつゝある狀態を慨し、其反て恐るべき危險に導く所以を論ぜり。氏は昨年日本及朝鮮にありて具に日鮮兩國の關係を研究せる結果、朝鮮暴動は歸する所、軍閥の跋扈に原因するを看破し、其責任を一般日本國民の上に課すべからざるを知るに至れり。

日本は歐洲戰爭の當初、亞米利加太平洋沿岸防衛の任に當り、爾來聯合軍側にありて忠實に共通の敵に當れり。今日氏が前記論文を公にせしは頗る時宜を得たるものにして、日英同盟繼續も數箇月内に行れざるべからずして、目下之が交渉中なる場合に當り特に其然るを見る。

然れども不幸にして加奈陀人は亞細亞を見るに、全然相異なれる別世界の如き冷淡なる態度を取れとも、こは畢竟するに近世の地圖製作者の罪なりと謂べし。バンクーバー横濱間の距離は、加奈陀リバープール間の距離よりも八百哩短かく濠洲シドニー市と雖も加奈陀を去る英本國以上一千哩に過ぎざるなり。若し加奈陀・日本・濠洲をして同一なる西半球の上に表現せしむるに於ては、又異れる地理的概念を吾人に與ふるならん。

地圖は元來歐洲人の作製せしものにして、東西の兩半球に分ち、各新舊の世界を示すに便せり。東半球は歐羅巴・亞弗利加・濠洲・北太平洋及南太西洋の一部を表はし、印度洋及地中海を主要なる海洋とせり。西半球に於ては南北亞米利加・ニュージーランド・北太西洋の大部及南太西洋の一部を表はし、太平洋は遠くソロモン島に至るも、然も其宏大なる西半球の大陸及海洋に就て纒まれる觀念を與へず。

斯くの如き折半は要するに歐洲人の觀念及趣味に適合するやうに作られしものにして、歐洲人以外の人々の觀念及趣味に適するやう地球を兩分するを許さずとする理由あらざるなり。太平洋の商業的可能性及實際の商業的發展を示さんが爲め濠洲人の一地圖製作者ロビンソン氏は新たなる球狀平面圖を工夫して、主要群島と大陸との關係を明かならしめたり。此圖は專ら濠洲及附近の學校に於て使用されつゝあり。此地圖は地球の全表面の半分を覆ふものにして、南亞米利加の一端中央亞米利加の全部、墨西哥及亞米利加合衆國・加奈陀の全部、西比利亞の大部分、日本及滿洲の全部、支那の大部分、東印度諸島の半分、オーストララシアの全部を包括す。此圖は大英百科全書第十一版に於て「太平洋」と題する論文と共に挿入されたり。卽ちグリーンヌイッチの子午線は此圖に於ては中央を通過せず。何となれば主要なる南亞米利加海岸は、完全なる半球を示さん目的の爲めに此圖の範圍内に在らざればなり。西經百六十度の所に中心を置き、南米の下部を包含し、濠洲の全部は其西方に横たはる。

斯く如き太平洋の描寫は自ら濠洲の位置に變化を來たし、從來の地圖に於ては三大陸を隔てゝ英本國と隔離され、而して亞米利加大陸とは全然沒交渉なりき。終りに臨み吾人の忘るべからざるは、加奈陀と濠洲とは英帝國を通じて唇齒輔車の關係にあり。又加奈陀と日本及其他の東洋諸國とは貿易上政治上是亦た離るべからざる關係にあることとなり。

（アウトルツク、三月十七日號）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

マラリヤ熱の根治策　（外調週報）

＝蚊の幼蟲を喰ふ水犬の利用＝

ベンガル及アッサム地方に於ては「マラリヤ」熱防止以上に重要なる問題なかるべし。曾て技術に於て世界に冠たる佛國專門家を以てするも、遂に失敗に終りしパナマ運河事業も、遂に米人により成し遂げられしは、一に對「マラリヤ」及黃熱策に成功せしに依るは最早や周知の事實にして喋々を要せざるべし。今エー、シー、チャンドラー教授の說を引用して暫く之が研究を爲さん。

蚊に依つて傳播さるゝ病氣を未發に防がんとせば勢ひ蚊の撲滅を計らざるべからず。從つて此の自然界の勁敵たる蚊軍は如何なる狀態の下に生長するや、之が研究は今や忽にすべからざるに至れり。油・クレソール・其他の藥品を撒布して水面を覆ひ、以て幼蟲の發生及發達を阻止せんとする方法は、從來の多くの記者により反對されし所なり。元來此方法は其費用の高價なるのみならず、之が應用に於て細心の注意を要し、一週間或は十日間の後には之を繰り返へして行はざるべからず。又風雨の影響を受くること大なれば、之に對しても用心を怠らざる樣注意を要す。故に此方法は勿論上乘なる撲滅法なれども、之をして有效に行はんとせば、必ず時・勞力及金の浪費を免るべからず。寧ろ斯の如き場合に於ては少額の費用を投じて水溜の排水を計るに如かず。

ホーワード、ダイアー及ナブ氏により指摘されたる如く、蚊の自然の敵なる Cyprinodontidal 魚即ち Killi fishes, 又は Top minnows(鰷魚)として知らるゝ魚の利用に就ては、今日まで一般世人の氣付かざりし所なるが、此の魚の形少さく、好んで淺き水に群集し、其の生長早くして幼蟲を常食するものなり。然れども種類によりて生活狀態を異にし、又土地に依り適不適あり。又蚊の發生する水溜にても時には其魚の生活に適當せざることもあるべし。故に蚊及其幼蟲の對敵物として適當に發達し、以て蚊の生長を喰ひ止め得べき狀態に置くやう生物學的の研究を爲すを要す。即ち如何なる種類の水に適するや、如何なる風土に於て最も發達するや、其最も好む植物、蚊の驅除者として如何なる狀態の下に於て最も其能率高きや、其生長狀態、其生長を害するもの、及之が利用より來る有害なる影響の有無等を決定せんが爲め、蚊の驅除者として該魚の價値は蓋し研究の價値あるものと云ふべし。

コルバリス近くに於て偶然の觀察により、蚊の幼蟲の傳播を防止する目的の爲に Water dog (水犬?)利用の可能なること又始めて發見されたり。即ち南太平洋鐵道に沿ふ同市の西一哩の所に三箇所の淺き水溜りあり、各四〇乃至一五〇平方碼ありて各少さき流れに依りて連續せり。底は泥にして最も深き處と雖も漸く一八吋を越えず。夏時には水生植物(毒芹

及水苦蓄屬）其周圍に密生し、水際には灌木の如き柳ありて蚊の發生及生長には最好適なり。各水溜には多くの水犬棲息し、内二つの水溜には若干の Cottus 種の少さき魚棲息す。由來是等の水溜には蚊の幼蟲を見しことなし。此の事實を確めんが爲め、蚊の發生する四月末より十月一日に至る迄、時々該水溜を檢查せし結果、數百の幼蟲及蛹を池の眞中へ入れしに、數日間にして此三個の池中には全然蚊の幼蟲を發見することを得ざりき。此水溜りを去る二、三百尺なる鐵道の築堤の向側に廣き水氣多き原野ありて、耕やされし結果所々に少さき水溜りを生ぜり。此等の水溜には種々の（Culiseta inc-ulens and culex tarsalis）蚊の幼蟲夥しく發生し、其後二種の（A. Occidentalis and A. Punctipennis）の Cropeles を發見せり。

此場所より反對の方向に約五、六町の所に「セメント」にて出來たる池ありて、近在の農學校所屬農場よりの排水を溜むる所なるが、此池も亦夏の後半は無數の幼蟲生棲す。幼蟲は又二つの水溜りを連結する少さき流の水草の密生して水犬の來らざる所にも發生す。此等の水溜にて與へられたる有益なる發見に基き、コルバリス市の近在に於ける所有水溜・沼澤及湖水に付き、夏の間二、三週間置きに試驗を行ひしに、此等の水は皆な幼蟲の發生には好適の場所なるに拘はらず、唯一疋と雖も之を發見せず。而して何れも多くの水犬の生棲せるを見たり。一方又桶或は樋の中の水又は低地の水溜にして、水犬の棲まざる所に於て、多くの幼蟲の生長しつゝあるを發見せり。而して蚊には數種ありて Calisetu incidens 種の蚊は太平洋岸に於て最も多し。

此種の幼蟲は自然の水溜と同一なれども好んで人造の水溜の中に生棲す。自然の場所に於ては Calex tarslis 幼蟲の屬 Caliseta incidens と同棲するを發見せり。

當局は吾人の說に耳を藉し、亞米利加政府に依賴して前記水犬の供給を得んことを希望す。我社は常に科學的研究に於て第一人者の立場に在りて、「マラリヤ」熱の盛なるアッサム人の利益の爲め敢て此事業を企てんとするものなり。チャンドラー教授も亦喜んで吾人に援助を與へ呉るゝ筈なり。

（カルカッタ、インヂアン、プランタース、ガゼット、一月廿四日）

支那及南方片信

（外調週報）

領事裁判權の取消調停（新聞報四月二日）

中美新聞社の譯せる米國「セントルイス」郵報の論に據る、曰く、支那の法律制度は八年度以來已に大に進步せるを見る。我が米國は古より支那の良友たれば、宜しく各國の間に立ち其支那に於て享くる所の領事裁判權を拋棄せんことを各國に

請ふの事あるは豈米國として適當の行動に非ずや。顧ふに外國の日本に於ける亦曾て同樣の試驗を經たり。終に千八百九十九年英國は力を盡して各國と相約し、同時に其領事裁判權を抛棄して日本の法律を尊重し、其裁判の法は一に千八百八十九年の日本新憲法に遵ひ、法に依りて辨理せしむることゝ爲せしことあり。元來退化の狀況に在るの國は其法律制度迥かに文明國と同じからず。其定むる所の規條は往々殘酷不仁にして人道に違背せるものあれば、外國僑民にして事を以て其裁判を受くることあらんか、勢ひ必ず酷刑を受くるを免れざらん。故に外國皆な其本國の僑民を保護せんが爲め已むを得ずして領事裁判權を保有せざる可らず。是に於てか領事法庭なるもの成立せり。支那舊時の法制は日本の舊時と同じく奇刑を以て口供を逼り、賄賂を納れて詐を作さしめしこと往々にして之ありしなり。然るに今日支那の刑法は已に整飾一新せられ、一切の條件悉く西法に依り、其舊法律は已に千九百十二年三月間に廢止せられたり。此れ實に支那司法界に於ける一新現象なり。千八百四十四年米國の支那と訂立せる條約には左の語あり、曰く、米國人民若し支那に在りて罪を犯す者あれば、應に米國領事或は其他の米國官署より審理科罰し、悉く米國法律に依りて辨理す可しと。又千八百四十二年英國は鴉片戰爭に勝を獲しを以て亦領事裁判權を得、復た支那に迫りて香港を割讓せしめたり。爾來十年に及はざるに米國亦日本と磋議し、支那と同樣の條約を訂約して同じく領事裁判權を取得せり。夫れ獨立の一國にして他國に許すに領事裁判權を以てするは、啻に其文明國の體統を缺くを承認せるのみならずして、百事皆な他國に如かざることを表示せるものなり。然るに今や支那の日に月に文明に進みつゝあるは世界各國の既に曉知する所にして、其法律上の缺點も亦已に修正せられて人の耳目に照々たり。憶ふに當年日本が領事裁判權を取消したる時は千八百九十六年にして其實行は三年後と定められたり。今や各國は已に支那に對し其法律の恃む可きを覺れるに似れり。されば領事裁判權の取消を行ふべきこと一に當年の日本に於けると同じかる可きなり。然らざれば尚ほ支那を認めて一の完全なる法治國と爲さゞるの嫌あるに似たり。如何と。

比島土地開放策

（マニラタイムス、三月二十八日）

土地部長は農務及資源局長に提出する年度報告書中に推奬提案して曰く「目下徒に荒廢委棄して顧みられざる官有土地の大部分に對し、土地法の拘束を解きて土地拂下出願人に總督指定の地域を拂下げ、カガヤン、イサベラ、ヌハビサヤ、タヤバス、バラワン島及ミンダナオスル各州のみを移住地として開放し、外國資本なると比島資本なるとを問はず、各企業會社に土地部長の指定する官有土地所有を許可す可し」と。更に曰く「官有土地拂下出願人をして總督の布告に依り移住地として開放せらるゝ地域に限り土地を所有せしむることは得策にして、又呂宋島のカガヤン、イサベラ、ヌバビサヤ、及タヤバス各州ミンドロ全島バラワン全島及ミンダナオスル州政廳の包含する各州を移住地として開放し、殘餘の比島各

州を官有土地法の條規に拘束する極めて怜悧なる方策なりとす。

各企業會社に對し、其外國資本なると比島資本なるとを問はず、土地部長の指定する地域に限り官有土地を所有することを得せしむ可し。而して若し土地部長に商議せらるゝに於ては、比島の或る地域を官有土地法に基きて處理し及確定せん爲め開放する總督の布告中に此區別を明記すべきものとす。

比島木材の貿易發表

（ボート、オブ、トレード、チャーナー、二月十二日）

比島十大製材工場より輸出する木材輸出貿易報告を見るに同島に於ける木材業は漸次發展の機運に向ひつゝありて、前記十大工場の製產高は千九百十六年、四千四百萬尺〆なりしが、同十八年に至り六千七百萬尺〆に激增し、更に千九百十九年の一月乃至九月に於て五千八百四十九萬八千尺〆（千九百十八年同期に於て五千百六十六萬六千尺〆）なるを以て、此率を以て豫測せば同年間の總製產高は七千八百萬尺〆に登る可しと。

租稅法案裁可せらる

（マニラ、タイムス＝三月二十九日）

議會を通過したる二收入法案―一八或る製造業に租稅を賦課するもの、他は國內收入稅法を更に擴張するもの、―は總督ハリソンに依りて裁可署名せられたり。

前法案の下に次の如き新稅賦課せらる。即ち麥酒釀造場は年四百「ペソ」「アルコール」製造場は三百「ペソ」。葉卷及び紙卷煙草製造工場は二十「ペソ」。酒卸賣人は馬尼剌市內に於ては四百「ペソ」。市外に於ては百二十「ペソ」。飲料小賣業者は六十「ペソ」。酒小賣業者は十二「ペソ」。醱酵飲料卸賣人は二十「ペソ」。同小賣業者は三十「ペソ」。「テユバ」「バシ」及び「タイプ」の販賣業者八十「ペソ」。

而して紙卷烟草販賣人は八「ペソ」。葉卷煙草販賣人は二十「ペソ」。紙卷煙草卸賣人は八十「ペソ」。酒類及醱酵飲料販賣人は百二十「ペソ」。煙草卸賣人は十六「ペソ」。煙草小賣人は六十「ペソ」。闘鷄場は二百「ペソ」。闘鷄戲一回に付二十五「センタボ」。劇場・奏樂場・陳列館・活動寫眞館及び飲食店はマニラ市に於ては二百「ペソ」。其れ以外に於ては百「ペソ」。又は月十「ペソ」。曲馬は二百「ペソ」。撞球場は月十「ペソ」。競馬場は三百「ペソ」。質舖は四百「ペソ」。株・不動產の仲買人及其他の利得を目的とする仲買人は八十「ペソ」。貸金業者は二百六十「ペソ」。

法令第二九二六號となるべき新國內收入稅法の下に於ては獨身者に對する免稅點は六千「ペソ」より三千「ペソ」に、既婚者に對する免稅點は八千「ペソ」より五千「ペソ」に引き下げられ、又租稅率は純收入に對する二「パーセント」より三「パーセント」に上るべし。

蘭領東印度に於ける佛國資本

（雜誌、蘭領東印度二月號）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

蘭領東印度土地開墾の爲めに投せられたる外國資本殊に佛國資本は著く其額を增加しつゝあり。

右は目下歐洲に賜暇歸省中の蘭領東印度財務官及有力なる栽培業者の何人も等しく之を確認する所にして、是等栽培者の中には數年來佛國資本を以て作業しつゝある護謨園の支配人あり。

最近佛國の經濟新聞は旺んに蘭領東印度に關する論評を揭載し居れるが、殊に東印度の現狀及大開墾事業等を挿繪入にして紹介する「ラ、ユニベルセル」及「リルストラシヨン、エコノミツク」の如き雜誌は佛國貿易業者をして當植民地に著目せしめたる功績實に大なりと云ふ可し。

ブレトン及ルマン地方の農夫は、歐洲大戰中巨額の財富を蓄積したることは事實にして、是等新資本家連は地方の公證人に其貯金を預入する結果、右公證人は自由に巨額の資本を自由に運用し得るに至れり。而して和蘭財政家の手を通して當東印度栽培事業に關與せるもの極めて少數なりき。

土地より得たる富をば再び土地に投することは前記農夫の本來の希望にして、聞く所に依れば東印度の小護謨園の支配人にして其事業の爲め斯種の資本を招致しつゝあるものありと。

前記佛國の資本家が、交趾支那の如き自領植民地に投資を肯せざるは、勿論國家的見解よりに非ずして商業的見解より說明すべきものなり。サレド印度支那に於ける農園の開墾は極めて貧弱なることは世人周知の事實なりとす。遮莫斯る傾向は蘭領植民地に採り實に喜ぶべきことゝす。

爪哇の砂糖植付面積

（スラバヤ經濟新報三月二十日）

爪哇糖業新聞に依れば一九一九年に於ける爪哇の製糖工場數は左の如し。

東部爪哇	九九
中央爪哇	五〇
西部爪哇	三〇

之を一九一八年に比すれば七工場の減少にして、一九一九年に於て蔗苗なくして製糖せざりし工場はクレペツト、クノンコ、クボンハルジヨ、ゴンダンリプラ及チダフ等の諸工場にして、ガルーム附近の「ボ、ー」製糖工場は他會社に併合せられたり。

又た一九一九年蔗苗植付面積は左の如し。

東部爪哇	一〇八、五八五「バウ」
中央爪哇	五三、三九三「同」
西部爪哇	三〇、九九九「同」

一九二〇年度收穫作業工場數は一八四にして「クボンバルジヨ」工場は遂に閉鎖せられたり。

一九二〇年度收穫蔗苗植付面積左の如し。

東部爪哇	一二〇、九七六「バウ」
中央爪哇	六二、九七〇「同」
西部爪哇	三五、七九五「同」

新西蘭政府の「サモア」諸島土民待遇方針

新西蘭政府に於ては委任統治たるべき「サモア」諸島に對する民政制度を實行するの運びに至らすと雖も、同島に於ては從前行はれし獨逸法規及諸制度は全然撤廢し、之に代ふるに英國の法制を以てすることゝし、唯特に土民の利益を顧慮し其の土地の事情に應じて適當なる變更を加ふる方針にして卽ち其要點左の如し。

一、酩酊を來す酒類の製造・輸入及販賣を嚴禁す
二、新西蘭政府の特許を受けし場合の外銃砲の輸入を禁ず
三、土人に因る土地(?)所有權は英國法に由らずして既存の土地習慣に由り之を定む
四、土人に因る動産不動産の繼承は專ら土地習慣により支配さる
五、數人の土人財産評價人を含む特別裁判所を設立し土地所有及財産の繼承に係る一切の問題を裁定す
六、土人に因る土地の讓渡は一定の期間に對する賃貸及地方政府の允許を受けし場合を除くの外之を禁ず
七、土人の契約は裁判所の裁斷に由る場合の外土人に對し强行し得ず
八、土人に對し勞働の强請を爲すを禁ず
九、有力なる土人頭目の中二人は或はサモア立法議會議員に任命さる可し

海峽植民地貿易

千九百十九年十月乃至十二月の間海峽植民地輸出入貿易報告を入手せるを以て左に記載せん　(單位弗)

輸入

地名	一九一八年十月乃至十二月	一九一九年十月乃至十二月
新嘉坡	一四八、八三一、九五五	二一四、二四二、三〇五
彼南	三五、二九三、八〇二	四三、二九七、九一〇
マラッカ	五、八六八、三二五	九、五三八、一七四
計	一八九、九九四、〇八二	二六七、〇七八、三八九

(英貨磅二二、一六五、九七六)　(同三一、一五九、一四五)

一九一八年ニ比シ七七、〇八四、三〇七弗(八、九九三、一五九磅)ノ増加ニシテ内新嘉坡ハ六五、四一〇、三五〇弗ナリ

輸出

地名	一九一八年十月乃至十二月	一九一九年十月乃至十二月
新嘉坡	一一四、七三八、八三〇	二一一、三一一、五七五
彼南	三二、〇三八、四三〇	五三、五〇八、八〇四
マラッカ	一〇、四〇五、二四二	一八、七二七、四七四
計	一五七、一八二、五〇二	二八三、五四七、八五三

(英貨一八、三三七、九五八)　(同三三、〇八〇、五八三磅)

一九一八年ニ比シ一二六、三六五、三五一弗(一四、七四二、六二五磅)ノ増加ニシテ

内
新嘉坡　九六、五七二、七四五弗
彼南　二一、四七〇、三七四同
マラッカ　八、三二二、二三二同

更に夫々主要貿易品に就きて述へんに、同期間に於ける米の取引額は著く減少せり。卽ち一九一八年の同期に於て二千萬弗の米を輸入したるが、一九年に於ては千四百萬弗に過ぎざりき。輸出も同樣千八百萬弗より千四百萬弗に減退せり。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

然れども個々の場合に於て總額は價格よりも增加少なかりき。

一擔當り米價は一九一八年に於ては七弗四分の一なりしが千九百十九年に於て十四弗二分の一を示せり。胡椒及珈琲も再び市場に現れ來り、前年に比して著く好況なりき。

一九一九年同期に於ける錫輸出は價額に於て著く增加せるも、其產出高は七二、〇〇〇擔に減少せり。パラ護謨は輸出額に於て四千二百五十萬弗より一億八百萬弗に、產出高は五十八萬一千擔より九十一萬三千擔に增加せり。

蘭領東印度人口統計

（在バタビヤ松本總領事代理報告＝三月五日）

蘭領東印度に於ては一九〇五年以來人口統計を行はざりしが、愈々本年を以て之を施行することに決し一九一七年末先づ人口の假調査を爲し、本年同領政府の年鑑中に之を表示したり。卽ち左の如し。

本表「歐洲人及對等者」中には總ての基督敎徒及日本人を包有し、東洋人中には亞拉比亞人・「ムール」人・支那人其他の「マホメット」敎徒及異敎徒を包有す。

爪哇及マヅラ島面積人口表

州名	面積（方哩）	歐洲人及對等者	東洋人	土人	合計
バタビヤ	二一一・七	二九、三三八	一〇七、九九六	二、三〇七、八一八	二、四四四、六四二
チエリボリン	一三三・三	一、九九四	二六、五一七	一、六四〇、八〇〇	一、六七一、二一一
スマラン	一四八・八	一三、七六三	四〇、五三六	二、七三九、〇三六	二、七九二、三三五
スラバヤ	一〇八・一	二〇、九九八	三九、七〇〇	二、四六九、一四六	二、五二九、八四四
マヅラ	九八・三	八〇五	七、一七三	一、七七〇、二六五	一、七七八、二四三
其他	一、六九八・二	四五、八四二	一七〇、二〇一	二三、三九二、一八三	二三、九四一、二〇八
合計	二、三八八・四	一一一、四三〇	三九三、七二三	三三、六五二、二三〇	三四、一五七、三八三

外領諸島面積人口表

州名	面積	歐洲人及對等者	東洋人	土人	合計
スマトラ西海岸	七三一・七	三、五三二	一一、九二二	一、二七三、一七〇	一、二八八、六二四
ボルネオ西部	二、六三六・九	四八五	六七、〇一八	五〇六、一三四	五七三、六三七
同東南部	七、四二二・三	一、九六三	一六、六一六	九二二、二八七	九四〇、八六六
メナド	一、〇四三・一	一、七八七	一〇、七二六	七二九、五一三	七四二、〇二六
セレベス	二、三三三・三	二、四三六	一七、三六七	二、三三二、二四五	二、三五二、〇四八
チモル諸島	八三六・四	六五三	四、八二一	一、〇八五、八七五	一、〇九一、三四八
其他	一七、四〇三・八	一六、五五九	三一〇、四七四	六、七三〇、六七四	五、九五七、七〇七
合計	三二、三九七・五	二七、四一五	四三八、九四四	一二、九七九、八九七	一三、〇四六、二五六

臺灣商況

（四月中）

（商工課調）

●米　月初め内地期米は定期受米に對する銀行の貸澁りと株式初め一般物價の激落により買方屏息すると共に賣方之に乘じ盛に活動したるがため高値に比し七圓以上の激落を告げ先安人氣に驅らし正米値よりも三四圓方下鞘を叩きたるが農家

は尙腰强かりしも八日に至り四圍の情勢惡化し主力筋を初め買方一齊投となり俄然三圓五十錢方の瓦落を見せたり下旬幾分反撥したるも差したることなく一高一低不勢裡に越月せり白米は下湓りつゝも漸落歩調を辿り十六日には各等共一圓七十錢方の下落を演じたり本島に於ける內地白米相場左の如し

	前月末	本月上旬	同中旬	同月末
肥前白米	円 六一・二〇	円 六一・〇〇	円 六〇・五〇	円 五九・八〇
豐前白米	六三・二〇	六三・三〇	六二・八〇	六二・二〇

卽ち一圓乃至一圓五十錢方の下落を見たり

本島米も內地期米不勢の影響を受け例の移出解禁說の鳴物も何等の效を奏せず漸次下向き玄米白米共約一圓方の下落を見たり丸糯は十六日七圓方の瓦落を演じ啞然たらしめたるが主因は神戶市場に約八萬袋淳滯せるに期米の暴落にて殆んど受渡不能に陷り且五月節句用以外には實需なきため瓦落せり本島米は下旬に至るも買手更になく閑散を極め弱氣配を呈したり相場變動次の如し

	北部玄米	同白米	中部玄米	糯米 長糯	糯米 丸糯
一日	円 二九・六四	円 三二・八〇	円 二九・八七	円 三一・九二	円 四一・〇四
七日	二九・四一	三二・五〇	二九・六四	三一・九二	四一・〇四
十六日	二九・一八	三二・五〇	二九・四一	三一・六九	三四・二〇
二十日	二八・七三	三二・〇〇	二八・九六	三一・六九	三三・〇六

◉砂糖　一般商品に比し幾分樂觀され居りし砂糖市場も金融關係の依然面白からざると旁々本月は綿系、期米等の崩落に愈々惡化し上旬分密糖五六月限保稅三十八圓丁度と下押し六七月三十九圓五十錢と手合出來せるが其後玖馬高に連れ爪哇糖亦た英國筋の買付旺盛となり十日入電玖馬糖十四弗爪哇白双二十二盾を報し氣勢頓に活況を呈し中旬續いて玖馬十九弗半爪哇五十四盾と奔騰を告げたるより內地市場亦た一般買人氣となり五六月保稅四十圓五十錢六七月四十三圓と昻騰せるも月末決濟期に迫り金融硬塞の際とて受渡關係と海外糖安の入電に其都度相場に影響し一高一低亂調氣勢となりしも懸念されし四月限受渡も無事決濟せし爲め最終買人氣を喚び五六月四十一圓と引き締り精糖又た四十九圓を唱へ前途强含みの商狀

◉麥粉　米價及原料小麥の更らに大慘落と謂ひ周圍の事情益々惡化せる等賣人は狼狽して賣急ぐ風情なるより人氣は更に非勢に流れ上旬內地製粉標準物五六月五圓七十五錢上海二等粉五圓九十五錢唱ひなりしも一般賣らず買はず見送りの態度なるより愈々買氣萎靡して氣配は逐次軟弱となり中旬內地市場五圓十錢上海五圓二十錢と崩落折柄の銀塊安に遂に月末內地粉四圓七十錢上海四圓七十錢と低落爲めに買人は全く沈衰し居れる等頹勢支ふるに由なく粉界の前途尙一段の惡勢を呈すべきか

◉綿布　株式界を始め商品界の瓦落は綿絲に於て殊に豫想外の相場を現はし一般機業家は製造を中止し相場の盛返し策に頭痛鉢卷の體にて斯くと見たる地方銀行は後難を惧れ一齊に貸出しを嚴戒し始め日本銀行の警告と相俟ちて益々引き締め一方に向ひたることゝて先安懸念を加味し引き合ひ來らざる

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

のみか過去に於ける契約も往々破約し來るの實狀にて市場寂寥を極むると共に人氣極度に腐敗し來りし爲め吳服店も之に連れ持越品を擁して莫大の損失を招くを避くる爲め競つて廉賣投賣政策に出づるに至れり

本島も二十日頃より金融の引き緊め嚴重にて之と共に恐怖心も加はり買氣更に止まり如何とも策の施すべきやうもなく茫然として見送り姿にて聯合にて救濟を銀行に嘆願せんとする風說あり銀行も相當の理解あるもの丶如く來月早々之が實行の步を進むるならんか內地吳服商の廉賣廣告も弗々見受くるに至れり月末の標準物相場(殆んご名目)左の如し

紋ポプリン(千二百番 毎ヤール)	円 一・一五	三輪生天笠(毎反二十四ヤール)	円 七・五〇
無地ポプリン(毎ヤール)	一・一〇	菊壽尺一白木綿(毎反)	五・六〇
金山寺晒金巾(六千番毎反)	二九・〇〇	百壽尺一白木綿(同)	三・七〇
青駱駄晒金巾(五百番毎反)	二〇・五〇	竹壽尺三白木綿(同)	五・二〇
紺靏寺晒金巾(一疋四十一ヤール)	二三・五〇		

●金物類　株式期米の慘落と共に金物類も下向商狀を呈したるところ英米本國の相場區々たるより市場混沌に陷り之が買入を躊躇したるに中旬後米鐵安の報を入れ市場は賣物嵩み相場一齊に陷落し殆んご無標準となりたり本島にては月初弱氣保合たるに十九日より約二割方の値下げを發表せり卽ち左の如し

丸鐵四分(一貫)	一・一〇	平板二十八番(一枚)	三・二〇
同五分(同)	一・一〇	同三十番(同)	三・〇〇
同六分(同)	一・一〇	鐵管內徑一吋(長一尺)	〇・三〇
釘類二吋(百斤)	三〇・五〇	同四吋(同)	二・一〇
同二吋半(同)	三〇・〇〇	針金八番線	二一・五〇
		同十六番線	二一・〇〇

●石炭　內地にては二等炭級のもの賣悶への氣味にて市況頗る不安裡にあるも一等炭級のものは從來よりの品不足にて激落するに至らず本島にては本品の騰貴も他品に比し遲かりし關係上未だ遽に悲觀すべき程度に至らず殊に香港は此等の影響尙及ばざるにより依然として沿道炭級の輸出旺盛にて積出順調なりしも月末に至り銀爲替下落し上旬の二百十圓は過去の夢と化し百八十圓より百七十五圓見當に落ち込み從つて手取著るしく尠くなれり

本島炭價の標準たるべき鐵道用買入炭は例年ならば三月末迄には既に手當濟となるべきに前報せし如く豫算の關係上四月に至るも之が商談終了するに至らず月末漸く一割値上げにて引合開始せり恐らく來月に入らば早々之が解決を告ぐるに至るべし其他の大口需要の手當ずみなるは大日本製糖と淺野セメントの多少なり

金融梗塞益々甚だしきに於ては石炭界も之が圈外に超然たるを得ざるべく來月に入らば波瀾を見るならむか左に參考の爲め三月中の本島炭の仕向先を示すべし(單位噸)

輸出	三三,五八八	內地移出	一〇,九八二	日本船焚料	一三,五四三
外國船焚料	四,二〇二	島內消費	二四,三二四	計	八六,六三九

備考、前報中ノ仕向先一月中二月中は轉換すべきものなり、訂正ス

●肥料　大連市場に於ける大豆粕一月限の受渡紛擾今尙全部の解決を見るに至らざるに加へ二月限の受渡不能額も亦約二十五六萬枚見當を算する實情なるに一面期米竝に原料大豆を初め本品四園の情勢依然不良の成行とて人氣益々沈衰し買手皆無の姿なるに農家も亦先安見越の念依然濃厚にて一向買漴へ來らず中旬全く腐敗慘落し十九日は期米綿絲の反撥と共に

本品も俄に昂進せるも凡ての事情依然不安を脱せざる模樣として出動を躊躇し居れり本島も例年ならば需要の旺盛期なるに金融關係にて買不能に陷り現物基隆渡し三圓五十錢に激落せるも更に買手なく先物は見當立たず

其他過燐酸は品薄の爲め弱含みの儘持合ひ三圓五六十錢見當にて硫安硝石等は慘落し前者二百八十圓(噸)後者百三四十圓に落ち込めるも需要なし

◉木材　本品本月の相場發表せられたるもの左の如し

杉　槓(大ヌキ長二間)(巾三寸七分厚六分)	一丁	円 一・〇七	杉板　四分		円 三・六〇
杉　棰(正一寸八分角)	一本	一・三五	桂　栓(三寸五分角)	一本	三・四八
杉板　六分	一坪	七・四〇	同　(四寸角)	一本	七・一五

內地の本品市況は前月迄好景氣を背景として活氣立ちしも經濟界の調落と共に銀行側一齊に貸出手控を斷行したるため嫌氣投の態度を示しヂリ安歩調に轉じ先行依然需要不振にて推移したるところ七日各商品の連續激落を見爾後金融梗塞甚だしく手持品を賣逃げんと一齊に投出し爲めに市況益々惡化し檜材粗材等は一割五分乃至四割方の暴落を演じ買人皆無に歸せり

本島に於ても中旬頃より少しく弱氣配を示したるも大部分は激落を警戒買控へしたるため大手筋の打撃を受けたるもの尠なく資金の融通に困難し居る向にして安賣したるものあるのみ價格は前記せる相場より凡そ五六分乃至一割位の下落なるが品薄のもの依然下降せず但本島產檜材は買入價格割合に安價なるがため下落するも何等の苦痛なきものの如し需要は買控へのため尠なし

◉紙類　洋紙は一般印刷物及雜用共漸進的增加を示し居るに拘はらず海外よりの輸入見込なく新聞紙の如きは强氣なるも例の金融緊縮の影響を受け上進力を抑制せられ幾分弱氣にて五分位の下落を見せたりされど在荷漸減の傾向にある關係上案外底堅く印刷紙は上五十錢中四十五錢下四十錢更紙三十錢見當にて商內あり殊に上等紙に至りては品不足にて相場依然强氣にあり和紙は一割見當の値下を見せたるも混沌として相場立たず目先一般形勢は六、七月頃危險ならんか若し其の危險期を無事通過せば需要期に入る關係上或は亦昂進すべきか

◉燐寸　(上旬)內地財界の大動搖を受けて流石の原料高も利目なく旁々本島輸送狀態極めて不良の爲め滯貨多く一般買控へ相場を示せり月琴八十四圓、白龍七十八圓(中旬)內地二三流製造家は金融に困難を告げ安賣を爲すものあり目先商況延び溜み本島買氣更になし相場變りなし(下旬)海外は爪哇方面買氣旺盛なる外一般買見送りの姿にて原料相場より打算すれば下落の餘地なきも金融の關係上稍弱保合なり但し三月以降買控へたれば來月ともなれば弗々實需を喚起するものと觀測さる相場依然變りなし

◉工業藥品　前月に比し騰落ありしと雖も未だ一般商品の影響を受くること尠なく弱含み場合狀態を始終せり來月にも入らば幾分形勢の變化を見るならんか

島內需要は硫酸の情涼食料及鐵道用を主なるものとし鹽酸は製糖會社、石油精製に使用さる亦酸類は樟腦精製用として需要あり重曹は情涼飲料、醫藥、菓子製造用其他々方面に需要あれど其額多大の增減なし前月との相場を比較すれば左の如し

品名	數量	本月相場	前月相場
硫酸(六十五度)	一箱二〇〇封度入	円 三六・五〇	円 三八・〇〇
白硝酸	同 一四〇 同	四八・〇〇	五二・〇〇
鹽酸	同 一二〇 同	二一・〇〇	二一・五〇
苛性曹達	同 一〇〇 同	一四・八〇	一五・〇〇
硫化曹達	同 一〇〇 同	一三・二〇	一三・八〇
晒粉	同 一〇〇 同	二〇・五〇	二一・〇〇
曹達灰	一袋二〇七封度入 一〇〇封度ニツキ	八・一〇	九・〇〇
月印重曹	一樽一一二 同	一八・五〇	一七・七〇
洗曹達	同 九〇 同	五・五〇	五・〇〇

◉セメント　臺北驛渡し十四圓五十錢乃至十五圓見當なるも品不足依然たるに加ふるに貨車繰不順相不變なるがため臺中廳下豚舍建築に二千樽納入の分も未だ品到着せずとの噂あり東京相場十七圓所を唱ふるに至り安物買持のもの同地へ向け本月約五六百噸積出したるやの說あり

本月本島の生產高二萬五千樽にして樽材不足の爲め全能力を發揮し得ず契約物は來年二月迄の分凡そ二十萬樽に達したり尙對岸よりの注文あれど應じ得ず內地物は五六千樽の移入あり大部分既約品にて小賣市場に出でず

◉麻囊　前月漸く活氣付ける本品市況は本島米輸出解禁を見込み買入盛にて六、七、八月渡し北部八十萬南部六十萬枚見當の引合あり相場は五十七錢より六十二錢見當なるが大部分は基隆渡し六十錢見當なり內地は金融關係にて一部に於て投物現はれたりとのことなるも一般は產地高により暴落するに至らず神戶驛着本月渡し五十錢見當にて取引あり目先金融干係にて如何なる波瀾を起すや不明なり島內取引は月末比較的閑散なり

◉海產物　月初めは前月と大差なく相應の取引ありしも下旬弱含み漸落步調に出で金融逼迫の爲め一樣に景氣惡化し取引閑散を呈せり

貝柱は前月より十圓安の百三十圓となり鯣は七圓落の六十五圓となりしもの產地元不漁の爲めか下旬に及び七十圓と撥ね返せり蝦は閑散中の最も賣行好きものにして九十圓(前月より八圓高)に値上げせるも相當の取引ありたり在荷薄なり煎子は需要期に際し五十二三圓にて取引あり鹽鰤は十一圓十錢と下落したるも鹽鰮は上旬の十四圓より二十二圓に上昂し區々の商狀を呈せり

◉石油　上旬內地石油多少の入荷あり外油値上の爲めか靑全勝九圓六十錢白一羽九圓八十錢と値上げ取引相應にありたるが在荷割合に豐富にて月末外油の取引も不活潑にて閑散裡に越月せり

◉野菜(臺北)　日々の入荷三萬五千斤より多きは十一萬斤に達し平均六萬斤の入荷あり新庄啓內よりの搬入最も多く士林直轄之に亞ぎ他廳下よりも輸送あり多くは匏仔、刺瓜、筍、茄子等なり本月玉葱及蜿豆の市場に現はれたるもの少なし價額は前月に比し何れも騰貴の傾向により百斤建卸賣相場左の如し

	月初	月末
新菊	円 五・五〇	円 四・五〇—五・〇〇
菠薐草	五・〇〇—六・〇〇	五・〇〇—七・〇〇
大根	一・五〇—三・〇〇	二・四〇—三・〇〇
人參	六・〇〇	三・〇〇
赤里芋	六・〇〇	六・〇〇—六・五〇
葱	三・〇〇	三・〇〇
蓮根	九・〇〇—九・五〇	一〇・五〇—一一・〇〇
白菜	一・五〇—二・〇〇	二・五〇
牛蒡	五・二〇	四・〇〇—五・〇〇
三葉	五・〇〇	五・〇〇

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

瑯嶠（二）

仙俗居士

△枋山

うしろに消え行く告別の聲に、フト醒めた其眼には、前にと近づく擧手の禮が、いとも朧氣に映じて來る、漸くに我に反つて確と睜るればあたり一面、大小石塊の入り亂れ、轎夫の足元も危ぶまる、偖てソノ聲は枋寮の、シテ手は枋山の、送りと迎への警官で、孰れも銃を擔ての護衛である、客身何時しか已に、蕃制區域の中にと運ばれて居る、入り亂れたる一面の石塊こそ是れ兩枋分界の莘芒溪、それより、加祿堂、南勢湖の二庄を過ぎて、七里溪を涉り、其名に因て枋山が、近く我が一里六町程に在るを知る。

途中で幾回となく、轎夫から休憩を、要求されたが、護衛警官の其都度、勵ましたり叱つたりする其の臺灣語は、なか〳〵巧炒である、ソシテ轎夫の爲には、前棒を片手でやす〳〵と揚げて、其肩に渡して與れて居る、「なんだつて斯んな弱い奴のに乘つたのですか」と冷笑するは、全くの東京つ兒口調、余は水底寮の目下が流行寒冒の爲に無人なるを辯じ枋山までの辛抱だと答へたのである、七里溪を越えた時、ちやうど蕃人が猪狩をして居る、其犬二頭が此方を目がけて、勢ひ能く吠ゑ著いて來たが、護衛警官の蕃語を以ての一喝に、犬は忽ち拍子拔けのしたやう、立ち止つて、其儘フイと横を向ひて居る、余は警官に敬意を表して、名刺の交換を求めた、受取たのには「キリ〳〵、サコツプ」と印刷されてある。

枋山の街は支廳の所在地なるだけソレだけ、繁盛たることは爭はれない、家屋の構造は、田舍的漢人式なるも、看渡すところは蕃男蕃女が其の多數を占めて居る、月桃の編物細工は、名產の一と聞く。

むかし此地は鳳山縣に屬して居た、時の警部長西美波氏は、斯う物語られた、蕃人を見やうとならは、枋山へ行けば宜い、危險の虞なしとはせない、それで漢人の在住者は、多く蕃婦を妻として居る、此は交易の點にも利便なんだ、けれども眞の妻としては、矢張り漢婦を東港や其他に持て居つて、時々商用に託して、二箇月も三箇月も滯留して居るんだと。現況如何、混血兒の數や如何。

、こんな事をも聽いて見たいと思つたが、斯ういふ土地に來ては、警官以外に相語らう人が無い、然るに支廳は此時、本廳警視下山の制限といふので、迎接準備に忙殺されて居る、去て莿桐脚溪を渡つた、スルと先き拂ひらしい蕃卒が看へる、目先きの變つた轎が續く、支那の芝居で見るやうな、顏の眞ん中を白く塗つたのが、其轎に構へて居る、由來蕃公は、支那劇の古裝束を獲て、珍重がるとは聞くが、顏までとは想像しなかつた、不審ながらだん〳〵近づくと急に其白いのを取外づし、ニコ〳〵顏で挨拶される、矢

張り警視池田鳴遠氏其人であつた、そして白いのは流感預防のマスクであつたんだ、それから後も、縣離れて參々伍々、池田氏の跡を慕ふらしい蕃人に出逢つたが、獰猛な目附には似ず「今日は」など、、柔さしく浴びせられて、何だか夜叉の念佛でも聽くやうな心地がしたのである。

枋山街を中心としての左右には、山と海とに相當の距離がある、萬更に磽角の地許りでは無い、山の谷間を堰止めて、灌漑を鹽梅するとせば、莫大な田園を得て、追ては阿緱似寄の不夜城を、此邊にも造ることも出來やう、海岸に檣の竝ぶを看て、港かと思ふて近づく、と家も人も無い、そうかと思ふと、村らしいのがある、しかし地圖には無い、無い筈だ、漁季のみに來て造る假小屋なんだ、そうした地勢が、三里近くの南で行き詰り、獅仔頭山と成て居る。

△獅仔頭山　上

山は名の如き雄姿を現はして、海中に斗出し、自からに舟行の目標と成て居る、潮水の沙を嚙むあたり、奇巖怪石は起伏して、中にも數十圍の大さなる、間柱臺の直立せる、或は千人席の廣さなる平面盤の傾斜せる、而かも皆な徽妙なる彫刻を以て滿たされ、一見して前世界大宮殿の遺址かと想はる、のである、聞けは東海岸の港口溪附近には、更に完全なる一大海厦の屹立して、龍王の離宮と觀るべきものがあると、シテ見れは此處のは龍宮の別殿であつたのを、獅子王からして斯く破壞されたのではあるまいか、何にしても奇勝である。

此の神祕を科學眼から解けば斯うである、徽妙なる彫刻と見せるは、珊瑚蟲の結晶であつて、形狀は破壞であつても、其實今尚ほ建設中かも知れない、珊瑚蟲の結晶とは、謂る硓𥑮礁である、舟行の目標とは、近づけは危險との意味も含まれてある。

山腹の橫蜷に副うて獨立岩がある、如し兩者の上に、木を架し草を葺きたらんには、以て雨露を凌ぐに足る、是こそ鄭小姐終焉の遺跡である、小姐は兄の鄭成功を慕ひ、渡海して來たのであるが、漂著して舟破れ、此の蕃境の月に、空しく千秋の恨を吞んだのである、當年の假住居と覺ぼしき其の一隅に、腰掛大の自然石があり、すぐ下に二面の小石を折屛風形に立て、ある、二百數十年の後も、鄭姓の者等は時に相集りて祭典を行ひ、其際は供物を腰掛石の上に陳し、又た祭時ならずとも、通行者は金銀紙を屛風石内に燒くが常であつた尤も以前は此の岩間が行旅必經の通路に充てられて居つたからでもある、游子此に到て左眄右顧、低徊去るに忍びざるの概なき能はぬ、フト龍腹なる自然岩を看れは、二大碑面の髣髴たるものがある、誰人が果して何事をや語るらん、驚喜して且つ之を瞰視したのであるが、憾むべし文字の有無をすら、判別し得なかつたのである。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

地方事情

本島各廳の狀況

臺北廳

■金融狀況　四月に入りて內地に於ける貿易は輸入超過二億六千萬圓を突破し、日本銀行は金利の引上と共に貸出の警戒をなし、市場何となく恐慌來の聲高まりつゝありしが、四月八日俄然神戶增田ビルブローカー破綻を傳へ、次て株式並米穀取引の立合停止、綿絲布の慘落に因る破產の續出となり、經濟界恐慌の海濤押寄せ、財界慘狀を呈するに至れるが、本島に於ても之が影響を受け、特に臺北は最も打擊多く、臺灣銀行は二回に亙りて金利引上を斷行し、貸出の制限をなしたる結果各銀行皆之に倣ひて貸出の警戒となり、手形割引の拒絕となり、金融全く硬塞の狀態となりたり、四月十日頃より株式現物商の取引中止となり、島內諸株も立相場を失ひ、株式暴落による打擊大なるものあり、加ふるに手形割引の拒絕は一般經濟界の前途を憂へしめ、且つ原產地に於ける綿布及吳服類の慘落は當地に於ける同業者に最も打擊を與へ、價格の暴落と金融の硬塞とにより不尠窮境に陷り、殊に綿布商は五月の決濟期限前に迫り、大稻埕方面のみにても四百萬圓以上の未決濟を有し、前途憂慮すべき狀態に在りたりしが、本廳は此の間金融經濟調査を怠らず、其の都度其筋に報告し、總督府及臺灣銀行は極力之が緩和に努力せられ、五月上旬に至り綿布商救濟問題解決せられ、引續き一般貸出に就ても信用ある商業手形及確實なる擔保に對しては島內銀行一致して貸出をなすことに協議調ひ、爲めに殺氣立てる市場は聊か小康を得たるの觀あり、銀行其他の金融機關は漸次預金減少の傾向を示し、貸付金の囘收意の如くならず、金融の硬塞は自然高利なる個人金融に變化しつゝありしが、個人金融の基礎危きもの頻出の風評高く、再び銀行及郵便局等の預金を增大し、貸出は依然減少の有樣にして貸出極度の警戒は一般人民を恐怖せしめ、進んで取引をなさゞる狀態にして、購買力の減退となりて市場の沈滯を來したるも、前述の如く各銀行資金貸出の態度決定し、移出米許可、夏茶取引の開始は爲替資金の決濟を援けたれば金融調節亦近きにあらん。

今參考の爲め臺北に於ける組合銀行の現在を調査するに左の如し。

	四月二十四日	五月八日
定期預金	二六、四一三、四三八円	二九、二七四、三二八円
當座預金	一五、三四一、五七九	一一、二四五、一二四
特別預金	一三、〇二九、〇〇五	一一、七九八、七三九
諸預金	七、八八六、一四二	七、五五五、五四八
計	六二、六七〇、一六四	五九、八七三、七三九
貸付金	一一、三五五、九九五円	九、九六〇、一八五円
當座貸越	二、五四八、七三一	二、三三四、四二八
割引手形	六四、五九二、二三四	六四、一九七、五四三
計	七八、四九六、九六〇	七六、四九二、一五六

金銀在高　四月二十四日　一二、九二三、一五三円
　　　　　五月八日　　　四、〇一二、五八二

即ち二週間に於て二百七十九萬六千四百二十五圓を減少し、貸出に於て二百萬四千八百四圓の減少を示せり、尙ほ四月中に於ける手形交換狀況を示せば左の如し。

▲借り方

局所名	借り方	差し引殘
臺灣銀行	二、六一二、一二八円	五九六、七六六円
三十四銀行	六、二二〇、二四九	二、七八〇、三四四
商工銀行	二、四〇二、九八四	四一二、九三六
彰化銀行	二、〇八五、四一七	八一八、五五二
新高銀行	三、九四六、四〇九	八二五、二四一
華南銀行	二、三三七、五四一	七〇〇、二一三
郵便局	七四、二六五	五六、三六五
計	二二、六七九、三二四	六、一九〇、二一八

▲貸シ方

局所名	貸し方	差引殘
臺灣銀行	九、〇三九、九八六円	四、〇二四、六二四円
三十四銀行	四、一三二、五五六	六九二、六五〇
商工銀行	二、五二三、〇七九	五三三、〇二一
彰化銀行	一、四三二、六〇九	一六五、七四四
新高銀行	三、四七五、五六六	三五四、三九七
華南銀行	二、〇五三、一四〇	四一五、七一〇
郵便局	二二、三八五	四、〇五八
計	二二、六七九、三二四	六、一九〇、二一八

■產業組合講習會　廳に於ては現下の情勢に鑑み產業組合の普及組合事務統一を期する爲め、去る二月二十五日より三月十日まで十五日間產業組合第一回講習會を開催し左の科目を修得せしめたり。

一、產業組合關係法規
　十四時間　講師　殖產局　金子　屬

二、購買販賣生產組合の設立及經營
　十八時間　講師　殖產局　泉　屬

三、產業組合概論及組合簿記
　三十四時間　講師　臺北廳　見山　屬

受講生三十名なりしが途中一名事故退學し、修了證書を授與したるもの二十九名なりき(內地人四名本島人二十五名)右は本廳に於ては始めての企なりしが總員熱心に聽講し殊に本島人受講生は何れも公學校卒業生にして現に組合に書記として勤務し、能く國語を了解して內地人受講生と相互通譯を要せずして講習科目を修了したるは同化の上に於て愉快に堪へざる所なり、各科成績に至りては頗る良好にして、概論七十四點、信用六十七點、購生六十七點、簿記八十點にして、全科平均七十二點の好成績を示し、學術優等品行方正なるもの左の

二名に對し今川廳長代理より賞品を授與されたり。

枋橋信用組合書記　邱　三　卿
樹林口信用組合書記　王　金　生

因に今回講習會發會式及修了證書授與式には、總督府より中屋金融課長、與秋商工課長代理の臨席ありて、講習生に對する懇篤なる訓示ありたり。

■米作　廳下に於ける第一期作の播種は十二月下旬頃より本年二月上旬頃までに行はれ、稻苗は順調なる發芽育成をなせしも、十二月頃より一月中旬頃迄に播種せしものは寒害を受けしもの多少あり、大體に於て良好なる苗を得たるも、草丈例年に比して短少の感あり。而して移植は早きは三月中旬より始め、山手方面は多少遲れたりしも、廳下を通じて四月下旬移植を終れり、而して害蟲は同管內一部に之を認め、新庄枋橋方面被害稍多き模樣なるも、驅除勵行によりて被害を免かるべく、加ふるに給水降雨頻繁にして極めて潤澤なりし爲め、收穫は先づ平年以上の見込なり、尙作付面積は昨年同期と大差なきも多少の增加を見るべく、即ち昨年の作付面積三萬一千六百甲より二三百甲を增加し、三萬二千甲位に達すべし。

■蠶業　廳下本年の夏蠶は已に內地より蠶種到著、殖產局より豫定枚數の配付を受け、目下催靑中なれば早きは五月下旬、晚きは六月上旬頃掃立をなすに至るべく、掃立枚數は二百六十枚餘にして昨年よりも多少增加の見込なり、尙本年春蠶の掃立枚數は昨年の四百五十枚に比し約百枚餘の減少にて三百五十餘枚なりしも、收繭高に於ては昨年は四十六石なりしに本年は五十二石餘にして、近年稀有の豐蠶なりし爲め、先月以來絲況不振を來しつゝあるも夏蠶の掃立希望者は增加の趨勢に在り。

■害蟲驅除狀況　大正八年十二月十五日より開始したる廳直轄及淡水・士林・新庄・錫口・枋橋の五支廳管內に亙る芎蕉象鼻蟲驅除豫防は、大正九年三月三十一日を以て第一次作業たる芎蕉の堀倒埋沒を終了せしが、其株數五十三萬本にして日數九十二日を要せり、而して四月以降は專ら之が跡地の整理竝に苗の搬出入取締に從事しつゝあり。

第一期水稻は各地方共三月下旬より四月下旬迄に插秧を終りたるが、三月上旬より泥負蟲の成蟲稀に各苗代地に散見せられたりしを以て各農業者に注意を與ふると共に一面之が驅除準備に著手せしめ、四月中旬より山地に接近せる地方の本田は何れも該害蟲の發生を見たるにより極力之が驅除を勵行せしめ、目下尙ほ其の繼續施行中にあり。而して從來驅除を實施せる面積は二千三百七十三甲にして、主に一種の竹箒を以て之を掬取するの方法に依りしも、就中被害の甚大なる錫口・新庄・枋橋の一部に對しては石油十二石五斗を使用して驅除を實施せしめたり。

■區長會議　本年度に於ける臺北廳各支廳管內に於ける、區長會議は、其第一回を四月九日頂双溪支廳に於て開合せり、廳よりは今川庶務課長、石渡技席其他係員出席せり、其協議事項左の如し。

一、山野の利用に關する件　二、畜牛及養豚の改良に關する件　三、國語の普及に關する件　四、風俗改良に關する件　五、漁業改良發達に關する件　六、其他の件

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

而して區長會議は順次各支廳に於て開催の豫定なり。

■鰹釣漁業好況　廳下鰹釣漁業は四月より既に其の漁期に入り、基隆の吉井治藤太所有船飛龍丸及南部臺灣海產株式會社所有船開洋丸の二隻は、四月十五日出漁、十七日歸航、飛龍丸は鰹鮪合計二千八百尾、二千四百九貫、開洋丸は一千五百尾、一千貫の初漁をなせるを始めとし、四月中に於て從業發動機船數五隻出漁、回數二十一回に及び、其總漁獲高六萬九千五百尾、三萬五千五百貫に達し、近年に無き好成績を擧け、飛龍丸の如き四月二十三日出漁、一回の漁獲高一萬一千六百九十五尾、五千五百七十一貫の破天荒の大漁をなし、鰹釣漁獲の新記錄を作れり。

■漁場は蘇澳瀨肓骨根等にして、本年は出漁準備遲延の結果、昨年の四月十日の初漁に比して六日遲れたり、五月に入りてより降雨多くして餌料鰮の漁獲不振の結果、鰹漁業前月の如く良好ならず、五月十二日迄に總漁獲高七萬九千九百九十一尾、四萬三千七百二十七貫にして、今後天候恢復し餌料の供給潤澤とならば、終漁期迄には從來になき大漁を擧け得べしと觀測せらる。

■基隆內外貿易　基隆港に於ける本年一月より、三月に至る內外貿易價格は五千三百八萬二百二十八圓にして、輸移出は二千六百二十三萬五千三百四圓、輸移入は二千六百七十四萬九千六百九十四圓、之を前年の同期に比較せば輸移出、千百三十四萬七千五百八圓、輸移入、六百六十二萬四千八百二十六圓を增加し、總額に於て千七百九十七萬二千三百三十四圓の激增を示せり。

■傳染病狀況　廳下の衞生狀態は逐年良好となりつゝありしも、昨年虎疫の發生流行に當局の腦漿を惱まし又昨年末より流行性腦脊髓膜炎の發生を見、漸次流行の傾向ありしも、廳當局の豫防方法の適切なりしと一般公衆の警戒とによりて大なる流行を見るに至らざりし、今本年四月末日に於ける九種傳染病の發生轉歸の狀況を示せは左の如し。

		發生	全治	死亡	現在
腸チブス	內地人	六四	四一	七	一六
	本島人	二	一	一	—
ヂフテリー	內地人	二〇	一七	一	二
	本島人	四	一	二	一
猩紅熱	內地人	二	一	一	—
	本島人	—	—	—	—
赤痢	內地人	一一	四	二	五
	本島人	—	—	—	—
流行性腦脊髓膜炎	內地人	九	一	四	四
	本島人	三五	一	一八	一六

■學事會議　大正八年十二月十七日より十九日に至る三日間、廳訓示室に於て學事會議を開催せり、出席者は廳下小學校長六十一名にして、第一日は片山學務課長、梅谷廳長の訓示ありて議事に移る、總督府よりは學務課長の外平野視學官、土性視學、大橋囑託、伊東囑託其他太田師範學校長、田川女子高等普通學校長、河瀨平塚二師範學校敎授、向山女子高等普通學校敎諭等連日臨席せられ、各議員は日々熱心に討議し頗る緊張せる會合なりき、第三日は午後二時豫定の議事を終り

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

會長代理今川庶務課長より一場の訓示ありて閉會せるが、引續き門間城東小學校長、小山、渡邊二公學校長より內地學事視察談ありたり、會議事項左の如し。

▲諮問事項

○小公學校共通之部　(一)學校敎育上最も急に改善を要すべき點並之か實行方法に關する件(二)訓練具體的方案實施情況に關する件(三)講習會講習科目に關する件。

○小學校の部　(四)兒童用改良服に關する件(五)學校並に家庭の連絡に關する件(六)小學校敎科目並每週敎授時間數に關する件。

○公學校之部　(七)國語普及會の現況並將來の施設事項に關する件(八)社會敎育に關する件(九)公學校入學志願者之趨勢並に學校新設擴張計劃に關する件(番外)內地人本島人子弟共學に關する件。

▲打合事項

(一)小公學校兒童成績考査に關する件(二)小公學校兒童操行査定に關する件(三)敎務打合會に關する件(四)中學校入學希望者(尋常小學校第五學年修了兒童)推選の件。

▲注意事項

○人事並校務に關する事項六件

■同風會　大正八年中廳下に於て同風會の組織せられたるは艋舺・大稻埕・淡水の三箇所のみなりしが、最近各地人民頓に設立の必要を感じ、本年に於て組織せられたるもの次の如し。

新庄同風會　加蚋同風會　社仔同風會
士林同風會　和尙州同風會　大坪林同風會
北投同風會　九份同風會

尙逐次廳下各地に設立を見るべく、是等は何れも庄民中の知識階級者其の中堅となり、自動的積極的に德育振興、國語普及、通俗敎育、殖產興業、救濟事業等の施設を企て、何れも相當の效果を收めつゝあり、而して各地同風會增加に伴ひ之れが連絡統一を計り、全廳下に於ける精神敎育社會敎育の振興、國語普及等の達成を期する爲め聯合同風會を設立するの要あるべく、其機運焦眉の急に迫れり。

■地方學事講習會　公學校訓導心得養成の目的を以て大稻埕第一公學校內にて開催中なりし本年度第二回地方講習會は本年二月末日を以て終了、修了生三十二名に對し夫々三月一日講習證書を授與し、直に各公學校に就職せしめたり又八年度第三回地方學事講習會として本年一月十日より臺北師範學校に於て開催中なりし體操講習は三月三十一日修了、修了者百五十名を出せり。

大正九年度本廳開催豫定地方學事講習會は第一回より第四回に亘り、第一回は本島人公學校敎諭に國語、敎育、體操、第二回は本島人訓導心得に國語、算術、初學年兒童敎育法、第三回は、同女子訓導、同訓導心得に國語、算術、初學年兒童敎育法並に手藝裁縫を課し、第四回は公學校卒業生を集め、公學校訓導心得養成の目的を以て講習會を開催せんとす。

■本島人兒童共學　內訓第二十號共學制に依る臺灣人兒童にして小學校入學希望者は、廳下を通して三十名ありしが、嚴格なる考査を經其の中十五名を選ひて總督府に進達し、十四名入學認可を得、左記の通り各小學校に入學を認可したり。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

校名	兒童數	學年		學年	
城西小學校	二	一學年	一	三學年	一
城南小學校	二	四學年	一	五學年	一
城北小學校	四	一學年	二	二學年	一
		四學年	一		
詔安小學校	三	二學年	一	三學年	二
瑞芳小學校	三	三學年	一	四學年	一
		六學年	一		

以上十四名は入學後何等支障なく學習狀況極めて良好なり

■小學校概況　大正九年度に於ける廳下小學校は總數二十二にして、昨年度に比すれば焿仔寮小學校一を增したり、九年四月末小學校職員兒童左表の如し。

		男	女	計
職員	教諭	一一五	一三	一二八
	教諭心得	—	五四	五四
	計	一一五	六七	一八二

		男	女	計
兒童	尋常科	三、四五〇	三、二九一	六、七四一
	高等科	一八七	四〇	二二七
	計	三、六三七	三、三三一	六、九六八

尙公學校は總數六十一、其の中本校四十一、分校二十にして、昨年度に比すれば本校に於て與化店公學校一を增したり、四月末公學校職員兒童左表の如し。

		男	女	計
職員	內地人教諭	一二六	一	一二七
	本島人教諭	一七二	一一	一八三
	訓導	四	—	四
	教諭心得	七	一五	二二
	訓導心得	九二	五一	一四三
	計	四一〇	七九	四八九

兒童	男	一九、二六八
	女	六、〇〇五
	計	二五、二七三

兒童總數の中、簡易實業學校六校分兒童總數二百五十一を含む。

■實用國語階梯(上)の取扱並夏季課題帳の編纂　曩に當廳に於て編纂したる國語練習會用教科書に對し其の取扱方を記し、標記の名稱を付し廳より刊行せり、小公學校兒童用夏季課題帳は大正七年始めて之を編纂し、廳下一般に使用せしめしが、本年は過去二箇年使用の結果改善を加へ、既に其編纂を終りて目下印刷中なり。

■社會教育取扱主任特設　本廳に於ては近來思想の變潮に伴ふ一般教育に於ける社會施設の必要を認め、本年四月より學務係に社會教育に關する事務を擔當せしむる爲め、社會教育主任を配置せり、而して學務係は小學校、公學校、社會教育の三部に分ち、各々屬一名を配置して其主任とし、尙視學係には學務係より屬二名雇一名をして兼任せしめ、以て相互事務の進捗を計ることゝせり。

■社會事業講演　臺北廳庶務課に於ては社會事業に關する問題に付研究を命じ、五月一日より廳會議室に廳員を集めて社會事業研究報告講演會を開催せり、其演題左の如し。

月日	演題	報告者
五月一日	酒精の節制	梅田技師
同	獨逸に於ける社會問題附教育問題	古市屬

五月三日	勞動紹介と宿泊事業	野村屬
同	人口問題	安則屬
五月六日	勞動問題	貝山屬
同	社會問題	樋口屬
五月七日	救濟事業	井上屬
同	失業者救濟	松尾屬
五月九日	獨逸に於ける社會問題	竹内屬
同	勞動問題概況	今井警部
五月四日	勞銀問題	平田屬
同	婦人問題	赤嶺屬
五月五日	食料問題	石渡技師
同	廢兵の救護	島田屬
五月十日	失業者問題	貝山屬
同	田園都市	川井田屬
同	大阪に於ける社會事業	竹田屬

■虎疫の豫防會議　五月八日午後一時より臺北廳に於て、羽鳥防疫官臨席、各街團體長を集め、虎疫豫防に關する協議會を開催せり、廳下には未た虎疫患者發生せざるも、廳下昨年の虎疫流行は領臺以來未曾有の大猖獗を極め、千六百三十三名の患者中、三百五十七名の死亡者を出して慘狀言語に絶せしも、官民一致盡力の效果により約四箇月を以て終息せしむるを得たりしが、保菌者其他の關係により緩慢に付すべからざるは勿論、已に厦門臺南廳には發生流行せるが故に何時病毒の浸入を受くるも計り難き狀態に在り、之が浸入を未然に防止するは刻下の急務なり、種々之が豫防策に付協議事項を決議し、尚直ちに之を實行すべく注意をなし午後三時半散會したり、協議事項左の如し。

▲必要の場所にはデシン又は石油乳劑を繼續撒布し各廳毎に蠅捕り器鳥餅を備へること、▲豫防注射液は無料にて配布する都合なるを以て注射を奬勵すること、▲衞生思想の普及豫防上の注意を喚起せしむる爲め日を定め各團體に於て講演會を開催すること、▲患者の隱蔽を豫防し早期の屆出を勵行すること同時に病毒を撒布せしめざる方法を講ずること、▲飲食物に對しては相當注意を拂はしむること

■警察官招魂祭　四月一日殉職警察官三百九十一名の爲めに臺灣神社境内忠魂碑前に於て招魂式を執行せり、祭典委員長代理本間警務課長其他委員及參列員著席するや、鈴村祭主の修祓招魂の式に次て警務局長の祭文朗讀拜禮あり、其他參列員の拜禮あり、最も壯嚴裡に式を終れり。

此日基隆に於ても殉職警察官小澤警視外十一名の招魂祭を執行せり。

■臺北橋渡り初め式　四月三日午前十時より臺北橋開通の式を執行せり、橋際に設けられたる式場に係員渡女及來賓一同の著席するや、修祓降神獻饌等定めの順序により、鈴村臺北稻荷神社々掌の祝詞に次き、臺北廳長代理今川庶務課長の祝辭及玉串拜禮あり、斯くして拜禮撤饌昇神型の如く閉式、夫れより神職を先頭に渡り女、廳長代理、來賓の順にて渡り初め式を終れり、渡初式後盛大なる祝賀會を催せり。

當日高田總務長官代理、相賀土木、富島警務、齋藤遞信の各局長、新元鐵道部長、堀内博士、山形技師、岡田司令官を初め、朝野の來賓數百名に及び盛式を極めたり、臺北に於ける渡り初め式は今回の臺北橋を嚆矢とし且つ當日好天氣のことゝて渡り初式を見んとて四方より集まり來るもの無慮數萬人、中々の賑なりき、因に臺北橋の長さは二百三十五間餘なり。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

■軍艦秋津洲來航　本島沿岸巡航の爲め四月二十八日馬公を拔錨したる軍艦秋津洲は、二十九日早朝基隆に入港せり、同軍艦乘組將校下士卒は半舷上陸にて三十日及五月一日の兩日に來北、臺灣神社・大稻埕・苗圃・博物館其他臺北市内を觀光せり、臺北廳に於ては來北の准士官以上のものに對し、鐵道ホテルに於て午餐の饗應をなせり、

■臺北招魂祭　四月三十日恒例により領臺以來、國家に殉したる戰病戰死者、山根少將以下、軍人・軍屬・警察官・警手・隘勇・七千四百七十七名の爲めに臺北招魂祭を臺北新公園式場に於て最も壯嚴に執行せり、午前七時の擧式合圖の煙花と共に祭典委員長岡田司令官以下委員及遺族其他參列員所定の席に著きたる後、祭主山口宮司以下祭員の著席するや、一同起立修祓の式に移り、最敬禮裡に山口宮司の祭詞に續て岡田祭典委員長の祭文朗讀禮拜あり、濁水溪を境として北部一圓各廳下より參集せし百五十餘名の遺族拜禮あり、參列員柴軍司令官及長官代理以下の拜禮あり、更らに步兵第一第二大隊、山砲隊、在鄕軍人會臺北分會員、警察官、警察官及司獄官練習生等順次禮拜あり、午前十時諸員退場せり。

本日の擧式次第左の如し。

(一)祭典委員長以下遺族各參列員著席、(二)祭主祭員著席、(三)修祓、(四)招魂式、(五)供饌、(六)祭主祝詞を奏す、(七)祭典委員長祭文朗讀(八)祭典委員長玉串拜禮、(九)遺族拜禮、(十)各參列員拜禮、(十一)撤饌、(十二)祭主祭員拜禮、(十三)諸員退揚、(十四)祭典委員長玉串拜禮終りて鳥居外の各團體拜禮、(イ)軍隊、(ロ)在鄕軍人會臺北分會員、(ハ)警察官、(ニ)警察官及司獄官練習生、(ホ)各學校生徒、(十五)一般公衆拜禮、(十六)送魂式、

斯くて朝來の曇天は擧式の終る頃より雨を催し遂に沛然たる驟雨に化したれば新公園に集りたる一般公衆は右往左往に散退し餘興として催さるべき相撲及本島人芝居等御流れとなりしは誠に遺憾なりき。

■基隆招魂祭　基隆に於ては本年より殉職軍人軍屬並に警察官の爲めに招魂祭執行のことに決し、四月三十日高砂公園招魂碑前の式場に於て壯嚴なる祭式を執行せり、先づ午前九時、西岡祭典委員長及遺族の參列するや、栗本祭主の修祓降神式を行ひ次て西岡祭典委員長の拜禮及祭文の朗讀、遺族及庄田少將外各參列員の拜禮あり、次で重砲兵大隊警察官及小公學校生徒等の團體拜禮ありて後、栗本祭主の撤饌昇神の式あり、午前十時終式參列員順次退場せり、擧式中雨ありて相撲擊劍等の餘興は御流れとなり、更に日を期して催すことゝなれりと。

宜蘭廳

■總督巡視　田總督閣下は陸路大里簡を經て四月十七日宜蘭著、驛には市内官民小學校生徒、婦人團等多數の出迎を受け、廳長官舍に宿泊、翌十八日宜蘭神社に參拜幣帛料を捧げられ、廳にて重なる官民の伺候を受け、廳長の政務報告聽取後、市内官衙學校其他を巡視せられ、午後四時より廳下重なる官民六十八名を埤圳會議室に招待し、茶話會を催されたり。而して十九日宜蘭發、驛には著同樣多數の見送りあり、途中二結臺南製糖會社の製紙工場視察の上、午後一時九分蘇澳著、港灣其他視察後乘船、花蓮港に向はれたり。因に今回巡視に際し總督閣下より左記の通り金員寄贈ありたり。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

孔　子　廟　二十圓　　小公學校　　百七十圓

■西伯利亞地方出征軍人へ慰問袋寄贈　日本赤十字社篤志看護婦會宜蘭分會に於ては西伯利亞地方出征軍人慰藉の爲め、會員並に一般有志より慰問袋を募集せしに、會員は勿論其他の有志者よりの申込甚多く、寄贈物件百二十八袋の多きに達したるに付、四月十五日支會宛發送せり。

■煙草小賣人組合設立　豫て計畫中なりし煙草小賣人組合の設立は、斯業の改善を企圖する上に必要なるを以て、當廳下に於ては左の通り一齊に其設立を見るに至れり。向後組合の活動に依り舊來の常弊たりし定價不遵守の矯正、密賣者の驅逐等、消極的に、又店舗の設備、容器の統一、賣捌人小賣人間の取引の圓滿を計る等積極的方面より、煙草小賣營業の改善に資する處尠からざるべし。

區分	設立年月日	組合員數	區域	組合費	役員數	設立當時の組合長及副組合長
宜蘭煙草小賣組合	大正九年五月三日	一〇四	廳直轄一圓	小賣人の煙草買受高一圓に付四厘	組合長副組合長各一名 理事八名	組合長　林奕庚 副組合長　黎坤鍾
羅東煙草小賣組合	同年五月四日	一〇六	羅東叭哩沙支廳下一圓	同	同各一名 同十二名	同　吉田弘 同　陳純精
頭圍煙草小賣組合	同年五月五日	五四	頭圍支廳下一圓	同	同各一名 同五名	同　吳萬添 同　吳裕

■稻作害蟲驅除　廳下文山・頭圍・四圍・員山・民壯圍・浮洲・紅水溝・利澤簡の各堡に於ける山脚地一帶の稻田には、年々泥負蟲及鐵甲龜蟲の發生夥しく、爲めに稻の生育を阻止し、其の收量に及ぼす影響尠からざるものあり。本年亦該地帶約二千甲歩に之が發生を見、漸次蔓延の兆ありしを以て、四月二十五日害蟲驅除豫防に關する廳令を發布し、右區域に對し四月二十七日より五月三十一日に至る三十五日間を驅除期間と定め、目下廳職員は警察機關と協力し、各耕作者を督勵極力之が殲滅に努めつゝあり。

■支廳長會議　四月二十五日より宜蘭廳樓上に於て開催されたる同廳支廳長會議は同二十七日終了せるが、同會議に附議されたる諮問事項左の如し。因に警務局より増田警視特に本會議に列席せられたり。

▲諮問事項

（高等主管）

（一）時運に伴ふ本島人の思想變遷及生活狀態如何、（二）本島民同化の狀況如何

（警務係主管）

（三）警部増員後に於ける成績如何、（四）警察職員の生活狀況如何

（保安係主管）

（五）勞力供給の實況如何、（六）保甲及壯丁團をして一層有利ならしむるには如何なる指導監督を必要とするや、

（衞生係主管）

Digitized by Google　　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

（七）一般衛生狀態如何、
（八）蕃人蕃地の現況如何、
其他注意事項二十件及協議事項等を附議せり
（理蕃係　主　管）

■區書記會議　大正九年四月三十日廳樓上會議室に於て定期區書記會議を開催す。出席者宜蘭區書記劉銘賢外十八名、重藤庶務課長會長席に就き、午前第十時開會す。會長の挨拶に次て廳長の訓示あり、左記諮問及注意事項等を議了し、午後第四時閉會せり。

▲諮問事項

（一）法令周知に關し實施の方法如何、（二）國語の普及並習俗改良に關する方法如何、

▲注意事項

（一）事務費に關する件、（二）備品購入に關する件、（三）備品廢棄に關する件
（四）相續未定地に關する件、（五）害蟲驅除に關する件、

▲協議事項

（一）管內概況一覽簿の改正に關する件、

■警察官招魂祭　宜蘭廳警察職員にして明治二十八年以降戰病歿したる、故宜蘭廳警部小島善雄及同坂井時彥氏以下六百三名の招魂碑は、宜蘭公園內元宜蘭神社跡に建設中の處、愈々工成り、四月二十三日午前九時除幕式を擧行し、引續き第二回警察招魂祭を執行せり。連日降り續きたる雨名殘なく晴れ渡りて微風肌に快く、日本晴の好天氣は恰も英靈を弔ふものゝ如く參列者三百人を數へたり。定刻荒卷支部長及山內支部副長の介添にて警務課長山內小藤二氏令孃文子（當年五歲）の手にて滯りなく除幕を終るや、直ちに祭典を擧げ、修祓、降神式、神饌供物型の如く、齋主祝詞を白し、荒卷祭主、山內副祭主の祭文朗讀あり、次て各地より電報祭文朗讀ありたる後、祭主以下遺族等順次、玉串禮拜の事あり。其間宜蘭分遣隊、小年義勇團、宜蘭小學校及宜蘭公學校生徒等の團體參拜ありて、午前十時三十分最も莊嚴裡に式を終りたり。午後一時よりは宜蘭廳構內に於て奉納武術試合あり、桃園廳よりは庄司長尾の兩劍客來宜する等盛會を極めたり。當日祭主の朗讀せる祭文左の如し。

維れ時大正九年四月二十三日宜蘭廳長正六位勳五等荒卷鐵之助謹みて、故宜蘭廳警部小島善雄君以下警察職員六百四士の靈前に告ふす、回顧すれば明治二十八年開廳以降玆に二十五年此間諸士は劇務に奪を繼ぎ而して該ろに匪徒の掃蕩及兇蕃の討伐を以てす閱間悉く艱難楚備に嘗む、遂に命を鋒鏑に殞し、身を蟲砂に委れ以て國家の急に殉せられたり、以みれば陣殁さなく、病故さなく、齊く是れ身を殺して以て仁を成せしものなり、國家はこれを待つに厚しさ雖吾人歎惜の懷焉れに過ろは莫し、然かも本島早く昇平の樂みを享け永く天日の光を仰ぐ、蓋し諸士の忠誠與りて多きに居れり、予詎そ多くを言はんや、其詳なるに至りては史乘既に備はる、諸士亦笑を泉下に含めるならん諸士の遺勳を顯揚し芳名を不朽に傳ふる爲め今や其招魂碑成り公園陌頭巍然さして異彩を放てり、噫偉なる哉、爰に例祭を設れ禮を具え誠を致して淸酌庶羞の典を行ふ靈や向くは緩けよ。

大正九年四月二十三日　正六位　勳五等　荒卷鐵之助

■鐵道開通祝賀會　礁溪頭圍間の鐵道は三月二十五日より開通を見るに至りたれば、同地方官民は同月二十四日廳下重なる官民約二百名を招待して之れが祝賀會を催せり。當日は頭圍驛構內に會場を施設して其の附近に物產陳列場を設け、同地方主なる海陸產物を陳列して一般の觀覽に供する外、各種

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

の余興等ありて同地未曾有の賑なりしと。

■召集事務檢閲　大正九年度に於ける召集事務の檢閲は第一著に宜蘭廳に施行せらるゝことゝなり、左の日割により一般書類竝召集實施の場合を假想せる演習實施を行ひ五月五日終了せり。

五月一日	頭圍支廳	五月三日	叭哩沙支廳
五月四日	宜蘭廳	五月五日	羅東支廳

檢閲官は軍司令部附高橋少佐にして、外に屬員として雇員二名及總督府內務局よりは安藤勵之に立會ひ、五月六日孰れも歸北せり。

■軍艦發著　軍艦秋津洲は五月二日午後四時蘇澳港に入港せり。山內警務課長は廳長代理として羅東支廳長を隨へ同艦を訪問し、當地產の野菜物等を寄贈したり。翌三日海軍駐在武官福與海軍大佐竝に同艦長森本海軍大佐以下乘組將校十八名上陸したるを以て宜蘭官民の重なるもの相會して歡迎會を開き、一同歡を盡して歸艦し、五月三日午後六時拔錨せり。

■軍艦縱覽　軍艦秋津洲は蘇澳港碇泊中一般の縱覽を許可する旨駐在武官より電報に接したるを以て、之を各方面に通知せしに、各學校生徒其他地方官民の縱覽者千二百名の多きに達せり。尙は鷄頭南澳の蕃人五十五名は受持巡查に引率せられて觀覽せり。

■學事　公學校敎員講習科入學生、大正九年五月一日開催臺北師範學校內公學校敎員講習科に於て本廳下より選拔せられたる左記五名は講習せり。

叭哩沙公學校	陳阿伍	宜蘭公學校	謝阿助
坪林尾公學校	饒榮富	礁溪公學校	林潤洪
冬瓜山公學校	李紹枝		

■師範學校卒業生の配置　大正八年三月臺北師範學校卒業生の本廳下に派遣せられたる者は、內地人三名、本島人四名、講習科卒業二名なりしが、左記の通配置せられたり。

員山公學校敎諭	中北繁	利澤簡公學校敎諭	藤井龜太郎
叭哩沙公學校敎諭	下田豐	礁溪公學校敎諭	林崑艷
頭圍公學校敎諭	林過枝	蘇澳公學校敎諭	呂天賜
五結公學校二結分校敎諭	林焔山	員山公學校訓導	蘇耀澄
宜蘭公學校民壯圍分校訓導	黃守訓		

■宜蘭婦人會の講演會開催　本島人婦人を以て組織せる宜蘭婦人會は去る五月七日午後二時より宜蘭女子公學校內に於て第四回の通俗講演會を開催したるに、參集の會員八十餘名あり、來賓としては古本廳財務課長、齊藤郵便局長、森醫院長夫人、其他多數臨場せられ、宜蘭神社々掌藤崎和次郎氏の敬神なる題下に平易適切なる講話ありたり。終つて女生徒の談話唱歌及內地人幼稚園兒童の遊戯等ありて頗る盛況を極めたり。散會したるは午後五時なりき。

■公學校敎育硏究會開催　本廳下公學校敎育硏究會北部々會に於ては、去る五月八日午前九時より員山公學校に於て學年硏究會を開催せり。當日は同校中北敎諭の執鞭にて五六學年複式の理科敎授を行ひて之が批評硏究を爲したり。當日は野間視學列席し、北部各校長及五六學年擔任敎師等參集したるを以て其效果多大なりしを信ず。因に同敎育硏究會の開催定日は從來二月五月十月の第一日曜にて年三回なりしが、今回會則の一部を改正して學年硏究に改め、毎月二回宛開催することゝせり。

■地方學事講習會開催　本廳下大正九年度地方學事講習會は

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

來る七月五日より四週間國語・算術・教授法・唱歌の四科に就き講習開催の豫定なり。其の講習員は訓導心得四十七名、講師は廳下公學校敎諭中適任者を人選依囑する筈なり。

臺中廳

■臺中廳産業組合聯合研究會設置　本島に於ける産業組合は長足の進歩をなし今や本廳下に於ても各種の組合は其數四十圓を數ふるに至り、之が普及發達を計る爲め事業經營上幾多の調査研究を爲すの要あるに拘らず、本島には監督官廳の外指導を爲すべき自治的研究機關の設けあるなきは頗る遺憾とする所なり。由來內地に於ては産業組合、中央會あり、地方には支會の設けありて組合の指導奬勵の任に當り居るも、本は今尙ほ斯る機關の設けなきを以て本廳に於ては産業組合聯合研究會の設立を許可し、各支廳下に於ける産業組合事業の啓發を計るべき機關たらしめんことを期せり、而して設立後直ちに總會を兼ね組合長を召集して會議を開催せり、主要事項左の如し。

▲會議順序

(一)開會の趣旨、(二)廳長訓示、(三)臺中廳産業組合聯合研究會規約承認の件、(四)評議員選擧、(五)大正九年度經費收入支出豫算案承認の件、(六)諮問事項、(七)協議事項、(八)注意事項、(九)講話、

▲諮問事項

(一)産業組合が地方の産業發達上效果の程度如何、(二)組合經營上最も困難とする點如何、(三)地方金融の狀況如何、

▲協議事項

(一)貸付金回收の良策如何、(二)組合員をして産業組合を一層利用せしむるの良法如何、(三)産業組合事務の整理を良好ならしむる方法如何、(四)此の外各組合の提出事項あり、

産業組合聯合研究會收支豫算（大正九年度）

▲收入の部

一金二千六百三十五圓八十一錢也

內譯

費目	金額	說明
會費	二、六三五、八一〇	前年度末剩餘金の百分一

▲支出の部

一金二千六百三十五圓八十一錢也

內譯

費目	金額	說明
設立費	二〇〇、〇〇〇	書記机一箇椅子一脚書類箱一箇謄寫版一臺規約書印刷費其の他
總會費	二五〇、〇〇〇	通常總會年一回開催
講習會費	一七〇、〇〇〇	年一回開催諸費用
講話會費	八〇、〇〇〇	隨時必要に應じ開催
印刷費	一五〇、〇〇〇	事業報告其他産業組合法に基く諸願屆用紙印刷代各組合配付の分
通信費	三〇、〇〇〇	郵便切手及葉書代
消耗品費	八〇、〇〇〇	事務用筆紙墨代
會報費	九〇、〇〇〇	年六回發行一回十五圓
表彰費	一〇〇、〇〇〇	優良組合及職員表彰費
書記俸給	三六〇、〇〇〇	月俸三十圓一箇年分
同臨時手當	三〇〇、〇〇〇	年額百二十圓と月俸の十分の五を合したる額
同宿舍料	一四四、〇〇〇	月額十二圓の割一箇年分
旅費	一五〇、〇〇〇	書記幹事組合指導奬勵の爲め出張島內及內地優良組合視察竝受講生補助金
豫備積立金	四〇〇、〇〇〇	
雜給雜費	一三一、八一〇	書記及役職員年末慰勞金其の他
計	二、六三五、八一〇	

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

■最近の學事狀況　大正九年初めに於ける廳下小・公學校數は小學校十四、同分教場二、學級數四十六、公學校五十七、分校八、學級數四百七十九、外に公學校併置の簡易實業學校六、學級數十一なりしが、大正九年四月一日以降左の如く學校及び學級の增加を見るに至れり。

種別	增加學級數	新設學校	分教場又は分校を獨立したるもの	分校新設	分教場の廢止せられたるもの
小學校	四	二	一	—	一
公學校	三	三	八	八	—

右の結果、廳下の現在小學校は尋常高等小學校十、尋常小學校七、學級數五十、公學校は本校六十八、分校八、學級數五百九十、外に簡易實業學校六、學級數十一にして、之を大正元年四月一日現在の小公學校數四十四、學級數百六十四に比すれば、實に校數に於て四十九、學級數に於て四百七十六の增加にして、約四倍の激增を示せり。

今計劃中に屬するもの及施設を要するものを揭ぐれば左の如し。

▲現在計劃中に屬する重なる事項　本島人幼稚園の增設　共學制の施行に伴ひ近時各地方に於て本島人幼稚園の設立を希望するもの漸次增加の傾向あり、本島人同化の根本的施設として此種幼稚園の增設は歡迎する所なるを以て、一般の負擔力に影響を及ぼさゞる範圍に於て、可成富豪有志家の寄附金を以て維持費に充當するの計劃にて目下進行中のもの鹿港・大甲・東勢角・臺中・阿罩霧等の數個所あり。

▲至急施設を要する主なる事項　近年教育の發展と共に年々學級の增加に伴ふ教員補充は最も困難を感ずる所なるを以て、之れが救濟策として臺中に師範學校設立の必要を認め、目下申請中に在り、其趣旨左の如し。

（參考）

本廳下出身臺北師範學校在學者		一八七名
同　臺南師範學校在學者		二〇名
入學志願者數		
大正七年度	臺北	二九七名
同	臺南	二八〇名
大正八年度	臺北本科	三〇〇名
	臺北豫科	一五〇名
大正九年度	臺北豫科	二八〇名

▲臺中師範學校の設立申請の趣旨

公學教育の普及に伴ひ逐年學校の新設と學級の增加を來し、之に要する教員の配置は年々多大の苦心を拂ふ所なりしが、試みに大正八年度に於ける實例を擧ぐれば、訓導（本島人）定員は二百二十三名なるに其の現員（十二月末）僅かに百二十八名に過ぎずして、實に約半數以上の缺員を示し、每年百學級以上の增加に對し漸く三十名内外の卒業者を得るの狀勢なるを以て、到底膨脹する教育の施設に適應する能はず、數年後に於ては夥しき缺員を生ずるに至るべきは察するに餘りあり、而して之を補ふに教育素質の低級なる代用教員を以てせんか、其結果は蓋し推するに難らず、故を以て當廳に於ては臺中に師範學校を設立し、當廳及近接各廳下に配置すべき本島人教員の養成を計らんとし、今回其筋に之が設立を申請するに至れり。

今翻って廳下に於ける師範學校入學志願者を實査するに、大正八年度には本科二百名豫科百五十名、同九年度には二百八十名を算せるに、其收容人員は大正八年に於ては本科五十名豫科四十九名、同九年には七十一名に過ぎず、若し夫れ廳下に師範學校を設立せんか、當廳下のみの志願者を以てするも優に二學以上の生徒を選拔し得べく、倘中部各廳下の志願者を收容するときは、其應募者の多きに苦むは現在以上に達すべきを疑はず、是れ中部臺灣に於ける教員補充の根本的施設策として師範學校の新設を要望する所以なり。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

■臺中公會堂及御大典記念體育會の財團法人組織　豫て財團法人組織許可出願中なりし臺中公會堂は去る七日、御大典記念體育會は同十二日、孰れも許可せられたり、其寄附行爲左の如し。

▲財團法人臺中公會堂寄附行爲

第一章　總則

第一條　本財團ハ學術、技藝、宗教、慈善其ノ他公益ニ關スル集會ノ設備又ハ臺中廳管内士民ノ公共事業ヲ補ケ且ツ懇親ヲ圖ルヲ以テ目的トス

第二條　本財團ハ財團法人臺中公會堂ト稱ス

第三條　本財團事務所ヲ臺中五百拾五番地ニ置ク

第二章　資産

第四條　本財團ノ資産左ノ如シ

（一）設立者其ノ他ノ寄附金品額七萬八千五百七拾八圓九拾參錢、（二）將來寄附又ハ贈與ヲ受クヘキ金錢及物件、（三）事業ノ經營及所有財産ヨリ生スル收入金

第五條　資産管理及處分ニ關スル事項ハ評議會ノ決議ヲ經テ別ニ之ヲ定ム

第三章　役員

第六條　本財團ニ理事五名ヲ置キ内一名ヲ理事長一名ヲ副理事長ニ充ツ

理事長ハ會務ヲ總理シ本財團ヲ代表ス

副理事長ハ理事長ヲ補佐シ理事長事故アルトキハ之ヲ代理ス

理事ハ理事長ノ指揮ヲ受ケ會務ヲ分掌ス

第七條　本財團ニ監事三名ヲ置ク

監事ハ本財團ノ財産竝會務狀況等ヲ監査シ必要アル場合ニ於テハ之ヲ評議會又ハ主務官廳ニ報告ス

第八條　本財團ニ評議員三十名ヲ置ク

評議員ハ本財團ニ關スル重要事件ヲ審議ス

第九條　役員中理事長ニ充ツル理事ハ臺中廳長ニ副理事長ニ充ツル理事ハ臺中公共團長ニ囑託シ其ノ他ノ理事監事及評議員ハ理事長之ヲ囑託ス理事（理事長副理事長ヲ除ク）監事及評議員ノ任期ハ二箇年トス但再任ヲ妨ケス

前項ノ役員中補缺トシテ選任セラレタル者ノ任期ハ前任者ノ殘任期間トス

第十條　理事監事及評議員ハ名譽職トス

第十一條　事務所ニ事務員若干名ヲ置クコトヲ得

事務員ハ理事ノ指揮ヲ受ケ庶務ニ從事ス

事務員ニハ俸給又ハ手當ヲ支給スルコトヲ得

第四章　評議會

第十二條　評議會ハ評議員ヲ以テ組織シ理事長之ヲ召集ス

第十三條　評議會ハ理事長ヲ以テ議長トシ評議員三分ノ一以上出席スルニアラサレハ決議スルコトヲ得ス

第十四條　左ニ掲クル事項ハ評議會ノ決議ヲ經ルヲ要ス

（一）每年度ノ收入及支出ノ豫算、（二）每年度ノ收入及支出ノ決算、（三）其ノ他重要ナル事項

第五章　變更及解散

第十五條　本寄附行爲ハ第一條ノ規定ヲ除ク外評議會ノ決議ヲ經主務官廳ノ許可ヲ得テ變更スルコトヲ得比ノ場合ハ評議員半數以上ノ同意アルヲ要ス

本財團解散ノ場合亦前項ニ同シ

第六章　雜則

第十六條　本財團ニ對シ金品ノ寄附ヲ爲シタルモノハ相當待遇ヲ爲ス其ノ方法ハ評議會ノ決議ニ依リ之ヲ定ム

第十七條　事務所ニ左ノ帳簿ヲ備フ

（一）寄附簿帳、（二）財産臺帳、（三）收入簿、（四）支出簿、（五）現金出納簿

第十八條　本財團ノ會計年度ハ政府ノ會計年度ニ準ス

每年四月ニ於テ前年度收支決算ヲ公告ス

▲財團法人御大典記念體育會寄附行爲

第一章　總則

第一條　本財團ハ大正四年擧行セラレタル御卽位御大典ヲ記念センカ爲設立シ體育ヲ奬勵シ士氣ヲ鼓舞スルヲ以テ目的トス

第二條　本財團ハ財團法人御大典記念臺中體育會ト稱ス

第三條　本財團法人ハ本部ヲ臺中廳臺中ニ置ク

臺中廳各支廳ニ支部ヲ設置スルコトヲ得

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

第四條　本財團事務所ハ臺中九百八十八番地ニ置ク

第五條　本財團ハ主トシテ左ノ體育事項ヲ奬勵施行ス

(一)教育的遊戲運動、(二)軍隊的武技、(三)擊劍、(四)柔道、(五)弓術、(六)本島式演武、(七)野球、(八)テニス、(九)角力、(十)競馬、(十一)自轉車競爭、(十二)徒歩競走。

第二章　資　產

第六條　本財團ノ資產左ノ如シ

(一)設立者位其ノ他ノ寄附金品額五千二百七拾七圓九拾五錢、(二)將來寄附又ハ贈與ヲ受クヘキ金錢及物件、(三)事業ノ經營及所有財產ヨリ生スル收入金

第七條　資產管理及處分ニ關スル事項ハ評議會ノ決議ヲ經テ別ニ之ヲ定ム

第三章　役　員

第八條　本財團ニ理事五名ヲ置キ内一名ヲ理事長一名ヲ副理事長ニ充ツ

理事長ハ會務ヲ總理シ本財團法人ヲ代表ス

副理事長ハ理事長ヲ補佐シ理事長事故アルトキハ之ヲ代理ス

理事ハ理事長ノ指揮ヲ受ケ會務ヲ分掌ス

第九條　本財團ニ監事三名ヲ置ク

監事ハ本財團竝會務狀況等ヲ監査シ必要アル場合ニ於テハ之ヲ評議會又ハ主務官廳ニ報告ス

第十條　本財團ニ評議員三十名ヲ置ク

評議員ハ本財團法人ニ關スル重要事件ヲ審議ス

第十一條　役員中理事長タル理事ハ臺中廳長ニ囑託シ副理事長理事及評議員ハ理事長之ヲ囑託ス

理事(理事長ヲ除ク)監事及評議員ノ任期ハ三箇年トス但シ再任ヲ妨ケス

前項ノ役員ニシテ補缺トシテ選定セラレタル者ノ任期ハ前任者ノ殘任期間トス

第十二條　體育事項ヲ奬勵施行スル爲各部ニ幹事長及委員ヲ置キ理事長之ヲ囑託ス

第十三條　理事幹事評議員幹事長及委員ハ名譽職トス

第十四條　事務所ニ事務員ヲ置クコトヲ得

事務員ハ理事ノ指揮ヲ受ケ庶務ニ從事ス

事務員ニハ俸給又ハ手當ヲ支給スルコトヲ得

第四章　評　議　會

第十五條　評議會ハ評議員ヲ以テ組織シ理事長之ヲ召集ス

第十六條　評議會ハ理事長ヲ以テ議長トシ評議員三分ノ一以上出席スルニアラサレハ決議スルコトヲ得ス

第十七條　左ニ揭クル事項ハ評議會ノ決議ヲ經ルヲ要ス

(一)每年度ノ收入及支出ノ豫算、(二)每年度ノ收入及支出ノ決算、(三)其ノ他重要ナル事項

第五章　變更及解散

第十八條　本寄附行爲ハ第一條ノ規定ヲ除ク外評議會ノ決議ヲ經主務官廳ノ許可ヲ得テ變更スルコトヲ得此ノ場合ハ評議員半數以上ノ同意アルヲ要ス本財團解散ノ場合亦前項ニ同シ

第六章　雜　則

第十九條　本財團ニ對シ金品ノ寄附ヲ爲シタルモノハ相當待遇ヲナス其ノ方法ハ評議會ノ決議ニ依リ之ヲ定ム

第二十條　事務所ニ左ノ帳簿ヲ備フ

(一)寄附臺帳、(二)財產臺帳、(三)收入簿、(四)支出簿、(五)現金出納簿

第二十一條　本財團ノ會計年度ハ政府ノ會計年度ニ準ス每年四月ニ於テ前年度收支決算ヲ公告ス

■納稅狀況　大正八年後期分地租は廳下主產物たる米價の高値持續と一般農產物の價格昂騰等に依り、經濟界に空前の盛況を呈し、金融亦頗る圓滿にして、殊に農民の經濟は從來嘗て見ざる豐富を極め、徒に多額の遊資を擁し投資に焦慮しつゝあるの狀態なりしを以て、從て一般納稅狀況も從來嘗て見ざるの好成績を得たり、今各支廳別其成績を揭上すれば左の如し、

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

直轄及支廳	科目	納定濟額	收入濟額	納期內收入未濟額	收入歩合
直轄	地租	円 一二四、四七五・四三	円 一二四、四七五・四三	—	完納
	官租	二〇、八一九・八五	二〇、八一九・八五	—	同
北斗	地租	四八、五三四・二六	四八、五三四・二六	—	同
	官租	二、一七一・〇〇	二、一七一・〇〇	—	同
員林	地租	七一、六四九・二二	七一、六四九・二二	—	同
	官租	二、五九一・三五	二、五九一・三五	—	同
沙轆	地租	五四、〇二八・九五	五四、〇二八・九五	—	同
	官租	六三三・〇五	六三三・〇五	—	同
鹿港	地租	三九、四九二・九六	三九、四九二・九六	—	同
	官租	四、三七三・五〇	四、三七三・五〇	—	同
大甲	地租	四七、二四八・八八	四七、二四七・〇三	一・八五	〇・九九九強
	官租	八九四・〇五	八九四・〇五	—	完納
彰化	地租	八八、〇二四・三九	八八、〇二三・八三	〇・五六	〇・九九九強
	官租	七、五五八・七〇	七、五五八・七〇	—	完納
二林	地租	二九、六三五・七八	二九、六三五・〇七	〇・七一	〇・九九九強
	官租	一、一七〇・六〇	一、一七〇・六〇	—	完納
東勢角	地租	二、九六五・七五	二、九六四・六一	一・一四	〇・九九九強
	官租	二三二・九〇	二三二・九〇	—	完納
葫蘆墩	地租	六〇、八三四・八九	六〇、八三一・七七	三・一二	〇・九九九強
	官租	四、八四七・八〇	四、八四七・八〇	—	完納
合計	地租	五七七、八九〇・五〇	五七五、八八三・一二	七・三八	〇・九九九強
	官租	四五、二九二・八〇	四五、二九二・八〇	—	完納

■西伯利亞出征軍慰問袋の募集　日本赤十字社篤志看護婦人會臺中分會に於ては、三月二十日よりシベリヤ出征軍慰問の目的を以て慰問袋の募集に著手し、四月十五日〆切迄、直轄に於て一千百六十三箇、各支廳に於て一千三百十七箇、計二千四百八十箇の應募數を得、非常なる好成績を收めたり。

■蕃地警察隊慰問袋募集　愛國婦人會臺中幹事部にては豫て動搖せる蕃地警戒に從事せる警察隊員慰問の爲め、五月六日より慰問袋募集に著手し、十二日〆切迄、七百餘袋の取纏めを了し夫々蕃地に向け發送せり。

臺南廳

■新設學校授業開始　大正九年度に於て新設したる三塊店小學校は四月一日より、蘇荳第二・茅港尾・塭仔內・安業の各公學校及仁武・五甲尾・竹仔港・園仔內・三塊店・茄拔・蘇荳寮及歸仁南の各分校は四月二十日より何れも授業を開始せり。

■南部四廳聯合學事講習會　臺南・嘉義・阿緱及澎湖の四廳聯合學事講習會は安平公學校に於て開催することとし、七月九日より三週間理科・地理及體操の講習を行ふ豫定にして、各廳よりの出席人員は臺南・嘉義各二十名、阿緱十五名、澎湖五名なり。

■臺南廳學事講習會　七月五日より三週間臺南廳に於て開催すべき地方學事講習會は、第一部は小公學校內地人敎諭約四十名にして理科・體操及唱歌の講習を爲し、第二部は之を甲乙丙の三組に分ち訓導心得男女九十名に修身・國語・算術及敎授法(女子には裁縫を加へ)の講習を爲す豫定なり。

■臨時敎員養成　大正九年度に於て施行すべき臨時敎員養成講習會の會期は、五月二十日より翌一月に至る十箇月とし、臺南・鳳山及蘇荳の三箇所に會場を設け男百二十名、女二十名、計百四十名の養成をなす豫定にして、其の講習方法として從

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

來に改良を加ふべき點は、一箇月間實地練習として講習員各自を其出身公學校に歸校せしめて練習せしむるにあり。

■教務打合會　大正九年度第一回小公學校教務打合會は左の通り開催すべく決定せり。

開催月日	組	參加者	開催學校
五月十六日	公學第一部	學校長分校主席訓導心	學甲公學校
同　廿三日	同　第二部	同	漚仔寮分校
同　廿六日	小學第一部	學校長	蔴荳小學校
同　三十日	公學第三部	學校長分校主席訓導心得	內庄公學校
六月六日	同　第四部	同	安順寮公學校
同　十日	小學第二部	學校長	橋仔頭小學校
同　十三日	公學第五部	學校長分校主席訓導心得	大灣分校
同　二十日	同　第六部	同	長治公學校
同　廿七日	同　第七部	同	蕭公園公學校

■實業補習夜學校卒業式　私立臺南實業補習夜學校第一回卒業證書授與式は、五月一日午後七時より臺南公館に於て擧行せるが、今回の卒業生は八名にして內三名の本島人あり。

同校現在生徒數約九十名にして之を一、二、三學年に分ちて毎夜二時間の授業を爲し、其成績も亦見るべきものありて世人は彼等の前途に對し多大の望を嘱しつゝあり。

■臺南圖書館近況　臺南圖書館は大正八年九月十三日開館以來日々平均三十名內外の閲覽者あり、閲覽圖書の主なるものは、小說類にては黑岩涙香著の死美人・非小說、浪六著の俠骨三人男・德富健次郎著のみゝずのたはごと、奥野他見男著の大學出の兵隊さん、同であります物語等にして就中博文館發行の世界童話及イソップ物語は共に內臺人の歡迎する所たり。又法律・經濟・社會學にては國民經濟講話・民法釋義・現行法令輯覽・帝國憲法述義・日本六法全書・民法實用詳解・進化の意義・社會問題・敎育之社會・婦人運動・現代社會心理等、宗敎方面にては法華經行者日蓮・日蓮の勤王主義・日蓮聖人と耶蘇・我が日蓮主義・禪機世機等、地理・歷史・傳記類にては大日本歷史・東洋歷史集成・國史概說・大日本地理集成・豐臣秀吉・西鄉南洲・兒玉大將・星亨・大山元帥・孔子・通事吳鳳等、新刊雜誌にては中央公論・太陽・中學世界・文章世界・早稻田文學・敎育研究・勞働世界・小學校・新小說・講談俱樂部・娛樂世界・野球界・飛行界・武俠世界・冒險世界・經濟論叢・六合雜誌・少年俱樂部・世界少年・日本少年・少女の友・少女畫報等の閲覽者少なからず。其他辭書・中等學校敎科書等歡迎されつゝあり。尚最近同館の新築を行はんとして敷地其他に就き種々計畫中にあり。

■臺南慈惠院概況　(一)大正八年度中當院に於ける窮民救養の狀況は左表の通にして前年に比し救養延人員八〇四六人、衣食費一〇二八圓八八錢の增加を示せり。衣食費は一人當年額五十五圓の範圍內にて支辨し來りたるも、一般諸物價の昂騰に鑑み大正九年度よりは七十四圓に增額實施の運に至れり。

救養狀況　大正八年中

種別	前年末現在	新救養	計	救養廢止	死亡	本年末現在	救養延人員	救養衣
院內外救養者、	七八	二五	一〇三	四	一四	八五	二八、五三二	六三、一九八・六〇〇
盲啞生	六八	一七	八四	一七	二	六五	二五、五三二	五、四八二・九九〇
計	一四六	四二	一八七	二一	一六	一五〇	五四〇六四	六八、六八一・五九〇

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

附記　盲啞生とあるは附屬臺南盲啞學校生徒にして、延人員中六八五〇人は院内自費生及他院委託生とす（此他通學生は計上せず）

（二）附屬臺南盲啞學校に於ては相當に效果を擧げて既に六十三名の卒業者を出し、内三名死亡せるの外孰れも修得せし所に依り自活しつゝあり。

（三）地方廳の委託に依り收容せし行旅病人の救護狀況は左表の通にして前年に比し收容延人員九七〇人、救護費三九〇圓三七錢を遞減せり。之れ一般經濟界の好況に伴ひ遊民減少の結果なるが如し。

行旅病人救護の狀況　大正八年中

前年末現在	新收容	計	全治	其他	死亡	本年末現在	收容延人員	救護費
九	一二五	一三四	一一六	六	四	八	二、四二七	二、二六五・四八〇

（四）建物の新設　盲啞學校寄宿生炊事場・小使室・渡廊下等建設の要ありて工費三千圓を投じ昨年十月中之が工事に著手して十一月竣功、多大の利便を見るに至れり。

（五）財產及會計　大正九年三月末基本財產竝收支の成績は左の通りにして、基本財產中土地建物の一部は其の見積價格數十年前の査定に係るものなるを以て、若し時價を以て計上せば約六倍强に達する見込みなり。

▲基本財產

土地	三六一筆　三二九甲四八七三	見積價格	一〇二、八三六・一九九
建物	三四戸　一七〇〇坪八	同	四二、一五〇・八〇九
現金			四五、五九三・〇二五
有價證券三通			三〇〇・〇〇〇
計			一九〇、八八〇・〇三三

▲收支

區分	豫算額	收入濟額 支拂濟額	豫算に對し增△減
歳入	二七、八九七・〇五〇	三〇、〇七四・五五〇	二、一七七・五〇〇
歳出	二七、八九七・〇五〇	二五、〇六四・六三〇	△二、八三二・四二〇

附記　支拂濟額の内一六、〇一三圓一三〇は實に盲啞學校經營の爲め支出せしものにして、盲啞生衣食費其の他一般經費を計上せり。

（六）將來施設を要する事項の重なるもの左の如し。（イ）一般窮民の施療　現今臺南廳下に於ける貧民施療の狀況を概觀すれば臺南醫院の外民間之を行ふ者ありと雖ども被施療者の身分其の他の點に關して或る製限を設くるを以て、之が恩惠に與る者は極めて少數なる一部の貧民に限れるが如し。依て適當の方法に依り弘く貧困なる病者に施療をなし、以て生業に堪ふるの途を講ずるの緊要なるを認む。（ロ）盲啞學校手藝傳習所竝寄宿舍の新設　啞生の手藝を一層徹底的ならしむる爲適當の手藝を撰定し、生徒の個性體質及特長等を考察して之れに適切なる工業教育を施し、卒業後生計の安定を得せしむべく考慮中なり。尙盲啞生寄宿舍は現に狹隘を感ぜるのみならす。近時一般向學心の勃興に伴ひ盲啞生の如きも亦新入者漸次增加の氣運に在るを以て相當增築を爲すの必要に迫れり。（ハ）其の他既に決定せる本島人遊廓指定地に屬する養魚池埋立工事の如き、大正九年度に於て必ず起工を要すべきものなり。

■煙草小賣人組合　臺南市に於ける臺南煙草小賣人組合は從來臺南市の營業者のみを以て組織し居たりしが、今回之を解

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

散して更に當廳直轄及楠梓坑・阿公店・關帝廟・大目降・噍吧哖・灣裡・六甲・蘇荳・蕭壠・北門嶼の各支廳下に於ける小賣人を一團とせる者を以て新たに臺南煙草小賣人組合を組織し、四月十五日臺南公館に於て創立總會を開き、新に規約を議定して組合長及副組合長の選擧を行ひたるが、從來通り組合長に酒井吉助、副組合長に李强何れも當選就任せり。

■甘蔗害蟲驅除狀況　甘蔗作に於ける主なる害蟲は螟蟲類・蔗龜類及土猴・螻蛄の四種類にして、之等は甘蔗の發芽當時は其の嫩莖、生育期中は根莖に大害を與へ、啻に甘蔗の收穫量を減ずるに止まらず、多くは其の被害部より恐るべき赤腐病を誘發して糖分の生成を惡化する等、其損害三割以上に及ぶこと珍しからず。玆に於て當局は大正元年より年々鉅費を投じて本害蟲の買收驅除を計畫實施せらるゝに至れり。爾來每年之を反覆繼續實行すること玆に八箇年に及び、年々相當の成績を擧げ來たれる結果近時甘蔗作に於ける此の種被害の程度は著しく輕減せられ、往時の如き慘害を認めざるに至れり。今當廳に於ける大正八年度中の買收驅除の實績を見るに、一期二期を通じ七箇月間に亙りて間斷なく蔗農者を指導督勵して之が撲滅に努めたる結果、蔗園二萬三千甲步より採取したる害蟲總數五千二百四十八萬八千五百九疋にして、蔗園一甲に付二千二百三十八疋に相當し、當初の豫定に超過すること實に六百四十八萬八千疋に達したり。之を前年度の成績に比するときは害蟲總數に於て八百六十三萬六千疋、蔗園一甲當に於て七百四十六疋の減少を來たせり。而して本年採取せる害蟲を其の種類別にすれば蔗龜類三千二十八萬餘にして全體の五割七分を占め、土猴及螻蛄千百八十萬餘にして全體の二割三分、螟蟲類一千四十萬餘にして全體の一割九分に相當せり。期節と採取害蟲數との關係を見るに、採取の最も多きは六月にして七月、三月、五月、之に亞ぎ、最も少きは十二月なりとす。是れ當月は甘蔗の刈採中に棲息せる蔗龜の幼蟲を採取する時期にして、時恰も甘蔗の收穫と相俟て作業すべき關係を有するに因るものなりとす。今期に於ける節別採取成績を擧ぐれば左の如し。

▲季節別害蟲採取成績

種類	第一期			第二期				合計
	五月	六月	七月	十二月	一月	二月	三月	
螟蟲類	二、六〇五、三三〇疋	五、〇九七、九五五	二、五四九、八七一	一〇九、六三五	二〇四、〇一〇	二〇四、〇一〇	一、〇三四、一四一	一〇、四六一、五六〇
同卵塊	一四七疋	二、三五九	三一四	—	六六	—	一、九四四	四、五八〇
蔗龜類	四、三三五、〇四〇疋	四、八〇一、四〇五	四、四二五、四四四	一九五、六八七	二、一〇七、五五二	六、三五四、〇八〇	八、二七一、四四三	三〇、二八〇、四三五
土猴螻蛄	二、一八二、一二五疋	四、一四四、八八五	五、六五五、七七六	二〇四、八五五	三五五、八九一	四三三、四四四	二〇四、九六三	一一、八〇〇、八六六
計	九、〇一七、八五五	一四、〇四六、五九五	一〇、七一四、三六一	五一〇、一六七	二、九六六、四八五	七、五九〇、二〇四	九、九三一、六九八	五二、四八八、五〇九

買收金は害蟲百疋に付金五錢の割合にして、內二錢は關係製糖會社に於て負擔し、尙買收費として計上せる國庫金の豫定額に不足を告ぐるときは製糖會社之を負擔補足すること、せり。而して大正八年度に於ける買收金額は二萬六千二百四十九圓にして內國庫費支辨、九千二百圓、製糖會社負擔一萬七千四十九圓の割合なりとす。今製糖會社の負擔金の內譯を示せば左の如し。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

會社別	害蟲類	買收金
臺灣製糖	二三、七五〇、一三〇斤	七、七二二、〇〇〇円
明治製糖	一一、七五〇、一三〇	三、七八七、〇〇〇
鹽水港製糖	一三、四三一、四二三	四、〇四一、〇〇〇
臺南製糖	二、二一九、六四九	一、〇一一、〇〇〇
新興製糖	一、五二六、二九一	四九五、〇〇〇
計	五二、四八八、五〇九	一七、〇四九、〇〇〇

成績の概要以上の如くにして年々驅除の效果を奏しつゝあるも、當局に於ては更に天然驅除の目的を助長する爲め、螟蟲卵に寄生する寄生蜂の繁殖普及を實行し、著々良績を擧げつゝあり。又蔗龜に寄生する自彊菌の培養研究に腐心しつゝあれば將來は科學の應用に依る人爲的驅除は勿論、天然的驅除方法も亦一層顯著なる效果を奏するに至らん乎。

■產業組合設立　當廳下各地方に於ける既設產業組合は孰れも順調の成績を擧げ、當局の指導誘掖に依り益々堅實なる發達を遂げ、地方產業に資益すること愈々顯著なるものあるを以て未だ之を設置せざる地方は近時續々設立の計畫を爲し、本年三月中に設立許可を受けたるもの五組合に及び。既設二十組合を合して現在二十五組合の多きに達せり。今三月中に許可せられたるものを表記すれば左の如し。

名稱	許可月日	創立總會月日	組合長氏名	組合員數	出資總口數	出資總額
大湖信用組合	三月七日	三月廿七日	林清泉	五〇四人	一、一九〇口	二三、八〇〇円
舊城信用組合	三月八日	三月廿三日	鄭新芬	二八六	二、三九三	四七、八六〇
彰鹿港信用組合	三月十三日	四月六日	石米田	四五〇	一、二七二	二五、四四〇
阿緱信用組合	三月十五日	四月八日	林富	四九九	一、一〇〇	二二、〇〇〇
臺南廳員購買組合	三月十七日	三月廿二日	枝德二	四三一	六六一	六、六一〇

■臺南廳農會豚舍改良事業　本會第二次養豚改良事業は從來の施設事項以外更に時運の要求に隨ひ豚舍改良事項を加へ、從來粗放なる養豚業をして益々集約的の經營に誘導することを企圖せり。而して之が目的は豚の衛生狀態を良好ならしむること、肥料集積に便ならしむること、及飼養管理上便益ならしむることの三項にして、地方の狀況に依りては牛舍と共に併せて改良し、以て本施設の意義を徹底せしめんことを期せり。即ち農會に於て一定の指定條件を附し豚舍新築或は改造を爲さしめ竣成後技術員をして其の構造の適否、規模の大小、耐久性其の他を檢査せしめ、奬勵金を交付して之が普及を圖らんとせり。今大正八年度に於ける各支廳別新設或は改善したる棟數、建築數、奬勵金交付額を表示せば左の如し。

支廳別	建設棟數	經費總額	奬勵金交付額	摘要
大目降	七二	三、〇七三・〇〇〇円	四九一・二〇〇円	全部新築
關帝廟	一五七	八、一六二・〇〇〇	一、一六六・〇〇〇	改善したるもの一〇棟を除き他は悉く新築
楠梓坑	三九	二、二〇四・〇〇〇	二六三・〇〇〇	全部新設
鳳山	二七	一、四三六・〇〇〇	一七九・五五〇	同
計	二九四	一四、八七五・〇〇〇	二、〇九九・七五〇	

尚大正九年度は更に交付すべき奬勵金豫算額を三千五百圓に、改良豫定數を五百棟に增加し主として臺南以南の地を限

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

り之を實施せんとす。卽ち之を支廳別に示せば左の如し。

關帝廟	一五〇棟	阿公店	五〇棟
楠梓坑	五〇	打狗	三〇
鳳山	二二〇	計	五〇〇

■年度繰越工事狀況　大正八年中は諸材料價格並に職工賃金等暴騰の爲め、工事競爭入札の都度豫算金に不足を來して工事の不成立に終るもの多く、爲に設計變更其他の方法に依りて漸く請負入札確定するに至るも、工事の主要材料たる煉瓦及セメント等の現品常に手薄にして折々品切れとなることあるのみならず、鐵道貨車配給不足のため運搬意の如くならず、加之全島各地に蔓延したる流行性感冒のため職工人夫の休業相踵ぎ工事進捗上齟齬を生せしこと少なからざりき。其結果縱貫道路改修工事、下淡水溪護岸工事、風水害復舊土木工事、打狗市區改正工事、地方稅特別賦課に依る道路橋梁改修工事、臺南廳々舍增築工事、臺南第一小學校々舍新築工事、打狗小學校々舍增築工事、臺南廳官舍新築工事、大目降支廳官舍復舊工事、赤崁樓修繕工事外六件の年度繰越工事を見るに至れり。

■少年犯罪數調　大正九年自一月至四月、十六才以下の少年犯罪者の狀況左の如し。

一月	なし	二月	本島人男　失火　一件
三月	本島人男　竊盜　一件	四月	同　男　竊盜　二件 失火　一件

■阿片煙膏賣下數量　大正九年三月分阿片煙膏賣下數量左の如し。

一等賣下	四百〇七貫七百匁	販賣	三百七十一貫五百六十一匁七分大厘
三等同	九貫三百匁	同	七貫五百十二匁五分七厘

阿緱廳

■區長會議開催　三月十八日より三日間に亙り、廳下各區長を本廳に召集して區長會議を開催し、各課提出諮問事項四件、注意事項十二件、各區提出協議事項十八件を審議閉會せり。

■區長事務研究總會　區長役場事務の改善發達を圖る爲め。廳下各區長を以て一團としたる區長事務研究會なるものを組織し、更に各支廳管內每に部會を設けて總會は年一回廳所在地に、部會は年三回各區輪番開會することゝし、昨年四月以降勵行し來れるが、開始後日尙淺きを以て未だ充分なる成績を認めずと雖ども、漸次其目的に副ひて發達しつゝあり。而して本年三月二十日區長會議終了後屏東會館に於て之れが總會を開會し、左の事項に付研究を遂げ散會せり。

(一)研究事項範圍に關する件、(二)部會開催顚末互報に關する件、(三)阿緱窮民救濟會組織に關する件、(四)阿緱神社大鳥居寄進に關する件、(五)區長事務補助の成績優良なる保正表彰の件、(六)國語練習に關する件、(七)水租の納付に關する件。

■地方稅定期調査成績　本調査は大正九年度地方稅及公學校歲入負擔金の賦課標準となるべきもの、査出を以て目的とし、大正九年一月より二月の間に於て大正八年中に於ける事實を調査したるものなり。

調査の方法は課稅標準たる建物賃貸價格及資產、生產に付ては調査の統一及調査の公平を期せんが爲め特に之に關する調査規程を設け、內地人所有家屋に對しては廳吏員之れを調査し、本島人所有家屋に對しては各當該區長をして之れが調査に當らしめ廳吏員之を監督せり。營業稅に對しては諸種の

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

情報及官公署・會社・組合等に就き直接又は間接に蒐集したる資料並監視の實績等を參考として實地に各營業者の營業場又は住所、雜種税に屬する諸物件に付ては其物件の所在地又は物件所有者に就き尤も綿密なる調査を遂げたり。是れが調査の成績を見るに一般に亙り前年に比し計數の增大を示し、就中尤も其顯著なるは土地の價格なりとす。是れ謂ふ迄でもなく近時本島に於ける民人一般の財力の進歩に伴ひ益土地に對する觀念を喚起し、寸丘尺堤を尙且つ競ふて之を取得せんとして東奔西走するが如き所謂土地熱の勃興を見るに至れる結果にして、其の騰貴の割合は約八割なり。營業税は各種類に依り多少の差異あるも之れを平均するときは五割二分の增率を示せり。之れが主因は諸物價の昂騰にあるは勿論なるも亦廳下に於ける各種商工業の急速なる發展を表示せるものたらずんばあらず。而して雜種税は僅に一割强の增を見るのみにて之れを前二者に比較するときは頗る遺憾なる成績なりとす。是れ卽ち雜種税中尤も重要なる屠畜税の課税標準たる豚の價格が中北部市場に於て著しく好況なるを以て生豚の儘廳外へ輸送さるゝもの頓に增加せると、一面前々年來獸疫廳下各所に發生して幾分の生産の發達を害したるものあるとに因るものゝ如し。

以上調査實績は左表の如し。

▲課税標準及物件數

種類	區分	標準及物件數	人員	備考
家税		四一、六九四	—	

種類		區分	標準及物件數	人員	備考
家税	家税	戸數	五二、八二一	—	
		資産額	七〇、三三八、三一七円	四一、四五五	
		生産額	八、三八五、八三三円		
		建物貸貸價格	三三三、四四〇円	四〇〇	
營業	物品販賣業税	卸賣甲	四、一四六、七〇〇円	四六、三三三	卸賣甲は米、砂糖、石油、肥料に對する販賣高を示す、乙は前記以外全部の卸賣販賣高を示す、小賣は總て全部を示す
		卸賣乙	四、二一六、九四〇円		
		小賣	一四、七七六、四九二円		
	貸付業税	金錢貸付	三七、八〇〇円	一九八	
		其他の貸付	七三、〇四八円		
	運送業税	運送人	一五九、五三〇円	二七	
		運送取次人	五一、一四〇円		
	旅人宿業税 旅籠屋	收入金	六六五〇円	四四	收入金及賃貸價格は月割額を揭上す
		建物賃貸價格	六八三		
		從業者	二一人		
	旅人宿業税 下宿屋	收入金	三八〇円		
		建物賃貸價格	三六		
	旅人宿業税 木賃宿	收入金	一九四		
		建物賃貸價格	二〇		
	料理店業税	收入金	三一、九一〇円	三九	同前
		建物賃貸價格	一〇、六三三		
		從業者	三三人		
	飲食店業税	收入金	一五、二一〇円	八一	同前
		建物賃貸價格	四六五		
	請負業税	土木、勞力	七一八、九一〇円	一五六	

税	周旋業税	其他	七六、八七六円	五	
	代理商業税	報償金額	一、三二六		
	仲立業税	同	四、四〇七	一七	
	問屋業税	同	一五〇	二	
		同	四七、四一〇	一〇	
	製造業税	収入金額 甲	七二九、四二〇円	四三〇	甲は籾摺、精米（単に賃銭を得るものは含まず）収入を示す、乙は砂糖製造収入を示す、丙は前記甲乙に属せざるものを示す
		乙	一六、三五五、八三六		
		丙	四、四七六、〇八〇		
	印刷業税	収入金額	一六、四〇〇円	四	
	写真業税	同	七、五〇〇	四	
雑	湯屋税	湯・槽	三坪	六	
	理髪税	店営業	二四人	二八	
		使用人	四三		
		行営業	一〇四		
		使用人	六		
	遊芸師匠税		一人	一	
	遊芸稼人税	内地人 十三年以上	一人	三七	
		内地人 十三年未満	|		
		本島人	三六人		
	俳優税	内地人 十三年以上	一人	二	
		内地人 十三年未満			
		本島人	一人		

種	芸妓税	内地人 十三年以上	三人	五一	
		内地人 十三年未満	一		
		本島人 十三年以上	一六人		
		本島人 十三年未満	一		
	市場税	一等 一萬六千圓以上一萬七千圓未満	一	二	市場税の標準欄は各等級に依る市場の数を示せり
		一等 五千圓以上六千圓未満	一		
		一等 三千圓以上四千圓未満	一		
		一等 二千圓以上三千圓未満	一		
		一等 一千圓以上二千圓未満	三		
		二等	|		
		三等	三		
		四等	一		
	演劇税	一等	一四六日	六九	標準欄日数は各等級に依る開演延日数なり
		二等	九九		
	興行税	一等 五百圓未満	二日	五六	
		一等 四百圓未満	八		
		一等 二萬圓未満	八		
		一等 百圓未満	三		
		二等	一三四日		
		三等	|		
	遊技場税	玉突	四個	五	
		其他	二		
		長三間以上（日本形支那形船舶）	三三、二〇一石		

税			
船筏税	長三間未滿（日本形船 支那形船）	三九	八八六
	長三間以上筏	六八三	
	長三間迄筏	八七	
車税	自用人力車	五	一三、九三五
	營業人力車	一〇四	
	自轉車	四、一五三	
	鐵道車輛 客車	二	
	鐵道車輛 有蓋貨車	一五	
	鐵道車輛 無蓋貨車	一、〇六六	
	軌道臺車	二四	
	荷車 一等	四、一七六	
	荷車 二等	四、四八二	
	荷車 三等	一一〇	
轎税		一八二	一三〇
屠畜税	牛	一、三二一	九〇
	豚	七四、五一八	
	羊	一、九七二	

■農業　(一)第一期米豫察

作付面積　二〇、二四七甲
豫察石數　一九八、九一三石

第一期作は前月報し置きたるが如く、二月下旬より三月下旬に亙り稀有の旱魃ありし爲め阿緱以南に於ける植付に少からざる困難を生じ、爲めに前年に比し著しく作付の減少を示せり。植付後に於ても灌水不足の爲め生育を阻害せられたる地方多く、剰へ直轄・東港・潮州支廳下に於て三月下旬以降所々に螟蟲の發生を見收獲上多少の影響は免れず。今本期の豫察を前年及平年の同期に比較すること左表の如し。

	本期	前年	前年との比	平年	平年との比
作付面積	二〇、二九七甲	二〇、七四九	四四八甲減	一九、六四四甲	六五三甲增
收穫石數	一九八、九一三石	二二九、三九〇石	一割六步九厘減	二一五、七九八石	七步八厘減
一甲當收量	九・八〇石	一一・〇六	一割五步減	一〇・九八石	一割〇七厘減

(二)購買肥料配付　農會に於ける大正九年第一期購買肥料大豆粕二萬八千六百四十一玉、過燐酸石灰二萬七千六十三叺、調合肥料五千八百三十四叺は豫定の如く四月中旬より配付に著手し、蕃薯寮方面旗尾線輸送力の關係上同線輸送地域の引渡遲延せる外其他の地方は全部四月中に配付を了せり。而して本期は一般物價に伴れ肥料單價著しく高價なりしも、農會購買肥料は市價に比し猶一割內外の安値を以て一般購買者に滿足を與へたり。

■製糖狀況　阿緱廳下に於ける大正九年期製糖高は、新式工場(臺灣製糖阿緱、鹽水港製糖旗尾の二工場)四十三萬三千四百七十七擔、步留九步三厘七毛、改良糖廍(五箇所)六千六百三十二擔、步留八步七厘一毛、舊式糖廍(九箇所)二千八百五十四擔、步留八步八厘一毛、計四十四萬二千九百六十四擔、步留平均九步三厘六毛にして、之れを前年期の新式工場五十五萬四千二百五十七擔、改良糖廍一萬〇六百二十五擔舊式糖廍三千五百三十擔、計五十六萬八千四百十三擔に比し十二萬五千四百四十九擔を減じたるは、之前年來の米價其他一般作物の價格騰貴に依り田畑何れも蔗作の激減したるに依るもの

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

とす。殊に水田地に於て其作付急減したるは、甘蔗發育旺盛期即八月二十五日六日に亙り暴風雨襲來したる爲め其の被害甚大なりしに依る。今各製糖工場別に其產糖高を揭ぐれば左の如し。

大正九年期產糖高表（大正九年五月十日）

▲新式工場

工場名	壓搾原料	產糖高	步留	摘要
阿緱	三三四、四六三、二一〇斤	三一、六七一、八五〇斤	分厘下 九・四七	製糖開始十二月二十日 同終了五月八日
旗尾	一二七、八五七、四二〇	一一、六七五、八五五	九・一三	同開始十二月十六日 同終了四月二十六日
計	四六二、三二〇、六三〇	四三、三四七、七〇五	平均 九・三七	

備考　旗尾工場は右以外に移入原料糖二〇、八二三、三二八斤にして之れより再製糖一九、五七三、九二八斤を製し此の步留九割四分

▲改良糖廍及舊式糖廍

工場名	壓搾原料	產糖高	步留	摘要
山杉林	一、六三五、六八一斤	一四九、九八二斤	分厘毛 九・一六	水蛙潭、古亭坑の分は舊式の部に揭ぐ
內壇	九九四、六三〇	九二、一四六	九・六四	
狗氤氳	二、二一三、七一〇	二三六、九六九	一〇・七三	
新成	四四八、四八〇	三三、三〇〇	七・四〇	
恒春	二、三七六、六八一	一六〇、八九六	六・七七	
計（改良）	七、五二九、一八二	六六三、二五三	平均 八・七一	
水蛙潭	五二六、〇八〇	五一、七七九	九・八四	
古亭坑	三四二、四九〇	三四、二四九	一〇・〇〇	
韓晳廍	八八五、一九六	七六、三七六	八・六二	
林廍	三六一、七〇〇	三一、四五八	八・六九	
王啓智	一六二、二〇八	一一、四五六	七・〇六	
嚴添壽	二四六、六七八	一八、六三五	七・五五	
溪東	二二八、〇八五	一七、二八九	七・五八	
洪見滿	四三〇、三二一	三八、二五二	八・八八	
陳進發	六六、七九一	六、〇一二	九・〇〇	
計（舊式）	三、二三九、四九六	二八五、四九二	八・八一	
廳下總計	四七三、〇八九、三〇八	四四、二九六、四五〇	平均 九・三六	

■甘蔗露菌病驅除　廳下に於ける甘蔗露菌病は年々多少の發生あるを以て、成育期間に於て極力之が搜索驅除に努め、更に收穫時期に際し本病の驅除豫防を企畫實施するにも關らず未だ根絕の域に到達せずと雖も漸次減少の傾向を示し、昨年度の發生地域は五庄七箇所に限られ、大正七年度に比し四庄六箇所の減少を見たるの狀況なり。

本年度に於ては該病の根絕を期すべく搜索驅除豫防計畫を定め、其の實行方法に就ては去る四月十七日當廳に於て關係支廳長並に關係會社代表者を召集して之が打合會を開催して左記の如く決定し、四月十八日より搜索實行に著手せり。

(一)搜索驅除豫防の區域は前年期及前々年期に於て露菌病の發生したる地域、並に之に連續し又は蔗苗配給の關係等より本期發生の虞ある地域にして鹽水港製糖拓殖株式會社旗尾工場採取區域內蔗園面積約二千四百五十三甲とす。

(二)搜索期間は四月より十一月末迄にして之を四月より九月迄六箇月、十月より十一月迄二箇月の二期に分つ。

(三)搜索を廳員搜索補助員搜索の二となし、前者は巡視員の

數名を一團若しくは數團として捜索全區域に亘り二回施行し、後者は本島人苦力にして本病に經驗あるもの毎日二十名を會社より出役せしめ廳員監督の下に全捜索區域に對し毎月一回以上捜索するものとす。

(四)補助員捜索に對しては本病の發見を奬勵する爲め賞罰の方法を設け、罹病株一株につき初回發見五十錢次回五錢の奬勵金を會社に於て支拂ひ、尙補助員の捜索粗漏の爲捜索跡地に本病を發見せば被害株一株に付金五錢を圑員の賃金より控除するものとす。

(五)被害株を發見したる時は立毛の儘之を燒却し、其の殘株及驅除豫防上必要なる周圍の蔗株を堀起し地下二尺以上に埋沒す。

若し被害株多數なる場合若くば屢々被害甘蔗を發見せる蔗園に對しては廢耕するものとす。

■甘蔗害蟲驅除成績　大正八年度に於ける甘蔗害蟲驅除は當廳下新式製糖株式會社阿緱・旗尾兩工場原料採取區域内の蔗園約一萬五千二百二十五甲に對し、一甲當害蟲二千疋を採取する計畫の下に之が督勵に從事し左の成績を得たり。

期別		採取數	一甲當採取數	奬勵金	摘要
前期	蟲	一三、九六三、三九六	二、九五一	円 一〇、八一三・五六〇	
	卵	二、二一二、九四九			
後期	蟲	八、七〇九、六七七	五七八	四、三五一・九七〇	
	卵	九、四二七			
計	蟲	二二、六七一、九七三	—	一五、一六五・五三〇	
	卵	二、二二二、三七六			

右表の成績を見るに、前期に於ては近年稀なる好成績を擧げ得たるも、後期にありては豫期の成績を擧ぐるに至らず、之れ恰も驅除期間に當り流行性感冒廳下到る處に流行を逞うし之が爲め一般農耕に支障を來し從つて害蟲驅除に從事するの餘暇を有せざりしに因る。尙縱貫道路開鑿飛行場整地等の爲め、各派出所警察官吏は多大の繁忙を極め驅除督勵の暇なきのみならず、保甲民の大部は毎日之が使役に殺忙せらるゝの狀況にて、是等は遂に採取數の僅少を示すに至れる主因となれり。

■酒類製造狀況(時報一月號地方事情參照)　(一)清酒　大正八酒造年度に於ける清酒製造に要せし原料は本島米五百九十八石五斗、内地米八十一石九斗にして此の總價格二萬三千九百三圓なり。而して其の生産高は一千百六十五石にして前年度に比し二十一割强の增加を示せしも、此の税額六千九百九十圓に過ぎず。

現在の價格は製造場渡し一挺本島米のもの二十五圓内外内地米のもの三十九圓内外なり。近時内地移入清酒は幾分下落したるを以て、本島産清酒の價格にも影響し、爲めに生産高の減少を來すべきに係らず注文殺到し、日々製造に逐はれつゝあるの狀態にして極めて盛況を呈せり。販路の主なるものは阿緱・蕃薯寮・鳳山・臺南・臺中・苗栗の各地方にして他廳管内に對する移出は製造高に對し約七割を占む。

(二)米酒　(イ)大正八酒造年度に於ける原料使用高は米一萬三千四百四十四石、白糖、酒造場自製のもの千七百九十五貫、阿緱街林阿細のもの二千五百七十九貫、臺北製糖所

のもの五百七十三貫、中部酒造組合のもの三百四十四貫、其他二百二貫、合計五千四百九十三貫なり。而して之れが價格を見るに前者は三十六萬四千七百八圓、後者は一萬三千九百十二圓にして其の生產高一萬六千三百十七石、此の價格六十三萬九千六百二十圓なり。前年度の生產高に對比するに一割八分强の增加を見たり。造石稅は九萬二千三百九十一圓なりとす。

(ロ)米價と酒價は月別に前年と對照するに左の如し。(一石當)

區分	米 前年	米 本年	酒 前年	酒 本年
三月	一九・二円	二六・〇	二五・〇	三〇・〇
四月	一九・〇円	二四・五	二六・三	二九・六
五月	二〇・八円	二三・九	二六・二	二九・二
六月	一九・四円	二六・〇	二五・五	二九・八
七月	一八・〇円	二六・六	二四・六	三〇・七
八月	二〇・五円	二七・三	二五・三	三〇・三
九月	二〇・七円	二七・〇	二九・七	三〇・三
十月	二一・四円	二七・三	二六・一	三一・二
十一月	二三・〇円	二七・七	二六・九	三三・三
十二月	二四・〇円	二七・八	二八・〇	三六・〇
一月	二四・三円	二七・九	三〇・〇	三六・三
二月	二七・二円	二八・一	三〇・〇	三六・四
平均	二一・四円	二三・二	二六・六	三一・九

(ハ)製成步合前年との月別比較左の如し(標準酒精齒數百斤當)

區分	七年度	八年度
三月	一二六分	一一八
四月	一二五分	一一九
五月	一二四分	一一八
六月	一一八分	一一九
七月	一二三分	一二三
八月	一二五分	一二四
九月	一二五分	一二七
十月	一三〇分	一二四
十一月	一三三分	一二三
十二月	一二九分	一一九
一月	一一八分	一二九
二月	一二一分	一二九
平均	一二四分	一二〇

(備考)八年度十一月、十二月の交に於て步合の低きは、阿緱街白糖製造業者林阿棚の製造に係る白糖の不良なりしに基因せるを認めたるが故に、其後は中部酒造組合及臺北製糖所の白糖を使用し、製成步合恢復に努めたり。

(三)酒精　大正八酒造年度に於ける原料糖蜜二千七百八十五萬五百斤にして其の引取先左の如し。

阿緱製糖所	一六、一五四、五二〇斤	臺北製糖所	一、〇〇九、七一二斤
後壁林製糖所	六、一五一、三八八	林本源製糖會社	七〇九、二三一
新興製糖會社	九三六、六七三	灣裡製糖所	二九七、五三八
三崁店製糖所	二、五三七、九七〇	埔里社製糖所	五三四、八〇

而して之に對する酒精の生產高は二萬一千六百九十石稅額二百五萬九千八十二圓にして、前年度に比し石數に於て一千七百九十六石の增產を見たり。今既往三箇年に工業用に使用して免稅、戾稅の處分を爲したるもの左の如し。

用途	六年度 免稅	六年度 戾稅	七年度 免稅	七年度 戾稅	八年度 免稅	八年度 戾稅
セルロイド製造用	四、九五四石	七二石	五、七五五石	二三石	六、五二六石	五七六石
セルロイド加工用	四三	―	一四七	―	七二	三
食醋	一、七三五	五三	一、七三三	八	一、〇三八	二
尼斯	四一四	二八	四六五	一五	一二七	五
擬革用又は帽子用コロジオン	―	―	三六	―	―	―
輸出香水	四	―	六三	―	―	―
石鹸	一六八	一四	二七五	四	五	一
龍腦	五五	二	六四	一	一	一
依的兒	二五八	―	七六七	一九	一九	―
單寧酸	二	―	二	―	―	―
計	七、六三一	八〇八	九、二八五	七〇	七、七八八	五八八

(四)大正九年度各酒製造見込石數左の如し。

清酒	一、六二三石	再製清酒	一、三二六石
酒精	一九、九五一石	米酒	一九、八六二石
其他蒸餾酒	一三三石	再製酒	一、九五八石
計	四四、八五三石		

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

■街庄長會議に於ける衞生問題　三月十八日阿緱廳街庄長會議開催の處衞生主管問題として左の二問を諮問せられたるに滿場一致、所要の經費は區民の負擔を以て之が施設を熱望する由の答申に付、夫々施設に關する歩を進めつゝあり

▲諮問事項

（一）簡易マラリア防遏法を區域内部民の負擔を以て施行せんとす意見如何

（說明）マラリア病の廳下に於ける生產上に及ぼす損失は年々數百萬圓の巨額に達す。明治四十四年五月阿緱街に防遏法施行以來漸次其地域を擴張し、大正八年末の施行地域人口は二萬五千三百三十六人にして、外に未施行地の人口は尙二十四萬三千六百六十人の多きにあり。施行地域のマラリア死亡は人口千人に付（八年中）一人三分にして此の總數三一人に過ぎす。區域外のマラリア死亡は一、一六八人にして人口千人に付マラリア死亡四人八分なり。若し施行地域と同一の效果を擧け得べしとせばマラリア死亡數は三一六人に減するの割合とす即八五二人の死亡の割合をマラリア患者數に（醫師の診療を受けたる）比較するに内地人は患者四〇七人に付死亡一人なるに、本島人は三九人の患者に付死亡一人の割合にしてマラリア感染率は本島人は内地人の十倍以上にあり、（内地人患者三、二五九人 死亡者内地人八人 本島人患者四六、六〇四人 死亡者本島人一、一九一人）一人の患者にて平均十五日を休養に要すと看做し之が醫療に要する實費一日三十錢と積算せば、本島人患者の延日數は六十九萬九千〇六十日、醫療費二十萬九千七百十八圓にして外に勞働能率の損失及死亡者に對する敎育費、養育費等を計上せば實に尠少ならざるなり、

マラリア防遏施行の效果は如上の通りなれば、可成施行地域を擴張して其經費は現時の如く一般經濟狀態の順調なるの時に於ては、其施行地域の部民に幾分を負擔せしめ、自衞上急速に之が簡易施行の方法を講するは最刻下の急務と認む、今簡易施行の方法概要を述べんに

（一）マラリア蚊族發生箇所の整理（埋立整地竹藪伐採を含む）（二）一般蚊帳使用の實行（三）脾腫患者竝にマラリア患者治療（四）施行地域内淸潔保持（五）蚊族驅除の爲め魚類放飼、蚊防香使用、の獎勵等とす

（二）死亡超過部の衞生改善方法如何

（說明）大正八年中廳下に於ける死亡が生產より超過せる部落を示せば廳直轄八、阿里港四、蕃薯寮二、甲仙埔二、六龜里二、潮州十四、東港十三、枋寮二、恒春二、計四十九箇庄を算するの狀況なり。是等の原因は主として一般部民の衞生思想の幼稚なるの結果と土地の狀況等に基因するは言ふを俟たざるも、今後斯る部落に於ける衞生改善策を講するは實に刻下の急務と認む。各員之が改善策に對する意見を聞かむとす。

マラリア以外に生產より死亡率高き部落死亡超過の部落

直　轄　頭前溪・社皮・大湖・甘棠門・崇蘭・海豐・德協・火燒
阿里港　東寧庄・下冷水坑庄・東振新・蕃寮
蕃薯寮　東勢埔・觀音亭・脚帛寮
甲仙埔　大邱園・十張犁
六龜里　芼濃・新阏
潮　州　（鳳山厝・溝仔墘・頓物・老北勢・新北勢・老東勢・新東勢・忠心崙・五溝水・四溝水・崙仔頂・四林・過溪仔・崁頂庄）
東　港　（內關帝・磚仔口・田墘厝・港劏・葫炉尾・七塊厝・三西和・東塔墘・下廊・港仔内・牛埔仔・新劏・仙公廟）
枋　寮　枋寮・蕃仔崙
枋　山　なし
恒　春　蚊蟀・猪勝東・新街

大正八年中マラリア濃度部落（人口千に付七人以上のマラリア死亡者を出したる部落）

八年中本島人マラリア死亡者		
二七二人	廳直轄	（下溪州派出所管内公館庄・麟洛・後庄仔・甘棠門・崇蘭庄・六塊厝派出所海豐庄・德協・火燒）
一五六人	阿里港	東寧庄・下冷水坑・大路關・加蚋埔・東振街・蕃寮
一六四人	蕃薯寮	（蕃薯寮・北勢庄・溪州・溝坪・菜仔坑・丹潭仔・觀音亭・脚帛寮）
四〇人	甲仙埔	十張犁・茄苳湖・新庄
二一人	六龜里	新威
二三二人	潮　州	四林庄・四溝水・頓物・二崙・溝仔墘・鳳山厝
二九二人	東　港	（塩仔・港劏・田墘厝・磚仔口・大潭新庄・新街・瓦磘仔庄・石光見庄・大武丁牛埔庄）

二三人　枋寮　蕃仔崙
二四人　枋山　楓港
四四人　恒春

臺東廳

■徵兵檢査　大正九年度徵兵身體檢査は四月六日花蓮港分屯大隊に於て執行せられたるが、本廳下よりの受檢者は十四名にして其成績左の如し。

種別	受檢者	成績 甲種	第一乙種	丙種
徵兵	一一	七	｜	四
六週間現役兵	三	｜	一	二
計	一四	七	一	六

■臺東商工會設立　臺東街に於ける各種商工業者は時運の進歩に伴ひ、之が發展、福利增進の目的を以て商工會なるものを組織し四月十一日發會式を擧行せり。

■臺東公會設立　臺東街には從來內地人組合ありて諸般公共の爲に盡力し來りたるも、單に內地人のみに限定せられて不便尠なからず、依て內地人、本島人を打て一團としたる臺東公會を組織する議纒りたるを以て、四月十二日內地人組合總會を臺東布敎所に開き、組合の解散を決議し、公會設立の協議を遂げ、創立委員十七名を指名し、規約を起草し、四月十五日夜臺東尋常高等小學校內に於て發會式を擧げ、役員內地人十二名本島人八名を選擧し、次で四月十八日役員會を開き公會長一名、理事四名、監事二名、評議員十三名を互選し茲に臺東公會成立せり。

■總督閣下巡視　田總督閣下は四月二十三日玉里出發廳下鹿野村著同村移民の狀況を視察せられ、翌二十四日午前七時鹿野村發、同十時三十分臺東停車場着、十時四十分臺東廳巡視官民重なる者四十名の伺候を受けられ、市來廳長より廳務報告終りて御旅館著、中食午後一時旅館發臺東分遣隊訪問、午後二時二十分臺東醫院巡視、二時四十五分臺東神社參拜ありて記念植樹を行はれ、夫より臺東郵便局・測候所・暴風雨罹災民救濟家屋・公學校・小學校等の巡視あり。午後三時四十分小學校に於て馬蘭・卑南兩者蕃人引見後蕃人踊を觀覽せられ、午後四時小學校に於て茶話會を催されて午後六時歸館、翌二十五日午前九時旅館發賀田組事務所に少憩の上午前十時撫順丸に乘船、同日火燒島、翌二十六日紅頭嶼御巡視の上阿緱廳下大板埒へ向はれたり。

■大正八年中の產業狀況　(一)農產　廳下の農民は大部分蕃人と少數の本島人とより成るも常に勞力不足し、農業方法亦極めて幼稚なるを以て將來改善すべき餘地多く、加ふるに交通機關及水利施設の不備なる爲め開發の遲々たるものあるも廳及農會の指導奬勵と相俟ちて逐年發達しつゝあり。而して從來官民有の區分なき耕地は、大正六七年度に於て直轄及里壠・成廣澳の兩支廳管內に於ける查定の結果、各業主權を附與せらるゝと同時に各地租を負擔し誠實に農耕に從事し居れり。今廳下の重なる農作最近三箇年の播收狀況を揚ぐれば左表の如し。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

作物名	大正六年 作付	大正六年 收穫	大正七年 作付	大正七年 收穫	大正八年 作付	大正八年 收穫
第一期作水稻	三、〇四八甲	三四、〇八五石	二、九九二甲	三八、六七四石	三、四六〇甲	三六、九六八石
第二期作水稻	三四九甲	二、四〇八	三七八甲	二、七四三石	四九四甲	三、六七七石
陸稻	三七七	一、九七九	三五一	二、〇四八	六三〇	四、三五三
甘藷	一、三五五	一六、七三六、七三〇斤	一、六〇五	一六、八五六、三八五斤	一、六七〇	一七、一三三、三〇二斤
粟	二、一七三	二三、九〇五石	二、〇七四	二〇、三三四石	二、〇三〇	一八、三九七石
胡麻	二三七	一、二八三	二三六	一、三三三石	二一〇	六二八石
落花生	一八七	三、九三〇	二三六	四、四八八石	一八二	二、三四二
豆類	二五五	一、四〇五	三〇八	一、六九六	二〇八	一、〇八二
甘蔗	一、九九一	五一、六六二、九六二斤	一、七〇六	四八、四四二、三二九斤	—	—

(二)畜產　牛畜は總督府より產牛改良獎勵費の下付を仰ぎ、種牡牛を撰定し、農會と協力して品種の昂上及飼養管理の方法を指導獎勵して逐年產牛の改良を圖りつゝあり。養豚業は主として農會をして瀰濃種及桃園種の優良豚を購入せしめ、種付獎勵及不良豚の去勢竝に飼養管理の方法を指導改善しつゝあり。最近三箇年の狀況は左表の如し。

年次	畜養 牛 水牛	牛 黃牛	牛 計	牛 生產	牛 屠殺	豚 總數	豚 生產	豚 屠殺
大正六年	一一、二五九	五、五五〇	一六、八〇九	四、二三一	一、一三三	二五、四九九	一一、八六六	四、四二一
同　七年	一一、〇三四	五、二四一	一六、二七五	三、八〇三	八三六	二三、〇一四	一二、〇四九	三、六八六
同　八年	一二、四〇二	五、七七〇	一八、一七二	二、四五〇	四八一	二三、一七九	九、七四五	一、九七六

大正六年十二月農會に於て總督府より貸下を受けたる緬羊飼育は火燒島浮浪者收容所に依託飼養せるが、發育良好にして每頭年額採毛量平均八磅以上(價格十圓以上)を產し、同地に於ける緬羊事業の前途は有望と認らるゝも、本畜は浮浪者收容所を岩灣に移轉せしと同時に本春同所に移し飼育中に屬す。

敍上の外山羊及家禽の既往三箇年間現在狀況は左表の如し。

年次	山羊 總數	山羊 生產	山羊 屠殺	家禽 鷄	家禽 鵞	家禽 鴨
大正六年	五二九	三三六	九八	三九、九五一	二、〇三〇	二四
同　七年	四四五	二四七	九七	三六、六九五	二、一三四	一七二
同　八年	四六九	一四四	六五	四三、八九六	二、三一二	一三二

■射馬干社、大南社間の紛爭解決　廳直轄射馬干・大南兩社紛擾事件に就ては其後引續き慰撫操縱する所ありたるに兩社間は漸次融和し、四月十五日兩社頭目及關係者の主なるもの呂家溪見張所に會見して和解に關する下協議を爲したる結果、四月十八日同所に於て兩社頭目竝に加被害者の親戚等會合、村田警務課長・竹內理蕃係長・大南社駐在浮邊警部竝に知本派出所・大南駐在所員之に立會し、村田警務課長は交涉開始に先ち加被害兩者遺族竝に兩社頭目等に對し和解に就き一場の訓授を與へたり。

射馬干社頭目は今回の事件に對し赤心を披攊して謝意を表し、謝罪の方法に就き被害者側の要求を聞きたるに、大南社被害者側の代表者答へて曰く「初め吾々は無念骨髓に徹し飽迄復讐せん意思なりしも、懇篤なる警察官の訓諭に依り飜て考ふれば、加害者は既に官廳に於て逮捕し臺北に送致せられ居れば他人に對しては別に怨恨あるにあらず、依て今日玆に會

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

見するに至りたるものなり。如何に悲めばとて死者は蘇生するものにあらざれば諦むるの外なし、故に吾々は謝罪方法は勿論、更に何等要求する處なし。唯希くは今後双方共親戚の交際を結び圓滿親密に往復したし」と。射馬干社蕃人等は其の要求の意外なるに驚き且つ喜び、此の潔白なる申出に對し加害者側は之に甘んずる能はず、寛大なる意思は充分之を知ると雖も年老ひたる被害者の母の慰藉として金十圓を贈り、尙酒竹筒五本(約一斗五升)を提供したるを以て大南社側に於ても快く之を納れて互に酌み交し、兩社蕃丁等は慣習に依る和解の方式を催し、尙加害者側より被害者側に至り親戚關係を結びたる祭りを爲し、翌日被害者側は加害者側を訪問せられたしと申出したるも、加害者側に於ては本日は何等準備なきを以て後日更めて訪問をすべければ其時大南社よりも來訪せられたしと約し、玆に二箇月に亘る紛擾も圓滿に解決を見たり。更に村田警務課長は一同に對し、兩者の理解ある互讓に依り圓滿に落著したるを祝し、將來永遠に兩者の親善を持續すべく、尙被害者の一族中本日不參の者へは此顛末を知らしむべく命じたるに之れに承服せり。其の後兩者蕃人は前約を履し、相往來して些の故障なく再び昔日の觀を呈するに至れり。

花蓮港廳

■軍艦來航　軍艦秋津洲は五月三日午後十一時花蓮港に投錨翌四日午後十時解纜したり。廳長を初め當地分屯大隊長其他各官衙長竝に地方代表者は五月四日午前八時同艦を訪問、官民及在郷軍人分會寄贈の品芭蕉・筍・茄子・木瓜・瓜を乗組員に寄贈して歡迎の意を表せり。又乗組員は半舷宛上陸して市内を見物し、森本艦長は午後上陸、廳訪問の後、廳長の案内にて神社に參拜、引續き軍隊を訪問し、午後四時一同歸艦せり。當日海岸は早朝より見物人を以て山を築き、午後は多少の降雨ありしも、參觀者絡繹として絶えず、其の數二千を超へたり。同艦に於ては此等參觀者に對し、將校をして內部の構造及各機械等に就て最も懇切に説明を與へられたるが訪問官民は之に就て頗る滿足し感謝を表し居れり。

澎湖廳

■澎湖に於ける虎疫豫防　臺南廳下に虎疫發生したるを以て同地方と密接の關係を有する湖澎廳は之が豫防制遏に關し左の事項を勵行しつゝあり。

一、目下檢疫規則發布手續中なるが差向き打狗安平地方より入港する船舶に對しては警部補以上立會の上公醫をして船客船員の健康調査を行はしむること

二、前項公醫の駐在せざる港澳に入港する船舶は受持警察官吏をして船客船員の健康調査を爲さしむること

三、臺南廳下各地方より歸來せる出稼者竝に旅客は受持警察官吏をして三日間每日其健康狀態を查察せしむること

四、保甲機關を督勵し疑はしき下痢及吐瀉患者屆出を實行し患者の早期發見に努むること

五、コレラ豫防液の注射を奬勵し之が普及の方法を講すること(豫防液は五月五日一萬人分總督府に要求濟)

六、大正八年發生したる廳下媽宮街風櫃尾・双頭掛・沙港・員貝の各鄉は特に一般健康狀態に注意すること

七、此際可成コレラ流行地方への出稼を見合せしむること

八、各鄉每に日割を定めてコレラ豫防に關する衞生講話を開催し衞生顧問警

務課長衞生係長並に公醫は可成交互繰合せ臨席の上一般衞生思想の向上に努むること

九、豫防心得を廣く配布すること

十、此際家屋內外を清潔にし塵埃を燒却し蠅族の發生防止並に其の驅除方法を講すること

■澎湖招魂祭　四月三十日午前十時當地官民一同は澎湖公園内に於て嚴肅の裡に招魂祭典を擧行したり。祭典委員長として廳長祭文を朗讀し、續て馬公要港部司令官、澎湖島要塞司令官、廳長、高等文武官、判任文武官總代、在鄕軍人分會員總代、婦人總代、內地人及本島人各總代等順次玉串を捧け、陸海軍隊、警察官、小公學校兒童等團體の參拜ありて式を終はれり。午後は一時より十一時まで擊劍・銃劍術・相撲・臺灣芝居等の餘興ありて終日賑へり。

■總督來澎　五月十九日午前十一時三十分、總督閣下には驅逐艦桐にて富島警務局長以下八名の隨員を隨へ馬公に著せられ、澎湖廳長、醫院長、內地人本島人總代は同艦に訪問す、閣下は直に汽艇に乘し隨員及廳長警務課長隨行にて要港部を訪問せられたる後、同午後零時三十分稅關前棧橋に著せられ、陸軍武官、文官、民間有志、婦人、在鄕軍人、參事、區長、保甲役員、小公學校兒童等の出迎者に對し一々叮嚀に會釋あり、同四十分廳に到著、官民の伺候を受けられたる後、澎湖廳長の管內報告を聽取し、同一時三十分御旅館松島記念館に於て午餐、同二時三十分、千人塚、孔子廟を視察、同四時歸館せられ、更に同四時三十分澎湖廳公室に於て官民百四名を招きて茶話會を催され、總督閣下の御挨拶ありて後、中川馬公要港部司令官一同を代表して謝辭を述べ、廳員主客の間を幹旋し一同歡を盡して同八時散會せり、翌五月二十日午前八時閣下は澎湖島要塞司令部同重砲兵大隊を訪問せられ、續て媽宮小學校、媽宮公學校、澎湖郵便局を巡視して十時半御歸館、同十一時十分官民一同の見送を受けられ、稅關前棧橋より汽艇にて驅逐艦桐に到り直に乘艦、正午打狗に向け出港せられたり、二日間の巡視中、一般市民は國旗を揭げて歡迎の意を表したり。

◎馬尼拉港灣改築費（遼東時報四月三日）

比島上院は臨時議會に於てマニラ改修費として總額千二百萬ペソの公債發行を認可する一法案を可決せり下院に於ても同樣昨夜通常議會に於て之を可決せり。

右金額は現在の防波堤を擴張し更に港灣設備として久しく懸案中なりし浮船渠の新設に充當するものなり。

自由港灣も亦上院臨時議會に提出されたるが之が可決を見るに至らざりしも當然可決せらる可しと政廳側に於て信せられつゝあり右案に記載の自由港區域とはトンドの北方海岸防波堤一帶を云ふものにして合衆國商務官ポールピーホイタム氏の調査せしと同樣の範圍なりと。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

海南漫評

近掠十

朝起果三文、得拾十年一日苗圃集。
無帽素跣手拭腰。一流紳士近掠十。

水中立

日曜祭日、爲書入擔竿腰籠、川筋集。
好途不覺身體疲。案山子然水中立。

總如斯

騰貴、場合如馬馳。下落、實行極遲遲。
圖其利、不謀其義。商人根性總如斯。

有明文

卷貫拂底達其極。愛煙家何礑當惑。
窮餘內地欲取寄。法有明文奈犯則。

在何日

二機相次趁臺中。暫無爆音聞半空。
不知歸北在何日。物寂問人有兒童。

甚麼情

幾日航空共飛行。憐一機做了犧牲。
孤影蕭然上兮下。毛式有心甚麼情。

多番狂

四百六十四選良。得得乎近現議場。
人物優否姑休說。由來逐鹿多番狂。

浮世常

元老株不問朝野。多一籌輪後進者。
新陳代謝浮世常。勿謂是怪我負也。

（百十八萬里）

古代民族に見らるゝ靈長觀念の顯はれ（上）

葉鹿夢

鳥言獸語

今は昔、有名るトロイの戰爭に、希臘軍の雄將アキリーズは天より授かりし二頭の馬に向ひて、決死の警告を與へし時、件の馬は、悲しげに首をうなだれて居たが、軈て神より物言ふ力を賜はりて、之に答へを爲したといふ、神秘の史談を傳へらるゝが、斯種の萬物靈長的觀念は、別きて古代東洋に著るしき發生を遂げつゝある、支那の明代に成りし謝肇淛の五雜俎に、『楊州の蘇隱、夜臥して數人の阿房宮賦を念するを聞く、聲急にして小なり、之を視れば虱なり、其大さ豆の如し、廼ち之を殺す、唐の天寶間に、當塗の民劉成李暉、巨舫を以て魚を載す、大魚あり、阿彌陀佛と呼ぶ、俄にして萬魚倶に呼ぶ、其聲地を動かす、明の弘治間、慶陽に天より石子を雨ふらす、大なるは鵝卵の如く、小なるは雞頭の如く、皆人の言を作す』とあるなどは、唯一の代表とすべきであらうか、そして現に臺灣などにも、近代まで其過去の觀念の惰力を承けて、浮言衆を惑はすの奇貨に繰り返へされたのは事實で、林豪の東瀛紀事に、『同治元年春、彰化縣下の四張犂庄に耕牛あり、人語をなして云、兇咻。有田播。無稻收。と、是歲牛語果して讖を爲して、中路に戴潮春の亂あり、良民皆生を失ふの塗炭に苦むに遇へり』といふ意味の奇談を載せてあるが、是れ啻に清領時代の一舊夢魘のみでなかつた、我が領臺の以後にまで、時に餘燼を燃やすの例があつたので、明治三十七年の事、臺北大稻埕街外の牛磨車庄なる一農家に、牛があつて忽ち人語をなし、『有五月初五日。無七月十五日』と言つたといふ噂さや、大正三年の事、桃園廳の三角湧庄で、水牛が人面牛身の畸形兒を生んだところ、該牛仔が忽ち口を開き、『閏五月。本地有大難』との豫言をしたといふ噂さの、島民間に立つたのは、當時の新聞紙上でも、雜報欄の餘興を添ふる題材に取られたのを記憶に存する所である、

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

飜つて本邦の歷史に觀るに、神代の昔、天祖が將に皇孫を葦原の中國に降して、其主と爲さんと思召立たせし時、『彼地、多に螢火光神及び蠅聲邪神あり、復た草木咸くもの言ふことあり』とて、先づ之を討ち拂ふために、武神を差遣はさるゝ神議を定められたといふ事を、日本書紀に載せてあるが人皇の世に及んでも、皇祖神武天皇東征の際、皇軍大に擧つて大和の賊目磯城の八十梟帥を攻めんと、先づ使を遣りて兄磯城を招諭せしめらるゝこととゝし、八咫烏が件の大命を承り彼れの陣營に到りて、『天ッ神の御子、汝を召す、イサワイサワ』と鳴いた、イサワといふのは、烏の聲の模音である、此時兄磯城大に怒り、天厭神の來ますと聞いて、必を痛ましめつゝあるに、如何で烏の斯くは惡しく鳴くやとて、弓に矢をつがへて之を射た、烏は飛び去つて、弟磯城の屋上に止まり又も同じ調にて鳴いたので、弟磯城容を改めて、天壓神の至りますと承りて、朝夕に畏ぢ恐まる、善い哉烏の鳴くやとて饗宴を設けてもてなしたとある、玆に謂ふ天壓神とは、神聖なる天威の壓伏を意味せしもので、當時大和の土民等が、天皇を仰き尊み、斯くは敬稱したのであつた、

又雄略天皇の五年二月、葛城山に狩獵せられた時に、靈鳥忽ち來り、其大さ雀の如く、尾長くして地に曳き、且つ鳴きて、『ツトメ。ツトメ』と曰つた、俄にして逐はるゝ嗔猪、草の中より暴れ出で、舍人等色を失ひ、樹に緣りて之を避けたが、天皇やがて弓を以て刺し止め、足を擧げて踏み殺したまふたといふ、勇猛の物語を傳へてあつて、曩の鳥語は、其豫警の識であるらしくほのみゆる、

皇極天皇の御代、蘇我の入鹿乃父の積威を假りて權を擅にし深く山背大兄王等の聲望天下に振ふを妬み、謀を設けて、大和の膽駒山に圍み、遂に之を失ひ奉つたのであつたが、是より先、數年前の事とかや、同國磯城の上郡より言上するやう、人あり、三輪山に於て、猿の晝寢するのを見て、竊に其臂を執へたが、而かも其身を害はず、尙ほ合眼しつゝ、

ムカツヲニ。タテルセラガ。ニゴテコソ。ワガテヲトラメ。
タガサキテ。サキテゾモヤ。ワガテトラスモヤ。

と歌つた、其人は猿の歌を聞き、驚き怪み、捨てゝ去つたといふのである、さても此解つたやうな、解らぬやうな、所謂る猿の眞僞する歌謠の謎は、向ふの岡に襲ひ立つ、夫等の柔手に、ゆめ先手を制せられなてふ、彼の內訌の豫言であつたと傳へらるゝ、

次に、後朱雀天皇の寛德二年二月の頃、白き鳥、羽の長さ四尺許り、身の長さ三尺あるが、京都の西七條なる侍從池に來り住んだ、件の鳥の鳴く聲は、人の言葉で、『有飯無菜云々』と聞えたといふ、飯ありて菜なしといふからは、餘程贅澤な鳴きやうと思はれるが、果して何の前兆にてあつたやら是れは古事談の記載である、

降つて鎌倉時代の事にやありけん、近江の高島郡平等院河上庄といふ所に、武藏阿闍梨勝覺と呼ぶ僧があつた、此僧の父の家に畜ひ置ける牛は、夜每に必ずうめく聲がして、而かも物言ふ如く聞ゆるので、人々異みて耳を立て、聞くに、开は阿彌陀經であつた、其うめき初むるより、聲を合せて阿彌陀經を誦するに、首尾全く相符合して、定めて前生の阿彌陀經の

持者が、畜生道に落ちたのであらうが、哀はれなる事だと、時人許し合うたといふ物語は、古今著聞集に見ゆる、牛に曳かれて善光寺參りといふ故事の出發點も、同時代の事と覺ばしきが、兎角此頃は牛と佛果の因緣が印象を强めたらしい、夫れから近代の出來事であるが、德川五代將軍卽ち犬公方の生類愛憐殺生禁斷の秕政の反響たりし、浪士筑紫園右衛門が滋擾の內容、亦斯種の迷信を利用したる痕迹がある、夫れは馬が人語を發したといふに在るので、次に示す處刑の標示を一讀すれば、思ひ半ばに過ぐるものがある

浪人　筑紫園右衛門

此者儀、去年夏中、馬物を申す由虛說申出し、其上、はやり煩よけの札、並藥の方組を作り、實なき事を流布いたし重々不屆に付、江戶引廻し、斬罪に申付者也、

そして之に附帶して、『右之通、虛說申出し、斬罪に仰せ付られ候間、向後個樣の虛說申出さゞる樣、町內家持は申すに及ばず、借家店借下々召仕等迄、銘々其町々名主月行事、隨分念入れ觸れ聞かすべく候云々』との嚴達があつたのに見ても馬が物申すといふ流語の祟りが、如何に時の民心に刺戟を與へたかといふことの裏面が忖度せられるであらう、

國家の興亡に、祥禎乃至妖孽を依從せしめんとせし、古人の思想の本源も、由來苟もせざるの點がこゝに髣髴する、

◎海峽植民地政廳官吏の增俸

（新嘉坡フリー、プレッス一三月十八日）

刻下の物價騰貴及對印度、錫蘭及支那爲替相場の不利を救濟せん爲海峽植民地總督は這般英國植民大臣の認可を得一九二〇年一月一日より判任級の政廳官吏に對し臨時增俸を許可せり卽ち三級に分ち一箇月四十弗以下の官吏に七割五分、四十弗以上二百五十弗まで五割五分とし最低增額を三十弗とし二百五十弗以上の官吏には四割五分を增加し一箇月最低百二十七弗五十仙を增額することゝなれり。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

榕蔭閑話

●福建の烟禍

烟禍とは何ぢや、黄禍といふやうな譯かと言へば、禍の字の意味はマアそんなものだが、仔細は斯うだ▲福建の李督軍が近頃、陝西の陳督軍や湖南の張督軍の施爲に倣つて種烟辨法(阿片を栽收する)を採用し、夫れに依つて稅金を徵收しやうと考へて、特に人を派して阿片の種子(罌粟の實か)を盛んに買收せしめた▲所で福建省中、何處が種烟に適して居るかといふに、先づ莆田・惠安・思明・金門・同安の五縣は氣候も溫和で好からうといふ所から、其所の縣知事に種子を配つて、各縣下に烟苗試驗場を設立させ、そして地方の資望家を以て阿片栽種を農民等に勸誘させた。▲扨て地方民は官の勸誘であるから、安心して大いに種植をやつて、やがて收獲の時季にも近ついたので、今年は是れで一と儲けと皆なホク／＼喜んで居た▲處へ李督軍は突如と法令を出して、烟稅を分つて上中下の三等とし、上等は八元、中等は五元、下等は三元を納入せしむることにした▲さうして其の稅金を取立つる爲に、思明・金門・同安の三縣へは第二師長の臧致平、浙軍師長の藩國綱などいふ軍人を派遣し、又た莆田縣へは衞生團々長の王獻臣、惠安縣には長門要塞總司令の馬步雲などいふ、軍人達を出して稅金を徵收させた▲シカも是等の兵隊共を繰り出すには孰れも土匪討伐といふ振れ込でやつたので、王獻臣などは莆田へ乘り込むや否や、兵隊を四方に手分けして、阿片を種ゑて居る者と否とに關せず、例の法令を振り廻はして片つ端から稅金を取り立てる、少しでも手向ひする奴は土匪に通謀してると誣ひて、ひッくくッて慘刑に處するといふ風だから、泣く子と地頭で、莆田の農民は言ふが儘に稅金を出して居るといふ始末で、此の縣下丈けでも百五六十萬元は徵收が出來るさうだ▲所が惠安縣の方では馬步雲の部下の兵隊共が徵稅をやりかけると、農民共は大いに激昂して、三十箇村以上も聯合して軍隊と大衝突を起すに至つた。馬司令は百姓め生意氣な事をするとて非常に怒つて、第二混成旅二營長の李德盛に言ひ付けて、家を焚くやら、掠奪するやらドシ／＼やつ付けた▲然るに李督軍は之を聞いて、よくやつたといふ御褒の言葉を馬に下して、いづれ團長の空席が出來たら陞任させると言うたげな▲爾來馬步雲は大いに難有がつて惠安縣を十二區に分ち、各區に徵收員を置いて專ら徵稅を督勵して居るので、此縣下でも百四十萬元計り取り上げられる見込だと▲但し福建拒土分會に屬する外國人は近頃諸方に人を出して、各地の烟苗栽植の場所を一々寫眞に取つて北京の總會に送つたといふから、今後の交渉はドーいふ風に成るかは見物であらうと▲以上は支那新聞の謂ゆる福建烟禍の謂はれ因縁であつて、是れが事實であれば、烟禍とも言へやうが、扨て例の支那新聞の事、マンザラ噓とも思へないが事の眞否は保證の限りにあらずと言うて置かうよ。

□〇子

教育短信

●高商校長の更迭　總督府高等商業學校長の椅子は創立未だ一年ならざるに、隈本繁吉氏を送つて片山秀太郎氏を迎ふることゝ相成候。椅子若し心あらば、さぞやあつけなく感じつらんと存せられ候。抑々隈本氏の臺灣に於けるや、明治四十四年以來、公には學務部長兼國語學校長として敎育行政の實權を握ると同時に、實地敎育の關鍵を持せられ、私には臺灣敎育會幹事長又は副會長として、本島文化の發展に貢獻せらるゝこと七年の久しきに及び、大正七年には更に官命を帶びて戰時中の歐米各國を巡視せられ、歸朝の後は其の齎し來れる新知識を利用して新設高商の爲に將に大に爲すあらんとせられしに、不幸冠を桂けて轉地療養するの已むを得ざるに至り候は、本島敎育の爲に惜みても餘りある次第に候。さりながら後任片山氏は其の公生涯の殆んど全部を臺灣に捧げて隈本氏以上の臺灣通を以て許されたるの人、若し夫れ多年參事官の堅壘に據りて鍛へられたる識見と、最近學務の牙城を宰して獲られたる經驗とを以て其の敏腕を振はれなば、高商の前途刮目して大に觀るべきものあらんと存候。

●臺灣宣傳隊の活躍　首尾よく九州に於ける使命を果したる宣傳隊一行は直に上京、四月二十七日夜、東洋協會樓上にて映寫、後藤會頭、下村支部長を始め、同會々員各新聞記者等の檢閱を受け、三十日東京高等師範學校にて大喝釆を博し候五月一日公恂社に於ては後藤男爵開會の辭を述べられ、下村長官親から活辯の任に當らるゝといふ盛況、殊に長官の熱辯には流石の幻燈も堪兼ねしと見え、レンズの破裂頻出せし由に候。五月二日は私立衞生會にて、同三日は神田靑年會館にて(臺灣新聞社主催)同四日は商科大學にて開催、同五日には日本倶樂部に於て東京一流の紳士紳商の觀覽に供し、六日拓殖大學、七日築地同氣倶樂部、八日臺灣倶樂部、十一・十二・十三の三日の日比谷公園にて開催、十一日の如きは觀衆无慮一萬と註せられ候。十四日は三友倶樂部、十七日は女子高等師範學校、二十二日には寺島伯爵の懇望にて華族會館にて開催の豫定、殊に華族會館へは　皇后陛下の行啓を仰ぎ、各宮殿下にも臺臨あらせらるゝ由通信有之候。

●女子職業學校生る　今般愛國婦人會臺灣支部の事業として女子職業學校の設立を見、五月十日開校式を擧げられ候。同校は下村長官夫人を校長に戴き、小學校又は公學校卒業の女

子に裁縫又は商業を授くるを目的とする由、兎に角、本島婦人に取りては唯一の職業學校と申すべく、時節柄誠に結構なる施設と存じ、切に其の健全なる發達を祈り候。

●教員講習會　大正九年度に於ける總督府開設の小公學校教員講習會は、左表の通り計畫實施せらるゝ由、其の中、第一回講習の講師は内地より知名の士を聘する豫定にて、目下交渉中とのことに御座候。

大正九年度總督府開設小公學校教員講習會

回數	會場	期間	目的	講習科目	講習員資格	定員
第一回	臺北	自七月五日 至同十四日 十日間	現代思想ニ對シ正シキ見解ヲ得シム	現代思想	小學校長及公學校長	二〇〇
第二回	臺北	自七月十五日 至同二十八日 十四日間	臺灣小學校教育上必要ナル事項ニ關シ指導ヲナス	地理、博物、臺灣小學校ノ實際問題	大正八年三月ヨリ大正九年二月マデニ渡臺シ現ニ小學校教諭トシテ奉職中ノ者ニシテ大正八年度迄ノ講習ニ出テタルコトナキモノ	四〇
第三回	臺北 臺南	自七月十六日 至同二十九日 十四日間	臺灣語習得ノ方法ト公學校國語教授法ヲ了解セシム	臺灣語、國語教授法	臺灣語ヲ省キタル無試驗檢定ニヨリ公學校教諭ノ免許狀ヲ得現ニ公學校教諭トシテ奉職中ノ者	三〇〇 三〇〇
第四回	臺北	自七月三十一日 至八月十九日 二十日間	公學校師範部甲科卒業ノ學力向上	國民道德、教育思潮公學校ニ於ケル教授上ノ諸問題	大正五年三月元國語學校公學師範部甲科卒業生ニシテ現ニ公學校教諭トシテ奉職中ノ者	五〇
第五回	臺北	自九月一日 至同十四日 十四日間	教育ニ關シ基礎知識ヲ與ヘ實際的方面ノ指導ヲナス	教育、教授法	女子ニシテ小學校本科正教員ノ免許狀ヲ有セスシテ現ニ小學校教諭心得トシテ奉職中ノ者ニテ裁縫以外ノ教科ヲ教授セルモノ	三五
第六回	臺北 臺中 臺南 花蓮港	自九月四日 至同五日 二日間 自同八日 至同九日 二日間 自同十一日 至同十二日 二日間 自同二十日 至同二十一日 二日間	公學校地理教授ニ關シ指導ヲナス	地理、教授法	公學校教諭ニシテ地理科ヲ擔任中ノ者一校（分校ヲ省ク）一名宛	八〇 一〇五 一二九 六
第七回	臺北 臺中 臺南 花蓮港	自六月五日 至同六日 二日間 自同九日 至同十日 二日間 自同十二日 至同十三日 二日間 自九月二十日 至同二十一日 二日間	小學校理科教授ニ關シ指導ヲナス	理科教材ト其ノ取扱法	小學校教諭ニシテ理科ヲ擔任セルモノ一校一名宛	三〇 三二 四八 [illegible]

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

●坂根公學校長の名譽　臺南第二公學校長坂根十二郎氏は公學校教育に盡瘁せらるゝこと實に二十四年、今般其の功を錄せられ奏任を以て待遇さるゝことゝ相成候。右につき臺南の主なる官民の發起にて、五月十五日新築の同校講堂にて祝賀會を開きし處、非常なる盛況を呈し候由、是れ獨り坂根氏の名譽のみならず、又以て臺南市の誇となすに足るものと存じ、衷心の喜を以て恭しく祝意を表し申候。

●全國小學校長會議　帝國教育會の主催にて五月十五日より三日間、東京に開かるべき全國小學校長會議に參列すべく、臺北城西小學校長森川龜吉、臺東小學校長押一亟助の二氏は內地出張を命せられ候。同會議は時節柄特に注意を價するもの可有之、兩氏が如何なるみやげを持ちて歸らるべきか、吾人は多大の興味を以て期待致居候。

●諸學校の入學率　本年度に於ける總督府直轄諸學校生徒の應募人員と入學許可人員とを比較して之が百分比を示せば左表の通りに候該表を一覽して先づ感ずるは醫專商專の入學難殆んど其の極に達せることにして次に感ずるは內地人に比して本島人の競爭遙に激しきことに候其の外此の表を見るにつけて種々の感想湧き起るべくと存候へども其は讀者諸賢の御心に任かせ候

學校名	入學志願者	入學許可者	百分比
臺灣總督府高等商業學校	二二六	五〇	二二
臺灣總督府臺北中學校	三七三	一八五	五〇
臺灣總督府臺南中學校	二〇三	一〇五	五二
臺灣總督府臺北高等女學校	三二三	一四八	四六
臺灣總督府臺南高等女學校	一七〇	一〇〇	五九
臺灣總督府商業學校	二三九	八三	三五
臺灣總督府工業學校（豫科）	一五三	四五	二九
臺灣總督府農林專門學校（豫科）	一五五	三八	二五
臺灣總督府商業專門學校（豫科）	七九九	四五	六
臺灣總督府醫學專門學校（豫科）	一、二八〇	八三	七
臺灣總督府醫學專門學校（專門部）	六二	二七	四四
臺灣總督府臺北師範學校（豫科）	六二〇	一一九	一九
臺灣總督府臺北師範學校（小學師範）	二〇	八	四〇
臺灣總督府臺北師範學校（公學師範）	八三	四四	五三
臺灣總督府臺南師範學校（豫科）	四三一	一二〇	二八
臺灣公立臺北高等女學校	九四	七九	八四
臺灣公立臺中高等女學校	四一	三八	九三
臺灣公立臺中高等普通學校	五九三	九九	一七
臺灣公立臺北女子高等普通學校	一八四	一〇二	五五
臺灣公立彰化女子高等普通學校	一四二	八九	六三
臺灣公立臺中商業學校	六七八	七七	一一
臺灣公立嘉義農林學校	三四五	八三	二四

●臺灣教育會の光榮　以上擱筆したる後在京下村總務長官より田總督へ宛左の如き電報有之候由臺灣教育會の光榮此の上なき事と存候（湖山生）

臺灣宣傳活動寫眞ハ二十二日ノ華族會館ヲ以テ一旦打切リシ處後藤男濱尾男ノ間ニテ東宮殿下臺覽ノ話出テ本日小官參殿ノ上來ル三十日午前高輪御殿ニテ　皇太子殿下始メ各　皇子殿下ノ臺覽ヲ仰グコト、ナレリ御報申上グ

領臺二十五年誌

■明治三十五年（接前）

●十一月

▲一日　伊能嘉矩の臺灣誌成る
▲五日　銀貨價格改定八十一錢、第三旅團幹部演習、北部聯合警察會議
▲十一日　臺北臺南間郵便夜送開始
▲十二日　石塚參事官長歸朝
▲十五日　高等土地調査委員會を開く、サミュル商會石油列車試運轉
▲十八日　銀貨價格下落八十錢、旅團長會議、南庄番木歸順式擧行
▲十九日　總督府官制改正に伴ひ財務局長祝辰已氏專賣局長兼任となり事務官中村是公氏土地調査局長兼任となる
▲二十日　外國船漂着（牡丹灣）
▲二十一日　米國及其領土へ渡航者の證明規則發布
▲二十五日　兒玉總督上京、臺北地主會議
▲二十六日　屈尺より八里沙に出づる北部番地探險隊出發す
▲二十八日　臺北消防組組織、西鄕宜蘭廳長依願免官、佐藤桃仔園廳長其後任となり、督府囑託竹內卷太郎氏桃仔園廳長となる
▲二十九日　圓銀價格改定七十五錢、臨時衞生事務講習規定發布
▲此月　恆春北界のマラギ社を討伐す

●十二月

▲一日　中央衞生會議
▲二日　本島內地間小包料金改正發表（十六日實施）
▲三日　北部番地橫斷成功
▲五日　本島內小包料金改正
▲六日　帝國議會召集
▲七日　日本赤十字社長佐野常民伯薨逝
▲九日〃日銀利子二厘引下げ、基隆港灣調査終了
▲十五日　後藤長官以下勳章授與式此日初霜降る
▲十七日　東京に教科書大疑獄事件突發す、後藤長官歸朝
▲十八日　新竹管內海上颶風あり溺死四十九名
▲十九日　後藤長官東上
▲二十日　兩議院七日間停會の詔勅下る
▲二十三日　銀貨價格七十八錢
▲二十四日　武田參謀長逝く
▲二十五日　新渡邊殖產局長香港歸著內地へ向ふ
▲二十八日　議會解散、豫算不成立
▲三十日　來年三月一日總選擧
▲本月より本島沿岸同航の定期汽船毎月一回紅頭嶼に寄港す

■三十六年

●一月

▲三日　阿緱廳匪魁林進一派討伐隊十九名を殺戮して引揚ぐ
▲五日　臺北俱樂部落成式を行ふ
▲九日　淡水河工兵隊架橋演習著手
▲十日　宜蘭の進士楊士芳逝く
▲十一日　武德會體育俱樂部成る
▲十五日　北部廳長會議を桃仔園廳に開く、教科書を國定とするに決す
▲十六日　第三旅團機動演習開始
▲十八日　元民政長官故水野遵氏銅像除幕式擧行、第二十回平定會
▲二十二日　第一旅團冬期演習
▲二十三日　地方稅規則施行規則發布
▲二十六日　新起街にペスト發生、長谷川技師長歸臺
▲二十七日　番地番人に關する事務の掌理を民政部警察本署の所管とす
▲二十八日　北白川宮能久親王殿下御銅像除幕式
▲二十九日　兒玉總督、新渡邊殖產局長歸臺、演習終結慰勞宴を淡水館に開き兒玉總督以下臨席

●二月

▲五日　狂犬病豫防方法を設く（訓令）
▲六日　前年分豫算施行の勅令公布
▲七日　新任陸軍參謀長少將谷田文衞氏著任、京都三十三間堂にて大谷光尊師葬儀執行
▲九日　臺北廳に臺北農會設立協議會を開く
▲十二日　土倉龍次郎氏發起に係る深坑文山堡龜山水力電氣事業認可
▲十三日　臺灣神社新年祭執行、兒玉總督奉幣使として參向す
▲十五日　來臺中の林憲兵司令官歸東、臺北商工談話會成る、祝財務局長歸臺す、恆春管內蟳廣澗社番歸順式擧行
▲十六日　電燈會社創立相談會（資本金三十萬圓）
▲**十八日　兒玉總督臺中討番軍隊慰問**の爲め出張、小松宮彰仁親王殿下御薨去、國葬式に御治定、三日間の御廢朝五日間の宮中喪仰出さる
▲二十二日　後藤長官歸臺
▲二十四日　兒玉總督歸府、臺中番

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

日新聞發行人水野金之助の誹毀事件控訴公判開廷
▲二十六日　故小松宮殿下國葬式御執行
▲二十七日　改正地方稅施行規則實施に就き臺北廳管下三十四區長を同廳に召集す
▲二十七日　官有林野產物賣拂に關する勅令發布
▲二十八日　警察官司獄官練習所教官木下龍氏、警察監獄雜誌發行人林行藏氏の新聞紙條例違反公判

◉三　月

▲一日　第五回內國勸業大博覽會を大阪天王寺今宮に開會、第十七議會解散後の衆議院議員總選擧擧行
▲二日　臺灣銀行總會を東京阪本町銀行集會所に開會
▲四日　木下龍林行藏無罪となる
▲五日　法人の設立及監督に關する規定公布、總督官邸に地方官會議開會せらる、閑院宮載仁親王殿下日本赤十字社總裁仰付らる
▲六日　各廳稅務課長會議を土地調查局に開會す
▲八日　淡水館に篤志看護婦人慈善市開かる
●九日　司法官會議を覆審法院會議室に開會、新起街にペスト發生
▲十日　各廳稅務課長會議結了
▲十一日　臺灣製糖會社增資計畫あり、對岸出張中の鹿子木通信局長歸府、地方官會議結了、臺灣慣習研究會總會を淡水館に開き兒玉總督以下百名列席
▲十四日　臨時蕃地事務調查掛規程發布、蕃地事務委員會を總督府に置く、本島陸軍部內事務視察、會計檢查として宇佐川陸軍省軍務局長及び經理局課員等來臺、兒玉總督壽像建設を出し臺北臺中臺南の本島人長官を訪ふ
▲十五日　體育俱樂部大會を武德會演武場に行ふ
▲十七日　司法官會議結了、兒玉總督上京
▲十九日　總督對有馬組森清右衛門損害賠償事件公判開廷
▲二十一日　後藤長官南行す
▲二十二日　神戶池田貫兵衛鈴木岩次郎兩氏に來年度腦油受負命令あり
▲二十六日　五月八日臨時議會召集の旨公布、木下龍氏等控訴公判開廷、南投廳下業主權查定成る
▲二十七日　鐵道用敷地買收に關する、總督對陳汝漢地基銀請求事件控訴公判開廷
▲二十八日　警察官蕃界警備配置に關する各廳定員改正發表、臺灣總督府監獄作業規程を定む
▲二十九日　松本新任軍醫部長着任
▲三十日　參謀及副官會議三日間豫定にて開催
▲三十一日　木下龍氏等控訴判決無罪を言渡さる、專賣局は白鹽賣捌價格を引下げ上等食鹽と改む、臺灣酒精氷塊製造株式會社創立總會

◉四　月

▲一日　改正關稅率施行
▲三日　河合鍈太郎三年間退去命令を受く
▲四日　蕃地に於ける樟腦及樟腦油製造特許取扱手續規定發布、臺北市內井水減退の應急手段として鑿井制限の廳令を發す
▲五日　後藤長官歸府
▲八日　丁抹領事館同皇帝御誕辰祝賀會を擧げ石塚參事官、陸軍參謀長代理、菊地臺北廳長等訪問す
▲九日　南部出張中の新渡邊殖產局長歸府、卑南沖合に外國船漂着の報あり
▲十日　後藤長官東上、全島巡視中の宇佐川軍務局長一行歸東、臺灣民報の臺日社臺南通信員に關する條例違反事件公判開廷、神戶沖に觀艦式擧行
▲十一日　罹災救助基金規則施行規則發布、榮座臺北兩劇場合併談成り五月一日より實行するに決す
▲十二日　臺北市內地人側地方稅調查委員決定、臺灣協會臺灣支部總會、城內にペスト發生
▲十四日　要塞司令部條例改正の結果基隆、澎湖に司令官を置く事となる、清國軍機大臣榮祿薨じ慶親王後任となる
▲十五日　臺北廳廳下本島人地方稅調查委員決定
▲二十日　第五回內國勸業博覽會閉場式擧行、陳汝漢對臺灣總督の官地の大租請求に關する控訴公判あり
▲二十三日　臺北市街給水調查委員設置
▲二十五日　師範學校規則改正、新渡邊殖產局長、祝財務局長上京
▲二十六日　桃仔園に博覽會觀覽上遊者大歡迎會を開く
▲二十九日　銀貨價格八十六錢に改正、長尾土木局長上京深坑廳下獅仔頭山隘勇蕃人衝突
▲此月阿緱廳下さんもはい社を討伐す。四日臺中廳下、八日苗栗廳下、三十日彰化廳下の業主權查定成る

統計

金融及貿易統計

（財務局調査）

臺北手形交換所手形交換月表　大正九年四月分

銀行名稱	枚數	借方金額	差引殘額	差引殘額	枚數	貸方金額
臺灣銀行臺北本店	五、三七七	五、三六三、二二六・五五	五九六、七六六・四五	四、〇二四、六二四・六四	七、三四七	九、〇三九、九八六・七四
三十四銀行臺北支店	五、四六二	六、二三〇、一四九・八一	二、七八〇、三四四・二六	六九二、六五〇・八五	七、〇二五	四、一三二、三五六・三八
臺灣商工銀行臺北本店	八、一二七	二、四〇二、九八四・一七	四一二、九三六・五五	三三三、〇三一・二八	六、二四五	二、三三〇、〇九九・一〇
彰化銀行臺北支店	三、七八八	二、〇八五、四一七・九八	八一八、五三三・六四	一六五、七四四・四五	二、一三五	一、四三二、六〇九・七七
新高銀行	五、三八五	三、九四六、四〇九・九四	八二五、二四一・三八	三五四、三九七・九五	六、八六七	三、四七五、三六六・四九
華南銀行	二、三九九	二、三三七、三四一・三六	七〇〇、一一三・一五	四一五、七一〇・七四	三、〇五八	二、〇五五、一四〇・一五
臺北郵便局	二、三四五	七四、三九二・三〇	五六、二六五・〇一	四、〇五八・五五	二〇六	二三、三八五・六四
合計	三二、八八一	二三、六七九、三三四・二七	六、一九〇、二二八・三三	六、一九〇、二二八・三三	三二、八八一	二三、六七九、三三四・二七
前月合計	三二、四二五	二四、一六四、六一六・八八	五、九二〇、三〇五・二五	五、九二〇、三〇五・二五	三二、四二五	二四、一六四、六一六・八八
前年同月合計	三二、三四五	一六、三九一、四五一・四五	四、三五七、八九六・〇四	四、三五七、八九六・〇四	三二、三四五	一六、三九一、四五一・四五

臺南手形交換所手形交換月表　大正九年四月分

銀行名稱	枚數	借方金額	差引殘額	差引殘額	枚數	貸方金額
臺灣銀行臺南支店	一、六二〇	二、一七三、九二〇・一二	三九六、〇七三・八	一、〇六四、八八三・三九	二、九八九	三、一九八、一八九・三三
三十四銀行臺南支店	二、六三七	一、八〇六、三三九・三九	一二八、三三八・三二	九三八、六七三・三九	四、四三一	二、六二六、四三六・二七
臺灣商工銀行臺南支店	四、三九三	一、八三八、一九〇・三三	四〇三、九二四・八九	一七六、三三三・五〇	三、六四五	一、六〇〇、六〇三・九四
嘉義銀行臺南支店	五、〇五五	二、九四九、三六八・七三	一、四八〇、九一一・二四	九、二七〇・九六	四、八六九	一、四七七、六四八・五七
臺南郵便局	一、八三八	一三三、四九八・六六	一〇三、三三八・三三	二三、三八三・〇〇	二六四	二三、三三二・九六
新高銀行臺南支店	二、二〇六	七九一、八六二・五一	四四六、五一八・八一	一〇三、三三〇・六一	一、三五一	七四六、四七四・三二
合計	一七、七四九	九、六七一、八九三・三七	二、二三二、八七九・〇五	二、二三二、八七九・〇五	一七、七四九	九、六七一、八九三・三七
前月合計	一八、五四五	一三、一八〇、六一九・四三	二、六三四、八〇二・〇六	二、六三四、八〇二・〇六	一八、五四五	一三、一八〇、六一九・四三
前年同月合計	一五、四一〇	五、〇〇三、三九四・二三	一、五四六、一〇七・六六	一、五四六、一〇七・六六	一五、四一〇	五、〇〇三、三九四・二三

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

各銀行放資額（大正九年三月中 重要物產ニ對スル）

銀行名	區分	米	砂糖	茶	樟腦	金塊	酒精	石炭	計
臺灣銀行	放資額	円 一、五六四、八九六	円 二六、〇五八、四二三	円 三〇一、五八八	円 五一一、三七七	円 五四、九五七	円 一三五、四一三	円 三、一七九、一二四	円 四七、八六五、六六七
	月末殘高	一、七四五、八六三	四五、四八二、一五四	七四五、六七四	一、七四七、六三一	三八、九二四	五二一、四七一	五、一三三、六六〇	七二、一一七、一二九
三十四銀行支店	放資額	七五一、三六八	三一八、三九五	一〇、一〇〇	—	—	—	—	一、〇七九、七六一
	月末殘高	一、三五七、四六四	一、一〇四、〇四一	一八、三五七	—	—	—	—	二、三五九、七六二
臺灣商工銀行	放資額	四九五、九八四	五二五、八四〇	三五、〇〇〇	—	三六、六五〇	—	二三九、三三五	一、三九二、七九九
	月末殘高	八〇五、八五七	八四六、四五三	五三、〇〇〇	—	三六、六五〇	—	三四四、三六五	二、〇三三、一八四
嘉義銀行	放資額	八五二、六六二	三二一、四一七	—	—	—	—	—	三九四、六七九
	月末殘高	一、二五五、五八一	三六五、五五七	—	—	—	—	—	四九七、一一八
彰化銀行	放資額	一、〇五〇、六七〇	三〇三、九五二	—	—	—	—	—	一、三五四、六二三
	月末殘高	一、五三九、六六八	六五六、三一〇	—	—	—	—	—	二、一八五、九七八
新高銀行	放資額	一、三九九、四一五	九五四、六七二	二七五、六七五	—	八、〇二一	—	一三二、五八六	二、六七八、三五五
	月末殘高	一、七七七、四八六	九八八、四七四	四一四、二〇九	—	三五、六八八	—	一五八、〇八五	三、三四一、九四二
華南銀行	放資額	四八〇、一六八	九八一、七〇三	七三八、五五九	—	—	—	二五八、九八三	六、五六九、四一三
	月末殘高	四六四、一四七	一、六六四、三二七	一、〇九六、四九九	—	—	—	一六八、三八四	七、五六九、三四七
合計	放資額	五、九五一、七六五	三一、四五三、三八八	一、五四七、九二三	五一一、三七七	六六、六一八	一三五、四一三	三、八一〇、〇一八	六一、二三五、三九九
	月末殘高	六、七五三、八一八	五一、一〇五、一四五	二、三〇七、六五九	一、七四七、六三一	四六、二六二	五二一、四七一	五、八〇三、三九四	八九、一〇四、三六〇
前年三月	放資額	一一、二五〇、五〇九	二一、三三三、三八六	二九八、五七八	五五〇、一八七	二五、五五五	二三六、七九二	一、五八〇、〇一四	三五、〇三三、八九九
	月末殘高	一四、一五〇、五〇九	二九、六〇七、一九七	七〇四、七五八	四、四九〇、五〇四	四六、一六六	二九八、八一二	二、四三五、三三二	五一、七〇一、七〇八
累計	本年放資額	六六、七五三、〇九九	八九、七六四、一二六	五、四五〇、一五九	一、一六五、五五四	一九九、三三三	九一二、七二一	二、五五八、一二五	一七三、七七二、七八七
累計	前年放資額	三八、四八五、〇九七	五四、八九五、八五〇	一、〇五四、六二五	三、八六九、三二九	一五四、八二〇	五四五、二三九	四、四六〇、一四五	一〇三、四四二、九七五

預金貸出金殘高及金銀在高表（大正九年三月末）

銀行名	預金	貸出金	金銀在高
臺灣銀行	円 四一、八五五、二四三	円 一四六、一五〇、八〇四	円 五、六一一、二四五
三十四銀行支店	七、四〇五、六〇八	八、八九九、六七一	五三四、一八六
臺灣商工銀行	一二、五五三、八五五	一五、八九〇、五八五	一二一、一〇〇
嘉義銀行	五、八八〇、八五三	七、五五一、五七〇	六四、六六八
彰化銀行	六、九〇九、五六三	一五、四九二、五七一	一五一、三二四
新高銀行	七、二五四、〇〇四	一一、〇二〇、四五一	五九七、八七五
華南銀行	五、六五〇、五四五	八、七二八、九二六	一六、五九九
合計	八七、二六八、五八四	二一一、五二四、一五六	四、六六六、六八七
前年三月	六九、九五九、五三二	一〇八、五八六、一五七	四、四八四、五五八

臺北物價指數別表　大正九年四月末

内地人側

品名	本月	前月	前年同月
白米	三七八・九八	三九四・九〇	二八六・六二
清酒	四六三・六四	四六三・六四	二八八・二四
麥酒	二三一・八二	二三一・八二	一九九・〇九
澤庵漬	二八二・六一	二八二・六一	二八二・六一
小麥粉	二五六・四二	三八二・二二	二二二・八二
鰹節	三四五・二四	三四五・二四	二六一・九〇
醬油	二六五・〇〇	二六五・〇〇	一四七・五〇
白木綿	五八四・二七	六九一・六九	四一〇・二一
石炭	二八五・七一	二八五・七一	二五〇・〇〇
煉瓦	五四二・八六	四七一・四三	三三八・五七
日本形瓦	四三一・八二	四三一・八二	二九五・四五
平均	三六九・八五	三七七・四六	二五六・六三

本島人側

品名	本月	前月	前年同月
玄米	三三七・一七	三三八・九三	二九九・四二
紅酒	二七三・〇〇	二七三・〇〇	二〇八・〇〇
砂糖	六三一・五八	六三一・五八	二五四・三九
鴨卵	三一八・五二	二三五・七八	二五五・五六
絹布	四〇七・四一	四三五・一九	三四二・五九
木炭	二六六・六七	二六六・六七	一八〇・〇〇
薪	二三八・八一	二三八・八一	一九四・〇三
石油	三四三・五五	三四三・五五	三六四・五三
火油	三〇三・五七	二九六・四三	二一四・二九
平均	三四五・四八	三五〇・九九	二五六・九八
總平均	三五八・八八	三六五・五五	二五六・七九
本月を一〇〇としての比較	一〇〇・〇〇	一〇一・八〇	七一・五五

備考　本表は明治三十五年一月の物價を一〇〇として計算したるものなり

臺北物價平均指數五箇年對照表（四月末）

月次	大正九年	同八年	同七年	同六年	同五年
一月	三六七・四二	二六〇・〇一	二〇八・二四	一五八・五九	一四八・九二
二月	三七四・三三	二五九・八一	二一五・三六	一五八・二六	一四〇・九七
三月	三六九・五五	二五一・八〇	二二二・八三	一五九・六一	一四二・〇七
四月	三五八・八八	二五六・七九	二二五・六二	一六〇・四二	一四四・二六
五月	—	二五八・八八	二三二・八八	一六八・七二	一四二・七〇
六月	—	二六八・六四	二三一・六二	一七五・一六	一四〇・四二
七月	—	二九〇・六三	二三七・九〇	一八六・〇六	一四一・六一
八月	—	三〇〇・一五	二三七・〇七	一八八・五二	一四三・〇九
九月	—	三〇〇・六一	二四二・四七	一八九・六七	一四二・六八
十月	—	三二三・九二	二五一・六〇	一九一・八五	一四七・二八
十一月	—	三三五・一七	二九七・二二	一九七・二二	一五五・五九
十二月	—	三五六・九二	二六三・六三	二〇一・二一	一五七・一七

各年月を一〇〇とせる本月平均指數（四月末）

基礎年月	本月平均
大正九年三月	九八・一八
同八年四月	一三九・七六
同七年四月	一九九・〇六
同六年四月	二二三・七二
同五年四月	二四八・七七

大正九年二月中各銀行内外爲替取組高表

收入

種別	銀行別	内地 口數	内地 金額	外國 口數	外國 金額	島内 口數	島内 金額
送金爲替手形	臺灣銀行	二、一一七	一九、三四二、九四三円	一五七	四五九、六九七円	五、六四〇	二三、四二七、九一四円
送金爲替手形	三十四銀行	七九四	一、七二一、六四六	—	—	四四一	八五八、一七三
送金爲替手形	臺灣商工銀行	六三二	五八三、九一六	—	—	四、二九八	二、九三〇、〇七五
送金爲替手形	嘉義銀行	一三三	一〇五、八六六	—	—	三、七一六	二、四四一、〇七九
送金爲替手形	彰化銀行	九七	二二二、三四〇	—	—	三、三九六	四、四〇三、〇〇九
送金爲替手形	新高銀行	一八	一、一三五、五六九	—	—	二、八五三	二、二四八、三〇二
送金爲替手形	華南銀行	五六	五三六、四七五	三五	二四六、七四七	一一〇	一、一九二、〇二四
送金爲替手形	計	三、九二九	二三、五三八、七四三	一九二	七〇四、四四四	二〇、六五三	三七、五〇〇、五六四
	臺灣銀行	五一三	七三九、一五八	—	—	一、四一〇	三、三九七、三四六

支出

種別	銀行別	内地 口數	内地 金額	外國 口數	外國 金額	島内 口數	島内 金額
送金爲替手形	臺灣銀行	九〇一	三、八〇〇、八七五円	二六〇	七九〇、六五五円	五、九八一	二五、一五八、五五八円
送金爲替手形	三十四銀行	一一三	九三、八三五	—	—	一五五	七五、三二八
送金爲替手形	臺灣商工銀行	五四	二三八、二二四	—	—	四、四一二	二、六二五、三三五
送金爲替手形	嘉義銀行	六	五、七九一	—	—	二、三三九	一、七四八、〇四八
送金爲替手形	彰化銀行	八七	二三四、二九七	—	—	四、五八〇	三、八一五、八〇七
送金爲替手形	新高銀行	五	一、八七二	—	一九八、〇〇〇	二、六四九	二、二七四、三三九
送金爲替手形	華南銀行	三三	二八〇	一七	一九八、〇〇〇	二	一〇、一〇〇
送金爲替手形	計	一、一六九	四、三七五、一七二	二七七	九八八、六五三	二〇、一〇八	三五、七〇七、五〇五
	臺灣銀行	五二	三、一四九、八三〇	—	—	一、三九七	四、三八八、四三一

二月中收支超過　收支（○印ハ支出）超過

種別	銀行別	内地 金額	外國 金額	島内 金額
送金爲替手形	臺灣銀行	六、〇三三、六四四	一、二六五、九四七	○一、四〇三、三九八
送金爲替手形	三十四銀行	三、七一六、八二五	—	○一三六、六〇九
送金爲替手形	臺灣商工銀行	四五六、六五四	—	四四九、五〇五
送金爲替手形	嘉義銀行	三三〇、〇七二	—	八五五、五九一
送金爲替手形	彰化銀行	二五、一五二	—	一、三一八、三六二
送金爲替手形	新高銀行	一、〇九五、七四八	—	一五九、三三七
送金爲替手形	華南銀行	四二五、八六八	七三五、一六二	一六九、一二五
送金爲替手形	計	二一、七六三、九四三	二、〇〇五、一〇八	一、七二四、四四九
	臺灣銀行	八、〇四八、〇四五	二、六九四、三二一	○二、四二七、四六五

種別	銀行												
割引手形	三十四銀行	四三二	四三六,〇六〇	—	—	八	九,〇二一	三三	八八,四五二	—	—	一九六	三九一,九四四
	臺灣商工銀行	六〇	一〇四,二六六	—	—	三九一	七七八,七九四	七	二八,六九一	—	—	三四四	八七一,六七三
	嘉義銀行	三五	六,三三三	—	—	四八七	五〇五,八四六	五	二〇,四七九	—	—	三五六	四八七,九九三
	彰化銀行	四	一,〇四一	—	—	三八五	七五五,二二五	—	—	—	—	二一七	三四四,三七六
	新高銀行	—	—	—	—	六八	八七,七九二	一	一,〇一一	—	—	七〇	九八,三九九
	華南銀行	—	—	—	—	—	—	三三	四,〇四八	—	—	一四〇	二八八,六九九
	計	一,〇四一	一,二八六,八四七	一	—	二,九〇七	五,五三四,〇〇四	七一	三,二八八,五二一	—	—	二,七二〇	五,八七一,五一五
荷爲替手形	臺灣銀行	七二	二,二七七,五五一	—	—	二四七	二,〇〇九,七〇一	三八八	一〇,九〇二,四八六	—	—	二二三	一,八三二,四〇一
	三十四銀行	二八	九一二,〇四六	—	—	八	三六,七四六	一九	一九二,四七六	—	—	二九	二三三,一〇九
	臺灣商工銀行	一〇二	一四五,〇六二	—	—	一九九	六八五,六三一	三	一三七,五八三	—	—	八四	三二三,八四九
	嘉義銀行	一〇	一,九九八	—	—	一九	六四,一七五	六	五一,三五〇	—	—	七	二三,八五二
	彰化銀行	四	二,三四一	—	—	三四	一三四,三二七	—	—	—	—	—	—
	新高銀行	—	—	—	—	二三	九八,五八四	一四	一八,三五七	—	—	三一	一四四,四三二
	華南銀行	—	—	—	—	—	—	八	六九,六九六	—	—	一八	九九,〇〇九
	計	一,〇四五	三,三六八,九九八	—	—	四八六	三,〇二七,一六四	四五七	一一,三七一,九四八	—	—	三八七	二,六〇六,六五二
代金取立手形	臺灣銀行	三,二三四	一,九二四,五六三	一一三	二,四三一,四五八	一,五一五	一,二九五,二六九	八三	三二一,三八〇	一一七	八二八,五五九	一,〇七〇	一,二九三,一三八
	三十四銀行	一,〇五四	一,〇七七,五二三	—	—	三〇	二一,四八六	二八	五五,六八九	—	—	八二九	三七一,六四四
	臺灣商工銀行	三三二	一二四,六八九	—	—	九一三	五二三,四五四	五六	九六,八〇一	—	—	九二九	六四五,五九〇
	嘉義銀行	六一	一八,六三七	—	—	七一七	四六四,七六八	二〇	二三,一一二	—	—	五三四	三六〇,三八四
	彰化銀行	九二	五三,〇三〇	—	—	七五三	四二〇,八四〇	八	九,三〇四	—	—	四八七	二三四,八四六
	新高銀行	—	—	—	—	三〇二	一二九,五一三	四八	二〇,五八一	—	—	四七二	一八六,二九八
	華南銀行	二	一七一,四一九	二	八六四,四九二	—	—	六	八,〇〇〇	三四	一七六,〇七八	七七	六五,〇八一
	計	四,七八四	三,三六九,八六一	一一五	三,二九五,九五〇	四,二三〇	二,八九五,三三〇	二四九	五三四,八七六	一九一	一,〇〇六,六三三	四,四〇三	三,〇一六,九四一
合計	臺灣銀行	六,五七五	二四,一八四,二二五	二七〇	二,八八九,一五五	八,八一二	三〇,一三〇,二三〇	一,四二四	一八,一七〇,五七一	三七七	一,六一九,二〇八	八,六七〇	三一,五三二,五二八
	三十四銀行	二,四九七	四,一四七,二七九	—	—	四八七	九二五,四一六	一六五	四三〇,四五〇	—	—	一,二二五	一,〇六二,〇二五
	臺灣商工銀行	一,一一五	九五七,九三三	—	—	五,七九七	四,九一五,九五二	一三九	五〇一,二九九	—	—	五,七六九	四,四六六,四四七
	嘉義銀行	二三六	一三二,八一三	—	—	四,九一九	三,四七九,八六八	三七	一〇〇,七四一	—	—	三,三二五	二,六二〇,二七七
	彰化銀行	一九七	二六八,七五二	—	—	四,九四六	五,七一三,三九一	九五	二四三,六〇一	—	—	五,二八四	四,三九五,〇二九
	新高銀行	一一八	一,一三五,五六九	—	—	三,二四五	二,五六四,一九一	六八	四一,八二二	—	—	四,二二二	二,七〇三,四一八

一月以降收支超過（割引手形）

銀行			
三十四銀行	五,八二〇,〇六五	—	五三三,一九七
臺灣商工銀行	五八七,三一三	—	五二七,〇八九
嘉義銀行	一五六,六四八	—	一,三二八,三一五
彰化銀行	〇 三〇,五九二	—	一,七四八,二一四
新高銀行	一,六四二,三三七〇	三,八一六	二五三,二三三
華南銀行	三七三,九五一	七二一,八三九	一,一一八,七二九
計	一六,五八七,七六七	三,四〇二,三三七	二,七四三,一九四

備考　收支超過欄銀行別は收入欄銀行別による臺灣銀行代金取立手形外國欄には

收入の部 ｛買入爲替 一〇四口／利付爲替 一〇口｝

支出の部 ｛買入爲替 四三口／利付爲替 五四口｝

二,三九一,四一四円／六,四三六／一八五,〇〇八／六二四,七二七 ｝を併算せり

華南銀行代金取立手形外國欄には

收入の部 ｛買入爲替 二口｝

支出の部 ｛買入爲替 三一口／利付爲替 二口｝

八六四,四九二円／一七三,七五四／一,八二四 ｝を併算せり

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

華南銀行	計	一月以降累計 臺灣銀行	三十四銀行	臺灣商工銀行	嘉義銀行	彰化銀行	新高銀行	華南銀行	計
六七	一〇,九九五	一二,六四三	四,四一二	二,一〇六	四四〇	三七三	二三四	一〇五	二〇,三一一
五〇七,八九二	三一,五五四,四四九	四二,四〇五,二二七	七,〇八二,五五五	二,一五九,四六五	三三〇,六八六	四五〇,五一五	一,九七七,九〇八	六二三,四五八	五五,〇二九,七九四
三七	三〇七	五八三	—	—	—	—	三七	五〇	六七〇
一,一一一,三三九	四,〇〇〇,三九四	五,八八九,〇九七	—	—	—	—	六四,〇九四	一,二七四,六四五	七,二二七,八三六
一一〇	二八,二七六	一六,七五六	一,三三一	一〇,五九二	九,一七五	一〇,〇二四	六,〇七八	二〇七	五四,一五五
一,一九二,〇一四	四八,九一七,〇六二	五六,五八九,八〇九	二,二四五,〇六九	八,六〇〇,六四四	六,二〇八,二〇〇	一〇,八九〇,三六九	四,九七〇,一一三	一,八五一,六〇〇	九一,三五一,七〇〇
二〇	一,九四六	二,八五二	三三八	三〇五	五八	一九二	九四	八三	五,九二〇
八三,〇三四	一九,五七〇,九〇七	三四,三五七,一八二	一,三七二,四七〇	一,五七二,一五二	一七四,〇六八	四八一,一〇七	三三九,五七一	二四九,五〇七	三八,四四二,〇三七
五一	四二八	七三四	—	—	—	—	六九	八八	八九一
三七六,〇七八	一九,九九五,二八六	三三,一九四,七八三	—	—	—	—	六七,九一〇	五六二,八〇六	三三,八二五,四九九
二三七	二七,六一八	一六,八二一	二,一二九	一〇,七七八	七,二七九	一〇,三一九	五,八七六	三八八	五三,五九〇
四二二,八八九	四七,二〇二,六一三	五九,〇一三,三六八	一,七一二,八〇二	八,〇七五,五五五	四,九八九,八八五	九,一四二,一五五	四,九四四,九〇〇	七五二,八七一	八八,六〇八,五〇六

大正九年四月　臺灣貿易統計ノ一

●貿易額●

	四月	九年累計	八年累計
輸出	円 二,三八六,一四六	円 一二,一五〇,二〇七	円 一〇,一六六,七五四
輸入	六,九八五,五八八	二七,四九五,一六六	一九,三三七,五九三
計	九,三七一,七三四	三九,六四五,三七三	二九,四九九,三九七
輸出(入)超過	入四,五九九,四四二	入一五,三四四,九五九	入九,一七五,八三九
朝鮮移出	円 —	円 一三〇,四二五	円 九六,〇八六
朝鮮移入	三四四	六,〇四八	一一,〇五九
計	三四四	一三六,四七三	一〇七,一四五
移出(入)超過	三四四	一二四,三七七	八五,〇二七
内地移出	円 三一,四四〇,二二二	円 一一四,三九一,一六三	円 六三,五八七,五二三
内地移入	九,八一七,五一七	四〇,四四三,七六九	二四,七九四,二五九
計	四一,二五七,七三九	一五四,八三四,九三二	八八,三八一,七八二
移出(入)超過	二一,六二二,七〇五	七三,九四七,三九四	三八,七九三,二六四

●輸出●

品名		四月 数量	四月 價額	九年累計 数量	九年累計 價額	八年累計 数量	八年累計 價額
石炭	噸	四四,九七八	円 九一八,三八一	一四九,七三三	円 二,九一〇,七七八	一三六,五六八	円 二,〇一六,三九七
砂糖	斤	三〇八,七〇〇	一〇八,〇四五	一一,八五九,三二七	五,九九四,九九一	二〇,八五六,九七七	三,六五七,三九四
烏龍茶	同	—	—	九,九九七	四,一四一	四三,六〇九	一六,八〇九
樟腦	同	一一六,〇〇〇	三三二,八〇〇	四四九,九五〇	一,一四四,五三九	四九五,六〇一	三五五,七三四
包種茶	同	一三六,四二五	九〇,三二〇	一,〇八八,四〇七	五五四,一四〇	九三〇,六七七	四一六,一五三
燐寸	同	七六,〇五五	一二四,六七六	四一四,二一五	五五五,九〇一	七二八,九九四	七〇一,〇二六
編織物	碼	三二〇,八三一	二四四,四九〇	二,〇一〇,三五二	九七一,四九六	一,五六五,二九三	四七五,四四一

●移出●

品名		四月 数量	四月 價額	九年累計 数量	九年累計 價額	八年累計 数量	八年累計 價額
砂糖	斤	七六,四四一,三一六	円 二七,四四二,三七五	三六一,三〇〇,六六二	円 九六,八三四,〇八八	四三三,八九〇,六〇五	円 四六,四四二,三〇七
米	同	五,七五九,七〇〇	八〇四,五七四	四二,七五八,一〇〇	六,二一〇,六七七	八二,三六四,三二一	九,九七五,八四八
酒精	利	一,三六五,四六一	一,七九五,〇七二	四,六七三,八五八	五,八三八,四九二	三一,四一七,三四六	三,三〇一,五四七
樟腦	斤	一四〇,一九二	二四六,二〇〇	六九七,三〇四	一,一五六,七九四	五六八,八三六	七四五,三六〇
芭蕉實	同	四七九,二六〇	六八,四五〇	一,一〇〇,〇八一	一五一,八一七	一四,〇一四,六八八	三六〇,四九五
切乾蕃薯	同	一,〇二六,六〇〇	四五,五五八	一〇,二〇二,四一六	四五六,九〇五	七九七,五三〇	三〇,八二四
樟腦油	同	二九六,三三四	一三六,六九六	一,〇七一,九二五	四八一,二六〇	一,〇三〇,五四九	四六四,五一四

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

品目	単位						
苧麻	斤	八五,八五九	四一,六五二	四二五,九一六	一九五,四二〇	四四二,九六五	一九九,九四七
鹹魚及乾魚	同	一五五,二二一	二五六,八八五	一,四七五,五四五	三三五,〇四六	一,四六四,七〇八	二九,七九五
酒精	利	―	―	七,二一八	五,五九六	七二四,二九五	五〇四,四六二
落花生豆	斤	七,七五一	一,七九五	四〇〇,六五七	五〇,四五七	一四三,八二七	一七,七〇五
帽子纏	箇	四四八,一〇二	二二,六五二	一,二六八,二〇八	三五,三五四	一,八一一,二三七	三五,五一五
乾筍	斤	三五,五五〇	一,三四四	一五五,四七六	三六,八六一	一四四,四六五	三六,八一三
龍眼	同	三七八	一七一	四,五四三	二,七五八	二八一,六五〇	四五,二一九
鹽鱈	同	七,九〇二	一五,七二六	二五,七三二	四二,四四四	二九,五〇九	四九,四四三
其他諸品		―	四八一,五三一	―	一,四〇二,三三五	―	一,五八四,一二二
計		―	二,三八六,一四六	―	三,一五〇,二〇七	―	一〇,一六一,七五四

●輸入●

品目	単位						
砂糖	斤	八,六五三,三二五	二,七四〇,九五三	三〇,三八一,三三三	九,三八九,五二二	一九,一二一,八九〇	二,二〇七,七四五
豆油、粕	同	四,四六二,〇〇〇	四七七,一〇六	四六,二二九,八〇〇	四,五一九,四一六	六五,五五六,五四八	三,四五〇,四四九
米	同	六,九三三,三二三	七六二,四四六	三八,七九九,五三三	三,二九八,七二八	四九,七九二,九九六	四,五三六,四四二
阿片	同	二,四〇六	六六,八四三	二三,一八八	六五七,四五七	四八,一一三	一,一九六,八九三
包蓆	枚	三七九,九四九	七三,三二八	三一二,〇四五	六八〇,六六四	三,七二六,四四三	八三九,九三七
石油	瓦	二六八,二五二	二三八,二四四	八三四,二五九	七八一,三五四	九九六,一一三	五八一,一一三
小麥粉	斤	四一〇,五〇八	九三,九七三	四一八,〇六八	九五,一五六	一,四六六,二三三	一六七,二四一
木材及板		―	三八六,二六五	―	一,〇二三,六五四	―	四三七,八一六
葉煙草	斤	一〇一,三四六	七五,四八三	四七四,一八八	三七一,三八七	一,四八二,四八五	七九四,九五〇
豆類	同	一,〇三五,八五一	一三〇,八四六	四,二五六,七五五	五一一,五九三	四,三六一,二六一	三三一,二三五
籠拜紙	同	二八一,三三五	一四四,七五〇	九三二,四〇二	四七五,八四五	六九四,八八九	二五五,八九一
苧麻布	方碼	四四三,三六〇	二一一,二二四	八〇一,二九四	三二八,九五二	七〇八,〇九〇	二三〇,四四五
黄麻	斤	―	―	三〇七,七三三	八五,三二九	九〇一,三七五	一五〇,六四五
ガンニー嚢	箇	九二,一一二	五四,三五二	一九九,四六二	一二七,八六四	六五七,〇一七	二八六,六〇七
電線	斤	二,五四〇	四六六	二,五四〇	四六六	一七二,五七二	三五,八八五
小麥	同	―	―	―	―	四一七,三一九	二一,二九八
竹沙布	ヤ碼	三二,一一九	三二,一四七	五五,五二六	九四,九五二	四三〇,七一六	二八四,七〇四
銅（金銀含有）	同	一七五,四六四	一一五,七二三	四一六,四一五	二九九,二二一	四〇二,五八五	二一五,二〇三
石炭	噸	―	―	二五,五六九	四一八,九九三	七,五五三	八,五九七
鰹節	斤	五〇〇	八〇〇	三,三二〇	四,四〇〇	七,五五三	八,五九七
木材及板		―	九九,八一八	―	四七六,六三〇	―	六九,八四一
鳳梨罐詰	打	四,三六四	二一,七八〇	二二,六七七	一〇二,七〇三	四三,五七三	一四三,二一五
落花生豆	斤	七六,二五〇	一四,七六五	三三五,二六〇	二六,〇一〇	一,九〇〇	二五二
生皮	同	四五,三八四	二五,七四六	二六五,一四四	一三六,七一三	三五二,八二二	一五〇,七一二
麻織物	碼	二五五,三〇〇	一二二,〇六七	六六三,一二〇	二〇八,四〇七	三九四,四〇四	九二,六〇〇
其他諸品		―	五一三,一二九	―	一,四九二,〇四六	―	一,四五八,五一四
計		―	三一,四四〇,二二二	―	[illegible]	―	六三,五八七,五二三

●移入●

品目	単位						
諸綿布		―	八五四,九八一	―	三,一八三,五八九	―	二,五八三,九九七
鹹魚及乾魚	斤	二,一八三,一九四	四九六,八二二	一三,一〇六,六八六	二,三二五,三三〇	一四,二八九,一七一	二,一六四,二八七
肥料	同	四,四二三,二七五	五八二,二〇一	四〇,二七七,三三九	四,九五七,一八七	二八,六一三,三〇三	二,〇八六,六三六
鐵	斤	一,九五九,〇七二	四〇七,一六三	九,五七五,〇四三	二,〇六四,一七一	五,四二一,三六一	一,二三〇,七一二
木材及板		―	五七三,九四九	―	二,〇九一,九一一	―	七二三,二一五
清酒		―	一四一,六〇七	―	五二四,八五八	―	七一一,三八五
製糖用機械及同部分品		―	一〇,九五〇	―	一六八,五六四	―	七五,八七〇
燐寸	哥	八六,二五〇	一三六,六三九	五二四,二七三	七〇六,七一八	八〇四,三六四	八五二,七九一
藥品類		―	四一五,五八六	―	二,八六二,九八九	―	八二一,〇八三
和紙及洋紙		―	一七七,九二五	―	八〇八,三三一	―	五八三,一二七
鐵製品		―	一七四,四〇九	―	五五五,二四七	―	五五九,六〇七
鐵道建設材料	斤	一,一〇九,七一二	二三三,〇七六	三,三五九,〇二八	六七八,〇四六	八三一,八〇七	一四九,七六二
米	石	一,九五三	一一六,九一四	七,六二八	四六七,三〇五	八,三九〇	三九二,九三九
麥酒	打	七六,六一四	四二六,九〇六	一七九,八六四	九八三,二六四	一二一,一八一	四八六,三三三
豆類	石	一,九二九	七一,二九九	一四,九七八	五四〇,一八九	一二,四八四	三〇九,三九〇
小麥粉	斤	一,四四一,七〇九	二五〇,六二〇	二,九九四,八四二	五一四,六七〇	四,〇三二,九七五	五七九,九七〇
石油	瓦	一〇七,三四〇	九九,八〇六	二八八,〇八〇	二七九,八三〇	三一二,一七〇	三四一,三五五

大正九年四月　臺灣貿易統計ノ二

●仕向地及仕出地別●

		輸出	輸入	計	九年累計	八年累計
支那		九七〇,八五四円	二,八八六,六七〇円	三,八五七,五二四円	一六,七三九,八二三円	一六,二五二,五五〇
假置場		—	四四〇,一六七	四四〇,一六七	四四〇,七一三	八三三,二六九

	移出	移入	計	九年累計	八年累計
大阪	七,二四八,九二三円	三,四七四,〇四四円	一〇,七二三,九六七円	四四,六〇二,七六〇円	二三,四九六,二〇三円
東京	二,八四一,九七三	一,三四二,〇〇二	一四,一八三,九七五	四五,四一七,四一四	二五,六四〇,七四八

●金銀●

	四月	九年累計	八年累計
輸出	—円	—円	—円
輸入	—	—	三三
計	—	—	三三
移出	二五,八四〇円	九八,五一八円	九四,〇二八円
移入	一九,五三六	三一,五三六	六七,二〇〇
計	四五,三七六	一三〇,〇五四	一六一,二二八

品名	単位	四月		九年累計		八年累計	
鹹魚	斤	四二八,六四六	四七,〇〇八	四,六七五,一四六	五四六,六〇八	二,三一九,八七二	二三七,四五九
綿繻子	方碼	二四,〇六四	三一,八五〇	五五,〇〇八	七三,九七五	一二九,七一六	七九,七七二
コンデンスドミルク	打	七,七九二	四九,二九二	一七,三七〇	一〇九,一三九	一〇,七一六	六六,四〇六
陶磁器		—	三三,七二一	—	一三二,六九五	—	六二,三七八
綿布（竹紗布、綿繻子及綿線羅布ヲ除ク）	方碼	三二,一七五	二五,九五八	九一,九二四	七〇,六六八	六四五,八一二	三九三,一一九
葉餅及葉鋼	斤	五九,〇六二	一三,五六七	二五一,〇五八	七〇,七〇三	—	—
唐紙	同	八七,七三九	二三,六二七	二五八,四六二	五八,〇八九	三八八,六三三	六八,〇四一
パラフインワツクス	同	六六,七八八	二八,八五四	一八四,一一六	七八,五六二	一一七,〇〇四	三七,三〇〇
紙巻煙草	箇	五,〇〇〇,〇〇〇	二八,六〇六	八,四〇四,二〇〇	五六,一五七	六,四二六,六五〇	四七,二二一
苧麻綿布	方碼	一七三,二四一	一〇〇,四四〇	二〇六,一七〇	一二一,五二三	三六九,一四二	一〇九,一五二
人參	斤	一,八〇六	一四,六一〇	五,七二三	四八,六六三	九,一九六	五七,一八八
茶油糟	同	一,三五七,四七〇	三六,八八七	二,六〇九,八一六	七三,五一〇	五,一〇三,一四二	一〇一,八〇七
茶箱板	組	三三,七四九	一五,八八七	四八,七四九	二三,三五八	六一,五四一	一八,二七[illegible]
素麵類	斤	三八,八八六	一九,一六七	一〇六,五一二	五二,五三六	一〇二,六〇五	三七,七三八
綿線羅布	方碼	一,五〇〇	一,七八九	一三,一八六	一四,一九三	四〇,七四七	三二,九五一
其他諸品		—	一,〇四七,七〇三	—	三,五七四,六六二	—	二,一八九,九〇七
計		—	六,九八五,五八八	—	二七,四九五,一六六	二	一九,三三七,五九六

品名	単位	四月		九年累計		八年累計	
紙巻煙草	千箇	二〇,八八〇	四三,五九四	一二四,〇六〇	二五六,五六八	一五五,四六〇	二三八,九七二
罐詰食物		—	一六,〇〇二	—	四一二,八八四	—	二一〇,二八〇
醬油	石	四六四	三三,八三六	三,八四六	二五四,三四一	三,五九〇	一五七,九八一
石鹸		—	一五三,八八九	—	三五九,二〇一	—	二三六,四八八
乾鰕	斤	八三,九八〇	六〇,〇四五	二七七,五一六	二〇〇,九三九	三三九,三〇八	一五九,七八一
石炭	噸	三,三六三	八六,三四二	一〇,三一五	二〇六,五〇七	一〇,〇八五	一七三,八五七
セメント	斤	二,〇〇三,〇九四	八五,五一六	九,五七二,八七五	三四五,五四〇	三,〇五八,四九九	九四,〇〇五
枕木	箇	一九,六八三	一九,六八三	九九,〇六五	一二五,〇八八	七九,八四三	九四,五〇七
機械用油	石	九四二	五六,〇六七	四,四六〇	二六四,二一九	一,九八七	一〇五,四六五
錫	斤	三二,七九五	二六,一〇〇	四二九,四八八	三六八,八二五	三九九,五二七	二三八,一〇四
陶磁器		—	五四,七四六	—	一六二,九六三	—	一三九,八七四
砂糖	斤	一六三,五〇〇	八二,一六〇	一,一六五,五三八	五六二,〇三〇	二四一,九四五	六九,三三五
メリヤス肌衣		—	三五,九〇〇	—	一五三,八二二	—	九一,八八八
菓子類		—	八〇,五二〇	—	二四二,四八五	—	二五,八八九
コンデンスドミルク	打	四,七八四	二九,四一五	一五,八六〇	一〇四,六五四	三五,九九六	一九二,三三三
其他諸品		—	三,六八二,八五五	—	一二,七一五,五〇五	—	七,八五〇,五七六
計		—	九,八一七,五一七	—	四〇,四四三,七六九	—	二四,七九四,二五九

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

●入港船舶●

外國

		四月	一九年累計	一八年累計
汽船	隻	七三	二七一	二六五
	噸	八四、八五〇	三三一、六九三	三四六、〇六五
帆船	隻	一八三	六九一	八〇九
	噸	八、一七四	三二、九六四	三六、六二四
計	隻	二五六	九六二	一、〇七四
	噸	九三、〇二四	三六四、六五七	三八二、六八九

北米合衆國	—	三六九、九八六	三六九、九八六	二、三三八、六八〇	一、一三三、六五四
蘭領印度	九九、六七七	二、四二〇、八二四	二、五二〇、五〇一	八、九三四、八九四	一、九九三、三三五
香港	六六五、二八八	四、一〇一	六六九、三八九	一、九一六、六九五	一、三二四、五三五
關東州	—	三九一、六三七	三九一、六三七	二、八二九、〇三七	一、五三〇、五五九
英領印度	三八	八二、一〇七	八二、一四五	三一〇、四五五	一、二〇五、一一八
波斯	—	六六、八四三	六六、八四三	三〇三、二四三	四五九、〇八〇
英吉利	二〇四、四二〇	一四八、七二七	三五三、一四七	七一三、八一三	九〇五、三二四
比律賓諸島	二三九、四三〇	四四一	二四三、八七一	一、二五六、二三四	二六二、三一九
埃及	—	七	七	一、七二八、七一五	一七
佛領印度	三、五一〇	一六、〇六七	一九、五七七	一一六、七四六	一、〇三四、三七六
暹羅	五三、九一六	五七、九二二	一一一、八三七	二三七、九一九	一九六、三九九
英領海峽殖民地及英領ボルネオ	三一、六〇一	一八、四四〇	五〇、〇四一	一三八、五〇〇	三〇三、八一四
露西亞	—	—	—	—	六四二、一三七
西班牙	—	三、七一七	三、七一七	八、五四三	五三八、一七四
歐洲土耳古	—	—	—	一	三七六、八四五
亞細亞土耳古	—	—	—	三五四、二一五	—
佛蘭西	一一七、三八〇	七、二四九	一二四、六二九	一四一、二二六	八九、七七八
英領亞米利加	—	四六、四七二	四六、四七二	五〇〇、〇五五	二一一、三一四
其他諸國	—	二〇、二四二	二〇、二四二	六四五、八七七	二一七、一二〇
計	二、三八六、一四六	六、九八五、五八八	九、三七一、七三四	三九、六四五、三七三	二九、四九九、二九七

內地

		四月	一九年累計	一八年累計
汽船	隻	六五	二六六	二五五
	噸	一一〇、一五四	四三六、三五八	四二八、三八七
帆船	隻	—	二	—
	噸	—	五七	一〇二
計	隻	六五	二六八	二五五
	噸	一一〇、一五四	四三六、四一五	四二八、四八九

神戶	八九一、三〇〇	二、〇三六、二四〇	二、九二七、五四〇	三二、四五一、〇九〇	三三、一〇八、三二九
門司	一、三一三、〇六五	一、一八六、二七七	二、四九九、三四二	八、三九六、七七一	五、三九一、八二六
橫濱	五、〇三二、二三五	三二五、一二四	五、三五七、三五九	一八、一五七、八六四	五、六八三、七四一
名古屋	一、七七五、三五〇	一〇五、三一〇	一、八八〇、六六〇	七〇、一六六、四〇八	七、三九二、六九九
下ノ關	一、七九八、四三〇	一七一、八〇七	一、九七〇、二三七	八、四七〇、一六四	四、七四九、九一八
勝浦	—	四三二、二〇五	四三二、二〇五	一、三三七、六六六	四九七、七六四
函館	一二〇	三四二、〇八〇	三四二、二〇〇	二、〇七六、〇六〇	六三二、二三七
那覇	一五〇、四九四	七、二二二	一五七、七一六	九二八、九四七	七一三、四四八
長崎	一八七、七五〇	一三二、五二三	三二〇、二七三	一、二〇〇、九一三	四四五、七二六
京都	—	四〇、四九〇	四〇、四九〇	一八三、九五〇	一三三、八一二
八重山	二〇、一六八	一〇五、四四六	一二五、六一四	三四一、四四〇	二〇四、六九一
釜石	—	—	—	六一、八〇〇	五一五、五八一
宇品	—	四六、一〇一	四六、一〇一	一七二、九七〇	一二〇、九三三
鹿兒島	—	三九、七三六	三九、七三六	一二二、七三七	一三二、一八九
堺	—	一、九〇〇	一、九〇〇	七、九四〇	五〇、二〇七
小樽	—	二、〇一〇	二、〇一〇	四一、九二三	六九、〇〇六
尾ノ道	二五	七、五五六	七、五八一	五一、二八九	四〇、五〇四
清水	—	—	—	—	一八〇、〇〇〇
其他各地	一〇〇、七八九	一九、四四四	一二〇、二三三	七四四、八二一	一八二、三四一
計	三一、四四〇、二二三	九、八一七、五一七	四一、二五七、七三九	一五四、八三四、九三三	八八、三八一、七八二

●收入額●

	四月
輸入税	六一五、八七七円
製茶税	五、七九九円
織物消費税	五一、六九九円
砂糖消費税	五、六二九円
石油消費税	一、九九六円
噸税	六六円
移入税	一四、七四六円
其他諸收入	九、〇二六円
計	七〇五、〇一四円

八年累計	一,九八八,〇二九	三〇,一一九	八六,四六八	一七,三〇六	九,五七二	六一七	一二,九四六	二〇,二〇二	二,二六五,四五八
九年累計	一,四〇四,六〇六	三〇,九六四	一〇〇,六六七	一二,三〇九	一〇,六八九	二,三〇五	五二六	一四,五六〇	一,五七六,八三四

●港別貿易額●

	輸出	輸入	計	朝鮮移出	朝鮮移入	計	内地移出	内地移入	計	四月	九年累計	八年累計
	円	円	円	円	円	円	円	円	円	円	円	石
臺北	二五九,八六五 (二五三,二六七)	四四三,二七〇 (二七三,八一七)	七〇三,一三五 (五二七,〇八四)	—	一六五 (一六五)	一六五 (一六五)	—	—	—	七〇三,二九八 (五二七,二四七)	二,五二七,三四七 (一,九四八,五五五)	一,七七二,七二五 (一,五五六,九四六)
淡水	一一八,五一七	四一九,五八二	五三八,〇九九	—	—	—	—	—	—	五三八,〇九九	一,五〇五,四八九	九六二,〇一二
基隆	一,六四一,六六七	一,六九八,四一八	三,三四〇,〇八五	—	一〇四	一〇四	四,八三六,八二四	七,一六〇,六八八	一一,九九七,五一二	一五,三三七,七〇一	六八,四一七,九二九	四七,二六二,九五一
舊港	八,四〇〇	三一,八一六	四〇,二一六	—	—	—	—	—	—	四〇,二一六	一八八,五七四	一六二,六一四
後壠	—	二八,三五六	二八,三五六	—	—	—	—	—	—	二八,三五六	八二,六一七	九六,七七五
梧棲	三,〇六三	三五,四〇三	三八,四六六	—	—	—	—	—	—	三八,四六六	五七,四九七	二八,一三五
鹿港	九,四二二	一九三,五八三	二〇三,〇〇五	—	—	—	—	—	—	二〇三,〇〇五	三〇七,一九一	三四〇,一七二
東石港	五,八五九	一四六,九五四	一五二,八一三	—	—	—	—	—	—	一五二,八一三	八二四,九五八	一七九,八八二
安平	三,三〇三	三四七,五九二	三五〇,八九五	—	二	二	七一,九七六	八〇三,九一三	八七五,八八九	一,二二六,七八六	四,六七七,八二二	三,六四九,〇七〇
打狗	三〇五,〇五二	三,六〇一,一三八	三,九〇六,一九〇	—	七五	七五	二六,四四八,〇二二	一,八五二,九一六	二八,三〇〇,九三八	三二,二〇七,二〇三	一一五,九二三,三五〇	六三,一七〇,六六四
媽宮	三〇,七九八	四〇,六七六	七一,四七四	—	—	—	三,四〇〇	—	三,四〇〇	七四,八七四	四二四,〇三四	三四九,〇八七
蘇澳	—	—	—	—	—	—	八〇,〇〇〇	—	八〇,〇〇〇	八〇,〇〇〇	八〇,〇〇〇	—
布袋嘴	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	一四,一六五
北門嶼	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
計	二,三八六,一四六	六,九八五,五八八	九,三七一,七三四	—	三四四	三四四	三一,四四〇,二二二	九,八一七,五一七	四一,二五七,七三九	五〇,六二九,八一七	一九四,六一六,七七八	一一七,九八八,三二四

備考　（　）ハ基隆經由ニシテ上記計數中ノ再掲ナリ

米穀及臺灣帽子統計

（殖産局調査）

●米穀検査成績（大正九年四月分）

	北部米 一等	北部米 二等	北部米 三等	北部米 不合格	北部米 計	北部米 累計	中部米 一等	中部米 二等	中部米 三等	中部米 不合格	中部米 計	中部米 累計	南部米 一等	南部米 二等	南部米 三等	南部米 不合格	南部米 計	南部米 累計	合計	總計
臺北	—	三〇	七八二六	—	七八五六	四一,六三二	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	七八五六	四一,六三二

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

北部	基隆	—	—	一,七四二	三一	一,七七三	二,五三二	—	—	一一	一四	二五	八五七	—	—	一六	一五	三一	九一〇	一,八二九	四,二九九
	蘇澳	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	宜蘭	—	—	九〇	五一一	六〇一	二,二七三	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	六〇一	二,二七三
	羅東	—	—	八五九	四八六	一,三四五	六,三七六	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	一,三四五	六,三七六
	清水	—	—	—	一四〇	一四〇	一,三一五	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	一四〇	一,三一五
	頭圍	—	—	一二八	七六	二〇四	一,二五六	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	二〇四	一,二五六
	桃園	—	—	七一〇	—	七一〇	四六,六八九	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	七一〇	四六,六八九
	楊梅壢	—	—	一,〇四四	一四	一,〇五八	一五,〇二四	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	一,〇五八	一五,〇二四
	新竹	—	—	一,〇八六	一八五	一,二七一	八,九三三	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	一,二七一	八,九三三
	苗栗	—	—	—	—	—	一,八一二	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	一,八一二
	苑裡	—	—	一〇	—	一〇	一一七	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	一〇	一一七
中部	葫蘆墩	—	—	—	—	—	—	—	四,二五三	一,五三六	二四二	六,〇三一	二〇,四六六	—	—	—	—	—	—	六,〇三一	二〇,四六六
	臺中	—	—	—	—	—	—	四八	二,一六七	二,六七八	一九九	五,〇九二	二一,九〇二	—	—	—	—	—	—	五,〇九二	二一,九〇二
	草鞋墩	—	—	—	—	—	—	—	—	一九二	三〇〇	四九二	三,五〇一	—	—	—	—	—	—	四九二	三,五〇一
	大肚	—	—	—	—	—	—	—	—	一,一〇六	—	一,一〇六	六,三五一	—	—	—	—	—	—	一,一〇六	六,三五一
	大甲	—	—	—	—	—	—	—	—	二,一七三	—	二,一七三	五,五七二	—	—	—	—	—	—	二,一七三	五,五七二
	沙轆	—	—	—	—	—	—	—	—	一,六一七	—	一,六一七	六,四六八	—	—	—	—	—	—	一,六一七	六,四六八
	鹿港	—	—	—	—	—	—	—	—	八三〇	—	八三〇	七,〇九六	—	—	—	—	—	—	八三〇	七,〇九六
	彰化	—	—	—	—	—	—	—	—	四,三一二	一二八	四,四四〇	二九,八五一	—	—	—	—	—	—	四,四四〇	二九,八五一
	員林	—	—	—	—	—	—	—	—	四,四七三	六六	四,五三九	三三,八二六	—	—	—	—	—	—	四,五三九	三三,八二六
南部	斗六	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	四,六四九	—	四,六四九	二七,八二三	四,六四九	二七,八二三
	嘉義	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	三,八九九	一五〇	四,〇四九	二一,〇二九	四,〇四九	二一,〇二九
	臺南	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	一,四一二	七七四	二,一八六	一一,三五七	二,一八六	一一,三五七
	安平	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	打狗	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	七八三	四〇	八二三	六,七二二	八二三	六,七二二
	鳳山	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	一一二	一〇七	二一九	八,二〇九	二一九	八,二〇九
	阿緱	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	二三	四,九二〇	九	四,九五二	五七,一四六	四,九五二	五七,一四六
	蕃薯寮	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	一,一三〇	—	一,一三〇	一一,五一九	一,一三〇	一一,五一九
	潮洲	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	一二〇	四,五四六	五一	四,七一七	二三,四一六	四,七一七	二三,四一六

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

部																				
東港	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	六、八一九	二	六、八二二	四五、九九七	六、八二二	四五、九九七
計	—	三〇	一三、四七三	一、四四五	一四、九四八	一二五、八六六	四八	六、四二〇	一八、九二八	九四九	二六、三四五	一三五、八九〇	—	一四三	二八、二六六	一、一四八	二九、五七七	一九二、一二六	七〇、八七〇	四五三、八九四
累計	—	七〇	一一九、四九五	六、三五五	一二五、八六六	一二五、八六六	三四四	二〇、八六九	一一、七三九	二、九三八	一三五、八九〇	一三五、八九〇	—	四五七	一八三、八四八	七八二	一九二、一二六	一九二、一二六	四五三、八九四	四五三、八九四

●檢查米產地及仕向地表（大正九年四月分）（單位袋）

產地 ＼ 廳別 仕向地	臺北	宜蘭	桃園	新竹	臺中	南投	嘉義	臺南	阿緱	計	累計
基隆	七、三四〇	一、三一二	一、六二一	三三	七、六六一	—	二六	—	—	一五、一五八	一三三、九二五
臺北	三八四	—	二九六	一四〇	一一、六六一	—	四、八四五	四〇一	—	一八、一五六	八九、七八九
彰化	—	—	—	—	八〇	—	—	—	—	八〇	七六
花蓮港	一四二	二八〇	—	—	三三	—	—	一六	—	四七一	一、九〇一
七堵	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	五五
八堵	—	六	—	—	—	—	—	—	—	六	二八一
二結	—	四九	—	—	—	—	—	—	—	四九	一〇九
羅東	—	一三四	—	—	—	—	—	—	—	一三四	三〇八
蘇澳	—	七七	—	—	—	—	—	—	—	七七	三、九一七
叭哩沙	—	三九九	—	—	—	—	—	—	—	三九九	一、九一五
南港	—	三三	—	—	—	—	—	—	—	三三	三六九
冬瓜山	—	二〇	—	—	—	—	—	—	—	二〇	一三三
利澤簡	—	五二一	—	—	—	—	—	—	—	五二一	八六九
宜蘭	—	一〇七	—	—	—	—	—	—	—	一〇七	八〇七
天送埤	—	二六	—	—	—	—	—	—	—	二六	四八
桃園	—	—	一〇七	七三三	六九六	—	—	一〇	—	一、五二三	五、一三〇
中壢	—	—	—	—	六七五	—	—	—	—	六七五	二、五二四
大湖口	—	—	—	一三三	—	—	—	—	—	一三三	六七一
林圯埔	—	—	—	—	八	—	四〇五	—	—	四一三	一、八四〇
新竹	—	—	二六	—	一、六六一	—	三、八一七	四〇五	—	四、九四九	三一、五〇五
嘉義	—	—	—	—	二、四四三	—	四四〇	七七	—	二、九六九	八、六六九
打狗	—	—	—	—	四五	—	—	一、四一〇	一四、八一〇	一六、二六五	一三五、〇八七
南投	—	—	—	—	一、二二二	—	—	—	—	一、二二二	二、六九五
苗栗	—	—	—	—	一〇〇	—	—	—	—	一〇〇	八〇九
后里庄	—	—	—	—	八五	—	—	—	—	八五	九五
葫蘆墩	—	—	—	—	一八	—	一〇九	—	—	一二七	六〇八
潭仔墘	—	—	—	—	三五	—	—	—	—	三五	一〇九
阿罩霧	—	—	—	—	四三	—	—	—	—	四三	八三
林內	—	—	—	—	一〇一	—	二	—	—	一〇三	三〇三
二八水	—	—	—	—	八五	—	—	—	—	八五	一六〇
員林	—	—	—	—	二四五	—	—	—	—	二四五	四四五
斗六	—	—	—	—	一四五	—	—	—	—	一四五	八四七
他里霧	—	—	—	—	一〇〇	—	—	—	—	一〇〇	六〇〇
新營庄	—	—	—	—	一〇〇	—	—	—	—	一〇〇	三一七
番仔田	—	—	—	—	二六	—	—	—	—	二六	八五
臺南	—	—	—	—	七八	—	—	—	—	七八	一、〇六三
鳳山	—	—	—	—	六八	—	—	一〇	三三	一一一	三三三
田中央	—	—	—	—	二六	—	—	—	—	二六	六三
澎湖	—	—	—	—	八〇	—	—	四九	一	一三〇	二、六九五
和美線	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	九七
大肚渓	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	一〇〇
安平鎮	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	三三三
臺中	—	—	—	—	三〇〇	—	—	—	—	三〇〇	三、四二六
菁仔	—	—	—	—	—	—	—	—	—	四〇	三〇〇
北港	—	—	—	—	—	—	一三三	—	—	一三三	四三三
鹽水港	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	一三〇

店仔口	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	一四
埔仔頭	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	一八
嘛吧哖	—	—	—	—	—	—	—	四〇	—	四〇	七六
番薯寮	—	—	—	—	—	—	—	五	—	五	五四
阿緱	—	—	—	—	—	—	—	一五五	—	一五五	八七六
北門嶼	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	四〇
臺東	—	—	—	—	—	—	—	二五五	七七	三三二	七六四
恒春	—	—	—	—	—	—	—	四五	—	四五	五八〇
九曲堂	—	—	—	—	—	—	—	—	二	二	一二
甲仙埔	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	一八
阿里港	—	—	—	—	—	—	—	—	一五	一五	二〇四
東港	—	—	—	—	—	—	—	一五	五	二〇	七〇
大溪	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	一五〇
樹杞林	—	—	—	七二	—	—	—	—	—	七二	八七
中港	—	—	—	六〇	—	—	—	—	—	六〇	五一二
鶯歌石	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	二〇
楊梅壢	—	—	一四	—	一〇七	—	—	—	—	一一七	七六八
集々	—	—	—	—	—	四七二	—	—	—	四七二	一,一〇二

大莆林	—	—	—	—	四二	—	—	—	—	四二	一五六
水堀頭	—	—	—	—	—	—	—	六〇	—	六〇	[illegible]
灣裡	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	二
蕭壠	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	七六
紛鳥林	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	六〇
頂速	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	一〇
鹿港	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	一〇
璿芳	—	五	—	—	—	—	—	—	—	五	五
東港	—	一〇	—	—	—	—	—	—	—	一〇	一〇
廣興	—	八	—	—	—	—	—	—	—	八	八
大福	—	一〇	—	—	—	—	—	—	—	一〇	一〇
大肚	—	—	—	—	一,六一七	—	—	—	—	一,六一七	一,六一七
埔里社	—	—	—	—	一三八	—	—	—	—	一三八	一三八
新市街	—	—	—	—	—	—	—	五	—	五	五
紅毛田	—	—	—	—	—	—	—	二〇	—	二〇	二〇
計	八,〇六八	五,五六七	二,一八四	一,二六一	二五,八五五	四七二	八,七一四	五,一三九	一三,六一〇	七〇,八七〇	四五五,八六四
累計	四二,二一七	二二,七二一	九〇,五二六	一〇,八九一	一五二,五八九	五,九〇一	四九,七五九	二九,五〇二	二二九,七〇八	四五五,八六四	四五五,八六四

●檢查米種別及期別表（四月分）

種別＼等級別		第一期 一等	第一期 二等	第一期 三等	第一期 不合格	第一期 計	第一期 累計	第二期 一等	第二期 二等	第二期 三等	第二期 不合格	第二期 計	第二期 累計	合計 一二期計	合計 一二期累計
粳玄米	本年產	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	前年產	—	—	三,七六二	三五	三,七九七	一二,八五四	—	二二〇	三八,四〇六	八六六	三九,四九二	二四六,八七三	四三,二八九	二五九,七二七
粳白米	本年產	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	前年產	—	—	—	二七	二七	九九一	四八	六,四七二	一一,六四四	二,三四〇	二〇,五〇四	五六,七三九	二〇,五三一	五七,七三〇
糯玄米	本年產	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	前年產	—	—	—	—	—	七六	—	—	六,五四六	一七一	六,七一七	一三三,五三九	六,七一七	一三三,六一五
糯白米	本年產	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	前年產	—	—	二	三	五	二三〇	—	一	三四七	一〇〇	四四八	二,五九二	四五三	二,八二二
本年產月計		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

前年當月計	—	—	三五、六四	六五	三、八二九	一四、一五一	四八	七、五九三	五六、九二三	三、四七〇	六七、〇四一	四三九、七四三	七〇、八七〇	四五三、八九四
合計	—	—	三五、六七	六五	三、八二九	一四、一五一	四八	六、五九三	五六、九二三	三、四七七	六七、〇四一	四三九、七四三	七〇、八七〇	四五三、八九四
本年累計	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
前年累計	—	四四	一二、九〇八	一、一〇〇	一四、一五一	一四、一五一	三四四	二一、三五五	四〇、一〇九	一五、九三七	四三九、七四五	四三九、七四三	四五三、八九四	四五三、八九四
總計	—	四四	一二、九〇八	一、一五〇	一四、一五一	一四、一五一	三四四	二一、三五五	四〇、一〇九	一五、九三七	四三九、七四三	四三九、七四三	四五三、八九四	四五三、八九四

●米價　(大正九年四月分)

	臺北市場						基隆市場						臺中市場			打狗市場					
	北部米			中部米			北部米			中部米			中部米			中部米			南部米		
	一等	二等	三等	一等	二等	三等	一等	二等	三等	一等	二等	三等	一等	二等	三等	一等	二等	三等	一等	二等	三等
一日	三〇、一〇〇	二九、八七〇	二九、六四〇	三〇、三一〇	三〇、一〇〇	二九、八七〇	二九、六八五	二九、五五五	二九、三二五	三〇、〇六一	二九、八三一	二九、六〇一	三〇、六四〇	三〇、四四〇	三〇、二四〇	—	—	—	三〇、六〇〇	三〇、一〇〇	三〇、〇〇〇
二日	三〇、三一〇	三〇、一〇〇	二九、八七〇	三〇、三四〇	三〇、三一〇	三〇、一〇〇	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
三日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
四日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	三〇、三四〇	三〇、一四〇	二九、九四〇	—	—	—	二九、七四〇	二九、六四〇	二九、三四〇
五日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
六日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
七日	二九、八七〇	二九、六四〇	二九、九四一	三〇、一〇〇	二九、八七〇	二九、六四〇	—	—	—	—	—	—	三〇、三〇〇	三〇、三〇〇	三〇、一〇〇	—	—	—	—	—	—
八日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	三〇、三四〇	三〇、一四〇	二九、九四〇	—	—	—	—	—	—
九日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
十日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	二九、八九〇	二九、六九〇	二九、四九〇	—	—	—	二九、六一〇	二九、五一〇	二九、四一〇
十一日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	三〇、〇一五	二九、七八五	二九、五五五	—	—	—	—	—	—	—	—	—
十二日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	二九、三八〇	二九、二八〇	二九、一八〇
十三日	—	—	—	—	—	—	二九、六七〇	二九、四四〇	二九、二一〇	二九、九〇〇	二九、六七〇	二九、四四〇	—	—	—	—	—	—	—	—	—
十四日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
十五日	二九、六四〇	二九、四一〇	二九、一八〇	二九、八七〇	二九、六四〇	二九、四一〇	—	—	—	—	—	—	二九、五八〇	二九、三八〇	二九、一八〇	—	—	—	二八、九二〇	二八、八二〇	二八、七二〇
十六日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
十七日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	二九、二八〇	二九、〇八〇	二八、八八〇	—	—	—	二八、七〇〇	二八、六〇〇	二八、五〇〇
十八日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	二八、四七〇	二八、三七〇	二八、二七〇
十九日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
二十日	二九、一八〇	二八、九五〇	二八、七二〇	二九、四一〇	二九、一八〇	二八、九五〇	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

日別	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21
廿一日	—	—	—	—	—	—	二九、四四〇	二九、二一〇	二八、九八〇	二九、六七〇	二九、四四〇	二九、二一〇	—	—	—	—	—	—	—	—	—
廿二日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
廿三日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	二九、一五〇	二八、九五〇	二八、七五〇	—	—	—	—	—	—
廿四日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	二九、二六〇	二九、〇八〇	二八、八八〇	—	—	—	—	—	—
廿五日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	二九、四五〇	二九、二五〇	二九、〇五〇	—	—	—	—	—	—
廿六日	—	—	—	—	—	—	二九、二一〇	二八、九八〇	二八、七五〇	二九、四四〇	二九、二一〇	二八、九八〇	—	—	—	—	—	—	—	—	—
廿七日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
廿八日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	二九、五八〇	二九、三八〇	二九、一八〇	—	—	—	—	—	—
廿九日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	二九、四五〇	二九、二五〇	二九、〇五〇	—	—	—	—	—	—
三十日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
卅一日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
平均	二九、六六一	二九、四五七	二九、二〇七	二九、八九一	二九、六六一	二九、四五七	二九、六〇一	二九、五七一	二九、一四一	二九、八四六	二九、六一六	二九、三八〇	二九、七九六	二九、五九六	二九、三九六	—	—	—	二九、一五九	二九、〇五九	二八、九五九

●移出米再檢査旬報表（大正九年四月分）

旬別＼所別	基隆米穀檢査所	安平米穀檢査所	打狗米穀檢査所	東港米穀檢査所	臺北米穀檢査所	蘇澳米穀檢査所	計
上旬	一三、六七一	—	七、七九二	—	—	—	二一、四六三
中旬	七、三五六	—	四、六八七	—	—	—	一二、〇四三
下旬	三、一九九	—	八〇〇	—	—	—	三、九九九
計	二四、二二六	—	一三、二七九	—	—	—	三七、五〇五
累計	一七一、五四三	—	八六、四一八	—	—	—	二五七、九六一

●移出米仕向地別表（大正九年四月分）

旬別＼所別	東京	横濱	名古屋	大阪	神戸	宇品	下ノ關	門司	長崎	三池	鹿兒島	沖繩	小樽	函館	計
上旬	九、三八五	五〇〇	二、五〇〇	—	七、六九五	—	—	—	—	—	—	一、三八三	—	—	二一、四六三
中旬	五、二八一	—	—	—	四、七八〇	—	—	—	—	—	—	一、九八二	—	—	一二、〇四三
下旬	二二三	—	五〇〇	—	一、〇五九	—	—	—	—	—	—	二、二一七	—	—	三、九九九
計	一四、八八九	五〇〇	三、〇〇〇	—	一三、五三四	—	—	—	—	—	—	五、五八二	—	—	三七、五〇五
累計	七四、八二四	四〇、〇六八	三、七七一	二、三〇〇	一三〇、一五九	—	二、三五九	一〇〇	—	—	—	二、八五〇	—	—	二五七、九六一

外ニ砕米累計一二、一九九袋アリ

●移出米種別及期別表（再檢查米）（四月分）

種別＼等級別	第一期 一等	第一期 二等	第一期 三等	第一期 不合格	第一期 計	第一期 累計	第二期 一等	第二期 二等	第二期 三等	第二期 不合格	第二期 計	第二期 累計	一二期合計	一二期累計
粳玄米 本年産	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
粳玄米 前年産	—	—	—	—	—	—	—	—	一五、〇〇三	八二〇	一五、八二三	九五、一三〇	一五、八二三	九五、一三〇
粳白米 本年産	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
粳白米 前年産	—	—	—	—	—	三、四九七	—	—	五、八一五	一一	五、八二六	一五、五六八	五、八二六	一九、〇六五
糯玄米 本年産	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
糯玄米 前年産	—	—	—	—	—	—	—	—	一五、七九一	五六	一五、八四七	一四二、二三〇	一五、八四七	一四二、二三〇
糯白米 本年産	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
糯白米 前年産	—	—	—	—	—	四四七	—	—	—	—	—	一、〇九九	—	一、五四六
本年産月計	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
前年産月計	—	—	—	—	—	三、九四四	—	—	三六、六〇八	八九七	三七、五〇五	二五四、〇一七	三七、五〇五	二五七、九六一
合計	—	—	—	—	—	三、九四四	—	—	三六、六〇八	八九七	三七、五〇五	二五四、〇一七	三七、五〇五	二五七、九六一
本年産累計	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
前年産累計	—	四七三	三、四四五	二六	三、九四四	三、九四四	—	七一五	二五〇、三二八	二、九七四	二五四、〇一七	二五四、〇一七	二五七、九六一	二五七、九六一
總計	—	四七三	三、四四五	二六	三、九四四	三、九四四	—	七一五	二五〇、三二八	二、九七四	二五四、〇一七	二五四、〇一七	二五七、九六一	二五七、九六一

●臺灣帽子檢查成績表（大正九年四月分）

檢查所	林投帽 合格	林投帽 不合格	林投帽 計	林投帽 累計	大甲帽 合格	大甲帽 不合格	大甲帽 計	大甲帽 累計	紙帽 合格	紙帽 不合格	紙帽 計	紙帽 累計
臺北	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
新竹	—	—	—	—	—	—	—	—	二三、三三六	一、六七四	二五、〇一〇	三一、四九〇
中港	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
後壠	—	—	—	—	—	—	—	—	八、六九八	三〇八	九、〇〇六	三七、九〇九
通霄	—	—	—	—	六〇五	二五	六三〇	一、七五〇	五〇九	一四	五二三	九、一二五
苑裡	二九七	一八	三一五	二、〇三七	四、三四〇	一三三	四、四七三	一四、〇二八	一六、七七二	九八	一六、八七〇	六七、三七六
大甲	—	—	—	—	七八〇	—	七八〇	八九九	八〇、二一〇	四九五	八〇、七〇五	二五九、九八一
臺中	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
牛罵頭	四三九	二	四四一	一、三二四	—	—	—	—	二〇八、一八九	四、六七八	二一二、八六七	七三一、三二一
彰化	—	—	—	—	—	—	—	—	五七、二二三	二一一	五七、四三四	一五七、六九一
鹿港	—	—	—	—	—	—	—	—	一三一	二、〇五八	二、一八九	二、一八九
臺南	—	—	—	—	—	—	二七	六六	一、一九一	一三	一、二〇四	七、八五三

媽宮	—	—	—		—	—	—	—	一六	—	一六	一三三
合計	六九六	六〇	七五八	四、三六一	五、七五二	一五七	五、九〇九	一六、七三三	四九六、三六七	九、五五八	五、九二五	一、二九一、七三七
累計	三、八三六	五二五	三、四六一	—	一六、一二五	五九八	一六、七二三	—	一、二七三、三二四	一八、四一三	一、二九一、七三七	—
前年累計	一、六一七	一、三三二	二、八四九	—	三一、四〇〇	一、三九五	三一、七九五	—	七二四、七八九	七、五九〇	七三二、三七九	—

●臺灣帽子檢查(林投帽)產地別表　(大正九年四月分)

產地＼檢查所	臺北	新竹	中港	後壠	通霄	苑裡	大甲	臺中	牛罵頭	彰化	鹿港	臺南	媽宮	計	累計
苑裡	—	—	—	—	—	三一五	—	—	—	—	—	—	—	三一五	三、〇三七
計	—	—	—	—	—	三一五	—	—	—	—	—	—	—	三一五	三、〇三七
牛罵頭	—	—	—	—	—	—	—	—	四四一	—	—	—	—	四四一	一、三二三
計	—	—	—	—	—	—	—	—	四四一	—	—	—	—	四四一	一、三二三
總計	—	—	—	—	—	三一五	—	—	四四一	—	—	—	—	七五六	四、三六一

●臺灣帽子檢查(大甲帽)產地別表　(大正九年四月分)

產地＼檢查所	臺北	新竹	中港	後壠	通霄	苑裡	大甲	臺中	牛罵頭	彰化	鹿港	臺南	媽宮	計	累計
苑裡	—	—	—	—	六三〇	四、四七二	—	—	—	—	—	二七	—	五、一二九	一五、八四四
計	—	—	—	—	六三〇	四、四七二	—	—	—	—	—	二七	—	五、一二九	一五、八四四
五里牌	—	—	—	—	—	—	七八〇	—	—	—	—	—	—	七八〇	八七九
計	—	—	—	—	—	—	七八〇	—	—	—	—	—	—	七八〇	八七九
總計	—	—	—	—	六三〇	四、四七二	七八〇	—	—	—	—	二七	—	五、九〇九	一六、七二三

●臺灣帽子檢查(紙帽)產地別表　(大正九年四月分)

產地＼檢查所	臺北	新竹	中港	後壠	通霄	苑裡	大甲	臺中	牛罵頭	彰化	鹿港	臺南	媽宮	計	累計
新竹	—	七、五六八	—	—	—	—	三、一〇〇	—	—	三、一八〇	—	—	—	一三、八四八	三七、六九四
中港	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	二、七〇〇
後壠	—	—	—	九、〇〇六	—	—	—	—	—	—	—	—	—	九、〇〇六	三七、九〇九
通霄	—	—	—	—	五二三	—	—	—	—	—	—	—	—	五二三	四、九〇三
苑裡	—	—	—	—	—	一六、八七〇	—	—	—	—	—	—	—	一六、八七〇	六五、九二八

計	—	七、五六八	—	九、〇〇六	五二三	一六、八七〇	三、一〇〇	—	—	三、一八〇	—	—	—	四〇、二四六	一四九、一三四
大甲	—	—	—	—	—	—	七二、八七五	—	四、七〇〇	—	—	—	—	七七、五七五	二五〇、四一八
十八庄	—	—	—	—	—	—	四、七五五	—	—	—	—	—	—	四、七五五	一五、四一五
彰化	—	一、三〇〇	—	—	—	—	—	—	四、三七〇	四、〇八四	—	—	—	九、七五四	四七、三二五
和美線	—	—	—	—	—	—	—	—	—	二〇、一三〇	—	—	—	二〇、一三〇	八七、九八一
牛罵頭	—	一六、一四二	—	—	—	—	—	—	一八四、二六六	九九〇	—	—	—	二〇一、三九八	六四九、六六八
沙轆	—	—	—	—	—	—	—	—	一九、五三一	—	—	—	—	一九、五三一	五一、九二四
新港	—	—	—	—	—	—	—	—	—	一五、八七〇	—	—	—	一五、八七〇	一六、八〇〇
鹿港	—	—	—	—	—	—	—	—	—	八、八三〇	二、一七九	—	—	一一、〇〇九	一一、六四九
大肚	—	—	—	—	—	—	—	—	—	四、三五〇	—	—	—	四、三五〇	四、三五〇
計	—	一七、四四二	—	—	—	—	七七、六三〇	—	二一二、八六七	五四、二五四	二、一七九	—	—	三六四、三七二	一、一三二、五二八
臺南	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	二、四三四
安平	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	七〇〇
北門嶼	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	七五三	—	七五三	四、二六九
計	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	七五三	—	七五三	七、四〇三
東港	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	四五一	—	四五一	四五一
計	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	四五一	—	四五一	四五一
赤崁	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	二六	二六	二二五
媽宮	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	一〇〇	一〇〇	八九五
湖西	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	一四四
計	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	一二六	一二六	一、二六三
總計	—	二五、〇一〇	—	九、〇〇六	五二三	一六、八七〇	八〇、七三〇	—	二一二、八六七	五七、四三四	二、一七九	一、二〇四	一二六	四〇五、九二五	一、三九一、七三七

●臺灣帽子檢査（林投帽）仕向地別表　（大正九年四月分）

產地／檢査所	臺北	新竹	中港	後壠	通霄	苑裡	大甲	臺中	牛罵頭	彰化	鹿港	臺南	媽宮	計	累計
兵庫	—	—	—	—	—	三一五	—	—	四四一	—	—	—	—	七五六	四、三六一
計	—	—	—	—	—	三一五	—	—	四四一	—	—	—	—	七五六	四、三六一
總計	—	—	—	—	—	三一五	—	—	四四一	—	—	—	—	七五六	四、三六一

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

●臺灣帽子檢查(大甲帽)仕向地別表 (大正九年四月分)

檢查所＼仕向地	兵庫	東京	宮城	愛知	福岡	澎湖	計	上海	廈門	汕頭	泉州	計	總計
臺北	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
新竹	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
中港	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
後壠	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
通霄	一八〇	—	—	—	—	—	一八〇	四五〇	—	—	—	四五〇	六三〇
苑裡	—	三三	—	—	—	—	三三	四,四四〇	—	—	—	四,四四〇	四,四七三
大甲	七八〇	—	—	—	—	—	七八〇	—	—	—	—	—	七八〇
臺中	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
牛罵頭	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
彰化	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
鹿港	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
臺南	—	—	—	—	—	二七	二七	—	—	—	—	—	二七
媽宮	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
計	九六〇	三三	—	—	—	二七	一,〇一九	四,八九〇	—	—	—	四,八九〇	五,九〇九
累計	一,九六〇	三〇二	三〇	二〇	六三	二七	二,四〇二	一三,六一五	六六七	二五	一四	一四,三二一	一六,七二三

●臺灣帽子檢查(紙帽)仕向地別表 (大正九年四月分)

檢查所＼仕向地	兵庫	東京	愛知	大阪	福岡	佐賀	茨城	計	廈門	計	總計
臺北	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
新竹	二五,〇一〇	—	—	—	—	—	—	二五,〇一〇	—	—	二五,〇一〇
中港	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
後壠	九,〇〇六	—	—	—	—	—	—	九,〇〇六	—	—	九,〇〇六
通霄	五三	—	—	—	—	—	—	五三	—	—	五三
苑裡	一六,八七〇	—	—	—	—	—	—	一六,八七〇	—	—	一六,八七〇
大甲	八〇,五五五	—	—	—	一五〇	—	—	八〇,七〇五	—	—	八〇,七〇五
臺中	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
牛罵頭	二二,八六七	—	—	—	—	—	—	二二,八六七	—	—	二二,八六七
彰化	五七,四三四	—	—	—	—	—	—	五七,四三四	—	—	五七,四三四
鹿港	二,一七九	—	—	—	—	—	—	二,一七九	—	—	二,一七九
臺南	一,二〇四	—	—	—	—	—	—	一,二〇四	—	—	一,二〇四
媽宮	—	一〇〇	—	二六	—	—	—	一二六	—	—	一二六
計	四〇五,六四七	一〇〇	—	二六	一五〇	—	—	四〇五,九二三	—	—	四〇五,九二三
累計	一,二八四,二一〇	二,四三四	六九六	二,四七七	九四六	二四	九四五	一,二九一,七三二	七	七	一,二九一,七三九

雜錄

臺灣警察飛行班の大飛行

臺灣總督府警察飛行班は本年新たに設置せられてより班長以下勵精の效空しからず班員の技量大いに進歩せるを以て今回逐に臺北臺中間一百餘哩大飛行の壯擧を企て、首尾よく本島飛行界の新記錄を作れり其の詳細は去る五月十五日午前六時三十分依田敎官は豫て飛行場に宛てられたる臺北練兵場に於て中島式二十五號機を操縱し遠藤警部之に同乘して爆音高く三百米の高度を保ちつゝ場内一週の後臺北街上に半圓を畵き機首を西方に取直して豫定航空路たる桃園の南、鐵路に沿ひ大嵙崁溪の蕃山を左に見て航進し又た別府警部はモ式機上の人となり臺北市街一週の後六時三十九分二百五十米突の低空飛行を續けて二分の後は全く姿を沒せり、兩機沒影後三十分中島式飛行機は雨雲のため航空の危險を慮り中途引返して再び臺北街上に姿を現はし出發地點に著陸し次で二十分にしてモ式飛行機も嶮惡の雲雨を突破して無事出發地點に著陸し斯くて十五日の計畫飛行は一時中止となり、兩飛行機は空しく天候の恢復如何を觀測し居たる折柄午後に至り臺中より飛行差支なしとの報知ありたるより早速中島式は依田敎官操縱の下に飛行準備を整へ爆音勇しく午後四時七分臺中さして機影を沒したるがモ式は逐に此日の飛行を見合せ其の翌十六日午前六時五十二分別府警部操縱の下に臺北練兵場を離陸し、桃園・大湖口・新竹海岸等を通過して大甲溪南方に於ては氣流惡しかりしにも拘はらず八時二十八分豫定の二時間よりも三十分間早く無事臺中練兵場に著陸せり

是より前依田敎官の操縱にて臺中練兵場に著陸せし中島式飛行機は翌十六日午前七時二十分川副臺中廳警務課長同乘、依田敎官操縱の下に旋回飛行を試み次で同機の東勢角蕃地上空飛行は井原警部同乘倉根大尉の操縱にて七時四十八分離陸し大安溪上流に沿ひて蕃地上空飛行をなし、八時十八分烏石坑より新竹廳下蕃地小雲山上を經て八時五十五分無事歸著せるが此時旣に別府警部の操縱せるモ式機の無事臺中に到著せるありて市民歡呼の聲の未た止まざるに依田敎官は又もや中島式を操縱して約一千米突の高空に旋回飛行を續け宙返りを無雜作に行ひて歡呼拍手裡に二日目の飛行は首尾よく終りを告げぬ

次で翌十七日は先づ依田敎官、三大隊飯高副官の同乘飛行を始めとして高柳警部、佐藤班長の同乘飛行及び遠藤警部の員

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

林街・南投方面の飛行等あり次で曾根大尉操縦、大島中尉同乘して中島式機の飛行を試み市街上空の旋囘を終へて一氣に下降するや滑走の際場内地表に凸凹ありし爲め俄然機體は正面に轉覆して翼の前柱二本は折れ方向舵と右上翼、プロペラアを損傷せしも曾根大尉、大島中尉は微傷も負はざりし時に九時六分なりき一方モ式は高柳警部搭乘して九時三十二分離陸し葫蘆墩・牛罵頭・沙轆方面を飛行後十時十九分著陸せり其翌十八日は依田教官の試驗飛行後、別府警部、佐藤大尉の同乘飛行行はれ次で五十嵐警部の南投、花谷山飛行ありて四日目の飛行は終りを告げたり。

明くれば十九日は豫定通り歸北の途に就くべく依田教官の試乘飛行後、五十嵐警部によりて六時五十分勇ましき爆音を名殘りに臺中市の上空を旋囘飛行の後七時機首を更へて葫蘆墩后里庄・三叉河・苗栗等を經て新竹を通過し豫定の二時間より十八分早く臺北練兵場に機影を現はし八時四十二分、一百餘哩を雄飛せしモ式は悠然として歡呼拍手を浴びながら著陸し、玆に臺北臺中間の長距離飛行を初め臺中方面に於ける蕃地飛行も無事大成功裡に終りを告げり。

◎濠洲シドニイ、倫敦間旅客運送飛行計畫

フリー、プレツス三月十八日號

過般シドニイ、に來着せるロツス、スミス大尉は濠洲、倫敦間、空中運送計畫の決して難事に非らざることを力說し更に曰く左記日程に依れはシドニー、倫敦間の旅客運送飛行は最早一夢想事に非す漸次實現せらるゝに至る可し而して之か計畫の成功如何は一に冒險的組織及資本に依るものなり

	自	至
第一日	シドニイ	ダルウイン
第二日	ダルウイン	新嘉坡
第三日	新嘉坡	カルカツタ
第四日	カルカツタ	バクダツト
第五日	バクダツト	羅馬
第六日	羅馬	倫敦

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

臺灣日誌

●四　月

▲二十一日(水)

□內地財界混亂　財界の變動により泡沫會社の倒潰相踵き各機業地に取引停止又は閉店するもの多く財界未曾有の混亂を來たせりとの報續々到る

□紙寒天の製造　臺灣水產會社基隆本店に於て紙寒天の製造を試むとの報あり

□節約宣傳　節約同盟會の宣傳大いに臺灣に行はる

▲二十二日(木)

□財界應急策　我財界の混亂を救濟せん爲め全國八大商業會議所聯合會を東京商業會議所に開き救濟策三項を決議す(二十日東電)

□蕃人爭鬪　桃園廳下マリコワン蕃人新竹廳下ナロ社蕃人等二百餘人ハタガ社を襲擊す

▲二十三日(金)

□電報料金直上　遞信省は電報料の直上を爲し六月十七日より之を實施するに決せり政府は之に依りて約五百圓の增收を得べき豫定なりと(二十二日東電)

□癩病全治の新藥發見　皮膚病學の大家ミランダ博士は方言アサクと稱する海草の液汁より癩病全治の新藥を發見せる旨羅馬のエルテムが籍は報ず

▲二十五日(日)

□鰹漁業好況　本島鰹漁業本年好況を極め明治四十二年本島に新業開始せられて以來の新記錄を作れりと

▲二十七日(火)

□東京市電罷業者　東京市電車從業員同盟罷業を爲し煽動者檢束さる

▲二十八日(水)

□宿舍料支給規程改正　臺灣文官に支給すべき官舍不足の場合に支給する宿舍料を改正す

□李王家御慶事　李王世子殿下方子女王殿下の御婚儀本日鳥居坂邸に於て擧行せらる

▲二十九日(木)

□山東問題交涉開始　小幡公使は二十七日山東問題に關する一切の書類を獨逸より受領せる旨を通告して日支直接交涉を開始せりと

□伊國飛行機來　マシエロ中尉マレット技師同乘の飛行機二十八日黃昏福州に著すとの報あり

▲三十日(金)

□宿直食料規程改正　訓令五五號を以て總督府宿直食料規程を改正す

□各廳定員改正　全島各廳の屬、技手、稅務吏の定員を改正す

□招魂祭施行　濁水溪以北に於ける戰病死者山根陸軍少將以下七千四百七十七名の英靈を弔する爲め臺北新公園に招魂祭を行ふ

●五　月

▲一日(土)

□臺北廳の社會事業講演　臺北廳にては本日廳員を集め社會事業報告講演會を開く

▲三日(月)

□全島共學生　四月末調本島人の共學者は五十一名、內四十一名は小學校、十名は直轄諸學校なりと

□製糖會社配當　當期配當、帝國製糖は十割、明治製糖は十割八分、新高製糖は二十割(內十六割八分は創業十年記念)北海道製糖は八分、臺灣製糖は八割八分(內五割は創立二十年記念)との報あり

▲八日(土)

□京阪破產續出　財界大動搖の爲め大阪、京都市內は破產者續出し事業界大恐慌を來すと(七日東電)

▲十五日(土)

□各政黨當選議員　十三日迄開票の結果、政友會二百七十三名、憲政會百八名、國民黨二十九名、中立四十四名と報ぜらる(十三日東電)

▲十六日(日)

□臨時議會召集　六月二十九日帝國議會を東京に召集し二十八日を開期となすの詔勅發布(十五日東電)

□司法大臣以下親任式　司法大臣に大木遠吉氏、鐵道大臣に元田肇氏、國勢院總裁に小川平吉氏、以下次官部長、局長等親任式を行はる

□總督府警察飛行(桀中へ)　警察飛行班は臺北臺中間の大飛行を企て依田敎官(遠藤警部同乘)は十五日午後四時七分離陸、中島式機にて臺中に到り別府警部は十六日午前六時五十二分モ式機にて離陸二機何れも無事臺中に着す

▲十九日(水)

□伊飛行機北京著　羅馬東京間大飛行の伊國飛行將校フェラリン中尉は十七日靑島發、北京飛行場に到著せり、マシエロ中尉の一機は十七日北京に向ふべく上海を出發したるも機體に故障ありて途中より引返せりと(十七日東京電)

□銀相場激落　十七日臺灣銀行入電、倫敦銀塊相場は五十八片丁度に下れりと

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

人事消息

自四月二十一日
至五月二十日

▲小松吉久氏（日本拓殖專務、本誌評議員）臺灣炭業株式會社々長に選はる

▲岡垣秀忠氏（元總督府技師）臺灣炭業會社專務取締役となる

▲長崎常氏（總督府技師）東京、大阪外二縣へ出張を命ぜられ二十三日出發

▲坂本外務事務官二十一日、本島視察の爲め來臺、二十六日歸京

▲富地近思氏（臺南新報社長、本誌評議員）二十三日内地より歸臺

▲阿部發夫氏　依願本官並兼官を免ぜらる

▲山下特命檢閱使（海軍大將）二十五日來北、翌二十六日基隆出發、軍艦千歲に坐乘、內地に向はる

▲福與海軍大佐（駐在武官）二十七日著任す

▲八道經理部長　二十七日歸臺

▲高木友枝氏（電力社長、本誌評議員）同上

▲太田爲三郎氏（圖書館長）同上

▲於保乙彥氏（醫院醫長）同上

▲田總督夫人　令孃同伴二十七日著臺

▲井上清純氏（男爵、前駐在武官、海軍中佐）三十日任地佐世保へ出發す

▲田總督　東部巡視を終りたる田總督は三十日午後六時二十五分隨員と共に無事歸府

▲服部仁藏氏（營林局長、本誌評議員）三十日歸臺

▲內田嘉吉氏（前民政長官）國際海員勞働議會に於ける日本政府代表として渡歐の途次、五月三日午前十時若狹丸發無線電信にて「伊太利に渡航の途次臺灣海峽を通過し遙かに敬意を表す」と赤石臺日社長に寄せらる

▲近藤測候所長　四日歸臺

▲大島正滿氏（研究所技師）東大教授會議にて審査の結果理學博士の學位を授けらる

▲增田高穎氏（參謀長、本誌評議員）十一日歸臺

▲堀內次雄氏（醫學博士、本誌評議員）同上

▲明石臺南醫院長　同上

▲芳賀鍬五郎氏（總督府技師）昨秋來南洋各地出張中の處十二日歸臺

▲川村麟也氏（新潟醫專教授、醫學博士）恙蟲研究の爲め十一日來臺

▲永田隼之助（電力理事）十一日歸臺

▲片山秀太郎氏（學務課長、本誌編纂委員）臺灣總督府高等商業學校長に任ぜらる（兼參事官、高等官二等）

▲隈本繁吉氏（總督府高商學校長）依願本官を免ぜらる

▲谷野高等法院長（法學博士評議員）國際辯護士協會の創立會に出席せる同院長は十四日歸臺

▲賀來專賣局長（本誌評議員）上京中の處十四日歸臺

▲枝德二氏（臺南廳長、本誌評議員）同上

▲田艇吉氏（田總督令兄）十四日來臺

▲田總督　令兄、令夫人、令孃を伴ひ隨員と共に十五日阿里山視察の途に上る

▲鈴木農學博士（總督府技師、本誌編纂委員）東京、千葉、鹿兒島及朝鮮へ出張を命ぜらる

▲長崎常氏（總督府技師）東京外二縣下へ出張の序秋田縣下へ出張を命ぜらる

▲古賀三千人氏（本誌評議員）總選擧の結果、福岡縣に於て當選

▲山移定政氏（臺灣新聞社長、本誌評議員）同上熊本縣に於て當選

▲坂本素魯哉氏（彰銀頭取、本誌評議員）同上高知縣にて當選

任命

▲大正九年四月二日

臺灣總督府技師　石田　研

福岡縣下へ出張ヲ命ス

▲四月五日

臺灣總督府醫學專門學校教授　吉田　坦藏

臺灣總督府研究所長事務取扱堀內次雄不在中代理ヲ命ス

▲四月六日

臺灣總督府研究所技師　岸　喜鑑

臺灣總督府研究所長事務取扱堀內次雄不在中代理ヲ命ス

臺灣總督府臂察官及司獄官練習所敎官　松野　常世

東京、青森、山形、巖手、宮城、福島、栃木、茨城、兵庫、山口、德島、香川、福岡、佐賀、長崎、熊本、鹿兒島及宮崎ノ一府十七縣下へ出張ヲ命ス

臺灣總督府法院檢察官　松井　榮堯

東京、宮城、石川及熊本ノ一府三縣下へ出張ヲ命ス

臺灣總督府港務醫官　三村　靜

東京府及兵庫縣下へ出張ヲ命ス

▲四月八日

臺灣總督府事務官　田阪　千助

福岡外二府五縣下へ出張ノ序ヲ以テ大分縣下へ出張ヲ命ス

▲四月九日

臺灣總督府財務局事務官　中屋　重治

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

東京、長崎、新潟、三重、長野及島根ノ一府五縣下ヘ出張ヲ命ス
　　臺灣總督府師範學校教授　横山鐵太郎
臺北師範學校生徒監ヲ免ス
▲四月十日
　　臺灣總督府事務官　菊池　武芳
臺灣電力株式會社監理官阿部嘉七不在中代理ヲ命ス
　　臺灣總督府事務官　阿部　嘉七
臺灣電力株式會社監理官ヲ免ス
▲四月十二日
　　臺灣總督府防疫醫官　倉岡　彥助
神奈川、兵庫及福岡ノ三縣下ヘ出張ヲ命ス
　　臺灣總督府典獄　志豆機源太郎
東京府下ヘ出張ヲ命ス
　　臺灣總督府營林局技師　川原勘次郎
上京ヲ命ス
▲四月十五日
　　臺灣總督府專賣局長　賀來佐賀太郎
東京ヨリ靜岡縣下ヘ出張ヲ命ス
　　臺灣總督府技師　森山松之助
財務局會計課兼務ヲ命ス
　　總督官房臨時國勢調查部主事　鎌田　正威
庶務課長兼務ヲ免ス
　　總督官房臨時國勢調查部主事　堤　一馬
庶務課長ヲ命ス
　　臺灣總督府統計官　堤　一馬
總督官房臨時國勢調查課勤務ヲ命ス、總督府官房調查課兼務如故
▲四月十六日
　　臺灣總督府財務局事務官　前田　稔靖
財務局金融課長事務取扱中屋重治不在中代理ヲ命ス
　　臺灣總督府事務官　長尾　景德
東京外一府三縣下ヘ出張ノ序ヲ以テ新潟縣下ヘ出張ヲ命ス
　　臺灣總督府事務官　菊池　武芳
財務局會計課長阿部嘉七不在中代理ヲ命ス
　　臺灣總督府財務局事務官　中屋　重治
財務局會計課長代理ヲ免ス

　　臺灣總督府防疫事務官　森島庄太郎
醫務局衛生課長三浦碌郎不在中代理ヲ命ス
▲四月十七日
　　臺灣總督府稅關監定官　三井榮次郎
文官分限令第十一條第一項第四號ニ依リ休職ヲ命ス
　　臺灣總督府醫務官　豐田　勝藏
朝鮮、關東州及支那上海ヘ出張ヲ命ス
　　臺灣總督府師範學校助教授
　　兼臺灣總督府編輯官從七位　佐々木圓梁
任臺灣總督府師範學校教授兼官如故
臺北師範學校勤務ヲ命ス
　　臺灣總督府技師　岡垣　秀忠
依願免本官
▲四月十九日
　　臺灣總督府技師　山田　秀雄
臨時現金前渡官吏ヲ命ス
　　臺灣總督府技師　水上　隆吉
支那廣東ヨリ福岡縣下ヘ出張ヲ命ス
　　臺灣總督府技師　竹内　五郎
一時歸府ヲ命ス
　　臺灣總督府警務官　三浦　碌郎
上京ノ序ヲ以テ大阪、兵庫神奈川及福岡ノ一府三縣下ヘ出張ヲ命ス
▲四月二十一日
　　臺灣總督府技師　長崎　常
東京、大阪、靜岡及福岡ノ二府二縣下ヘ出張ヲ命ス
▲四月二十二日
　　臺灣總督府醫院長兼
　　臺灣總督府醫學專門學校教授　阿部　要夫
依願免本官竝兼官
▲四月二十四日
　　臺灣公立女子高等普通學校教授　廣松　良臣
福岡外六縣下ヘ出張ノ序ヲ以テ東京府下ヘ出張ヲ命ス
▲四月二十六日
　　臺灣總督府視學官　田中友二郎
支那廈門外九箇所ヘ出張ノ序ヲ以テ馬來半島ヘ出張ヲ命ス
　　臺灣總督府法院判官從五位勳五等　倉敷熊次郎
任判事

▲四月二十七日
　　臺南第二公學校長　坂根十二郎
奏任官ヲ以テ待遇セラル
　　宮武　秀夫
臺中廳警察醫ニ任ス
▲四月三十日
　　臺灣總督府技師　金子昌太郎
臨時現金前渡官吏ヲ命ス

寄贈書目

書名		發行所
大亞	每號	大亞義會本部
滿蒙研究彙報	同	滿蒙研究會
東亞經濟研究	同	其社
新臺灣	同	其社
實業之臺灣	同	其社
臺法月報	同	其社
糖業	同	臺灣糖業研究會
臺灣教育	同	其社
極東公論	同	其社
拓殖新報	同	其社
臺灣統計協會雜誌	同	其社
臺灣貿易表	同	臺灣總督府稅務課
朝鮮彙報	同	朝鮮總督府
支那	同	東亞同文會
臺灣鐵道	同	其社
青島商報	同	其社
臺灣農事報	同	臺灣農友會
稅務月報	同	稅務職員共慰會
博愛	同	臺灣博愛社
貿易	同	日本貿易協會
臺灣鑛業會報	同	其社
臺灣警察協會雜誌	同	其社
南洋協會雜誌	同	其社
海事新報	同	帝國海事協會
週報(上海貿易)	同	上海日本商業會議所
東洋時報	同	東洋協會
南洋經濟時報	同	新嘉坡商品陳列館
偕行社記事	同	陸軍偕行社

就臺灣樟腦專賣而言

臺灣總督府事務官　吉岡荒造

樟腦者炭水酸此三素之化合物也、其色或透明無色、或半透明白色、或粉或塊、香氣甚高、味則苦且涼、實爲我臺灣特產物也、昔時此物僅以爲藥用、或爲防蟲用而已、今則工業界、需用甚多、臺灣樟腦、自古伊來、配出外國、迨西曆一千八百五十五年、英國邪仁會社與臺灣官吏、訂立契約、配出于彼地而獲巨利、至一千八百六十年、臺灣兵備道陳觀察、提議以此爲官賣、因受英國領事之抗議而遂廢此制、降至光緒十一年、復用專賣制度、由是樟腦、悉歸政府買收、特與德商合約、使之販賣、光緒十八年、英商與德商相爭而各國領事、逼于政府要求撤廢、是年十一月、又廢官賣制度而課以稅金、至清法戰爭之後、清國政府、復取專賣制度、未久而廢止、又取課稅方針、改隷後、明治二十八年、日本政府特頒樟腦製造取締規則、除有清國政府給准外、悉爲禁止製造、是年三月、又欲樟腦稅律、課以稅金、由是屢與外國人、互相杆格、遂至惹起外交問題矣、詳觀爾時製腦狀況、其製造方法、尤爲幼稚、以其原料豐富、故難免濫伐粗製、又爲是業者、苦于課稅之重而圖脫稅、政府以爲倘任其趨向、而莫爲之改良、則不啻暴殄天與之寶庫、是以爲艾除弊根、改良品質起見、迨明治三十三年、將此事業悉歸政府專賣、務收無窮之利、以資臺灣理財焉、今試就樟腦專賣之效果而言之、自明治三十二年八月五日舉行專賣通例以來、頗收絕好成績、至于今日、惟未舉行以前、製腦業者、慣于清國政府之緩慢、敢行濫伐、且其製造方法、尤屬幼稚、貴重之腦、多爲飛散、勞多功少、其損失、實有難測者、然自專賣制度、頒發以來、面目一新、從前所設腦灶悉爲撤廢、確定製腦區域、而防遏密製、如防蕃事業均歸于政府施設、俾腦丁可免用力于此、如腦灶之改築、製腦之方法、並原料之採取、無不

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

爲之指導、以期改良品質而保存天與之財源、故現今我本島樟腦、推爲優品、外人罔不垂涎、以是暢銷于世界市場焉、次就臺灣財政上之收效而言之、明治三十二年中、賣出樟腦、僅收得九十一萬元、四十二年增收四百四十九萬元、降至大正七年忽逾七百萬元、以此巨款、補助臺灣財政、裨益實匪淺鮮、凡欲統治殖民地、其初難免種々施設、須要許多經費、則不可不求一大財源、其財源也、與其對人民課以重稅、寧多課消費稅與海關稅、較爲得策、如是則俾人民免受艱苦而得欣々然奉令承敎焉、顧在我臺灣厥初工業未見興隆、未得課消費稅。政府深以爲憾、故將此樟腦、改爲專賣、以圖財源之豐裕、一則對人民保全產業之安固、一則俾人民輕減負擔之諸稅、是則專賣制度之效力也、臺灣樟腦專賣與普通專賣所異者維何、普通專賣者政府以收款爲目的、故其原料亦採自國內、其製造品亦概賣于國內、如我內地之煙草專賣、鹽專賣與歐洲諸國之鹽專賣、柴火專賣皆是也、獨我臺灣樟腦專賣、不特爲圖政府收款之增多且以品質之改良、價格之保持、產業之安固、負擔之輕減、爲其重大目的、故配出區域亦匪限于國內、實以世界中樞爲其市場、是則我臺灣樟腦專賣者、所謂世界的專賣、非他國政府之所能比肩者、惟樟腦之生產如何、政府批准人民製造樟腦、定其價格、買收粗製樟腦與腦油、再爲精製、俾成良品、而配出外國、嗣因外國自明治四十二年以來需用增多、我雖爲極力供給、然每尙告乏、就中過往二十年間產出最多者卽爲大正五年八百五十萬斤、嗣後產額年々退減、現今不過爲五百萬斤內外耳、樟腦除澎湖臺南兩廳外均有產出、而南投廳尤多、製腦業者從前全臺計有十四名、迨舊年四月、各爲合同、設立臺灣製腦株式會社、其利益試爲臚列于下、因合同而得用改良器具、腦丁得以發揮特別技能、勞少功多、可得製造佳良樟腦者其一也得以減少費用而增加產額其二也、得以廉價買入物品其三也、應順世界之需用而得以加減生產之額、蓋以此合同之大製腦業者、資本餘裕、假令經濟界不振而受產額制限、尙得以維持事業也、分立之小製腦業者則不然、倘不幸而受產額之制限、則收入難償支出、不能繼續維持、雖世界需用設告興隆、而以資金不足之故亦不能增加製造者其四也、大製腦業者、得以節約運費其五也、又得以豫防腦丁之偸走、且對腦丁得以保持職業之永續、與生活之安全其六也、以此六項利益故爲合同、愈見堅實、至于造林事業。卽製腦逐年加多。而樟腦年々減少、故以明治三十三年確行造林至大正六年得一萬二千町步（一町步約爲一甲）之造林但樟樹栽後、經過至少須二十五年纔得製腦、然世界樟腦之需用、年多一年、不知底止、是以政府計劃擴張、獎勵造林、卽自大正七年起、至大正十八年之間、籌栽六萬町步之地、依此輪伐、以資永遠之用焉、更就販賣而言、明治三十三年、政府乃確立方針、每年配出之數、乃照需用之多寡而決定、爲圖價格之維持、嚴禁儲蓄、不肯出賣、而買賣價格、政府定之、使其販賣之人估價、與其最低者訂約、卽政府與三美路洋

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

行、訂立契約、至四十一年到限。乃委託三井物產會社販賣、政府簡派官員、前往倫敦與紐育、俾爲監督、且使調查市況、應其需要數量而酌定供給之數、迨大正七年與三井解約、更與日本樟腦會社合約、委託販賣、該會社乃以三井與神戶鈴木商店、爲代售處、以至于今、試查內外需用之數、在戰前則一年間、需用平均英國一百萬斤、法國一百二十萬斤、德國一百八十萬斤、美國二百萬斤、日本則三百萬斤、計共九百萬斤、戰中與戰後、時焉添加、時焉退減、無甚爭差、至樟腦價格、乙種在臺北賣價、每一百斤、二百三十四元五角四仙、一配出外國者二百六十七元五角、改良乙種三百拾元、白油每百斤四十一元、赤油上品三十元、下品二十四元不等

在我臺灣樟腦專賣狀況、大概如斯、得以順調發達也、顧我國貿易業者、欲圖擴充販路、故互相競爭、而反失銷路遂爲他國商人所占漁父之利、如戰中未有發生此等問題者、固爲商賈均受戰爭之好影響、而收巨利之故也、雖然兵戰一熄則勢必繼發商戰、瞭如睹火、政府具有先見大勢之明、以大正七年苦勸國內斯業七箇會社並委託販賣人、俾爲合辦、組織日本樟腦會社外焉豫備貿易之激戰、內焉務期國產之發達、想此後可得無爲競爭而各處工場得以統一製造、節約開費、而增加產額、固不俟言者、次就世界中我國樟腦之地位而言、凡欲爲寰球之霸主、則不可不講究自產自給之道、其得否自產自給者、唯在其原料之饒與瘦耳、現今我日本得以原料自誇于外國者、只有樟腦而己、今將先就總原料而言、後及樟腦、夫謂原料者、分爲食料品、與工業品、食料品者、如米麥糖與畜類也、工業品者如鑛物動物植物之類也、鑛物分爲煤炭鐵銅、動物分爲蠶絲羊毛、植物者綿花樟腦、就一千九百十三年之統計表觀之、通世界產米之數、計四億九千二百萬石其中產出之數最多者、英屬印度二億萬石、次則支那一億五千萬石、次則日本五千二百萬石、次則爪哇、暹羅、法屬印度支那、朝鮮等、然而米之大銷國卽爲英屬印度支那與日本也、日本卽一年中銷數、迴逾五千三百萬石、宜哉我國不能自產自給、不得己買自外國、於是年中世界產麥之數、計二十億包、就中美國產至三億包、次則俄印度、法國、墺國、加奈太、伊國、德國、西班牙、濠洲等以次遞差、至於世界中糖之產額、一千五百萬噸、分爲菜糖與蔗糖二種、菜糖德國占得一位、蔗糖玖馬一位、次則爪哇也、動物之產出、世界中最多者、加奈太一年中售款二億二千四百萬銀、次則美國俄國濠洲也、全世界煤炭產出總數、十一億噸、仍以美國爲最大生產國、卽四億四千萬噸也、次則英國二億六千萬噸次則德法俄白、次則我日本一千七百萬噸、次則墺印加濠也、在自國銷用外、尙有剩餘而得以配出外國者、英國次則德米、我日本占得四位矣、世界水油產出總計、五億一千萬箱、美占頭位、次則俄蘭屬印度日本德國也、顧英美德所以勃興者、無不起因于鐵與煤炭之多出、一千九百一年世界產鐵之數、計八千六百萬噸、美占第一位卽二千八百萬噸、次則德國一千六百萬噸

次則英國一千二百萬噸、次則西俄法墺瑞玖加伊也、我日本則非常告乏、不得不買自外國、雖然隣邦之大冶鐵山、冠于世界、應不久而歸于日本管理、如銅與蠶絲、纔占得第三位、羊毛與綿花殆無產出、顧在一千九百十三年樟腦產出之數、臺灣七百二十萬斤、內地一百七十八萬斤、支那十五萬斤、德國人造樟腦六十萬斤、而已、照以上諸原料而觀之、我日本除樟腦外各種原料產出未多、屢々不振、然而樟腦一事以得世界獨占之地位他國不得不依賴我日本、如支那之產額、僅有十五萬斤、不足數也、他如德國之人造樟腦其產數品質與價格遠不及我內地、況於臺灣、樟腦之將來果如何、其需用年々增多、如前所說、在米國即用此為自働車窓玻璃之原料、一年所用原料、約達一百二十萬封度、自動車年々增加而其原料亦漸次多用、其他或為醫療用、或為日用品、然則樟腦前途頗有好望、如一年中通世界需用大約一千二百萬斤、乃至二千萬斤、如支那樟腦與人造樟腦、固不足言、是以我政府欲為應順世界之需求、命各處製腦業者、俾為合同、組織一大會社、極力製造且政府自大正七年以後實行造林、竝行每木調查、以圖輪伐不盡之計而保專賣永久之策也

就都市計劃而言

臺灣總督府事務官　中瀨拙夫

■都市計劃之意義

市區改正者從前實施于各處、人々悉知、但所謂都市計劃者維何、或曰具有經營都市種々之計劃也、或曰凡在都市、改修道路之計劃也、據都市計劃法第一條所云「所謂都市計劃者、如交通衞生保安經濟等、以永保公共之安寧而增進民衆之福利為重要施設」余今所欲言都市計劃者其此之謂也

■都市計劃之方針

剋下受時局影響、都市產業倍形發展、而其人口尤見增多、貨物之出入、更加頻繁、以故如交通衞生等、各種弊害、層見疊出既設道路、頗告狹隘、倘欲為之改修、即於都市之進展、市民之生活、產業之發達等、難免阻碍、然則都市計劃者、非特為一都市問題、實攸關于國家安危禍福之緊要問題也、於是乎

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

就我國近來都市問題、亟爲討論焉　凡欲立都市計劃案、厥初必須預料他日之發展而後計劃、此次頒發都市計劃案者、乃照此方針、決定區域、確立基礎以應順將來之發展、但該都市應自商業中樞地點算起至十哩內、倘得交通機關完備則、四方來客、以一時間而得到中心地點、堪謂一都市之區域、試就外國都市觀之亦無甚差、在東京市、設以日本橋爲中心地點、距該地十哩四方圈內、定爲大東京市之區域、可得應順三十年後之發展焉、大東京市域雖未確定、然其面積大約二百三十八平方哩較諸現今市域二十九平方哩、則實爲六倍六分、大阪都市區域亦雖未決定、然照現在計劃、擴張後之面積八十五哩、比之現在、更加三倍、余曾視察各地都市、試爲約略言之

都市與交通政策

都市發展。由何可期歟。曰其都市內部交通與外部交通連絡統一則得以發展、其外部交通之中、第一緊要者實爲水陸連絡也、水陸倘不得連絡、則難期發展。在我東京、提倡築港、荏苒已久未見著手、深爲遺憾、又在大阪已開二千七百萬元之工費、第一期計劃、築港工事、經已完成、一萬噸之巨船、足以出入、實不愧爲大工業市、及通商大港場焉、然大阪產業、日新月異、尤爲發展、至今尙形狹隘。故自大正七年起、又以九百五十萬元之巨費、著手更築、務成第二期擴充計劃、在大阪港外國貿易總計、大正二年不過爲一億四千九百三十萬元、至大正六年、已逾四億九百五十五萬元、足見大阪築港、應順時局、而貢獻于大阪市之發展矣、神戶港已投二千萬元、第一期工事、業經完成、然爲世界樞要港則、猶未免狹隘、名古屋築港開費大約六百萬元、第一期計劃工事經已告完、將爲第二期計劃、但港內水淺、未便三千噸以上巨船之出入、橫濱港、現立第二期擴張案。將見著手工事、唯長崎港廣水深、便于投錨、然出入口貨、爲神戶與門司所奪、現今不過爲煤炭出口港耳、他日以長崎爲起點、圖爲連絡、則可期該市之發展、次更就陸路交通問題約略言之、所謂陸上交通者、以鐵道交通爲主要、是以停車場之位置、與透港鐵路之問題、須要充分研究、何則停車場者、爲都市之門關、透港鐵路者、爲水陸連絡之樞紐也、故其地位與設備、影響于都市之發展也居多。東京停車場、雖在中央然與商業中心地點之京橋及日本橋兩區、距離甚遠、而不便于交通大阪市梅田停車場、以地點不便之故、將爲移轉改築、神戶市鐵道、貫通中央、故有阻碍于車馬之往來、其混雜、難以言狀且運送交通、多受損害、是以將設高架線、以便交通、如我臺北、因以停車場地點之故、街市畫一、南北間隔、不能向北發展、亦因鐵路縱斷東方之故、頗有阻碍、故宜十分研究、他日改設以資臺北市之發展與市民之幸福、是所厚望

交通街路與衞生

今就都市內部交通問題而言、凡在都市、人口愈爲增多則車馬

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

來往、倍覺頻繁、倘任其自然、致道路爲之破壞、則車馬愈爲混雜、況在雨時、泥濘沒踵、步行尤覺艱苦、他日不可不爲之改善施設、是則市區改正者實爲都市計劃之根本問題也、故整理街路、劃定幅幌、以便往來運輸、是爲重要事業、但當計劃改正之時、須要考察地勢與經濟上之關係、斟酌決定、以便于將來之發展與市民之交通爲主眼、切不可爲保地圖上之美觀而計劃焉、至街市衛生問題、內地各處都市。水溝設備。迥不及我臺北、我臺北水溝設備、雖未敢謂完全、然於衛生上、庶乎無憾

■土地政策

都市人口增加而地價騰起、故都市須要先購入土地、以備他日之用、如彼貪婪之人者、視爲他日市區改正之要地、先行買收以占巨利、是以在都市、或官廳爲國家公共利益起見、每圖賣却高價之地而買入低價之地、輕減市民之負擔焉、如德之某市欲達如此目的、買收全市面積十分之七、在我東京市雖得多少之地主權、然每行公賣、以充各種事業焉

■都市計劃之法制

者番頒發都市計劃法、自大正九年一月一日實行、該法律之特色、臚列于左

一、倘照從前之通例、卽市區改正、市長行之、乃改正事業均屬于市、都市計劃法、則不然、市區計劃事業、歸于國家而行政廳辦理

二、都市計劃已歸于國家事業、故設中央委員會于內務省內而地方委員會、設于各處都市、凡市區改正、計劃區域、與關于區域內住民之重要案件竝內務大臣、認爲緊要之事項須由地方委員會議決而後再經中央委員會核定

三、照地方狀況、認爲緊要時、可得指定區域維持風紀卽分爲商業、工業、住宅混合、美觀區域竝特別區域

四、照此新法、欲爲改正市區、或整理街市、則可得買收厝地田園、是以貧民所住之街亦可以改造

■都市計劃之財源

凡在公共團體、對一般人民、得以課特別稅、充爲市區計劃一切費用、所謂特別費者、地租一百分之十二以內、營業稅一百分之十七內、家屋稅與雜稅十分之四內、其他特以勅令決定之稅是也

以上所述者不過略述各處都市計劃之概要、所言雖未得中肯、然倘得爲本島都市計劃之參考則幸甚也

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

臺灣時報總目次

自第一號至第六號

題目	署名者	號	頁
發刊の辭		一	一
明石總督訓示（地方官會議に於ける）		一	一
下村民政長官訓示（地方官會議に於ける）		一	五
明石臺灣總督の夢去を弔ふ		五	一
故明石臺灣總督閣下略歷		五	五
故明石臺灣總督	下村宏	五	九
明石總督の回想	曾田孝一郎	五	一九
東門官邸の追憶	下村宏	五	三一
信濃丸船中に於ける明石總督及其病狀	末松副官	五	三六
故明石總督閣下の葬儀		五	三九
田臺灣總督を歡迎す		六	一
田臺灣總督略歷		六	四
田總督の臺灣統治に關する訓示		六	八
田總督施政訓示		六	一一
下村民政長官訓示		六	二七
■論　說■			
臺灣產業の發達	櫻井鐵太郎	一	二六
帝國鹽業政策	賀來佐賀太郎	一	二九
臺灣戶籍令の制定に就て	長尾景德	一	三八
臺灣地租規則改正の要旨	阿部滂	一	四五
臺灣司法制度今次の革新	谷野格	二	一
臺灣の石炭に就て	福留喜之助	二	七

題目	署名者	號	頁
臺灣米の過去現在及將來	立川違	二	三〇
理蕃の三難と將來	江口良三郎	二	三九
臺灣教育に就て	下村宏	三	一
滯貨問題と對應施設	新元鹿之助	三	九
臺灣森林令制定の要旨	山崎嘉夫	三	二
臺灣の石炭鑛業に就て	福留喜之助	四	一
民事爭訟調停に就て	長尾景德	四	三一
臺灣に於ける免囚保護事業	長尾景德	五	一
本島人の生命に關する研究	倉岡彥助	五	六
臺灣に於ける土地改良	津谷紀三郎	六	一
■講　演■			
印度支那の現在及將來	橫山正修	三	二六
治山治水と森林利用	川瀨善太郎	三	三二
輸領ボルネオに就て	生源寺寬吾	四	三八
遺言に就て	下村宏	五	二七
精神修養談	蘆津實全	五	三六
生活難附米食論	角源泉	五	四〇
植民と農業	東鄉實	六	二
■談　叢■			
追憶二十年	佐田家年	三	四二
勞働階級の待遇	角源泉	四	三〇
■調查報告■			

臺灣の茶業	山田秀雄	一	五九
臺灣の神佛	丸井圭治郎	一	七四
臺灣近海横斷觀測報告	水產課	一	七九
濠洲及新西蘭に於ける產業及貿易	調查課	二	四五
農業上より觀察したる臺灣氣象の梗概	鈴木眞吉 平間鐵三郎	二	六六
北投溫泉と北投石	服部武彥	二	七四
臺灣浮浪者取締の過去及現在	岡野才太郎	二	七六
蘭領東印度の產業政策に對する瓜哇雜誌の論評	調查課	三	四八
支那に於ける關稅改訂と其影響	田阪千助	三	五四
山東の農業狀況	調查課	三	五八
臺灣蠶業一班	堀內政一	三	六三
臺灣の歲出入に就て	菊池武芳	三	六九
臺灣に於ける薪炭材	林業試驗場	三	七三
暹羅の錫及ウルフラム鑛業	谷清達	四	五五
人力車の販路と馬來半島	木村增太郎	四	六二
臺灣に於ける酒精の製造及其取引	商工課	四	六七
本島暴風	臺北測候所	四	八六
臺北に於ける各種の水の衞生的檢查	石井八九	四	八八
臺灣地方稅概要	菊池武芳	六	二六
支那治水の大計畫	調查課	六	二九
支那南陽綢の現狀と將來	調查課	六	三三
馬來半島に於ける支那酒、日本酒及麥酒	商工課	六	五四
蘭領東印度に於ける工業所有權及商標登錄	商工課	六	四一
獨逸の蕁麻纖維工業と英國の新製油	商工課	六	四八
香港對日本內地朝鮮及臺灣貿易	香港領事館	六	五〇

■地方事情■

本島各廳の狀況	各廳報告	一	八六
本島各廳の狀況	各廳報告	二	九二
本島各廳の狀況	各廳報告	三	七六
本島各廳の狀況	各廳報告	四	九九
本島各廳の狀況	各廳報告	五	五四
本島各廳の狀況	各廳報告	六	五四

■研究資料■

爪哇雜誌の論評	調查課	一	一一〇
裏面より觀たる清朝治下の臺灣	蕉鹿夢	一	一一四
會計法改正私案	菊池武芳	二	一一五
裏面より觀たる清朝治下の臺灣	蕉鹿夢	二	一一六
臺灣歲出入豫算の前後比較	主計課	二	一一九
香港及比島事情	外事課	二	一三一
マカッサの貿易	越村生	三	一〇六
裏面より觀たる清朝治下の臺灣	蕉鹿夢	三	一〇七
種育場に於ける緬羊	農務課	三	一一〇
比律賓法曹大會に於けるタベラ博士の演說	外事課	四	一三二
支那に於ける製粉業及其陶磁業	春瀛生	四	一五四
臺灣の曆史に顯はるゝ清朝治下武嬉の			

Digitized by Google　　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

裏面　瀧鹿夢　四　一二九
中華民國に於ける官吏廻避規定　臺中齊主人　四　一三八
民族心理に顯はるゝ偸盜性　瀧鹿夢　五　八〇
米問題に關する支那紙の論評　閑林倚客　五　八二
支那に於ける棉實油の産額と新舊製法　春藻生　五　八六
民族心理に顯るゝ偸盜性　瀧鹿夢　六　八八
臺灣産サイザル麻利用試驗成績　農務課　六　九一

■記　錄■

臺灣特別會計公債及借入金　菊池武芳　一　一二〇
林野整理事務進捗狀況　林野整理課　一　一二三
學務部重要記事（自四月至六月）　學務課　一　一二五
地方官會議　一　一二五
水產協議會記事　一　一二八
臺灣貿易概況　二　一二六
專賣彙報　二　一三三
本島鑛業の趨勢　二　一三六
教育界重要記事　學務課　二　一三八
教育彙報（大正八年七月）　守屋生　三　一二三
臺灣に於ける農會の現況　農務課　三　一二五
研究所の事業　三　一二八
櫻井臺灣銀行頭取の演說　四　一四四
教育彙報　四　一四六
夏茶概況　茶樹栽培試驗場　四　一五〇
經漁況及概況（自三月至七月）　水產課　四　一五二
香港新總督の到著　越村生　六　八九
臺灣西南部海流調査成績　水產課　五　九二
教育彙報（自大正八年十月至同十一月初日）　守屋生　六　九六
金融及貿易統計　一　一三五
金融及貿易統計　二　一四四
金融及貿易統計　三　一三四
金融及貿易統計　四　一五六
金融及貿易統計　五　九五
金融及貿易統計　六　一〇七
支那茶の輸出税免除　三井物産臺北支店　六　九八
外人の日本觀光勸誘廣告の計畫　外事課　六　一〇一
一九一八年度の比島外國貿易　越村生　六　一〇三

■雜　報■

貿易概況　一　一四五
糖界近事　一　一四六
嘉義園藝試驗支場　一　一四九
鑛業願書の收受及處分　一　一四九
移民概況　一　一五一
縱貫鐵道運輸成績　一　一五二
鐵道の新設線　一　一五二
阿里山鐵道の營業收入　一　一五三
大正八年度埤圳豫算　一　一五四
臺灣郵便物の數　一　一五七
一日間の電話數　一　一五七
電話交換の成績　一　一五七
臺灣三審制度　一　一六〇

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

戸籍令人事令の經過		一	一六〇
研究所の業務		一	一六〇
臺灣に於ける毒蛇及び其被害		一	一六二
六月の臺灣商況		二	一五二
糖界近事		二	一五三
臺灣鐵道の營業成績		二	一五五
鐵道運輸概況		二	一五八
新設及解散せる會社		二	一五九
農會の肥料共同購買		二	一六〇
七月の臺灣商況		三	一三二
鐵道運輸概況		三	一三四
遞信近況		三	一三四
鑛業彙報		三	一三六
臺灣三審制度の實施		三	一四〇
柑橘の試植		三	一四〇
種豚養成計劃		三	一四二
鐵道運輸概況		四	一六五
林業試驗場の現況		四	一六五
林務手試驗講習		四	一六七
九月の臺灣商況		五	一〇四
鐵道運輸概況		五	一〇七
十月の臺灣商況		六	一一六
鐵道運輸概況		六	一一九
會計係長會議		六	一二〇
新設及解散せる會社（大正八年十月）		六	一二〇

漢文

發刊之辭		一	一六九
總督訓示廳長		一	一七〇
地租章程改正之要旨		一	一七二
明石總督之病狀		二	一六七
臺灣司法制度之革新	谷野格	二	一六七
臺灣米過去現在及將來情形	立川連	二	一六九
就臺灣教育令而言	下村宏	三	一四八
臺灣森林令制定之要旨	山崎嘉夫	三	一五〇
在支那改訂關稅與其影響	田坂千助	三	一五二
就民事爭訟調停而言	長尾景德	四	一五四
東洋經濟界概要	櫻井鐵太郎	四	一七五
論治蕃三難及其將來	江口貢三郎	四	一七七
職業上品下品	小野西州	四	一七九
奸商應罰		四	一八〇
歡迎田新督憲之詞		五	一二三
恭頌天長節		五	一二四
敬弔明石臺灣總督		五	一二五
嗚呼明石總督薨去		五	一二六
國民宜與世界偕步同行		五	一二八
田總督訓示與謝辭		六	一二七
送歲之詞		六	一二八
田督憲之勵精圖治		六	一二八

Digitized by Google　　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

臺灣時報總目次

自第七號至第十二號

題目	署名者	號	頁
新年の辭		七	一
柴臺灣軍司令官を迎ふ		七	一五
平和大詔		八	一
田臺灣總督諭告		八	一三
■論説■			
大正九年豫算	下村宏	七	六
臺灣の恙蟲病	羽鳥重郎	七	八
臺灣刑事政策の實行	上内恒三郎	七	一二
鐵道は何を爲て居るか	白勢黎吉	七	三〇
改造問題と教育	松村傳	七	三七
國勢調査に就て	水越幸一	七	四二
購買組合に就て	阿部嘉七	七	四六
公設質舖の設置	阿部滂	八	一
臺灣の共學	平野象一	八	六
社會的救濟事業	水越幸一	九	一
南支那列國の商業的勢力	奥秋雅則	九	七
米勞働運動	東松偕一郎	一〇	一
臺灣樟腦專賣	吉岡荒造	一〇	七
濠洲の所得稅制度	前田稔靖	一〇	二〇
南支南洋の意義	黒田周一	一一	一
東蒲寨の棉作	吉田碩造	一一	五
都市計畫に就て	中瀬拙夫	一一	二六

題目	署名者	號	頁
打狗港防波堤	山形要助	一二	一
太平洋の均勢	井上清純	一二	一二
臺灣酒造工業の將來	前田稔靖	一二	一九
■講演■			
大なる日本と同化問題	隈本繁吉	七	五五
東洋に於ける石炭の需給と臺灣炭の將來	北村敏	七	六四
印度及南洋視察談	三島増一	八	一二
南洋日本船の概況	平賀亨三	八	一九
濠洲の産業	安西千賀夫	九	一八
■叢談■			
官場十有八年の回顧(上)	高木友枝	七	八六
官場十有八年の回顧(中)	高木友枝	八	四〇
官場十有八年の回顧(下)	高木友枝	九	三三
■調査報告■			
臺灣の森林及其利用	金平亮三	七	九四
蘭領東印度に對する米國の通商發展策	商工課	七	一〇四
印度の甘蔗糖業	吉田碩造	八	三七
臺灣の雨量	近藤久次郎	八	四七
南支南洋金融事情	臺灣銀行	八	五五
英國の殖民政策	外事課	八	六四
香港一九一八年各種報告	外事課	八	六六

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

新嘉坡に於ける日本綿織物　商工課　八　六八
支那の桐油　商工課　八　七三
英支貿易發展策　商工課　八　七六
東蒲寨の蠶絲業　吉田碩造　九　三七
外調週報　外事課　九　四七
海峽植民地事情　商工課　九　五四
大正八年の臺灣貿易概況　稅務課　九　五八
臺灣に於ける國語普及の施設　山根勇造　一〇　三〇
外調週報　外事課　一〇　三五
緬甸市場の支那商品　調査課　一〇　四三
新嘉坡に輸入さるゝ日本陶磁器　商工課　一〇　四九
新嘉坡地方に於ける本邦製鉛筆　商工課　一〇　五六
新嘉坡護謨市況及スマラン糖況　華南銀行　一〇　五九
臺灣に於ける農業苦力賃　糖務課　一〇　六三
臺灣に於ける鰹漁業　水産課　二　三七
厦門汕頭及福州の貿易近況　外調週報　二　四四
支那南北の政鱗軍爪　外調週報　二　四九
露西亞の世界的脅威　外調週報　二　五三
支那及南方事情　外調週報　二　五六
臺灣於ける支那人の上陸と其歸還　外調週報　二　六八
臺灣商況　商工課　二　六九
戰時中の緬甸貿易　同上　三　二六
日米戰爭の否認　外調週報　三　三九
マラリヤ根治策　同上　三　四三
支那及南方片信　同上　三　四四
臺灣商況　商工課　三　三

■地方事情■

本島各廳の狀況　各廳報告　七　一一〇
本島各廳の狀況　各廳報告　八　八四
本島各廳の狀況　各廳報告　九　六九
本島各廳の狀況　各廳報告　一〇　六九
本島各廳の狀況　各廳報　二　七四
本島各廳の狀況　各廳報告　三　五六

■研究資料■

日本民族の古代思想に顯はるの原稻神活の發展　蕉鹿夢　七　一四三
海峽植民地立法會議に於ける總督の演説　越村生　七　一四四
日本民族の古代思想に顯はるゝ原稻神話の發展　蕉鹿夢　八　一〇八
盤谷の外國貿易　越村生　八　一一〇
日本の原稻神活に伴へる餠の的の傳承　蕉鹿夢　九　九七
一九一九年比律賓貿易概況　越村生　九　九九
臺灣に於ける蔬菜栽培　安倍輝吉　九　一〇三
諸民族に顯はるゝ鼻　蕉鹿夢　一〇　九八
比島に投資せよ　越村生　一〇　一〇一
日漢共通書契神秘　蕉鹿夢　二　一二五
古代民族に見らるゝ靈長觀念　蕉鹿夢　三　八九

■記　錄■

臺灣敎育界彙報　守屋德夫　七　一四九
臺灣に於ける鰻　水産課　七　一五二

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

教育短信	湖山生	八	一一一
佛國の甜菜糖	南工課	八	一二四
教育短信	湖山生	九	一〇九
教育短信	湖山生	一一	一一七
■統　計■			
金融及貿易統計		七	一五八
金融及貿易統計		八	一一七
金融及貿易統計		九	一一三
金融及貿易統計		一〇	一〇六
金融及貿易統計		一一	一一三
金融及貿易統計		一二	
■雜　報■			
臺灣商況(大正八年十一月分)	南工課	七	一六七
鐵道運輸概況	鐵道部	七	一七〇
臺灣日誌(大正八年十一月—同年十二月)		七	一七二
人事消息(自大正八年十一月二十一日 至十二月二十日)		七	一七五
任命		七	一七四
臺灣商況(大正八年十二月中)	南工課	八	一二六
鐵道運輸概況	鐵道部	八	一三〇
臺灣日誌(大正八年十二月)		八	一三一
人事消息(自大正八年十二月二十一日 至同 九年一月二十日)		八	一三三
任命		八	一三三
臺灣商況(大正九年一月中)	南工課	九	一二一
臺灣電力會社の事業概況	臺灣電力會社	九	一二四
臺灣日誌(大正九年自一月、至二月)		九	一二六
人事消息(自大正九年一月二十一日 至二月二十日)		九	一二六
任命		九	一二七
臺灣商況(大正九年二月中)	南工課	一〇	一一六
大正八年の臺灣經濟概況	臺灣銀行	一〇	一一八
昨年の臺灣鐵道收入	鐵道部	一〇	一二〇
臺灣商工學校第一回卒業式	東洋協會臺灣支部	一〇	一二二
臺灣日誌(大正九年自二月、至三月)		一〇	一二三
人事消息(自大正九年二月二十一日 至同 年三月二十日)		一〇	一二四
任命		一〇	一二四
臺灣に於ける諸會社		一一	一二一
臺灣日誌(大正九年自三月、至四月)		一一	一二七
人事消息(自大正九年三月二十一日 至同 年四月二十日)		一一	一二八
任命		一一	一二九
■漢　文■			
田總督施政訓示		七	一七六
就大正九年豫算而言	下村宏	七	一八一
國民宜服膺聖旨		八	一三五
雷雨過而陰晴未定	小野西洲	八	一三六
歡迎柴臺灣軍司令官		八	一三八
就共學而言		八	一三九
就笞刑存廢而言		八	一三九
張作霖復辟運動		八	一四〇
新總督之發政施仁		八	一四〇
同化之好現象		八	一四一
騷人雅集		八	一四一
保安宮建醮盛況		八	一四一
大日本使命及同化問題	隈本繁吉	九	一二九
對支經營政策新綱紀	中川小十郎	九	一三四
庚申雜錄		九	一三六
致祭芝山巖教育家		九	一三六
就公設當舖而言	阿部滂	一〇	一二六
論社會的救濟事業	水越幸一	一〇	一二八
臺灣商工學校第一期畢業式概要		一〇	一三二

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

法令

府令

●臺灣地方税規則施行規則中改正

大正九年四月一日
府令第十六號

明治三十六年一月府令第六號臺灣地方税規則施行規則中左ノ通改正ス

第一條 臺灣地方税ハ特別ノ規定アル事項ノ外本令ニ依リ廳長之ヲ賦課徵收ス

第七條第一項ヲ左ノ如ク改ム

營業税ハ左ノ種類、課税標準及税率ニ依リ賦課ス

種類 課税標準及税率

物品販賣業 年税 賣上金額 卸賣 甲千分ノ二 乙千分ノ二、五 小賣 千分ノ六

銀行業 年税 資本金額千分ノ二 預金額萬分ノ五

保險業 年税 資本金額千分ノ二 保險料萬分ノ八

無盡業 年税 資本金額千分ノ二 無盡掛金額萬分ノ二

貸附業 年税 金錢貸附資本金額千分ノ十五 其ノ他ノ貸附收入金額千分ノ十二

倉庫業 年税 收入金額千分ノ十二

運送業 年税 運送人 收入金額千分ノ十二 運送取扱人 報償金額千分ノ三十五

運河業 年税 收入金額千分ノ十八

席貸業 月税 收入金額千分ノ十 建物賃貸價格千分ノ五十 從業者一人二圓

貸座敷業 月税 收入金額千分ノ十 建物賃貸價格千分ノ五十 從業者一人二圓 娼妓一人三圓

旅人宿業 月税 收入金額 旅館屋千分ノ八 下宿屋 木賃宿千分ノ六 建物賃貸價格 旅館屋千分ノ五十 下宿屋 木賃宿千分ノ四十 從業者一人一圓五十錢

料理店業 月税 收入金額千分ノ十 建物賃貸價格千分ノ五十 從業者一人二圓

飲食店業 月税 收入金額千分ノ八 建物賃貸價格千分ノ五十 從業者一人一圓五十錢

請負業 年税 土木、勞力請負 請負金額千分ノ四 其ノ他ノ請負 請負金額千分ノ十二

周旋業 年税 報償金額千分ノ四十

代理商業 年税 報償金額千分ノ四十

仲立業 年税 報償金額千分ノ四十

問屋業 年税 報償金額千分ノ四十

信託業 年税 報償金額千分ノ四十

兩替業 年税 報償金額千分ノ二十

製造業 年税 收入金額 甲千分ノ三 乙千分ノ五 丙千分ノ四

鑛業 年税 收入金額 石炭鑛業千分ノ三 其ノ他ノ鑛業千分ノ一

印刷業 年税 收入金額千分ノ六

寫眞業 年税 收入金額千分ノ十八

第八條第一項ニ左ノ二號ヲ加フ

二ノ二 預金額

前年中各月末現在ヲ月割平均シタル金額トス

前一箇年間預金額ナキモノ、其ノ年一月以降三月迄ノ開業ニ係ルモノ及新規開業ノモノハ見込額トス

二ノ三 保險料、無盡掛金額

前年一月ヨリ十二月迄ノ金額トス

前年二月以降ノ開業ニ係ルモノハ其ノ營業期間ノ平均月割額ヲ十二倍シタル金額トシ開業ノ月カ全一箇月ニ滿タサルトキハ日割ヲ以テ其ノ月分ヲ算定ス

前一箇年間保險料又ハ無盡掛金額ナキモノ、其ノ年一月以後三月迄ノ開業ニ係ルモノ及新規開業ノモノハ其ノ年度内ノ見込額トス

第九條 雜種税ハ左ノ種類、課税標準及税率ニ依リ賦課ス

種類 課税標準及税率

湯屋 年税 湯槽毎一坪六圓 一坪未滿ノ端數ハ一坪ニ計算ス

理髪業 年税 店舗營業者五圓 使用人一人ヲ増ス毎ニ二圓ヲ加フ 行商營業者二圓 使用人一人ヲ増ス毎ニ一圓ヲ加フ

遊藝師匠 年税 六圓

遊藝稼人 年税 五圓 十三年未滿ノ者及本島人ハ半額

俳優 年税 十圓 十三年未滿ノ者及本島人ハ半額

藝妓 月税 七圓 十三年未滿ノ者ハ半額

幇間 月税 一圓

市場 年税
一等 收入金額千圓以上二千圓未滿百圓以上千圓迄ヲ増ス毎ニ百圓ヲ加フ
二等 收入金額五百圓以上千圓未滿五十圓
三等 收入金額二百圓以上五百圓未滿二十圓
四等 收入金額百圓以上二百圓未滿十圓
五等 收入金額百圓未滿五圓

興行 日税
一等 收入見込金額五十圓以上百圓未滿一圓以上百圓迄ヲ増ス毎ニ一圓ヲ加フ
二等 收入見込金額五圓以上五十圓未滿五十錢
三等 收入見込金額五圓未滿十錢

遊技場 月税 玉突臺一箇ニ付二圓 其ノ他遊技一種類毎ニ五十錢

船筏 蒸汽船、機械船每一噸七十錢 一噸未滿ノ端數ハ一噸ニ計算ス 西洋形船(蒸汽船、機械船ヲ除ク)每一噸五十錢 一噸未滿ノ端數ハ一噸ニ計

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

算ス

年税
- 長三間以上日本形、支那形船 毎一石八錢 一石未滿ノ端數ハ一石ニ計算ス 十石未滿ノモノハ八十錢
- 長三間未滿日本形支那船 八十錢
- 筏 長三間迄八十錢 以上一間迄ヲ増ス毎ニ十五錢ヲ加フ

車

年税
- 自用馬車 一頭立十五圓 一頭ヲ増ス毎ニ八圓ヲ加フ
- 營業馬車 一頭立八圓 一頭ヲ増ス毎ニ五圓ヲ加フ
- 自用人力車 五圓
- 營業人力車 三圓
- 自轉車 三圓
- 自働車 五圓
- 自用自働車 五馬力以上三十圓 / 五馬力未滿十五圓
- 營業自働車 五馬力以上二十圓 / 五馬力未滿十圓
- 鐵道車輛 客車 八圓 / 貨車 有蓋車五圓 / 無蓋車三圓
- 軌道臺車 一圓五十錢
- 荷車 一等 四輪及三輪牛、馬車六圓 / 二等 二輪牛、馬車三圓 / 三等 其ノ他一圓五十圓

轎 年税 三圓

屠畜
- 牛一頭 四圓
- 馬一頭 二圓二十錢
- 豚一頭 一圓八十錢
- 羊一頭 六十錢

第十二條中「演劇税」、ヲ削ル

第十三條中「營業税中資本金額ヲ標準トスルモノニ就テモ亦同シ」ヲ削リ第二項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

營業税中資本金額又ハ預金額ヲ標準トスルモノニシテ納税義務ノ發生カ五月以後ナルトキハ資本金額又ハ預金額ニ對スル税額ハ其ノ年度内ノ月數ニ應シ算定賦課ス

第十五條中「演劇、」及「人寄席開場」ヲ削ル

第十七條中「演劇、」ヲ削ル

第二十條第二項中「一時ニ徴收」ノ下ニ「シ又ハ臺灣總督ノ認可ヲ得テ期限ヲ延長」ヲ加フ

第三十六條 地方税ヲ逋脱シタル者ハ脱税高五倍ノ罰金又ハ科料ニ處ス其ノ金額二百圓ヲ超ユルトキハ二百圓トス

第三十七條 第二十七條、第二十八條、第二十九條、第三十一條、第三十二條ノ規定ニ背キ若ハ其ノ事實ヲ詐リ又ハ第三十三條ノ調査ヲ拒ミタル者ハ科料ニ處ス

第三十八條 第三十六條、第三十七條ノ場合ニ於テハ刑法第三十八條第三項但書、第三十九條第二項、第四十條、第四十一條、第四十八條第二項、第六十三條第六十六條ノ例ヲ用キス

第一號式甲中「紅色用紙」ヲ削ル

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●臺灣遊興税規則

大正九年四月二日
府令第十七號

臺灣遊興税規則左ノ通相定ム

臺灣遊興税規則

第一條 本令ニ於テ遊興税ト稱スルハ臺灣地方税雜種税ノ一種類トス

第二條 遊興税ハ席貸、貸座敷、料理店及旅人宿營業者ニ對スル計算ヲ以テ藝妓、娼妓、酌婦、遊藝稼人又ハ之ニ類スル者ヲ招キ飲食又ハ遊興ヲ爲シ一回ノ金額五圓以上ノ消費ヲ爲シタル者ニ之ヲ賦課ス但シ旅人宿營業者ニ對スル場合ハ宿泊料其ノ他旅客トシテ消費シタル額ヲ控除シタル額カ五圓以上ナルトキニ限ル

第三條 二人以上共同シテ飲食又ハ遊興ヲ爲シタルトキハ前條ノ金額ハ其ノ總額ニ付之ヲ定ム

第四條 一人又ハ二人以上共同ノ者カ連續シテ飲食又ハ遊興ヲ爲シタルトキハ一回ト看做ス二人以上共同ノ者ト其ノ中ノ一人又ハ二人以上共同ノ者ト連續シテ飲食又ハ遊興ヲ爲シタル場合ニ於テ一計算トシタルトキ亦同シ

第五條 遊興税ハ飲食又ハ遊興及之ニ伴ヒ消費シタル金額一圓ニ付十錢ノ割合ニ依リ之ヲ賦課ス

第六條 遊興税ハ席貸、貸座敷、料理店及旅人宿營業者之ヲ徴收スヘシ

前項ノ遊興税ハ第二條ノ消費アリタル月分ヲ取纒メ翌月二十五日迄ニ納付セシム但シ事情ニ依リ必要ト認ムル者ニ對シテハ一日ヨリ十五日迄分ヲ其ノ月末日迄ニ十六日ヨリ其ノ月末日迄分ヲ翌月二十五日迄ニ納付セシムルコトヲ得

第七條 席貸、貸座敷、料理店及旅人宿營業者前條ノ遊興税ヲ納付セサルトキハ該營業者ヨリ廳長之ヲ徴收ス

第八條 席貸、貸座敷、料理店及旅人宿營業者ハ遊興税取纒期限後五日内ニ左ノ事項ヲ廳長ニ申告スヘシ

一 取纒期間
二 課税標準額
三 税額

第九條 前條ノ規定ニ背キ又ハ其ノ事實ヲ詐リタル者ハ科料ニ處ス

第十條 遊興税ヲ納付スヘキ營業者ニ對シテハ本令ニ定ムルモノノ外臺灣地方税規則施行規則ヲ準用ス

附　則

本令ハ大正九年四月十日ヨリ之ヲ施行ス

●臺灣關税規則ニ依ル手數料及使用料中改正

大正九年四月三日
府令第十八號

明治四十二年六月府令第四十五號臺灣關税規則施行規則ニ依リ税關ニ納付スヘキ手數料及使用料中左ノ通改ム

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

税關、基隆支署、安平支署及打狗支署臨時開廳特許手數料竝税關支署基隆支署、安平支署及打狗支署ヲ除ク臨時開艙特許手數料ノ部ヲ左ノ如ク改ム

臨時開廳特許手數料

一 日出ヨリ日沒迄	一時間迄毎ニ	十圓
一 日沒ヨリ午後十二時迄	一時間迄毎ニ	十五圓
一 午後十二時ヨリ日出迄	一時間迄毎ニ	二十五圓

税關及税關支署貨物積卸、搬入、搬出及取扱特許手數料ノ部ヲ左ノ如ク改ム

貨物積卸、搬入、搬出及取扱特許手數料

一 日出ヨリ日沒迄	一時間迄毎ニ	二圓
一 日沒ヨリ午後十二時迄	一時間迄毎ニ	三圓
一 午後十二時ヨリ日出迄	一時間迄毎ニ	五圓

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

前二項ノ手數料ハ稅關基隆支署、稅關打狗支署及假置場ヲ除クノ外之ヲ半額トス

關稅法施行規則第七十六條ニ依ル手數料ノ部中第三項ヲ左ノ如ク改ム

一 其ノ他船舶貨物ニ關スル計表 每一件 五十錢

●郵便振替貯金規則中改正

大正九年四月十一日 府令第十九號

明治四十三年三月府令第十八號郵便振替貯金規則中左ノ通改正ス

第九條第二項中「一圓」ヲ「一圓五十錢」ニ改ム

第二十八條 郵便振替貯金ノ受拂ニ對シテハ左ノ區別ニ依リ料金ヲ徴收ス

一 振替貯金ノ拂込金ニ對シテハ拂込ノ際一口ノ金高ニ應シ左ノ割合ニ依ル料金ヲ郵便切手ヲ以テ當該拂込人ヨリ徴收ス

一圓迄	二錢
五圓迄	四錢
十圓迄	六錢
五十圓迄	八錢
百圓迄	十錢
五百圓迄	十五錢
千圓迄	二十錢

千圓ヲ超ユルトキハ其ノ超過額千圓迄每ニ金五錢ヲ加徴ス

二 振替ニ依ル受拂ヲ爲シタルトキハ其ノ拂出ニ對シ一口ニ付金四錢ノ割合ニ依ル料金ヲ拂出ノ際當該加入者ノ貯金ヨリ控除徴收ス

三 現金拂渡ノ爲ニスル振替貯金ノ拂出ニ對シテハ一口ノ金高ニ應シ左ノ割合ニ依ル料金ヲ拂出ノ際當該加入者ノ貯金ヨリ控除徴收ス

五圓迄	五錢
十圓迄	十錢
五十圓迄	十五錢
百圓迄	二十錢
二百圓迄	二十五錢
三百圓迄	三十錢
四百圓迄	三十五錢
五百圓迄	四十錢
六百圓迄	四十五錢
八百圓迄	五十錢
千圓迄	五十五錢

加入者自己ノ住所ト同一行政市區內又ハ同一郵便區內若ハ其ノ隣接郵便區內ニ在ル一郵便局所ヲ指定シ豫メ口座所管廳ノ承認ヲ受ケタルトキハ當該郵便局所ヲ經テ自己ノ口座ニ對シ自ラ拂込ヲ爲シ又ハ自己ノ口座ノ貯金ヲ拂出シ自ラ現金ヲ受領スルトキニ限リ其ノ拂込ニ對シテハ前項第一號ノ料金ヲ徴收セス又其ノ拂出ニ對シテハ一口ノ金高五十圓迄ハ金五錢、五十圓ヲ超ユルトキハ金十錢ノ割合ニ依ル料金ヲ徴收ス

第三十四條第二項中「及第二號」ヲ削ル

第四十八條ノ三中「五錢」ヲ「十錢」ニ改ム

第五十六條第一項中「三錢」ヲ「十錢」ニ改ム

第五十七條中「三錢」ヲ「十錢」ニ改ム

第七十六條第一項中「一圓」ヲ「一圓五十錢」ニ改ム

第八十一條第二項ヲ左ノ如ク改ム

前項ノ規定ニ依リ振替貯金拂出證書ヲ發行シタルトキハ其ノ金高五十圓迄ハ金五錢、五十圓ヲ超ユルトキハ金十錢ノ割合ニ依ル料金ヲ徴收ス

附 則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前ノ拂込金又ハ振替拂出金ニシテ施行後口座受入登記ニ係ルモノニ對シテハ一口ニ付拂込金ハ一錢、振替受入金ハ二錢ノ料金ヲ其ノ都度當該受入口座ヨリ控除徴收ス

郵便規則第五十一條ノ二ノ規定ニ依ル引換代金ニ對スル通常爲替ノ振替拂込ニ對スル料金ハ其ノ拂込カ本令施行前ナルトキハ施行後口座受入登記ノモノト雖仍從前ノ例ニ依ル

●全國氣象實況及上海氣象實況臺灣ニ適用ノ件

大正九年四月十一日 府令第二十號

明治四十二年三月遞信省令第七號氣象通知電報規則中全國氣象實況及上海氣象實況報ニ關スル規定ハ之ヲ臺灣ニ適用ス

附 則

本令ハ大正九年四月二十日ヨリ之ヲ施行ス

●臺灣總督府文官舊服制著用期限

大正九年四月十二日 府令第二十一號

臺灣總督府文官服制ハ大正九年九月三十日迄從前ノ制服ヲ用フルコトヲ得

●臺灣總督府文官特別徽章廢止

大正九年四月十二日 府令第二十二號

大正二年六月府令第六十五號臺灣總督府文官特別徽章規則ハ之ヲ廢止ス

附 則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス但シ舊制服ヲ著用スル場合ニ於テハ仍從前ノ例ニ依ル

●臺灣重要物産同業組合ニ關スル律令施行規則中改正

大正九年四月十三日 府令第二十三號

大正五年十一月府令第六十三號臺灣重要物産同業組合ニ關スル律令施行規則中左ノ通改正ス

第三十九條ノ二 聯合會ヲ設置若ハ解散シ之ニ加入シ又ハ之ヨリ脫退スルニハ組合會ノ決議ニ依ルヘシ

前項ノ決議ハ代議員三分ノ二以上ノ同意ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

脫退ニ關スル組合會ノ決議ハ臺灣總督ノ認可ヲ受クヘシ

第四十條中「臺灣總督聯合會ノ設置ヲ命シタルトキハ」ヲ「聯合會ヲ設置セムトスルトキハ」ニ改ム

第四十二條中「第一條」ノ下ニ「第十二條」ヲ加フ

附 則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●臺灣公學校規則中改正

大正九年四月十七日 府令第二十四號

大正元年十一月府令第四十號臺灣公學校規則中左ノ通改正ス

第十一條第一項第一號及二項ヲ削ル

第十三條ニ左ノ一號ヲ加ヘ第一號ヲ第二號ニ改メ以下順次號數ヲ繰下ク

一 公學校ノ分校ヲ本校ニ變更シ若ハ本校ヲ分校ニ變更セムトスルトキ

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

同條ニ左ノ一項ヲ加フ
前項第一號ノ場合ニ於テハ其ノ所屬財產ノ處分方法ヲ具シ且利害關係アル街庄社區長、學務委員ノ意見書ヲ添附スヘシ但シ變更ノ爲本校トナル公學校ニ分配スヘキ財產ニシテ現ニ其ノ分校ニ於テ使用シ若ハ工事中ニ屬スルモノナルトキ及分校トナル公學校ノ財產全部ヲ新ニ屬スヘキ本校ニ歸屬セシムルトキハ此ノ限ニ在ラス

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●臺灣私設軌道營業者及臺車後押人夫取締規則中改正

大正九年四月十八日
府令第二十五號

大正三年八月府令第四十六號臺灣私設軌道營業者及臺車後押人夫取締規則中左ノ通改正ス
第六條第四號中「五月」ヲ「三月」ニ改ム

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●集金郵便振替金特別取扱規則中改正

大正九年四月二十五日
府令第二十六號

大正八年七月府令第百八號集金郵便振替貯金特別取扱規則中左ノ通改正ス
第六條中「三十日」ヲ「二十日」ニ、「三回」ヲ「二回」ニ改メ左ノ但書ヲ加フ
但シ期間内ニ取立ヲ試ムル能ハサルトキハ特ニ其ノ期間ヲ延伸スルコトアルヘシ
第九條中「及受入」ヲ削ル
第十一條ノ二　本令ニ依ル集金郵便ニ對シテハ金額ニ制限ヲ付セス
第十二條中但書ヲ削ル

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●水道費徵收規則中改正

大正九年四月二十八日
府令第二十七號

明治三十九年五月府令第三十五號水道費徵收規則中左ノ通改正ス
第四條　放任給水ノ給水料左ノ如シ
一　專用給水
本栓一箇ニ付一戶五人迄一箇月一圓トシ五人ヲ超ユルトキハ一人ヲ增ス每ニ二十錢ヲ加フ
支栓一箇ニ付一箇月二十五錢
牛馬一頭ニ付一箇月二十錢
二　共用給水
給水栓一箇ニ付三戶迄一箇月一圓五十錢三戶ヲ超ユルトキハ一戶ヲ增ス每ニ四十五錢ヲ加フ
第五條第一號中「十立方」ヲ「二十立方」ニ「七十錢」ヲ「一圓十五錢」ニ、「兵營及湯屋」ヲ「湯屋」ニ、「六錢」ヲ「五錢」ニ、第三號中「五十立方」ヲ「三十立方」ニ、「三圓五十錢」ヲ「四圓五十錢」ニ、「五錢」ヲ「七錢」ニ改ム

附　則

本令ハ大正九年五月分ヨリ之ヲ適用ス

●臺北打狗及阿緱水道給水規則中改正

大正九年四月二十八日
府令第二十八號

明治四十二年三月府令第八號臺北打狗及阿緱水道給水規則中左ノ通改正ス
第三十四條第一號中「十五錢」ヲ「二十錢」ニ、第三號中「十五立方」ヲ「二十立方」ニ改ム

附　則

本令ハ大正九年五月分ヨリ之ヲ適用ス

●師範學校內地人生徒學資給與規則中被服費增給

大正九年四月二十九日
府令第二十九號

大正八年四月府令第三十號臺灣總督府師範學校內地人生徒學資給與規則別表中ノ被服費ハ大正九年度ニ限リ七圓以內ヲ增給スルコトヲ得

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

訓　令

●大正九年度特別會計歲入歲出科目別冊制定

大正九年四月二日
訓令第三十六號

大正九年度臺灣總督府特別會計歲入歲出科目別冊ノ通相定ム但シ別冊ハ別ニ之ヲ頒ツ

●大正九年度臺灣官設鐵道用品特別會計歲入歲出科目別冊制定

大正九年四月二日
訓令第三十七號

大正九年度臺灣官設鐵道用品資金特別會計歲入歲出科目別冊ノ通相定ム但シ別冊ハ別ニ之ヲ頒ツ

●大正九年度特別會計歲入歲出科目解疏別冊制定

大正九年四月二日
訓令第三十八號

大正九年度臺灣總督府特別會計歲入歲出科目解疏別冊ノ通相定ム但シ別冊ハ別ニ之ヲ頒ツ

●大正九年度臺灣地方稅收入支出科目表別冊制定

大正九年四月二日
訓令第三十九號

大正九年度臺灣地方稅收入支出科目表別冊ノ通相定ム但シ別冊ハ別ニ之ヲ頒ツ

●臺灣地方稅規則取扱規程中改正

大正九年四月六日
訓令第四十號

明治三十六年三月訓令第五十四號臺灣地方稅規則取扱規程中左ノ通改正ス
別冊樣式中別記ノ如ク改ム
(別記省略)

●臺灣公學校歲入取扱手續

大正九年四月六日
訓令第四十一號

臺灣公學校歲入取扱手續ニ關シテハ臺灣地方稅規則取扱規程ヲ準用ス但シ臺灣公學校歲入徵收簿ハ別記樣式ニ依ルヘシ

附　則

本令ハ大正九年度ヨリ之ヲ施行ス

(別記樣式)

大正何年度
公學校歲入徵收簿
何　廳

何々公學校

摘要	科目	調定濟額			收入濟額			不納缺損額			收入未濟額		
		円	銭	厘	円	銭	厘	円	銭	厘	円	銭	厘
何月分	何々(項)	0			0			0			0		
	何々(項)	0			0			0			0		
	經常部計	0			0			0			0		
	何々(項)	0			0			0			0		
	何々(項)	0			0			0			0		
	臨時部計	0			0			0			0		
	合計	0			0			0			0		

備考

一　本簿ハ公學校歳入徵收原簿、繰越額整理簿、滯納額整理簿及區長取纒金收入簿ニ依リ記載スヘシ

●間税檢査監督規程中改正

大正九年四月十日
訓令第四十二號

明治四十四年十一月訓令第二百二十號間税檢査監督規程中左ノ通改正ス

第十條第二項及別記書式ヲ削ル

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●全國氣象實況報及上海氣象實況報取扱ノ件

大正九年四月十一日
訓令第四十三號

全國氣象實況報及上海氣象實況報ノ取扱ニ關シテハ明治四十二年三月遞信省公達第百八十六號氣象通知電報取扱規程ヲ準用ス

附　則

本令ハ大正九年四月二十日ヨリ之ヲ施行ス

●臺灣總督府文官服裝規程中改正

大正九年四月十二日
訓令第四十四號

明治四十四年五月訓令第八十七號臺灣總督府文官服裝規程中左ノ通改正ス

第二條中「禮裝」ノ下「帽」ヲ「正帽」ニ、「長劍」ヲ「劍」ニ改メ「短劍、劍帶、」ヲ削ル

第三條中「禮裝ハ」ノ下ニ「臺灣ニ於テ」ヲ加フ

第八條中「佩劍ハ何レノ服裝ニ在リテモ」ヲ「劍ハ」ニ改ム

第九條中「長劍」ヲ「劍」ニ改ム

第十條　削除

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス但シ舊制服ヲ着用スル場合ニ於テハ仍從前ノ例ニ依ル

●大正八年度特別會計歳入歳出科目設置

大正九年四月十四日
訓令第四十五號

大正八年四月訓令第三十三號別册大正八年度臺灣總督府特別會計歳入歳出科目表中左ノ科目ヲ設置ス

歳出經常部

款	項	目
第十九款　營林局	第一項　俸給	△第六目　囑託員手當

△印增設

●鐵道部分課規程中改正

大正九年四月十四日
訓令第四十六號

大正六年十月訓令第百三十三號臺灣總督府鐵道部分課規程中左ノ通改正ス

第九條中「事務官又ハ技師」ヲ「高等官」ニ改ム

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●大正九年度特別會計歳入歳出科目設置

大正九年四月二十一日
訓令第四十七號

大正九年四月訓令第三十六號別册大正九年度臺灣總督府特別會計歳入歳出科目表中左ノ目ヲ設置ス

歳出經常部

款	項	目
第二款　總督府	第一項　俸給	△第四目　囑託員手當 △第五目　雇員俸給
第三款　地方廳	第一項　俸給	△第三目　休職俸給 △第四目　雇員俸給 △第五目　賞與
第四款　租稅徵收費	第一項　俸給	△第三目　雇員俸給 △第四目　賞與
第五款　稅關	第一項　俸給	△第三目　休職俸給 △第四目　雇員俸給 △第五目　賞與
第六款　港務所	第一項　俸給	△第三目　囑託員手當 △第四目　雇員俸給 △第五目　賞與
第七款　法院	第一項　俸給	

△印增設

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

款	項	目
第八款 監獄	第一項 俸給	△第四目 雇員俸給 △第五目 賞與
第十款 醫院	第一項 俸給	△第三目 賞與
第十一款 研究所	第一項 俸給	△第四目 囑託員手當 △第五目 雇員俸給 △第六目 賞與
第十二款 教育費	第一項 俸給	△第四目 休職俸給 △第五目 囑託員手當 △第六目 雇員俸給 △第七目 賞與
第十六款 鐵道作業費	第一項 俸給	△第四目 休職俸給
第十七款 專賣局	第一項 俸給	△第四目 雇員俸給 △第五目 賞與
第二十款 林野取締費	第一項 俸給	△第三目 雇員俸給 △第四目 賞與
第廿二款 軍需工業動員法施行費	第一項 俸給	△第二目 雇員俸給 △第三目 賞與
歳出臨時部		
第一款 特別事業費	第一項 鐵道建設費	△第五目 雇員俸給 △第六目 賞與
第二款 事業費	第十三項 官有林野特別處分費	△第四目 雇員俸給 △第五目 賞與
	第十七項 鐵道線路調査費	△第四目 雇員俸給 △第五目 賞與
	第十八項 樟木調査費	△第三目 雇員俸給 △第四目 賞與

● 銀價騰貴中支那出張旅費定額外增給ノ件

大正九年四月二十一日
訓令第四十八號

大正八年八月訓令第百四十一號中左ノ通改正ス

本令ハ大正八年十二月一日以後ノ給與ニ付之ヲ適用ス

第一項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

支那出張旅費ニ付テハ銀價騰貴ニ基ク特別ノ事情アル間當分ノ内前項ノ規定ニ依ルノ外更ニ左ノ金額ヲ增給スルコトヲ得

一 滿洲(關東州ヲ含ム) 定額ノ二割内
二 支那(青島ヲ含ム) 定額ノ十割内

● 集金郵便振替貯金特別取扱規程中改正

大正九年四月二十五日
訓令第四十九號

大正八年七月訓令第百三十六號集金郵便振替貯金特別取扱規程中左ノ通改正ス

第四條第二號第一項ニ左ノ但書ヲ加フ

但シ受付簿ノ餘白ニ取立局所別口數ヲ附記スヘシ

同條第二號第二項ヲ左ノ如ク改ム

前項ノ場合ニ於テ特別集金書ニ取立局所ヲ推知シ得ヘキ記號等附記シアルトキハ取立局所名ノ記入ヲ省略シ又番號附記シアルトキハ之ヲ受附番號ニ換用スルコトヲ得

第十二條ノ二 取立郵便局所ニ於テ集配人ト特別集金書及現金ノ受授ニ關シ本令ニ依ルヲ不便トスルトキハ適宜ノ帳簿ヲ使用スルコトヲ得

附 則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

● 一、二等郵便局分掌規程

大正九年四月二十五日
訓令第五十號

臺灣總督府郵便局分掌規程左ノ通相定ム

但シ別册ハ別ニ之ヲ頒ツ

臺灣總督府郵便局分掌規程

第一條 一等郵便局ニ左ノ課ヲ置ク

郵便課
電信課
電話課 臺南局ヲ除ク
庶務課

第二條 二等郵便局ニ左ノ係ヲ置ク

通信係
庶務係

第三條 課ニ掛ヲ、係ニ部ヲ設クルコトヲ得

第四條 課ニ課長ヲ置キ臺灣總督之ヲ命免ス

課又ハ掛ニ主幹ヲ、係ニ係長ヲ、係又ハ部ニ主事ヲ置クコトヲ得

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

主幹、係長、主事ハ當該局長之ヲ命免ス

第五條　主幹、主事ハ上司ノ命ヲ承ケ其ノ所屬員ヲ指導督勵シ事務整頓ノ責ニ任スルモノトス

第六條　課及係ノ分掌事項ハ別册ニ依ル但シ當該局長ハ之カ細則ヲ定ムルコトヲ得

前項ノ細則ハ直ニ之ヲ遞信局長ニ報告スヘシ

第七條　前條ノ分掌事項中本令ニ依リ難キ特殊ノ事由アルトキハ臺灣總督ノ承認ヲ受クヘシ

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十七年二月訓令第二十二號郵便局分課規程ハ之ヲ廢止ス

●歲入實蹟表及歲入増減表改正

大正九年四月二十五日
訓令第五十一號

大正七年一月訓令第十五號中左ノ通改正ス

「廳長」ノ下ニ、「拂出命令官」ヲ加フ

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●宿舍料支給規程改正

大正九年四月二十八日
訓令第五十二號

明治四十三年五月訓令第八十九號宿舍料支給規程左ノ通改正ス

宿舍料支給規程

第一條　文官判任以上ノ者及囑託員、雇員、事務備員ニ支給スヘキ官舍不足ノ場合ハ宿舍料ヲ支給スルコトヲ得但シ本島人ハ此ノ限ニ在ラス

第二條　宿舍料ハ月額トシ左ノ區分ニ依リ之ヲ支給ス但シ所屬長官ニ於テ増額ノ必要ヲ認ムルトキハ月額ヲ定メ臺灣總督ノ認可ヲ受クヘシ

勅任官	月額	八十圓
奏任官五等以上 月俸又ハ月手當二百五十圓以上ノ囑託員、雇員	月額	五十圓
奏任六等以下 月俸又ハ月手當百五十圓以上ノ囑託員、雇員	月額	四十圓
判任官二級俸以上 月俸又ハ月手當百二十圓以上ノ囑託員、雇員	月額	三十圓
判任官五級俸以上 月俸又ハ月手當八十圓以上ノ囑託員、雇員	月額	廿五圓
判任官月俸三十圓以上 月俸又ハ月手當五十圓以上ノ囑託員、雇員	月額	二十圓
判任官月俸三十圓未滿 月俸又ハ月手當三十五圓以上ノ囑託員、雇員	月額	十五圓
月俸又ハ月手當三十五圓未滿ノ囑託員、雇員	月額	十二圓
日給七十錢以上ノ雇員及事務備員	月額	十圓
日給七十錢未滿ノ雇員及事務備員	月額	八圓

日給ノ囑託員ニ在リテハ日給三十日分ヲ以テ月手當ト看做ス

所屬長官ハ其ノ必要ヲ認ムルトキハ定額ノ範圍内ニ於テ適宜其ノ額ヲ定メテ支給スルコトヲ得

第三條　宿舍料ハ家族携帶者ニハ其ノ全額ヲ單身者ニハ其ノ十分ノ六ヲ支給ス

本令ニ於テ家族ト稱スルハ配偶者、直系親族、兄弟姉妹ヲ謂フ但シ兄弟ハ無職業ニシテ他ニ扶養者ナキ者ニ限ル

第四條　同居ノ家族中宿舍料ヲ受クヘキ者二人以上アルトキハ其ノ定額ノ多キ者ニ全額ヲ支給シ其ノ他ノ者ニハ半額ヲ支給ス

第五條　宿舍料ヲ受クヘキ原因發生又ハ消滅シ若ハ其ノ支給額ノ變更ヲ要スルトキハ左ノ各號ニ依リ之ヲ支給ス

一　新任ノ場合ハ就任ノ日ヨリ日割ヲ以テ之ヲ支給ス

二　轉任轉職ノ場合ハ發令ノ當日迄ヲ前任廳ニ於テ翌日以降ハ新任廳ニ於テ之ヲ支給ス但シ赴任ノ爲旅行ヲ要スルトキハ其ノ出發ノ翌日ヨリ著任ノ前日迄ハ之ヲ支給セス

三　退官、廢官、休職、退職又ハ死亡ノ場合ハ其ノ月ノ全額ヲ支給ス但シ殘務整理ヲ命セラレ翌月ニ亙リタル場合ハ其ノ終了ノ當日迄之ヲ支給ス

四　刑事裁判又ハ懲戒處分ニ因リ官職ヲ失ヒ若ハ免セラレタルトキハ其ノ當日迄之ヲ支給ス

五　身分ノ變更、俸給、月手當、日給ノ増減家族ノ異動其ノ他ノ事由ニ因リ支給額ノ變更ヲ要スルトキハ發令ノ翌月又ハ其ノ事實ノ發生シタル翌月ヨリ之ヲ増減ス

六　宿舍料ヲ受クル者ニ官舍居住ヲ命シタルトキハ其ノ官舍居住ノ翌日ヨリ宿舍料ヲ支給セス、官舍ニ居住スル者ニ退居ヲ命シタルトキハ其ノ退居ノ當日ヨリ宿舍料ヲ支給ス

第六條　私事ノ爲在勤地ヲ離ルルコト六十日ヲ超ユルトキハ其ノ日ヨリ宿舍料ノ支給ヲ停止ス但シ家族ヲ携帶スル者其ノ家族ヲ引續キ居住セシムル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第七條　宿舍料ノ支給ヲ受ケムトスル者ハ所屬長官ニ家族ノ有無ヲ詳記シタル住所ノ屆出ヲ爲スヘシ家族又ハ住所ニ異動アリタルトキ亦同シ

第八條　兼務ヲ有スル者ノ宿舍料ハ本務廳ニ於テ之ヲ支給ス但シ所屬長官協議ノ上兼務廳ニ於テ之ヲ支給スルコトヲ得

第九條　宿舍料ハ毎翌月五日迄ニ之ヲ支給ス但シ十二月分ニ限リ其ノ月二十五日以後ニ於テ全額ヲ支給スルコトヲ得

附　則

本令ハ大正九年四月分ヨリ之ヲ適用ス

從前ノ規程ニ依リ既ニ認可ヲ受ケタルモノニシテ本令ニ牴觸セサルモノハ本令ニ依リ認可セラレタルモノト看做ス

本令施行ノ際現ニ受クル支給額カ本令ノ支給額ヨリ多キトキハ當分ノ内從前ノ額ヲ支給スルコトヲ得

●大正九年度特別會計歲入歲出科目設置

大正九年四月三十日
訓令第五十三號

大正九年四月訓令第三十六號別册大正九年度臺灣總督府特別會計歲入歲出科目表中左ノ科目ヲ設置ス

歲入經常部

款	項	目
第一款 臺灣歲入	第一項 租稅	△第十目 關稅

△印増設

歳出臨時部

款	項	目
第二款 事業費	第五項 營繕費	△第五十三目 醫院官舍其他新營
		△第五十四目 學校校舍其他新營
		△第五十五目 郵便局官舍其他新營
		△第五十六目 總督府官舍新營
		△第五十七目 基隆港務所官舍新營
		△第五十八目 專賣局工場官舍其他新營
		△第五十九目 稅關倉庫官舍其他新營
		△第六十目 法院官舍其他新營
		△第六十一目 監獄官舍其他新營
		△第六十二目 殖産局所屬廳舍官舍新營
		△第六十三目 農事試驗場官舍新營
		△第六十四目 研究所官舍新營
		△第六十五目 地方廳官舍新營
		△第六十六目 臺南地方法院廳舍修繕
		△第六十七目 臺北監獄官舍其他修繕
		△第六十八目 富貴角燈臺修繕
	△第八項 道路橋梁費	第八目 蕃地道路開鑿費
	△第二十項 諸調査費	第六目 農業基本調査費
△第八款 教育費補足	△第一項 教育費補足	第一目 教育費補足

●廳屬警部、警部補、視學、技手、通譯及税務吏定員中改正

大正九年四月三十日
訓令第五十四號

大正八年九月訓令第百七十七號廳屬、警部、警部補、視學、技手、通譯及税務吏定員中左ノ通改正ス

	屬	技手	税務吏
臺北廳	七三	三三	一八
宜蘭廳	三一	一二	九
桃園廳	三一	一二	八
新竹廳	五二	二三	二〇
臺中廳	七一	三〇	二二
南投廳	四一	九	一五
嘉義廳	七五	二四	二〇
臺南廳	七四	二七	一七
阿緱廳	五七	一九	一七
臺東廳	二一	五	五

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●宿直食料支給規程

大正九年四月三十日
訓令第五十五號

宿直食料支給規程左ノ通相定ム

宿直食料支給規程

第一條　臺灣總督府職員宿直勤務ヲ爲シタルトキハ左ノ區分ニ依リ食料ヲ支給ス

奏任官月俸又ハ月手當百五十圓以上ノ囑託員、雇員	一日又ハ一夜	七十錢
判任官月俸又ハ月手當三十五圓以上ノ囑託員、雇員	同	五十錢
月俸又ハ月手當三十五圓未滿若ハ日給ノ囑託員、雇員、巡査、巡査補	同	四十錢
傭員	同	三十錢

第二條　休日ニ當リ宿直勤務ヲ爲シタルトキハ前條定額ノ二倍ヲ支給ス

第三條　所屬長官必要ト認ムルトキハ前二條ノ定額ヲ減シ又ハ之ヲ支給セサルコトヲ得

附　則

本令ハ大正九年五月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十三年四月訓第百十一號、同年六月訓令第二百三號大正七年四月訓令第七十二號ハ之ヲ廢止ス

勅令 臺灣施行

●敵國財産管理令廢止

大正九年三月二十四日
勅令第四十七號

朕帝國憲法第八條第二項ニ依リ大正八年勅令第三百四號ノ效力ヲ將來ニ失ハシムルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

大正八年勅令第三百四號ハ將來ニ向テ其ノ效力ヲ失フ

●獨逸國等ニ屬スル財産管理令

大正九年三月二十四日
勅令第四十八號

朕茲ニ緊急ノ必要アリト認メ樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ帝國憲法第八條第一項ニ依リ獨逸國等ニ屬スル財産管理ノ件ヲ裁可シ之ヲ公布セシム

第一條　政府ハ獨逸國、墺地利洪牙國若ハ土耳其國ニ屬シ又ハ其ノ國人若ハ法人ニ屬スル財産ヲ管理スルコトヲ得

第二條　政府ハ前條ノ財産ノ所有者、保管者其ノ他關係者ニ對シ其ノ財産ノ所在、種類、數量、價額、權利狀態其ノ他管理ニ必要ナル事項ノ申告ヲ命スルコトヲ得

第三條　當該官吏又ハ吏員ハ第一條ノ財産ニ關シ調査ノ爲必要ナル場所ニ立入リ若ハ檢査ヲ爲シ又ハ其ノ財産ノ所有者、保管者其ノ他關係者ニ對シ調査資料ノ提供ヲ命シ若ハ供述ヲ求ムルコトヲ得

第四條　第一條ノ財産ノ管理ハ當該官廳ノ管理命令ヲ以テ之ヲ開始ス

管理命令ヲ爲シタルトキハ之ヲ告示ス

第五條　當該官廳ハ管理財産ニシテ登記又ハ登錄ノ規定アルモノニ付テハ管理財産タル旨ノ登記又ハ登錄ヲ關係ノ官廳其ノ他ニ囑託又ハ請求スヘシ

當該官廳ハ管理財産債權ナルトキハ管理財産タル旨ヲ債務者ニ通知スヘシ

前二項ノ規定ニ依ル手續ヲ爲スヘキ財

產ノ管理ハ登記若ハ登錄又ハ通知アルニ非サレハ之ヲ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第六條　前二條ノ規定ハ財產ノ管理ヲ終了スル場合ニ之ヲ準用ス

第七條　當該官廳ハ管理財產ノ所有者又ハ保管者ニ對シ其ノ引渡ヲ命スルコトヲ得

第八條　管理ニハ財產ノ換價其ノ他ノ處分ヲ包含ス

政府カ擔保權ノ目的タル管理財產ヲ換價シタルトキハ擔保權ハ代金ノ上ニ存在ス此ノ場合ニ於テハ其ノ代金ハ別ニ之ヲ保管スヘシ

第九條　第一條ノ國、國人又ハ法人ハ其ノ者ニ屬スル管理財產ニ關シ處分其ノ他ノ行爲ヲ爲スコトヲ得ス

第十條　管理財產ハ管理ニ依リテ生シタル權利ニ基ク場合ヲ除クノ外民事上ノ强制執行又ハ競賣ヲ爲スコトヲ得ス

第十一條　財產ノ管理ニ要スル費用ハ本人ニ屬スル管理財產ヲ以テ之ヲ支辨スルコトヲ得

第十二條　財產ノ管理ヲ免ルルノ目的ヲ以テ財產ノ隱匿、處分、毀棄ヲ爲シ若ハ爲サムトスル行爲アリタル者又ハ情ヲ知リテ其ノ處分ヲ受諾シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十三條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三月以下ノ懲役若ハ百圓以下ノ罰金又ハ拘留若ハ科料ニ處ス

一　第二條ノ規定ニ依リ命セラレタル申告ヲ爲サス又ハ虛僞ノ申告ヲ爲シタル者

二　第三條ノ規定ニ依ル當該官吏又ハ吏員ノ職務ノ執行ヲ拒ミ妨ケ若ハ忌避シ、調査資料ノ提供ヲ爲サス若ハ虛僞ノ調査資料ヲ提供シ又ハ供述ヲ拒ミ若ハ虛僞ノ供述ヲ爲シタル者

三　第七條ノ規定ニ依ル引渡ノ命令ニ應セサル者

附　則

本令ハ大正八年勅令第三百四號失效ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●大豆、生牛肉等輸入税低減免除勅令廢止

大正九年三月二十四日
勅令第五十一號

朕帝國憲法第八條第二項ニ依リ大正八年勅令第四百七十八號ノ效力ヲ將來ニ失ハシムルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

大正八年勅令第四百七十八號ハ將來ニ向テ其ノ效力ヲ失フ

●大豆、生牛肉等輸入税低減免除

大正九年三月二十四日
勅令第五十二號

朕茲ニ緊急ノ必要アリト認メ樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ帝國憲法第八條第一條ニ依リ大豆、生牛肉、鳥卵、綿織絲及綿織物ノ輸入税ノ低減又ハ免除ニ關スル件ヲ裁可シ之ヲ公布セシム

政府ハ當分ノ内勅令ヲ以テ期間ヲ指定シ大豆、生牛肉、鳥卵、綿織絲及綿織物ノ輸入税ヲ低減又ハ免除スルコトヲ得

附　則

本令ハ大正八年勅令第四百七十八號失效ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●大豆、生牛肉等輸入税免除

大正九年三月二十四日
勅令第五十三號

朕大豆、生牛肉、鳥卵、綿織絲及綿織物ノ輸入税免除ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

大正九年勅令第五十二號ニ依リ大豆、生牛肉、鳥卵、綿織物ノ輸入税ハ大正九年十一月三十日迄之ヲ免除ス

附　則

本令ハ大正九年勅令第五十二號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

大正八年勅令第四百七十九號ハ之ヲ廢止ス

●高等官官等俸給令中改正

大正九年三月二十九日
勅令第六十一號

朕高等官官等俸給令中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

高等官官等俸給令中左ノ通改正ス

第十四條中「農務局書記官」ノ次ニ「商務局書記官」及「工務局書記官」ヲ加フ

第十五條中「臨時產業調査局事務官」ヲ削ル

第十六條中「農務局事務官」ノ次ニ「商務

別表第一表文部省ノ部中

「

文部省直轄諸學務長 東京盲學校長、東京聾唖學校長ヲ除ク	同上	同上	同上					

」ヲ

局事務官」ヲ、「工務局事務官」ノ次ニ「鑛山局事務官」ヲ加フ

附　則

本令ハ大正九年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

●高等官官等俸給令中改正

大正九年三月三十一日
勅令第七十六號

朕高等官官等俸給令中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

高等官官等俸給令中左ノ通改正ス

第八條中「製鐵所次長」ノ前ニ「官立大學長」ヲ加フ

第十條ニ左ノ一項ヲ加フ

東京商科大學豫科教授又ハ東京商科大學附屬商學專門部教授ニシテ五年以上高等官三等ニ在リ功績アル者ハ通シテ二人ヲ限リ高等官二等ニ陞敍スルコトヲ得

第十七條中「東北帝國大學醫學部附屬醫院藥局長」ノ次ニ「官立大學事務官」ヲ加フ

第二十三條中「又ハ北海道帝國大學附屬大學豫科、土木專門部、水產專門部教授」ヲ、「北海道帝國大學附屬大學豫科、土木專門部、水產專門部教授又ハ東京商科大學豫科、附屬商學專門部教授」ニ改ム

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

「

	官立大學長	同上							
	官立大學教授	同上	同上	同上	同上	同上			
				官立大學助教授	同上	同上	同上	同上	同上
		文部省直轄諸學校長（東京盲學校長、東京聾啞學校長ヲ除ク）	同上	同上	同上				
			文部省直轄諸學校教授	同上	同上	同上	同上	同上	
			東北帝國大學附屬工學專門部教授	同上	同上	同上	同上	同上	
			北海道帝國大學附屬大學豫科、土木專門部、水產專門部教授	同上	同上	同上	同上	同上	
			東京商科大學豫科、附屬商學專門部教授	同上	同上	同上	同上	同上	

」ニ改ム

別表第五表中「北海道帝國大學附屬大學豫科、土木專門部、水產專門部教授」ヲ「北海道帝國大學附屬大學豫科、土木專門部、水產專門部、東京商科大學豫科、附屬商學專門部教授」ニ改メ史料編纂官ノ項ノ次ニ左ノ如ク加フ

官立大學教授	五,[illegible]	五,[illegible]	五,〇〇〇	四,[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	一,四〇〇	[illegible]	一,一〇〇		
官立大學助教授	二,[illegible]	二,[illegible]	二,〇〇〇	一,[illegible]	一,[illegible]	一,[illegible]	一,[illegible]	一,一〇〇	一,〇〇〇	八〇〇	七〇〇		

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ東京高等商業學校教授ニシテ東京商科大學豫科又ハ東京商科大學附屬商學專門部ノ教授ニ任セラレタル者ノ東京高等商業學校教授トシテノ高等官三等ノ在職ハ高等官官等俸給令第十條第六項ノ規定ノ適用ニ就テハ之ヲ東京商科大學豫科又ハ東京商科大學附屬商學專門部ノ教授トシテノ高等官三等ノ在職ト看做ス

●外國在勤者臨時增給ノ件中改正

大正九年三月三十一日
勅令第七十八號

朕大正八年勅令第百七十一號外國在勤者臨時增給ノ件中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

大正八年勅令第百七十一號中左ノ通改正ス

第一項中「食料ノ定額ニ付其ノ十分ノ五以内ノ金額」ヲ「食料ニ付其ノ定額ノ外所管大臣大藏大臣ト協定シタル金額」ニ改メ第二項ヲ削ル

附　則

本令ハ大正九年四月一日以後ノ給與ニ付之ヲ適用ス

●現業員共濟組合ニ對スル政府給與金ニ關スル件

大正九年三月三十一日
勅令第八十號

朕現業員ノ共濟組合ニ對スル政府給與金ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

政府ノ事業ニ從事スル現業員ノ相互救濟ヲ目的トスル組合ニシテ勅令ノ認ムルモノニ於テ退職年金又ハ癈疾年金ノ給付ヲ爲ストキハ政府ハ當該勅令ニ依ル給與金ノ外每年豫算ノ範圍內ニ於テ組合員ノ給料總額ノ百分ノ三ニ當ル金額ヲ限度トシテ組合ニ給與ス但シ其ノ金額ハ年金給付ノ爲組合員ヨリ增徵スル掛金ノ總額ヲ超ユルコトヲ得ス

前項組合員ノ給料總額中ニハ現業員タル判任官以上ノ組合員及現業員ニ非サル組合員ノ俸給給料ヲ包含セス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●郵便貯金利子割合ノ件中改正

大正九年三月三十一日
勅令第八十三號

朕明治三十八年勅令第百六十六號郵便貯金利子割合ノ件中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

明治三十八年勅令第百六十六號中左ノ通改正ス

第一項中「關東都督府所管原簿」ヲ「關東廳所管原簿並樺太、青島地方、南洋群島又ハ支那ヲ表示スル記號ヲ付シタル原簿」ニ改ム

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●高等官官等俸給令中改正

大正九年四月一日
勅令第八十六號

朕高等官官等俸給令中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

高等官官等俸給令中左ノ通改正ス

第八條中「各省局長」ノ次ニ「臨時平和條約事務局部長」ヲ加フ

別表第一表中外務省ノ部「條約局長」ノ項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

	臨時平和條約事務局部長						

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●高等官官等俸給令中改正

大正九年四月十日
勅令第九十一號

朕高等官官等俸給令中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

高等官官等俸給令中左ノ通改正ス

別表第一表關東廳ノ部中「旅順師範學堂長」ヲ「旅順師範學堂教諭」ニ改メ高等女學校長ノ項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

旅順師範學堂長	同上	同上	同上	同上	

別表第五表中「旅順師範學堂長」ヲ「旅順師範學堂教諭」ニ、「關東廳中學校長 關東廳高等女學校長」ヲ「關東廳中學校長 關東廳高等女學校長 旅順師範學堂長」ニ改ム

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●臺灣總督府文官服制中改正

大正九年四月十日
勅令第九十二號

朕臺灣總督府文官服制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

臺灣總督府文官服制中左ノ通改正ス

服制表上衣ノ部中製式ノ項、袖章ノ項及肩章ヲ左ノ如ク改メ鈕釦ノ項ヲ削ル

製式	堅襟長ジヤケツト形、扣鈕ヲ以テ留メ幅六分ノ七子織黒毛線ヲ以テ縁ヲ取リ表隱シ左右下部各一箇幅三分ノ七子織黒毛線ヲ以テ縁ヲ取ル但シ夏服ニ於テハ縁ヲ白色線トス	同上	同上
袖章	幅六分ノ七子織黒毛線一條ヲ半面ニ纏フ但シ夏服ニ於テハ白色線トス	同上	同上
肩章	長サ五寸五分總サ座幅四寸一分總テ金線製總サ座ヘ斜徑七分ノ金色台字章三箇ヲ附シ總サ金籠子目線前總サ長サ三寸三分徑三分ノモノ二十一條裏總サ長サ二寸七分徑二分五厘ノモノ十九條ヲ附シ金色無地徑四分ノ釦一箇ヲ附ス肩章差込座ハ幅五分ノ七子織黒毛線一條トシ夏服ニ於テハ白色線トス	台字章二箇ヲ附シ前總サ長サ二寸徑三分ノ金籠子目線二十一條ヲ附シ裏總サヲ附セス餘ハ同上	台字章一箇ヲ附シ前總サ及裏總サヲ附セス餘ハ同上

同表中帽ノ部ヲ左ノ如ク改ム

帽					
正帽 地質	正帽 製式	正帽 徽章	略帽 地質	略帽 製式	略帽 徽章
紺又ハ黒羅紗	圓形ニシテ黒色ノ前庇及幅四分ノ支革ヲ附シ支革ノ兩端ハ帽ノ兩側ニ於テ台字章ヲ附シタル徑四分ノ金釦各一箇ヲ以テ留ム	前章ハ全徑一寸五分、黒天鵞絨製ノ臺上ニ斜徑七分ノ金色台字章ヲモール製九重桐ニテ抱キタルモノ（葉ハ金モール、花ハ銀モール）ヲ附シ又帽ノ周圍ニ幅四分ノ無地織金線三條ヲ纏フ	正帽ニ同シ	正帽ニ同シ	帽ノ周圍ニ幅一寸二分ノ七子織黒毛線一條ヲ纏フ餘ハ正帽ニ同シ
同上	同上	帽ノ周圍ニ幅四分ノ無地織金線二條ヲ纏フ餘ハ同上	同上	同上	同上
同上	同上	帽ノ周圍ニ幅四分ノ無地織金線一條ヲ纏フ餘ハ同上	同上	同上	同上

同表中佩劍ノ部ヲ左ノ如ク改ム

劍	柄白鮫長サ五寸鞘黒革包長サ二尺三寸柄頭金具ニ櫻花一輪柄鍔胴輪及小尻金具ニ葉付櫻花二輪宛ヲ附シ又柄ニ台字章ヲ附ス金具總テ金色	柄鍔胴輪及小尻金具ニ葉付櫻花一輪宛ヲ附ス餘ハ同上	柄黒鮫柄鍔胴輪及小尻金具ニ花葉ヲ附セス餘ハ同上

同表中外套ノ部ヲ削ル

同表備考第一號中「此ノ制服ハ」ノ下ニ「臺灣ニ於テ」ヲ加ヘ「長劍ヲ佩用ス」ヲ「正帽ヲ著用ス」ニ、第二號ヲ「此ノ制服ニ肩章ヲ附セス劍ヲ佩用セス略帽ヲ著用スルモノヲ通常服トス」ニ、第四號中「此ノ制服ヲ通常服ニ代用スル」ヲ「通常服ノ」ニ改メ第六號ヲ削ル

服制圖中上衣ノ圖ヲ左ノ如ク改ム

（圖面省略）

●臺灣總督府師範學校官制改正

大正九年四月十四日
勅令第九十五號

朕臺灣總督府師範學校官制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

臺灣總督府師範學校官制中左ノ通改正ス

第一條中「十人」ヲ「十一人」ニ、「五十一人」ヲ「五十三人」ニ、「八人」ヲ「九人」ニ改ム

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●臺灣總督府醫學專門學校官制中改正

大正九年四月十日
勅令第九十六號

朕臺灣總督府醫學專門學校官制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

臺灣總督府醫學專門學校官制中左ノ通改正ス

第一條中「十人」ヲ「十二人」ニ、「十一人」ヲ「十六人」ニ改ム

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●臺灣總督府高等商業學校官制中改正

大正九年四月十四日
勅令第九十七號

朕臺灣總督府高等商業學校官制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

臺灣總督府高等商業學校官制中左ノ通改正ス

第一條中「二人」ヲ「五人」ニ、「助教授　專任一人」ヲ「助教授　專任二人」ニ、「書記　專任一人」ヲ「書記　專任二人」ニ改ム

第一條ノ二　臺灣總督府高等商業學校ハ專門學校令ニ依ル但シ同令中文部大臣ノ職務ハ臺灣總督之ヲ行フ

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●臺灣總督府商業專門學校官制中改正

大正九年四月十四日
勅令第九十八號

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

朕臺灣總督府商業專門學校官制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

臺灣總督府商業專門學校官制中左ノ通改正ス

第一條中「教授　專任二人」ヲ「教授　專任四人」ニ、「三人」ヲ「五人」ニ改ム

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●臺灣總督府商業學校官制中改正

大正九年四月十四日
勅令第九十九號

朕臺灣總督府商業學校官制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

臺灣總督府商業學校官制中左ノ通改正ス

第一條中「專任十二人内二人奏任十人判任」ヲ「專任十六人内三人奏任十三人判任」ニ改ム

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●臺灣總督府工業學校官制中改正

大正九年四月十四日
勅令第百號

朕臺灣總督府工業學校官制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

臺灣總督府工業學校官制中左ノ通改正ス

第一條中「專任十人内一人奏任九人判任」ヲ「專任十七人内三人奏任十四人判任」ニ、「專任一人」ヲ「專任二人」ニ改ム

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●臺灣總督府高等女學校官制中改正

大正九年四月十四日
勅令第百一號

朕臺灣總督府高等女學校官制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

臺灣總督府高等女學校官制中左ノ通改正ス

第一條中「專任三十二人内四人奏任二十八人判任」ヲ「專任三十五人内五人奏任三十人判任」ニ改ム

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●臺灣總督府農林專門學校官制中改正

大正九年四月十四日
勅令第百二號

朕臺灣總督府農林專門學校官制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

臺灣總督府農林專門學校官制中左ノ通改正ス

第一條中「教授　專任一人」ヲ「教授　專任二人」ニ、「二人」ヲ「三人」ニ、「書記　專任一人」ヲ「書記　專任二人」ニ改ム

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●混合仲裁裁判所ノ囑託ニ因リ司法裁判所ノ爲ス法律上ノ輔助ニ關スル件

大正九年四月十五日
勅令第百七號

朕混合仲裁裁判所ノ囑託ニ因リ司法裁判所ノ爲ス法律上ノ輔助ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

帝國ト獨逸國トノ間ニ設置スル混合仲裁裁判所ノ囑託ニ因リ内地及樺太、朝鮮、臺灣竝關東州ノ司法裁判所ノ爲ス法律上ノ輔助ニ付テハ外國裁判所ノ囑託ニ因ル共助法第一條ノ二第一號、第五號及第六號ノ規定ヲ除クノ外同法ニ依ル但シ同法ノ定ムル區裁判所ノ職務ハ内地及樺太以外ノ地ニ在リテハ之ニ該當スル裁判官廳之ヲ行フ

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●臺灣總督府奏任文官ノ他官廳奏任文官ニ轉任等ニ關スル官等ノ件廢止

大正九年四月十六日
勅令第百八號

朕明治二十九年勅令第二百七號臺灣總督府奏任文官ノ他官廳奏任文官ニ轉任又ハ再任スル場合ノ官等ニ關スル件等廢止ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

左記ノ勅令ハ之ヲ廢止ス

明治二十九年勅令第二百七號
明治二十九年勅令第二百三十號
明治三十年勅令第三百九號
明治三十一年勅令第八十八號
明治三十一年勅令第百六十六號
明治三十三年勅令第十五號
明治三十三年勅令第二十五號
明治三十三年勅令第三百三十五號

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

省　令

●臺灣公立高等女學校生徒及卒業者取扱ニ關スル件

大正九年四月八日
文部省令第十號

臺灣公立高等女學校ノ生徒及卒業者ハ他ノ學校ヘ入學轉學ノ關係ニ就キ高等女學校令ニ依リ設置シタル實科高等女學校又ハ高等女學校實科ノ生徒及卒業者ト同一ノ取扱ヲ受ク

●徵兵令ニ依ル一年志願兵認定ニ關スル件

大正九年四月十日
陸軍、文部省令

陸軍
文部省令

大正七年勅令第三百五十七號第一條ノ規定ニ依ル認定ニ關スル件左ノ通定ム

第一條　大正七年勅令第三百五十七號第一條ノ規定ニ依ル認定ヲ受ケムトスル者ハ陸軍大臣及文部大臣ニ宛テタル申請書ヲ文部省ニ提出スヘシ

第二條　認定ヲ受ケタル學校ニシテ認定ニ關スル規則ニ違背シ又ハ其ノ成績不良ナリト認ムルトキハ陸軍大臣及文部大臣ハ將來ニ向テ其ノ認定ヲ取消スコトアルヘシ

第三條　前二條ニ規定スルモノノ外認定ニ關スル事項ニ付テハ明治三十二年文部省令第三十四號ノ規定ヲ準用ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

* * * * * *

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

法令總目次

臺灣時報法令欄 自第二號 至第十二號

法令件名	號	頁
戰時工業輸出品中改正ノ件(大正八年六月一日)	二	一
所得稅法取扱規程中改正ノ件(六月一日)	二	一
大正八年度歲出科目設置ノ件(六月四日)	二	一
大正八年度歲出科目設置ノ件(六月五日)	二	一
大正八年度歲出科目設置ノ件(六月六日)	二	一
水利港灣ニ關シ臨時職員設置竝ニ工業部官制廢止ノ件(五月二十六日)	二	一
林苗養成所員日額旅費規程中改正ノ件(六月七日)	二	一
臺灣總督府農林專門學校規則制定ノ件(六月八日)	二	二
臺灣總督府商業專門學校規則制定ノ件(六月八日)	二	三
高等商業學校外二校身體檢査ニ關スル件(六月日)	二	五
臺灣公醫候補生規則廢止ノ件(六月十日)	二	五
臺灣總督府郵便局制官中改正ノ件(五月三十日)	二	五
電氣事業ヲ營ム會社ニ總督官理ノ財產提供方ノ件(五月三十日)	二	五
地方廳定員中改正ノ件(六月十二日)	二	五
大正八年度歲出科目設置ノ件(六月十三日)	二	五
林野取締ノ爲地方廳ニ臨時職員增置ノ件(六月十五日)	二	五
判任官俸給令中改正ノ件(六月五日)	二	五
大正八年度歲出科目設置ノ件(六月十七日)	二	五
臺灣電話規則中改正ノ件(六月十九日)	二	五
電話事務規程中改正ノ件(六月十九日)	二	七
官設埤圳補償審査委員會規則中改正ノ件(六月二十日)	二	八
官設埤圳規則施行規則中改五ノ件(六月二十日)	二	八
官設埤圳灌漑地臺帳及水租徵收規則取扱心得改正ノ件(六月二十日)	二	九
臺灣總督府醫學專門學校官制中改正ノ件(六月十日)	二	九
營林務手徽章制定ノ件(六月二十一日)	二	九
打狗港內船舶出入及運航規程中改正ノ件(六月二十四日)	二	九
玉里登記所設置ノ件(六月二十五日)	二	九
大正八年度歲出科目設置ノ件(六月二十五日)	二	九
臺灣總督府醫院官制中改正ノ件(六月十七日)	二	九
高等官官等俸給令中改正ノ件(六月十七日)	二	九
臺灣總督府專賣局官制中改正ノ件(六月十八日)	二	一〇
高等官官等俸給令中改正ノ件(六月十八日)	二	一〇
專賣局腦務監督官特別任用ノ件(六月十八日)	二	一〇
臺灣造林用種苗下付及賣拂規則中改正ノ件(六月二十九日)	二	一〇
林務手試驗規則中改正ノ件(六月二十九日)	二	一〇
野生護謨試驗規則中改正ノ件(六月二十九日)	二	一〇
林業講習規程中改正ノ件(六月二十九日)	二	一〇
官有林野業務監査規程中改正ノ件(六月二十九日)	二	一〇
臺灣總督府官房竝民政部事務分掌規程改定ノ件(六月二十九日)	二	一三
營林局分課規程中改正ノ件(六月二十九日)	二	一三
營林局附屬林業試驗場規程制定ノ件(六月二十九日)	二	一三
臺南手形交換所指定ノ件(七月一日)	三	一三
直轄公立諸學校授業料ノ件(七月一日)	三	一三
講和成立ニ付在監者就業免除ノ件(七月一日)	三	一三
專賣局食鹽監視員及監視員補給料改正ノ件(七月一日)	三	一三
警察隊編成規程制定ノ件(七月四日)	三	一三
警察官吏非常召集規程中改正ノ件(七月四日)	三	一三
陸軍戰時召集規程施行細則中改正ノ件(七月五日)	三	一四
女監取締部長設置ノ件(七月五日)	三	一五
臺灣總督府官制中改正ノ件(六月二十七日)	三	一五
宅地租調査ノ事務從事臺灣總督府臨時職員中改正ノ件(六月二十七日)	三	一五
緬羊飼育試驗事務從事臺灣總督府臨時職員增置ノ件(六月二十七日)	三	一五
臺灣總督府營林局官制中改正ノ件(六月二十七日)	三	一六
林務從事臺灣總督府營林局臨時職員設置ノ件(六月二十七日)	三	一六
高等官官等俸給令中改正ノ件(六月二十七日)	三	一六
臺灣總督府警察官服制中改正ノ件(六月二十七日)	三	一六

公立女子高等普通學校職員中改正ノ件（七月十日） 一六
郵便振替貯金取扱規程中改正ノ件（七月十日） 一六
臺灣中央衛生會規則中改正ノ件（七月十一日） 一七
殖產局職工及職工見習規程中改正ノ件（七月十一日） 一七
嘉義廳臨時防疫部規程廢止ノ件（七月十一日） 一七
營林局樹苗養成所設置ノ件（七月十一日） 一七
臺灣總督府電務工手、工夫、工夫見習規則中改正ノ件（七月十二日） 一七
臺灣總督府巡查巡查補判任待遇監獄職員懲戒規程中改正ノ件（七月十六日） 一七
罰金及笞刑處分例施行細則中改正ノ件（七月十六日） 一七
臺灣總督府監獄事務分掌及會議規程ノ件（七月一六日） 一八
看守長及通譯定員中改正ノ件（七月十六日） 一八
司獄官禮式稱呼改正ノ件（七月十六日） 一八
監獄文書保存規程中改正ノ件（七月十六日） 一八
監獄帳簿諸表改正ノ件（七月十六日） 一九
監獄作業規定中改正ノ件（七月十六日） 一九
監獄看守點檢規程中改正ノ件（七月十六日） 二〇
監獄看守教習規程中改正ノ件（七月十六日） 二〇
在監人行狀勘查及賞與規程中改正ノ件（七月十六日） 二〇
奏任及判任待遇監獄職員職務規程改正ノ件（七月十六日） 二〇
臺灣總督府鐵道部官制中改正ノ件（七月三日） 二〇
臺灣總督府監獄官制中改正ノ件（七月三日） 二一
高等官官等俸給令中改正ノ件（七月三日） 二一
臺灣總督府鐵道部事務官補特別任用ノ件（七月三日） 二一
臺灣總督府監獄職員特別任用ノ件（七月三日） 二二
臺灣總督府監獄職員服制提燈徽章ニ關スル件（七月三日） 二二
郵便振替貯金規則中改正ノ件（七月十七日） 二二
大正八年度歳出科目設置ノ件（七月十七日） 二二
包蓆苗養成苗圃設置ノ件（七月十七日） 二二
郵便振替貯金取扱規程中改正ノ件（七月十七日） 二二
郵便振替貯金規則中改正ノ件（七月二十二日） 二三
郵便振替貯金取扱規程中改正ノ件（七月二十二日） 二三
通信局及郵便局所現金出納計算規程中改正ノ件（七月二十二日） 二三
臺灣總督府農事試驗場官制中改正ノ件（七月十六日） 二三
巡查給與令中改正ノ件（七月十六日） 二三
臺灣總督府部內職員航空機搭乘者手當給與ノ件（七月十六日） 二四
警察官署拘禁者食料ニ關スル件（七月十六日） 二四
臺灣漁業取締規則中改正ノ件（七月二十五日） 二四
大正八年度歳出科目設置ノ件（七月二十五日） 二四
土木局職員旅費規程ノ件（七月二十五日） 二四
鐵道係員職制中改正ノ件（七月二十六日） 二六
臺灣地租規則測量事務取扱心得中改正ノ件（七月二十六日） 二六
異動地測量圖簿整理並地圖更正手續中改正ノ件（七月二十八日） 二六
判任官俸給令中改正ノ件（七月十八日） 二六
監獄職員賞與規程中改正ノ件（七月二十九日） 二九
學租財團所屬財產取扱規程中改正ノ件（七月二十九日） 二九
臺北打狗阿緱水道給水規則中改正ノ件（七月三十日） 二九
木材防腐工場防腐劑注入規則廢止ノ件（七月三十日） 二九
水道收入ニ關スル件（七月三十日） 二九
集金郵便振替貯金特別取扱規則（七月三十日） 二九
木材防腐工場廢止ノ件（七月三十日） 三〇
集金郵便振替貯金特別取扱規程ノ件（七月三十日） 三〇
女監取締部長設置制中改正（七月一日） 三三
看守部長設置制中改正（七月一日） 三三
臺灣總督府職員航空手當支給規則（八月二日） 三三
臺灣總督府報告例別册中改正（八月三日） 三三
外國ニ留學又ハ旅行スル者ニ對シ學資又ハ旅費增給ノ件中改正（八月三日） 三三
大正八年度歳入歳出科目增設（八月三日） 三三
訴訟書類送達及裁判執行旅費支給規程廢止（八月三日） 三三
臺灣總督府稅關官制中改正（七月二十三日） 三四
集金郵便振替貯金特別取扱規則ニ依ル集金ニ關スル件（八月六日） 三四
大正八年度歳入歳出科目增設（八月六日） 三四
臺灣總督府職員休暇規程中改正（八月六日） 三四
臺灣總督府作業所官制廢止（七月二十八日） 三四
自轉車取締規則中改正（八月七日） 三四
臺灣漁業規則ニ依ル免許事項其ノ他委任規程中改正（八月七日） 三四

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

大正八年度特別會計歳入歳出科目增設（九月十日）　五　四八
要塞地帶法ニ依ル陸軍防禦營造物ノ地帶設置ノ件（八月二十日）　五　四八
要塞地帶法ニ依ル陸軍防禦營造物ノ地帶設定ノ件（八月二十日）　五　四八
大正八年度特別會計歳入歳出科目增設（九月十三日）　五　四八
鐵道係員職制中改正（九月十四日）　五　四九
米穀檢査ニ關スル件（九月十八日）　五　四九
廳屬、警部、警部補、視學、技手、通譯及稅務吏定員（九月十八日）　五　四九
陸軍經理部條例中改正（九月六日）　五　四九
臺灣地方稅規則施行規則中改正（九月二十一日）　五　四九
臺灣總督府通信事務練習規程中改正（九月二十四日）　五　五〇
監獄授業手及押丁設置規程中改正（九月二十六日）　五　五〇
臺灣總督府報告例別冊中改正（九月二十七日）　五　五〇
臺灣國防用防禦營造物區域取締規則廢止（九月二十八日）　五　五〇
煙草耕作區域（九月二十八日）　五　五〇
臺灣總督府電務工手、工夫見習規則中改正（九月二十八日）　五　五〇
臺灣總督府文官服制中改正（九月二十六日）　六　五二
臺灣總督府營林局ノ木材又ハ製品賣拂代金延納ニ關スル件中改正（十月八日）　六　五二
判任官俸給令中改正（十月九日）　六　五二
高等官官等俸給令中改正（十月九日）　六　五二
米及籾ノ輸入稅免除ノ件中改正（十月十一日）　六　五二
臺灣國勢調査施行規則（十月四日）　六　五二
臺灣總督府河川調査委員會規則中改正（十月十四日）　六　五三
郵便貯金特別拂戾規則中改正（十月十六日）　六　五三
臺灣地租規則施行規則改正（十月十九日）　六　五三
キニーネ類輸入禁止ノ件廢止（十月二十三日）　六　五三
臺灣總督府所屬出納官吏命免竝身元保證金ニ關スル取扱規程中改正（十月三日）　六　五三
宿舍料支給規則中改正（十月十日）　六　五三
臺灣總督府殖産局附屬水産試驗船凌海丸職務規程中改正（十月十日）　六　五三
臺灣憲兵隊行政司法警察服務規程（十月十四日）　六　五四
區長事務費及區書記手當支給規則中改正（十月十四日）　六　五四
臺灣總督府物産檢査員採用規程（十月十七日）　六　五四
大正八年度歳入歳出科目增設（十月十九日）　六　五四
臺灣總督府營林局職工以下勞役者給料支給規程中改正（十月二十一日）　六　五四
臺灣總督府殖産局附屬種畜場規程（十月二十五日）　六　五四
高等官官等俸給令中改正（十月十六日）　七　五五
對敵取引禁止令廢止（十一月十九日）　七　五五
臺灣森林令（十一月四日）　七　五五
臺灣森林令施行（十一月四日）　七　五六
臺灣森林令施行規則（十一月四日）　七　五六
臺灣國有林野産物及製品賣拂代金延納ニ關スル件（十一月七日）　七　五七
林産物處分ニ關スル件中改正（十一月九日）　七　五七
臺灣年賀電報規則廢止（十一月十四日）　七　五七
遞信省令第八十八號郵便、電信、電話官署代書人規則ノ適用ニ關スル件（十一月十八日）　七　五七
輸出禁止品取締ノ件中改正（十一月十九日）　七　五七
臺灣總督府及所屬官署官吏及同待遇者臨時手當支給規則中改正（十一月十九日）　七　五七
對敵取引禁止令施行ノ件廢止（十一月二十日）　七　五八
臺灣總督府師範學校及醫學校生徒學資及旅費支給規則中改正（十一月二十二日）　七　五八
臺灣總督府師範學校內地人生徒學資給與規則中改正（十一月二十二日）　七　五八
臺灣官有森林原野及産物特別處分令ニ依ル事務中廳長委任事項中改正（十一月二十七日）　七　五八
大正八年度地方稅收入支出科目設置（十一月一日）　七　五八
臺灣總督府通信局及郵便所現金出納計算規程中改止（十一月二日）　七　五八
臺灣森林令施行手續（十一月四日）　七　五九
司法警察官執務心得中改正（十一月五日）　七　六〇
大正八年度特別會計歳入歳出科目增設（十一月六日）　七　六〇
年賀郵便特別取扱規程中改正（十一月八日）　七　六〇
臺灣年賀電報取扱規程廢止（十一月十四日）　七　六〇
臺灣總督府奏任及判任待遇監獄職員給與規程中改正（十一月十五日）　七　六〇
臺灣總督府看守長任用考試規程（十一月六日）　七　六一
臺灣總督府看守及女監取締考査表ニ關スル規程（十一月十六日）　七　六一
警察職員旅費規程中改正（十一月十八日）　七　六一
臺灣總督府囑託員雇傭員臨時手當支給規程中

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

臺灣總督府法院條例中改正(八月八日) 四 三四
民事訴訟特別手續中改正(八月八日) 四 三五
刑事訴訟特別手續中改正(八月八日) 四 三五
民事訴訟用印紙規則中改正(八月八日) 四 三六
大正八年律令第四號施行ノ件(八月八日) 四 三六
大正八年律令第五號施行ノ件(八月八日) 三六
大正八年律令第六號施行ノ件(八月八日) 四 三六
大正八年律令第七號施行ノ件(八月八日) 四 三六
法院條例附則第六項通用ノ件(八月八日) 四 三六
各地方法院ニ於ケル取扱事項ニ關スル件(八月八日) 四 三六
登記及公證事務取扱ニ關スル件(八月八日) 四 三六
律令審議會章程中改正(八月八日) 四 三六
各法院各檢察局書記並判任通譯定員改正(八月八日) 四 三六
臺灣總督府法院及檢察局事務章程中改正(八月八日) 四 三六
建物及船舶所有者ノ印鑑簿備付方ニ關スル件(八月八日) 四 三七
公證官吏ニ交付スル見出帳樣式中改正(八月八日) 四 三七
司法警察官執務心得中改正(八月八日) 四 三七
刑ノ執行猶豫ニ關スル取扱規程中改正(八月八日) 四 三七
保管物取扱手續中改正(八月八日) 四 三七
收入印紙ヲ以テ納付スル罰金科料等取扱規程中改正(八月八日) 四 三七
人事々項委任規程中改正(八月八日) 四 三七
三等局交付物品取扱心得中改正(八月八日) 四 三七
臺灣總督府民政部通信局及郵便局所現金出納計算規程中改正(八月九日) 四 三七
臺灣總督府監獄職員服裝規程(八月十日) 四 三八
臺灣總督府看守給與品及貸與品規則中改正(八月十日) 四 三八
マラリア防遏規則施行規則中改正(八月十二日) 四 三八
臺灣總督府法院職員官等俸給及定員令中改正(八月二日) 四 三九
臺灣總督府民政部遞信局及郵便局所現金出納計算規程中改正(八月十四日) 四 三九
臺灣總督府巡查看守採用規則中改正(八月十七日) 四 三九
重要物產檢查事務從事ノ爲臺灣總督府ニ臨時職員設置(八月九日) 四 三九
廳事務官警視技師定員(八月十八日) 四 四〇
臺灣公學校令中改正(八月二十一日) 四 四〇
マラリア防遏事務講習規程(八月二十一日) 四 四〇
臺灣總督官房並民政部事務分掌規程中改正(八月二十一日) 四 四〇
臺灣總督府官制中改正ノ件(八月二十日) 四 四〇
地方鐵道法其ノ他改正法律施行ノ件(八月十二日) 四 四〇
臺灣總督府地方官官制中改正(八月十六日) 四 四一
高等官官等俸給令中改正(八月十六日) 四 四一
大正七年度歲入歲出科目增設(八月二十八日) 四 四一
大正八年度歲入歲出科目增設(八月二十八日) 四 四一
獨逸國等ニ屬スル財產管理ニ關スル勅令施行ニ關スル件(八月三十日) 四 四一
廳事務官警視技師定員中改正(九月一日) 五 四二
官制改正ニ伴ヒ當府令及告示中改正(九月二日) 五 四三
官制改正ニ伴ヒ當府訓令中改正(九月二日) 五 四三
臺灣總督府官制中改正(八月十九日) 五 四三
臺灣守備軍司令官制廢止(八月十九日) 五 四三
臺灣總督府海軍幕僚條例廢止(八月十九日) 五 四三
陸軍兵器部令等中改正(八月十九日) 五 四三
憲兵條例中改正(八月十九日) 五 四四
衛戍病院條例中改正(八月十九日) 五 四五
高等官官等俸給令中改正(八月十九日) 五 四五
判任官俸給令中改正(八月十九日) 五 四六
陸海軍武官ニシテ朝鮮總督又ハ臺灣總督ノ官職ニ在ル者ノ令限ニ關スル件(八月十九日) 五 四六
要塞地帶法ノ一部施行ノ件(八月十九日) 五 四六
臺灣ニ居住スル陸軍軍人ノ召集及就職ニ關スル件中改正(八月十九日) 五 四六
朝鮮、臺灣、樺太、關東州又ハ滿洲ニ在ル陸軍軍人ノ服役事務ニ關スル件中改正(八月十九日) 五 四六
臺灣軍司令部條例(八月十九日) 五 四七
要塞司令部條例等改定施行ノ件(八月十九日) 五 四七
要港部條例中改定施行ノ件(八月二十一日) 五 四七
大正八年度地方稅收入支出科目增設(九月六日) 五 四七
大正八年度特別會計歲入歲出科目增設(九月六日) 五 四七
大正八年度地方稅收入支出科目新設(九月九日) 五 四七
囑託員雇員俸給ノ件中改正(九月九日) 五 四七
奏任及判任待遇監獄職員給與令中改正(八月二十七日) 五 四八
臺灣總督府醫院施療規程中改正(九月十二日) 五 四八

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

改正（十一月十九日） 七 六一
大正八度特別會計歳入歳出科目増設（十一月二十九日） 七 六三
質屋取締法ヲ臺灣ニ施行ノ件（十二月一日） 八 六五
臺灣土地收用規則施行ノ件（十二月三日） 八 六五
臺灣總督府高等商業學校規則中改正（十二月五日） 八 六五
臺灣小學校教員及臺灣公學校教員免許令施行規則（十二月二十九日） 八 六五
臺灣小學校及臺灣公學校職員任用規則廢止（十二月二十九日） 八 六六
臺灣公學校訓導任用ニ關スル件（十二月二十九日） 八 六六
臺灣總督府師範學校、臺灣簡易實業學校ノ訓導ノ任用、退職、失職及俸給ニ關スル件中改正（十二月二十九日） 八 六六
臺灣總督府市區計畫委員會規程中改正（十二月六日） 八 六六
大正八年度特別會計歳入歳出科目増設（十二月七日） 八 六六
大正八年度特別會計歳入歳出科目表（十二月九日） 八 六六
臺灣總督府監獄物品、領置金品並作業賞與金取扱手續中改正（十二月九日） 八 六六
宿直宿料増額支給ノ件（十二月十一日） 八 六六
鐵道部職員宿直及夜勤食料支給規則（十二月十一日） 八 六六
專賣局職員宿直及工場夜勤食料支給規程（十二月十一日） 八 六七
殖産局附屬養蠶所職員夜勤食料支給規程中改正（十二月十一日） 八 六七
監獄看守以下夜勤食料増額ノ件（十二月十一日） 八 六七
大正八年度地方税收入支出科目設置（十二月十三日） 八 六七
電信回線表中改正（十二月十七日） 八 六七
大正八年度特別會計歳入歳出科目増設（十二月二十日） 八 六七
氣象通知電報取扱規程中改正（十二月二十一日） 八 六八
屬、警部、警部補、視學、技手、通譯及稅務吏定員中改正（十二月二十一日） 八 六九
大正八年度特別會計歳入歳出科目増設（十二月二十四日） 八 六九
營林局職員夜勤食料支給規程（十二月二十五日） 八 六九
大正八年度特別會計歳入歳出科目増設（十二月二十六日） 八 六九
大正八年度臺灣地方税收入支出科目設置（十二月二十七日） 八 六九
巡査、巡査補外套給與區別地域中改正（十二月二十七日） 八 六九
通信事務講習規程中改正（十二月二十七日） 八 六九
學校教科用圖書調査委員會規程（十二月二十八日） 八 六九
一年志願兵條例（十一月二十六日） 八 七〇
一年現役兵條例（十一月二十六日） 八 七一
大豆、生牛肉、鳥卵、綿織絲及綿織物ノ輸入税ニ關スル件（十一月二十七日） 八 七三
大豆、生牛肉、鳥卵、綿織絲及綿織物ノ輸入税免除ノ件（十一月二十七日） 八 七三
臺灣總督府地方廳ニ質舖設置ノ件（十一月二十九日） 八 七三
戰役若ハ事變ニ際シ功勞アル者ニ一時限リ金圓ヲ賜與スルノ件中改正（十二月十二日） 八 七三
軍需調査令（十二月十五日） 八 七三
徵兵令竝文官任用令ニ依リ臺灣總督府商業學校認定ノ件（十二月二十二日） 八 七四
文部省令ニ依リ臺灣總督府商業學校卒業者指定ノ件（十二月二十二日） 八 七四
臺灣漁業取締規則中改正（大正九年一月十一日） 九 七七
專賣局分課規定中改正（一月十三日） 九 七七
臺灣ニ於ケル陸軍六週間現役兵取扱手續（一月十七日） 九 七八
專賣局食鹽監視員及監視員補給與品貸與品支給規則中改正（一月二十日） 九 七八
警察會議規程中改正（一月二十三日） 九 七八
臺灣總督府報告例中改正（一月二十五日） 九 七八
大正八年度歳入歳出科目新設（一月二十四日） 九 七八
大正八年度歳入歳出科目新設（一月三十一日） 九 七八
官國幣社職制中改正（一月四日） 九 七九
府社縣社以下ノ神職ニ關スル件中改正（一月四日） 九 七九
官國幣社以下神社幣帛供進使服制中改正（一月四日） 九 七九
神官神職服制中改正（一月四日） 九 七九
工業所有權戰時法ニ依ル專用權ニ關スル件（一月十日） 九 七九
文武判任官等級令中改正（一月十五日） 九 七九

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

高等官官等俸給令中改正（一月十五日）	九	七九
臺灣陸軍戰時召集規程（一月十七日）	九	七九
明治三十四年陸軍省告示第九號附表中追加（一月十二日）	九	八二
臺灣總督府中學校規則中改正（二月三日）	一〇	八三
臺灣總督府高等女學校規則中改正（二月三日）	一〇	八三
臺灣總督府商業學校規則中改正（二月三日）	一〇	八三
臺灣總督府工業學校規則中改正（二月三日）	一〇	八三
軍需調查會第十一條ニ依ル私設鐵道ニ關スル報告書ノ件（二月三日）	一〇	八三
臺灣總督府物產檢查員給與規則（二月四日）	一〇	八三
基隆上家使用規則（二月十一日）	一〇	八四
大正二年四月府令第三十一號廢止（二月十四日）	一〇	八四
米又ハ有價證券ヲ取引スル市場ニ關スル件（二月十七日）	一〇	八四
大正三年九月府令第五十四號中改正（二月十八日）	一〇	八四
軍需調查令施行ニ關スル手續（二月三日）	一〇	八四
擔保ニ徵スル有價證券取扱規程中改正（二月五日）	一〇	八四
地理ニ關スル事務監查規程（二月十三日）	一〇	八四
官有林野業務監查規程中改正（二月十三日）	一〇	八五
臨時警察職務規程中改正（二月二十六日）	一〇	八五
大正八年度臺灣總督府歲入歲出科目設置（二月二十五日）	一〇	八五
警察官及司獄官練習生手當金及旅費支給規則中改正（二月二十六日）	一〇	八五
大正四年三月訓令第三十二號中改正（二月二十八日）	一〇	八五
內國旅費臨時增給ニ關スル件中改正（一月二十七日）	一〇	八五
褒章條例中改正（一月二十八日）	一〇	八五
旅費其外概算渡前金渡ノ件中改正（二月十六日）	一〇	八六
褒賞條例取扱手續中改正（一月二十九日）	一〇	八六
徵兵猶豫ニ關スル在學證明書ノ件（三月九日）	一一	八七
廳位置管轄區域中改正（三月二十一日）	一一	八七
臺灣漁業規則施行規則中改正（三月三十一日）	一一	八七
臺灣總督府特別會計歲入歲出科目設置（三月七日）	一一	八七
鐵道部操車手、轉轍手、連結手、檢車手、檢車助手、檢電手、檢電助手及合圖手勤務手當支給規程（三月七日）	一一	八七
水產試驗船凌海丸職務規程中改正（三月七日）	一一	八七
監獄物品、領置金竝作業賞與金取扱手續中改正（三月九日）	一一	八七
臺灣總督府報告例中改正（三月十日）	一一	八八
電信回線表、同時通信回線表中改正（三月十一日）	一一	八八
臺灣總督府醫院醫務助手、看護婦長及守衛長規程（三月十三日）	一一	八八
大正八年度臺灣總督府特別會計歲入歲出科目設置（三月十三日）	一一	八八
假出場證票書式制定（三月十四日）	一一	八八
市外電話回線新設及變更（三月十七日）	一一	八九
行旅病人同死亡者及同伴者取扱手續中改正（三月十八日）	一一	八九
臺灣窮民救助規則取扱手續中改正（三月十八日）	一一	八九
大正八年度臺灣總督府特別會計歲入歲出科目設置（三月十九日）	一一	八九
市外電話回線新設（三月二十一日）	一一	九〇
森林主副產物賣渡處分簿中改正（三月二十二日）	一一	九〇
官有林野事業豫定案編成規程中改正（三月二十二日）	一一	九〇
臺灣總督府監獄看守定員規程中改正（三月二十一日）	一一	九〇
大正九年度監獄看守定員制定（三月三十一日）	一一	九〇
大正八年度臺灣總督府特別會計歲入歲出科目設置（三月三十一日）	一一	九〇
資金及過超金受授局及指定局竝區域改正（三月三十一日）	一一	九〇
前年度豫算施行ノ件（三月十六日）	一一	九〇

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN